

第Ⅱ部 大学院教育について

第Ⅱ部

大学院教育について

はじめに

平成11年度に、本学の点検評価課題の一つとして「大学院教育について」がとりあげられた時点では、本学には大学院重点化が完了した研究科、重点化が進行中の研究科、また重点化を計画中の部局があった。完了あるいは進行中の研究科に、その教育理念・方針と教育の実態が必ずしも十分には調和していないと推察される要素もあった。その後、平成12年4月には大学院重点化を計画していた全部局が重点化され、さらに学内第2の独立研究科として新たに国際広報メディア研究科が設置され、本学全体の研究主導型大学化が完了した。「大学院教育の改善」あるいは「研究科の在り方の見直し」は、大学院における教育を大学を中心に据えようとする研究主導型大学としての本学にとって、重要な課題である。

このような観点から、以下の事項について、さらに項目を絞り込むなどして点検・評価を行うこととされた。

- (1) 大学院重点化に伴い、大学院教育がどのように改善されたかの検証
- (2) 教育理念と実際の教育についての教員及び学生の双方からの検証
- (3) 大学院学生の増加に伴う教育、研究指導、教育研究環境の整備状況の点検
- (4) 学位取得に係る指導体制の在り方と方策
- (5) 留学生に対する指導体制の在り方と方策
- (6) 社会人の受入れ、産学協同等の社会との関係の点検
- (7) 大学院学生への経済的支援体制の把握

課題の提言を受けて、各研究科の状況を把握するため、平成11年度には教育学研究科、医学研究科、農学研究科及び地球環境科学研究科の状況について、また、平成12年度には文学研究科、理学研究科、薬学研究科、工学研究科及び獣医学研究科の状況についてヒアリングを実施した。

平成13年度には残りのすべての研究科、すなわち、法学研究科、経済学研究科、歯学研究科、水産科学研究科及び国際広報メディア研究科のヒアリングを実施するとともに全研究科に対してアンケート形式で補充調査を行った。それらを基に「大学院教育に係るヒアリング及び補充調査のまとめ」をまとめた。大学院重点化が大学院の教育・研究にどのような影響を及ぼしているかを種々の角度から調査し、まとめたものである。

また、平成13年度は、6月から7月にかけて全研究科の大学院学生に対して次ページ以下の内容で広範な大学院教育についてのアンケートを実施した。これらをまとめたのが、「大学院教育に係るアンケート」に係る報告書である。

アンケート回答者の総数は、3,140人で全体の回収率は56.8%であった。膨大な数の回答を種

々の角度から分析するとともに、データは、表にまとめて記載した。

更に、「就職に関しての教官や研究科に対する要望」と「所属する研究科の教育研究について感じていること」は自由に記述してもらったものを学生の生の声としてそのまま記載した。

以上2つの報告書を見ていただくと重点化が大学院の教育・研究に及ぼした影響の全体像が浮かび上がってくる。北海道大学は今後まだまだ多くの改革・変革を経ることと思われるが、改革をどのような方向に進めるべきか考える際に、この2つの報告書を参考にさせていただくことを希望する。

大学院教育に係るアンケート

この調査は、大学院学生の皆さんがおかれている教育・研究に関する環境・条件や研究活動についてその現状を調査し、今抱えている課題や問題を明らかにし、今後の大学院教育の充実と改善の参考とするため、実施するものです。どうかアンケートにご協力下さいますようお願い申し上げます。

なお、本調査結果については、他の目的に流用することは一切ありませんので、ありのままを記入し、7月19日（木）までに所属する大学院研究科事務担当掛へ提出してください。

平成13年7月1日

北海道大学点検評価委員会大学院教育専門委員会

【記入上の注意等】

- 1) ことわりのない限り、平成13年7月1日現在で記入してください。
- 2) 各設問について、該当するものを1つ選んで記号に○を付けてください。
なお、一部複数選択の設問がありますので、その場合は該当する全ての記号に○を付けてください。
- 3) 設問によっては、調査対象者を限定している場合がありますので、ご注意下さい。
- 4) 後ろに（ ）の付いた「その他」を選んだ場合は、「その他」の記号に○を付けた上、（ ）の中に具体的内容を記入してください。
- 5) 記入いただいたアンケートは、同封した「大学院教育アンケート回答用紙 在中」の封筒に密封して、所属する大学院研究科事務担当掛へ提出してください。
- 6) 提出期限:平成13年7月19日（木）

大学院教育に係るアンケート

1. あなたは次のどの学生に属しますか。

イ. 一般学生 ロ. 留学生 ハ. 社会人学生（現職をもつか、2年以上在職経験のある者）

2. あなたは現在どの研究科に在籍していますか。

イ. 文学 ロ. 教育学 ハ. 法学 ニ. 経済学 ホ. 理学 ヘ. 医学
ト. 歯学 チ. 薬学 リ. 工学 ス. 農学 ル. 獣医学 ヲ. 水産科学
ワ. 地球環境科学 カ. 国際広報メディア

3. あなたの学年は（医系大学院生—医学・歯学・獣医学研究科の学生—は設問4へ）。

イ. 修士課程1年 ロ. 修士課程2年
ハ. 博士後期課程1年 ニ. 博士後期課程2年 ホ. 博士後期課程3年

4. あなたの学年は（医系大学院生の場合）。

イ. 博士課程1年 ロ. 博士課程2年 ハ. 博士課程3年
ニ. 博士課程4年

5. 性別

イ. 女性 ロ. 男性

6. 年齢

イ. 24歳以下 ロ. 25—29歳 ハ. 30—34歳
ニ. 35—39歳 ホ. 40—44歳 ヘ. 45—49歳
ト. 50—54歳 チ. 55—59歳 リ. 60歳以上

7. あなたは結婚していますか。

イ. 結婚している ロ. 結婚していない

8.（修士課程および医系博士課程の学生への質問）

あなたの出身大学・学部はどちらですか（複数選択可）。

イ. 北海道大学, いまの研究科と同じ学部
ロ. 北海道大学, いまの研究科と違う学部（学部名）
ハ. 他大学, いまの研究科と同系列の学部
ニ. 他大学, いまの研究科と異系列の学部（学部名）
ホ. 外国の大学, いまの研究科と同系列の学部（国名）
ヘ. 外国の大学, いまの研究科と異系列の学部（国・学部名）
ト. 学位授与機構（学士の種類）
チ. その他（）

9. (博士後期課程の学生への質問)

あなたの出身大学・研究科はどちらですか (複数選択可)。

- イ. 北海道大学, いまの研究科と同じ研究科
- ロ. 北海道大学, いまの研究科と違う研究科 (研究科名)
- ハ. 他大学, いまの研究科と同系列の研究科
- ニ. 他大学, いまの研究科と異系列の研究科 (研究科名)
- ホ. 外国の大学, いまの研究科と同系列の研究科 (国名)
- ヘ. 外国の大学, いまの研究科と異系列の研究科 (国・研究科名)
- ト. その他 ()

10. あなたは大学卒業後, 職業についたことはありますか (医学系の場合は研修医を含む)。

- イ. ある (2年以内)
- ロ. ある (3-5年)
- ハ. ある (6年以上)
- ニ. ない

11. あなたは現在職業についていますか。

- イ. 職業についている
- ロ. 職業についていない

12. あなたが北海道大学に入学する前の住所はどちらですか。

- イ. 札幌市および近郊
- ロ. 北海道内
- ハ. 北海道外 (国内)
- ニ. 外国 (国名)

[I] 大学院進学に関する事項についてお聞きます (設問13-21)。

13. (修士課程学生への設問)

修士課程進学の原因はなんですか (複数選択可)。

- イ. 研究者になりたいから
- ロ. 修士の学位を取得したいから
- ハ. 学部の教育だけでは十分な知識, 技術が身につかなかったから
- ニ. 先生や先輩に進学を勧められたから
- ホ. 希望する就職ができなかったから
- ヘ. 就職したくなかったから
- ト. 就職に有利だから
- チ. さらに研究を続けたかったから
- リ. 高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたいから
- ヌ. 職業人として継続職業教育を受けたいから

- ル. 職業以外の幅広い知識・教養を身につけたいから
- ヲ. 転職したいから
- ワ. 国際的な研究をしたかったから
- カ. その他（具体的に： _____）

14. (修士課程学生への設問)

修士課程進学を決めた時期はいつですか。

- イ. 大学入学前 ロ. 学部1年 ハ. 学部2年 ニ. 学部3年
- ホ. 学部4年 ヘ. 学部卒業後 ト. 就職後

15. (修士課程の学生への設問)

所属する研究科を志望した理由はなんですか（複数選択可）。

- イ. 出身大学だから
- ロ. 先生や先輩に勧められたから
- ハ. 就職に有利だから
- ニ. 教育研究設備が充実しているから
- ホ. 自分の興味ある研究が行われているから
- ヘ. 指導を受けたい先生がいるから
- ト. 職場で勧められたから
- チ. 特定の資格を取れるから
- リ. 先端的な研究ができるから
- ヌ. 他大学にない特色があるから
- ル. 昼夜開講制など通学条件にあうから
- ヲ. 転職に都合がいいから
- ワ. 大学院ガイドブックなどの大学院紹介をみてよいと思ったから
- カ. ほかの大学院と比べて入学するのにやさしいから
- ヨ. 日本の文部（科学）省や自国の文部（科学）省や大使館の推薦があったから
- タ. その他（具体的に： _____）

16. (修士課程の学生への設問)

あなたが受けた入学試験は次のどれですか。

- イ. 一般入試（博士前期課程入試:推薦入学を含む）
- ロ. 一般入試（修士課程専修コース入試）
- ハ. 社会人特別選抜入試
- ニ. 外国人留学生特別選抜入試

17. (博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

博士課程進学の動機はなんですか（複数選択可）。

- イ. 研究者になりたいから
- ロ. 博士の学位をとりたいたから

- ハ. 留学したいから
- ニ. さらに高度の知識、技術を身につけたいから
- ホ. 先生に進学を勧められたから
- ヘ. 希望する就職ができなかったから
- ト. 就職したくなかったから
- チ. 就職に有利だから
- リ. さらに研究を続けたかったから
- ヌ. 職場で勧められたから
- ル. 資格取得に必要なだから
- ヲ. 国際的な研究をしたかったから
- ワ. その他（具体的に： _____）

18. (博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

博士課程進学を決めた時期はいつですか。

- イ. 大学入学前 ロ. 学部1年 ハ. 学部2年
- ニ. 学部3年 ホ. 学部4年 ヘ. 学部5年（医系）
- ト. 学部6年（医系） チ. 学部卒業後 リ. 修士1年
- ヌ. 修士2年 ル. 修士課程修了後

19. (博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

あなたが所属する研究科を志望した理由はなんですか（複数選択可）。

- イ. 出身大学だから
- ロ. 先生や先輩に勧められたから
- ハ. 就職に有利だから
- ニ. 教育研究設備が充実しているから
- ホ. 自分の興味ある研究が行われているから
- ヘ. 指導を受けたい先生がいるから
- ト. 修論テーマについてさらに研究を続けたかったから
- チ. 職場で勧められたから
- リ. 転職を考えているから
- ヌ. 資格をとれるから
- ル. 先端的な研究をしているから
- ヲ. 昼夜開講制など通学条件にかなうから
- ワ. 他大学にない特色ある研究をしているから
- カ. 国際的に優れた研究をしているから
- ヨ. その他（具体的に： _____）

20. (博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

あなたが受けた入学試験は次のどれですか。

- イ. 一般入試

- ロ. 社会人特別選抜入試
- ハ. 外国人留学生特別選抜入試

21. あなたは本学の大学院へ進学してよかったと思いますか。

- イ. よかった
- ロ. まあよかった
- ハ. どちらともいえない
- ニ. よいことはなかった

[Ⅱ] あなたが所属する研究科の教育についてお聞きます（設問22－43）。

22. (修士課程の学生への設問)

修士課程の研究テーマはどのようにして決めましたか。

- イ. テーマは自分で決めた
- ロ. テーマは指導教官の指導によるものである
- ハ. テーマはまだ決めていない→設問23へ
- ニ. テーマは職場の要請で決めた
- ホ. テーマは職場の仕事と関係があるが自分で決めた
- ヘ. その他（ ）

23. (設問22でハと答えた方へ)

修士課程の研究テーマをどのようにして決めますか。

- イ. 自分で決める
- ロ. 指導教官と相談し、自分で決める
- ハ. 自分では決めることができないので、指導教官の指示に従う
- ニ. その他（ ）

24. (修士課程の学生への設問)

あなたの研究テーマについてどう思いますか（複数選択可）。

- イ. テーマに興味があり、研究のやり甲斐がある
- ロ. テーマに興味を持てず、仕方なく研究している
- ハ. テーマについてまだ十分理解できない
- ニ. テーマを変えようと思う

25. (博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

博士課程の研究テーマはどのように決めましたか。

- イ. テーマは自分が決めた
- ロ. テーマは指導教官の指導によるものである
- ハ. テーマはまだ決めていない→設問26へ
- ニ. テーマは職場の要請で決めた

- ホ. テーマは職場の仕事と関係あるが自分で決めた
ヘ. その他 ()

26.(設問25でハと答えた方へ)

博士課程の研究テーマをどのようにして決めますか。

- イ. 自分で決める
ロ. 指導教官と相談し、自分で決める
ハ. 自分で決めることはできないので、指導教官の指示に従う
ニ. その他 ()

27.(博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

あなたの研究テーマについてどう思いますか(複数選択可)。

- イ. テーマに興味があり、研究のやり甲斐がある
ロ. テーマに興味を持てず、仕方なく研究している
ハ. テーマについてまだ十分理解できない
ニ. テーマを変えようと思う

28. あなたの大学院指導教官についてどうお考えですか。

- イ. 指導教官は十分な研究指導能力があり、安心して指導を受けている
ロ. 別の先生の指導を受けたい→設問29へ
ハ. 実質的な指導は指導教官以外の先生から受けている→設問30へ
ニ. 指導教官はまだみつからない

29.(設問28でロと答えた方へ)

その理由はなんですか(複数選択可)。

- イ. 指導教官の研究指導能力に疑問を感じる
ロ. 指導教官が忙しくて十分な指導をしてくれない
ハ. 指導教官の研究が自分の予想とは違っていた
ニ. 自分の研究テーマや対象が変わったので
ホ. その他(具体的に:)

30.(設問28でハと答えた方へ)

その理由はなんですか。

- イ. 指導教官の研究分野がちがう
ロ. 指導教官が忙しくて指導時間をとれない
ハ. 研究室の方針でそのように決まった
ニ. その先生のテーマが自分のテーマに近い
ホ. その先生が指導熱心で自然にそうなった
ヘ. その他(具体的に:)

31. あなたは指導教官をどのようにして決めましたか。

- イ. 最初から自分で希望した
- ロ. 入学後にガイダンスを受けたあと自分で希望した
- ハ. 研究室から指定された
- ニ. 入学以前から指導を受けておりほとんど決まっていた
- ホ. その他（具体的に： _____）

32. 大学院のカリキュラムについて、該当する項目に○をつけてください（複数選択可）。

- イ. 講義はいまのままでよい
- ロ. 講義に不満がある（どんなことですか： _____）
- ハ. 演習はいまのままでよい
- ニ. 演習に不満がある（どんなことですか： _____）
- ホ. 実験はいまのままでよい
- ヘ. 実験に不満がある（どんなことですか： _____）
- ト. 実習はいまのままでよい
- チ. 実習に不満がある（どんなことですか： _____）
- リ. 教官の個人指導はいまのままでよい
- ヌ. 教官の個人指導に不満がある（どんなことですか： _____）

33. 大学院の講義にどの程度出席しましたか。

- イ. 80%以上出席している ロ. 出席率は60%以上80%未満である
- ハ. 出席率は40%以上60%未満である ニ. 出席率は40%未満である
- ホ. ほとんど出席していない

34. 大学院の講義についてどう思いますか（複数選択可）。

- イ. 自分の専攻分野の知識を得るために必要である
- ロ. 専攻分野にかかわらず幅広く先端的な知識を得るために必要である
- ハ. 学部の講義が不十分なので大学院の講義は必要である
- ニ. 講義と演習の区別が不明確で、講義は講義としてやってほしい
- ホ. 大学院の講義は不要である→設問35へ
- ヘ. 大学院の講義をほとんど受けたことがない→設問36へ
- ト. 非常勤講師の講義は意味がある

35. (設問34でホと答えた方へ)

その理由はなんですか。

- イ. 大学院は研究が中心であるべきだ
- ロ. 講義のために実験や実習や調査の時間が制約される
- ハ. 研究室のゼミや自分で勉強することで十分である
- ニ. 講義内容が学部とほとんど同じで意味がない
- ホ. その他（具体的に： _____）

36. (設問34でへと答えた方へ)

その理由はなんですか。

- イ. 興味がない
- ロ. 開講されていない
- ハ. 実験・実習・調査が忙しい
- ニ. 学部と同じ先生で、内容が予想される
- ホ. その他（具体的に： _____）

37. あなたの所属する研究室の教育スタッフについてどう思いますか（複数選択可）。

- イ. 現行のままでよい
- ロ. 助手などの若手の教官層が少ない
- ハ. 技官や事務官など教育支援職員が少ない
- ニ. 社会人など学外者の研究者ともっと接触があったほうがよい
- ホ. 非常勤講師をもっと積極的に利用したほうがよい
- ヘ. ほかの研究室の教官の指導を受けるようにしている
- ト. その他（具体的に： _____）

38. 他の研究科や大学との単位互換についてどう思いますか（複数選択可）。

- イ. 北大内の他研究科との単位互換を希望する
- ロ. 他大学との単位互換を希望する
- ハ. 外部の研究機関との単位互換を希望する
- ニ. 外国の大学との単位互換を希望する
- ホ. 希望しない
- ヘ. その他（具体的に： _____）

39. 現在行われている大学院全学共通講義についてどう思いますか。

- イ. 受講しており意味がある
- ロ. 受講しているがあまり意味がない
- ハ. あることは知っているが受講していない
- ニ. あることを知らない
- ホ. 今後ふやしてほしい（たとえば： _____）
- ヘ. その他（具体的に： _____）

40. あなたの研究に関連する企業、施設、諸機関での職場実習や、共同研究などの機会（インターンシップ）があれば、参加したいですか。

- イ. 参加する
- ロ. 検討したい
- ハ. 参加しない

41. あなたの研究はうまくいっていますか。

- イ. うまくいっている
- ロ. だいたい計画どおりいっている
- ハ. 予定どおりいっていない
- ニ. 研究計画を変える必要がある
- ホ. その他

42. (修士課程の学生への設問)

あなたは修士課程修了後、博士後期課程への進学を希望しますか。

- イ. 進学する
- ロ. 進学しない→設問43へ

43. (設問42でロと答えた方へ)

その理由はなんですか (複数選択可)。

- イ. 経済的に無理だから
- ロ. 研究に興味が無くなったから
- ハ. はやく社会に出て習得したことを実践したいから
- ニ. 必要と思うことは習得したから
- ホ. もともと修士課程後は就職するつもりだったから
- ヘ. 時間的に進学する余裕がないから
- ト. 就職のためには修士課程修了が一番有利だから
- チ. 必要な専門技術や知識を習得したから
- リ. その他 (具体的に: _____)

[Ⅲ] 学位取得についてお聞きします (設問44－50)。

44. 学位取得の見通しについてどうお考えですか。

- イ. 正規の就学年数以内 (修士2年, 博士後期3年, 医系博士4年) にとれる
- ロ. 正規の就学年数プラス1年でとれる
- ハ. 正規の就学年数プラス2年でとれる
- ニ. それ以上かかる

45. (博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

あなたは博士の学位取得の条件を知っていますか。

- イ. 知っている
- ロ. すこしは知っているが, 不明なところもある
- ハ. 知らない

46. (修士課程の学生への設問)

修士課程の修了には2年以上の在学を必要としますが、優れた業績をあげた者は1年で修了できます。あなたはこの制度を利用したいと思いますか。

- イ. 思う
- ロ. 思うけれども実際には難しい→設問47へ
- ハ. 思わない→設問47へ

47. (設問46でロ及びハと答えた方への設問)

その理由はなんですか。

- イ. 研究テーマからいって少なくとも2年は必要
- ロ. 自分の研究能力では1年間で優れた成果を得ることは困難
- ハ. 指導教官の指導方針からいって1年では困難
- ニ. 博士課程に進学するつもりがない
- ホ. その他 (具体的に:)

48. (博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

博士課程 (修士課程及び博士後期課程) の修了には5年の在学 (医学系の場合は4年) を必要としますが、優れた研究業績をあげた者は3年で修了できます。あなたはこの制度を利用したいと思いますか。

- イ. 思う
- ロ. 思うけれども実際には難しい→設問49へ
- ハ. 思わない→設問49へ

49. (設問48でロ及びハと答えた方へ)

その理由はなんですか。

- イ. 研究テーマからいって少なくとも4年以上は必要
- ロ. 自分の研究能力では3年間で博士号取得にふさわしい成果を得ることは困難
- ハ. 指導教官の方針からいって3年間での博士号取得は困難
- ニ. その他 (具体的に:)

50. (医学・歯学研究科の臨床系学生への設問)

博士号取得と専門医取得のいずれを重視していますか。

- イ. 博士号取得を重視
- ロ. 専門医取得を重視
- ハ. 同程度に重視している
- ニ. 特に考えたことはない
- ホ. 専門領域に専門医制度はない
- ヘ. その他 (具体的に:)

[IV] 研究活動や研究成果についてお聞きします (設問51-58)。

51. あなたは国内あるいは国際学会の会員ですか。

- イ. 国内学会の会員である

- ロ. 国際学会の会員である
- ハ. 両方の学会の会員である
- ニ. 学会の会員ではない

52. (学会の会員になっている方への設問)

会費は誰が負担していますか。

- イ. 自己負担
- ロ. 自己負担ではない
- ハ. 自己負担のある場合とない場合がある

53. あなたは国内あるいは国外の学会に出席したことがありますか。

- イ. ある→設問54, 55へ
- ロ. ない

54. (設問53でイと答えた方への設問)

学会への参加の形式は次のいずれですか（複数選択可）。

- イ. 口頭研究発表（個人発表）
- ロ. 口頭研究発表（共同発表）
- ハ. シンポジスト、パネリストなど
- ニ. ポスター発表
- ホ. 参加したが発表はしなかった

55. (設問53でイと答えた方への設問)

そのときの交通費、宿泊費はどうしましたか。

- イ. 全額自己負担
- ロ. 自己負担はなし
- ハ. 自己負担のある場合とない場合がある
- ニ. その他（具体的に： _____）

56. これまでに行った論文発表について該当するものに○をして下さい（複数選択可）。

- イ. 学内の研究科の研究紀要その他の研究誌に発表
- ロ. 筆頭著者の論文をレフェリー制度のある国内の学術誌に発表
- ハ. 筆頭著者ではない論文をレフェリー制度のある国内の学術誌に発表
- ニ. 筆頭著者の論文をレフェリー制度のある外国の学術誌に発表
- ホ. 筆頭著者ではない論文をレフェリー制度のある外国の学術誌に発表
- ヘ. 現在、投稿中の論文がある
- ト. まだ論文を書いたことがない

57. 研究成果を論文発表する場合、どのように論文を作成しますか。

- イ. 自分で書き、自分の名前（筆頭著者を含む）で発表する

- ロ. 教官に直してもらい、自分の名前（筆頭著者を含む）で発表する
- ハ. 研究成果を教官に提供し、教官が筆頭著者となり、自分は共同著者の一員とする
- ニ. その他（ ）

58. 筆頭著者の論文を発表した方へ

- イ. 論文はほとんど自分で書いた
- ロ. 論文は自分で書いたが、先生に直して貰った
- ハ. 論文の一部は自分で書いたが、他は先生が書いた
- ニ. 実験などは自分でしたが、論文は先生が書いた

[V]国内・国外の教育研究機関との交流についてお聞きます（設問59－66）。

59. あなたは大学院在学中に外国の大学へ留学した経験がありますか。

- イ. ある（単位取得）
- ロ. ある（単位取得なし）
- ハ. ない

60. 国内の他大学・研究機関で実験・実習・調査を行ったことがありますか。

- イ. ある
- ロ. ない

61. 外国の大学及び研究機関で実験・実習・調査を行ったことがありますか。

- イ. ある
- ロ. ない

62. 本学以外の大学・研究機関で研究できる機会があればどうしますか（複数選択可）。

- イ. 国内の大学・研究機関へ行きたい
- ロ. 外国の大学・研究機関へ行きたい
- ハ. 国外に行きたいが、語学上の制約があって行けない
- ニ. 行く必要を感じない

63. 海外の研究者の講演・講義・演習に出席したことがありますか。

- イ. ある→設問64へ
- ロ. ない

64. (設問63でイと答えた方へ)

該当する項目に○をつけて下さい（複数選択可）。

- イ. 自分の意志で出席した
- ロ. 先生にいわれて出席した
- ハ. 出席したが内容をよく理解できなかった

- ニ. 内容はおおいに参考になった
- ホ. これからも積極的に参加する

65. 外国人研究者が研究室に滞在することについてどう思いますか（複数選択可）。

- イ. 日本以外の文化や学術研究について学べるから歓迎する
- ロ. 英語など外国語が上達するから歓迎する
- ハ. 著名な研究者なら歓迎する
- ニ. 歓迎するが意志疎通について不安がある
- ホ. あまり意味がない

66. あなたは欧文論文を書いたことがありますか。

- イ. 複数書いた
- ロ. 1編だけ書いた
- ハ. 書いたことはない

[V] ティーチング・アシスタント（TA）及びリサーチ・アシスタント（RA）その他の制度についてお聞きします（設問67－76）。

67. あなたはTAに任用されたことがありますか。

- イ. ある
- ロ. ない

68. あなたはTAに任用されることを希望しますか。

- イ. 希望する→設問69へ
- ロ. 希望しない→設問70へ

69. (設問68でイと答えた方へ)

その最大の理由を一つ上げて下さい。

- イ. 経済的に助かる
- ロ. 教育活動のトレーニングとして役に立つ
- ハ. 自分の専門を教育に生かせる
- ニ. 将来大学の教員になるために必要
- ホ. その他（具体的に： _____）

70. (設問68でロと答えた方へ)

その最大の理由を一つ上げて下さい。

- イ. 給与が少ない
- ロ. 研究（実験）の支障になる
- ハ. TAの職務内容が不明確
- ニ. 生徒の成績について評価権がない

ホ. その他（具体的に： _____ ）

71. あなたはRAに任用されたことがありますか。

- イ. ある
- ロ. ない

72. あなたはRAに任用されることを希望しますか。

- イ. 希望する
- ロ. 希望しない

73. あなたは日本学術振興会の特別研究員に応募したことがありますか。

- イ. 複数回ある
- ロ. 1回ある
- ハ. ない

74. あなたは日本学術振興会の特別研究員に採用されたことがありますか。

- イ. ある
- ロ. ない

75. あなたは特別研究員に採用されることを希望しますか。

- イ. 希望する
- ロ. 希望するが無理だと思う→設問76へ
- ハ. 希望しない→設問76へ

76. (設問75でロ及びハと答えた方へ)

その理由はなんですか。

- イ. 採用枠が少ない
- ロ. 自分の研究テーマでは採用される見込みがない
- ハ. 自分の研究能力が不足している
- ニ. 指導教官が積極的にサポートしてくれない
- ホ. その他（具体的に： _____ ）

[VII] あなたの経済的状況についてお聞きます（設問77－79）。

77. あなたの収入はつぎのどれですか（複数選択可）。

- イ. 親（親族も含む）の仕送り
- ロ. アルバイト
- ハ. 日本育英会の奨学金
- ニ. 日本育英会以外の奨学金
- ホ. 配偶者からの支援

- へ. 自分の給料
ト. TA
チ. RA
リ. その他

78. あなたの現在の経済状況は、今後の在学を可能にしていますか。

- イ. 可能である
- ロ. まあなんとか可能である
- ハ. 1-2年は可能であるがそれ以上は無理である
- ニ. いまのままだとこれ以上の在学は無理である
- ホ. 経済状態以外の理由でこれ以上の在学は無理である

79. あなた自身の1ヶ月の生活費は次のいずれですか（入学金，授業料は除く）。

- イ. 10万円未満 ロ. 10～14万円 ハ. 15～19万円
ニ. 20～24万円 ホ. 25～29万円 ヘ. 30万円以上

[Ⅷ] 将来の進路（就職）についてお聞きします（設問80－83）。

80. あなたの希望する職種はなんですか。

- イ. 国公立研究機関の職員
- ロ. 民間研究機関の職員
- ハ. 大学の教員
- ニ. 大学以外の教員
- ホ. 大学以外の医療機関の職員
- ヘ. 開業（医院、薬局など）
- ト. 起業家
- チ. 国家公務員
- リ. 地方公務員
- ヌ. 民間企業の高度専門職員
- ル. 文化諸施設の高度専門職員
- ヲ. その他（具体的に：_____）

81. 就職についての見通しはどうか。

- イ. 希望する就職は見つかると思う
- ロ. 希望する就職は困難だと思う
- ハ. 就職したくない
- ニ. どこへ就職すればよいかわからない
- ホ. まだ考えていない
- ヘ. 職場に復帰する
- ト. 転職する

チ. その他（具体的に： ）

82. 就職に関して、指導教官あるいは研究科（専攻）に対する要望があれば書いて下さい。

83. あなたの所属する研究科の教育研究について感じていることを自由に書いて下さい（例えば、どのような講義や実習をしてほしいか等について）。

ご協力ありがとうございました。

このアンケート回答用紙は、7月19日（木）までに、所属する大学院研究科事務担当掛へ提出してください。

第1章 大学院教育に係るアンケートに対する回答分析

学生の属性について（設問1-12）

一般学生，留学生，社会人学生別にみた標本数（設問1）

【全体の傾向】

回答者は，一般学生（以下「一般」と略す）が8割，留学生（「留学」と略す）が1割弱，社会人学生（「社会人」と略す）が1割となっている。回収率は56.8%である。

【研究科別にみた傾向】

「一般」学生の比率が高い研究科（全体の平均値以上の研究科）は，「文」「理」「薬」「地球」「工」「農」「水」であり，特に「理」「薬」「水」は90%以上であり，「一般」の比率が圧倒的である。

「留学」の比率が高い研究科（全体の平均値以上の研究科）は，「教」「法」「経」「国際」「農」「医」「獣」であり，文系・医系の場合は留学生の比率が高い傾向にある。

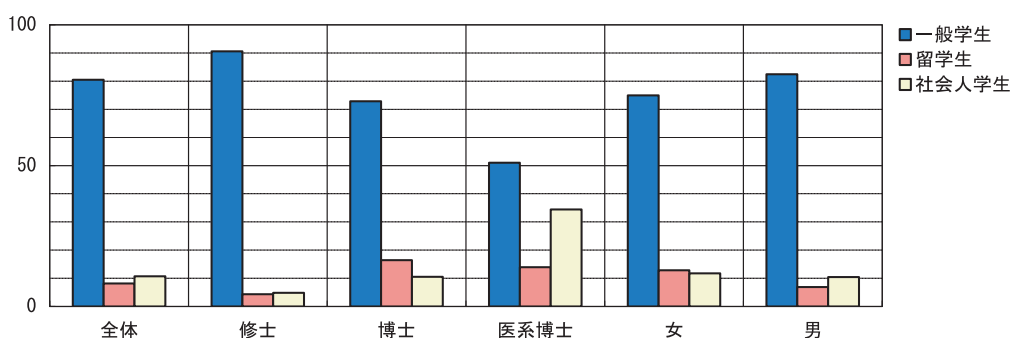
「社会人」の比率が高い研究科（全体の平均値以上の研究科）は，「教」「法」「経」「国際」「医」「歯」であり，とくに「教」「経」「医」は30%を超えている。

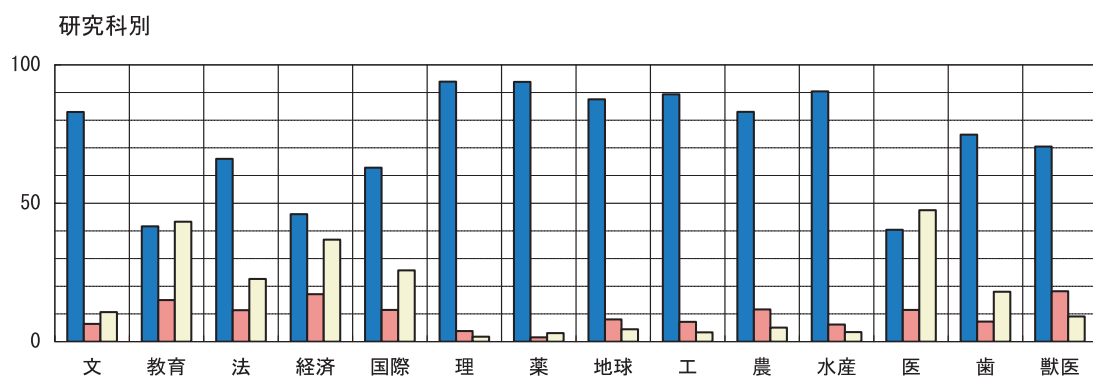
【その他の指標別にみた傾向】

課程別にみると，「一般」は「修士」に多く（90.6%），「医系博士」に少ない（51.0%）。逆に「留学」は，博士後期課程（以下「博士」と略す）が16.4%，「医系博士」が13.9%で，これらの課程に多い。「社会人」は，「医系博士」が34.4%と圧倒的に多く，ついで「博士」の10.5%となる。

男女別にみると，女性の場合は「留学」と「社会人」に若干多いが，男女差はそれほど顕著ではない。

図1＜属性（設問1）＞





研究科別・学年別・男女別にみた回収状況・回収率(設問2・3・4・5)

回答者の総数は3,140人であり、全体の回収率は56.8%となる。

研究科別にみた標本数と回収率は表1を参照。文系の回収率が悪く(3-5割)、回収率の高いのは「地球」「歯」「工」「農」であり、いずれも60%以上である。

学年別の回収率は、医系院生を除いた場合は、M1・60.5%、M2・56.5%、D1・55.7%、D2・49.6%、D3・49.7%となる。修士平均58.5%、博士平均51.3%である。医系博士は1年71.7%、2年69.5%、3年65.1%、4年59.4%で、平均66.4%である。医系院生の回収率がいいことがわかる。

男女別にみると、男性57.5%(2,475人)、女性53.1%(647人)であり、男性の回収率が高い。

表1

	回 答 数	在籍者 (修士)	在籍者 (博士)	在籍者 (計)	回収率
文学	141人	244人	165人	409人	34.5%
教育学	60人	101人	70人	171人	35.1%
法学	53人	127人	51人	178人	29.8%
経済学	76人	148人	42人	190人	40.0%
理学	396人	447人	283人	730人	54.2%
医学	297人		507人	507人	58.6%
歯学	111人		147人	147人	75.5%
薬学	65人	126人	76人	202人	32.2%
工学	1,026人	1,158人	360人	1,518人	67.6%
農学	336人	338人	211人	549人	61.2%
獣医学	44人		81人	81人	54.3%
水産科学	146人	214人	113人	327人	44.6%
地球環境科学	337人	263人	188人	451人	74.7%
国際広報メディア	35人	64人		64人	54.7%
無回答	17人				
計	3,140人	3,230人	2,294人	5,524人	56.8%

表2-1

	回 答 数	在籍者	回収率	課程平均
修士課程1年	964人	1,594人	60.5%	58.5%
修士課程2年	925人	1,636人	56.5%	
博士後期課程1年	231人	415人	55.7%	51.3%
博士後期課程2年	223人	450人	49.6%	
博士後期課程3年	345人	694人	49.7%	
計	2,688人	4,789人	56.1%	

表2-2

	回 答 数	在籍者	回収率
医系博士課程1年	152人	212人	71.7%
医系博士課程2年	114人	164人	69.5%
医系博士課程3年	99人	152人	65.1%
医系博士課程4年	123人	207人	59.4%
計	488人	735人	66.4%

表3

	回 答 数	在籍者 (修士)	在籍者 (博士)	在籍者 (計)	回収率
女	647人	738人	481人	1,219人	53.1%
男	2,475人	2,492人	1,813人	4,305人	57.5%
無回答	18人				
計	3,140人	3,230人	2,294人	5,524人	56.8%

年齢構成別にみた標本（設問6）

【全体の傾向】

回答者の年齢構成別にみると、20歳台が80.4%と圧倒的に多い。わけても20歳台前半は47.7%とほぼ半数を占める。30歳台は15.8%であり、以下40歳台2.1%、50歳台0.7%、60歳以上0.4%となる。40歳以上は3.2%であり極めて少ない。

【研究科別にみた傾向】

20歳台が9割台の研究科は「理」「薬」「工」「水」、8割台は「地球」「農」、7割台は「文」「国際」、6割台は「法」「歯」「獣」、5割台は「経」、4割台は「教」、3割台は「医」となる。研究科別に見た院生の年齢構成がいかにより多様であるかわかる。

これらの傾向を逆に30歳以上の院生の構成比でみると、6割台が「医」(69.7%)、5割台が「教」(58.4%)、4割台が「経」(40.7%)、3割台が「法」(35.9%)、「歯」(33.3%)、「獣」(31.8%)であり、これらの研究科の場合は院生の年齢構成が比較的高いことがわかる。

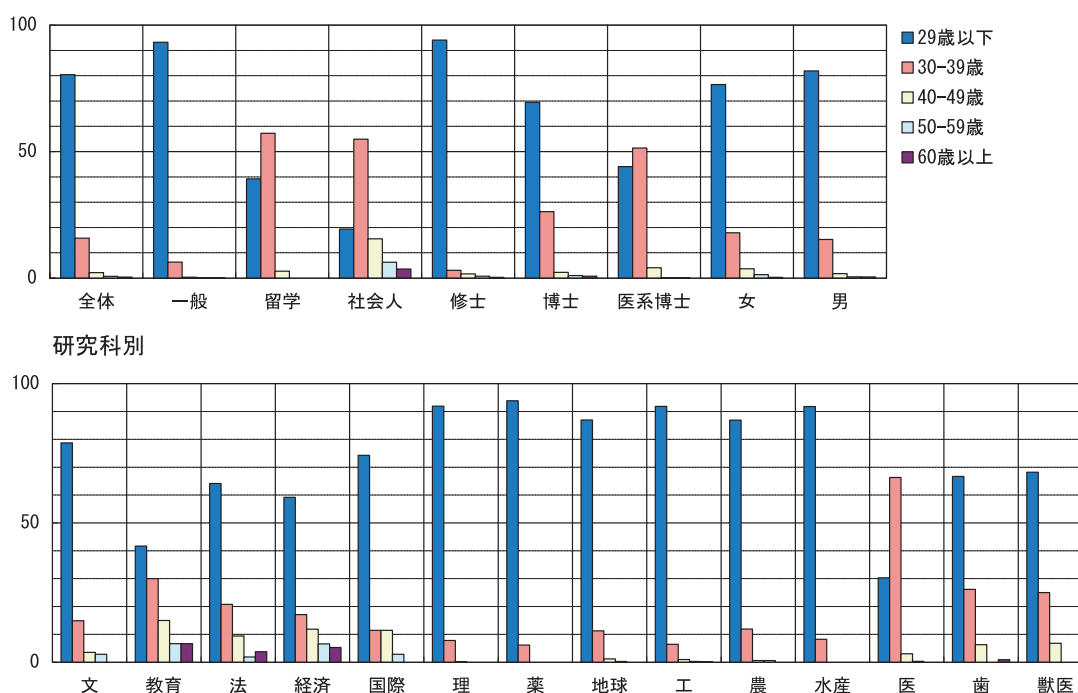
【その他の指標別にみた傾向】

「一般」「留学」「社会人」別に見た年齢構成の特徴は、20歳台は「一般」が93.2%、「留学」が39.2%、「社会人」が19.4%であり、年齢差が大きい。逆に30歳台以上をみると、「一般」が6.6%であるのに比して、「留学」が60.0%、「社会人」が80.4%であり、両者の年齢構成が非常に高い。とくに「社会人」の場合は30歳台が54.9%を占めている。

課程別に見た特徴は、20歳台は、「修士」94.1%、「博士」69.4%、「医系博士」44.1%である。30歳台は、「修士」3.1%、「博士」26.3%、「医系博士」51.4%であり、医系博士の5割以上は30歳を越えている。「博士」の場合は3割が30歳以上である。

男女別に見た年齢構成の差はほとんどない。

図2＜年齢（設問6）＞



既婚・未婚別の標本数（設問7）

回答者の中での現在の既婚者は14.6%である。

出身大学別・学部別に見た回収者の状況(修士課程,および医系博士課程の学生 設問8)

【全体の傾向】

院生の出身大学を北海道大学、他の国内大学、外国の大学別に見たのが図3である。

【研究科別にみた傾向】

北大出身者が9割台の研究科は「水」、8割台は「薬」「工」「理」、7割台は「農」、6割台は「法」、5割台は「教」「医」「歯」「獣」、4割台は「文」、3割台は「経」、2割台は「地球」「国際」となる。文系（「法」を除く）と医系の場合、北大出身者は5割台以下であることがわかる。逆に「農水系」「理工系」は北大出身者が多い。なお「地球」と「国際」は独立研究科なので北大出身者の比率は少なくなる。

「他の国内大学」出身が多い研究科は、「国際」62.8%、「地球」61.6%、「文」53.1%、「経」52.5%、「教」48.7%などであり、医系の場合「医」34.6%、「歯」29.8%、「獣」22.7%が比較的多い。

「外国の大学」の出身者が比較的多い研究科は、「国際」14.3%、「獣」13.6%、「経」10.2%、「医」9.8%などである。

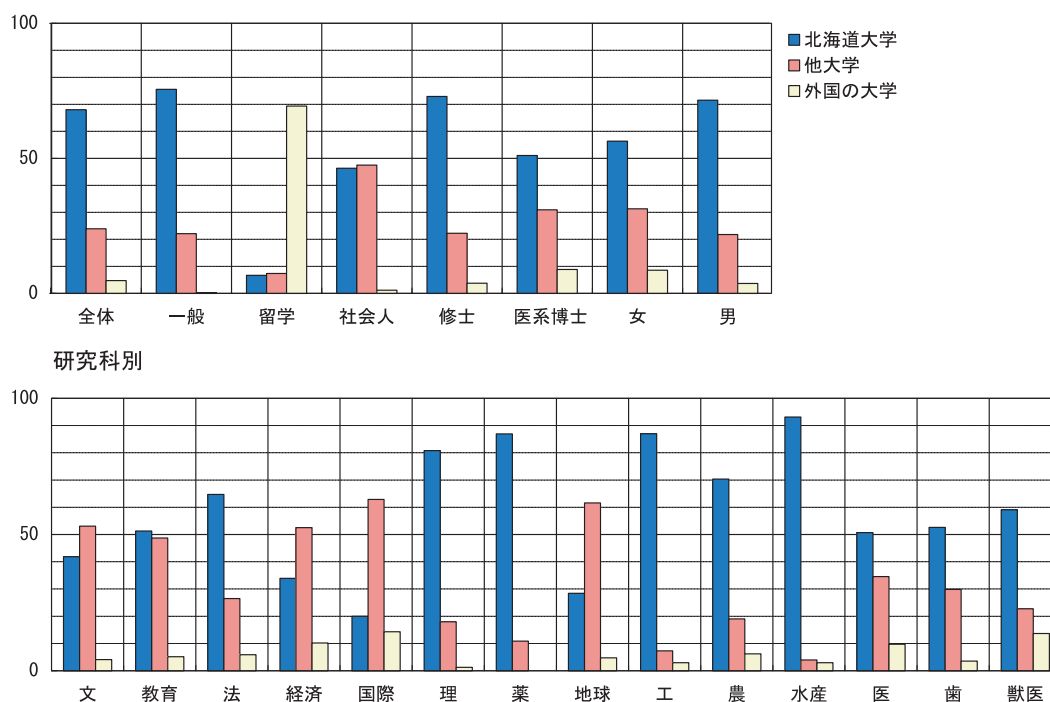
【その他の指標別にみた傾向】

「一般」「留学」「社会人」別には、「一般」の4分の3は北大の出身者、「社会人」の半分弱が北大出身者となる。したがって「社会人」の場合はほぼ半分が「他の国内大学」の出身者である。「留学」の場合は、「外国の大学」出身が7割で、あとの14%は北大ないし他の国内大学を出ている。

課程別にみると、修士課程の院生の2割強が他の大学出身で、医系博士の3割が他大学出身である。外国の大学出身は医系博士に若干多い（8.8%）。

男女別には、女性の場合、男性と比較して「他の国内大学」「外国の大学」出身者が多い。女性のほぼ3割が他大学出身であり、1割弱が外国の大学出身である。

図3<修士及び医系博士の出身大学・学部（設問8）>



出身大学・研究科別にみた回収者の状況（博士後期課程・設問9）

【全体の傾向】

博士後期課程の院生の出身をみたのが図4である。医系と「国際」は対象外である。

【研究科別にみた傾向】

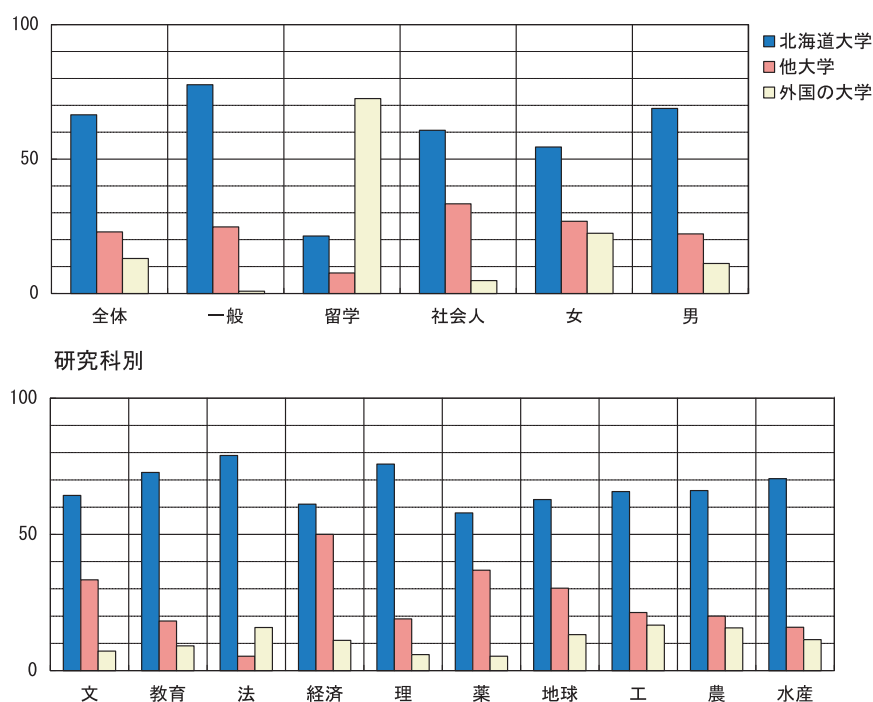
北大の研究科出身者の比率が比較的高いのは「法」「理」「教」「水」であり、これらは7割台の学生が北大出身となる。逆に他大学の研究科出身が多いのは、「経」「薬」「文」であり、3割以上を示している。外国大学出身が多いのは、「工」「農」「法」で、15%前後の比率をみせている。

【その他の指標別にみた傾向】

「一般」「留学」「社会人」別に見ると、北大出身は「一般」77.7%、「社会人」60.7%、「留学」21.4%で、他大学出身は「一般」24.7%、「社会人」33.3%、「留学」7.7%となる。したがって「一般」「社会人」の場合は、6-7割が北大出身で2-3割が他大学出身となる。留学生の場合は、北大の研究科出身が2割強いるが、外国の大学院研究科を出ている場合が多い（72.5%）。

男女別には、女性の方が他大学、外国大学出身が多い。

図4＜博士後期課程学生の出身大学・研究科（設問9）＞



大学卒業後の在職経験の有無および現在の就職状況(設問10, 11)

【全体の傾向】

大卒後の在職経験は、「2年以内」が5.9%、「3年以上」が16.7%であり、「経験なし」が75.9%となる。したがってほぼ4分の1弱が在職経験をもっている。

また現在就職しているかどうかを見たのが図5である。全体として12.5%が職についていることがわかる。

【研究科別にみた傾向】

在職中が20%を超えている研究科は、「医」64.6%、「教」30.0%、「経」27.6%、「歯」26.1%となり、ついで「法」「国際」が17%である。「医」が圧倒的に多いが、これは研修医を就職とみなしているからである。「歯」も同じ傾向と見てよいだろう。これら医系を除くと、あとは文系に限定される。したがって通常の社会人院生は現在文系に集中しているといえてよいであろう。

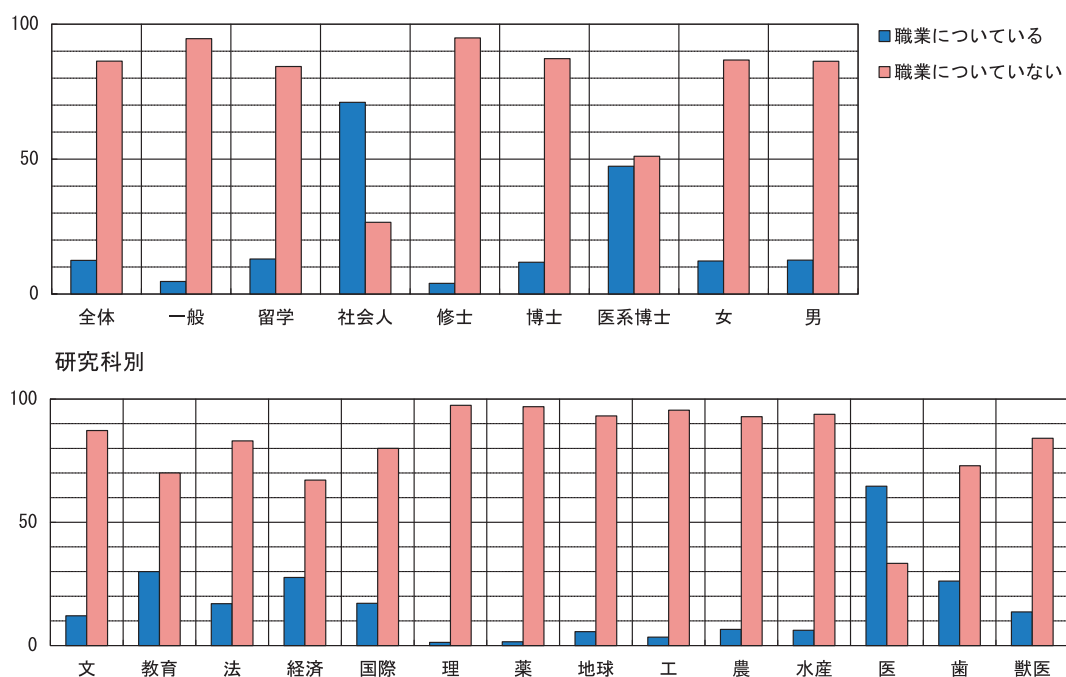
【その他の指標別にみた傾向】

「一般」「留学」「社会人」別にみると、在職は「一般」4.6%、「留学」12.9%、「社会人」71.0%となり、「社会人」院生のウエイトが高いことを示している。

課程別にみると、「修士」3.9%、「博士」11.8%、「医系博士」47.3%となり、やはり医系の院生に在職者が多い。

男女別の差はほとんどない。

図5<就業状況(設問11)>



北海道大学入学前の住所（設問12）

【全体の傾向】

入学前の院生の住所を見たのが図6である。これから院生の出身地域の傾向がある程度わかる。

全体としては、札幌を含む北海道が41.7%、北海道外（国内）が50.9%、外国が6.6%となる。したがって北海道外（国内・外）が6割、道内が4割といった状況である。

【研究科別にみた傾向】

北海道内が5割を超える研究科は、「教」81.6%、「国際」71.5%、「歯」64.9%、「医」62.3%、「法」60.4%、「経」57.9%となる。「医」「歯」と「文」を除く文系に多い。逆に北海道外（国内）が5割を超える研究科は、「農」68.8%、「地球」65.3%、「水」59.6%、「獣」59.1%、「理」56.3%、「薬」55.4%、「工」51.8%となる。「外国」の場合をみると、1割を超える研究科は、「獣」20.5%、「法」11.3%、「農」10.7%となる。これらの傾向を「外国を加えた道外」でみると、6割を超える研究科は「獣」79.6%、「農」79.5%、「地球」72.7%、「水」65.1%となり、これらの研究科の院生の6割以上、多い研究科では8割近くが北海道外から当該研究科に入学していることがわかる。これらの研究科では、院生の地域間移動のスケールが大きい。

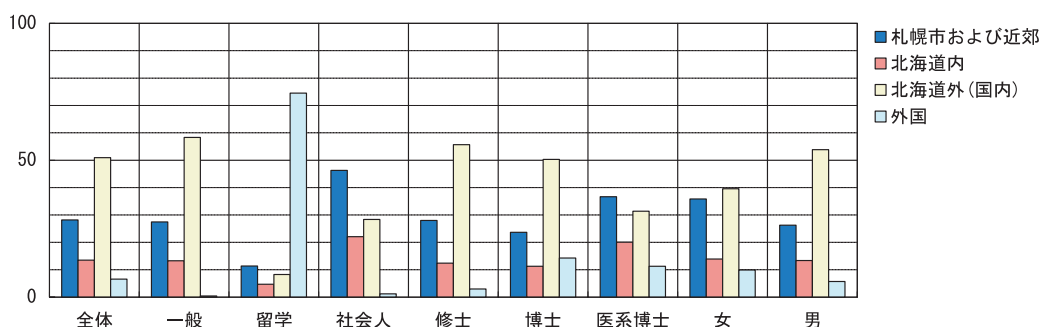
【その他の指標別にみた傾向】

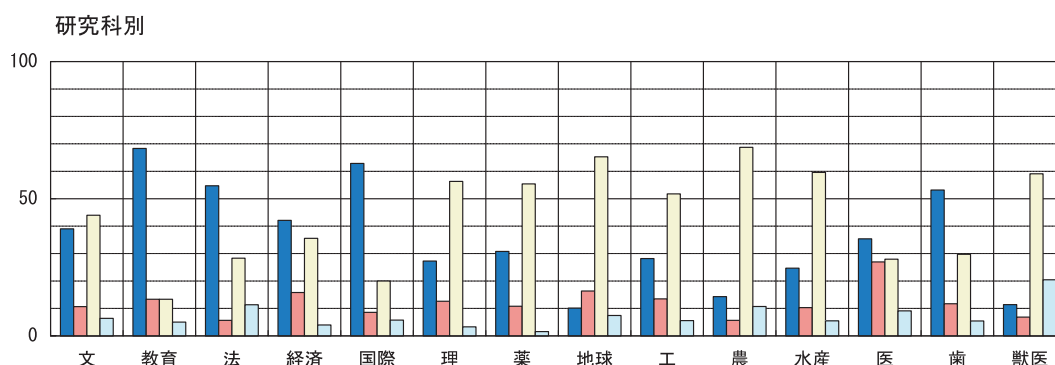
「一般」「留学」「社会人」別にみると、北海道内は、「社会人」68.4%、「一般」40.8%、「留学」16.1%で、「社会人」の場合の道内居住者が圧倒的に多い。逆に北海道外は、「留学」82.7%、「一般」58.7%、「社会人」29.6%で、言うまでもなく「留学」のウエイトが圧倒的に高い。とはいえ「社会人」の場合でもその3割が道外からの移住者であり、モビリティは結構高いといえる。

課程別にみると、北海道外からの移住は「博士」に多く（国内・外あわせて64.6%）、修士課程と博士後期課程との間での地域間移動が結構高いことに気付く。

男女別には、道内が女性に多く、道外が男性に多い。女性の方がモビリティが若干低いといえようか。

図6＜入学前の住所（設問12）＞





〔I〕 大学院進学に関する事項について（設問13-21）

修士課程への進学動機（設問13）

【全学の傾向】

一番比重の高いのは「学部教育では不十分だった」(58.4%)であり、次いで「修士の学位を取得したい」(41.7%),「さらに研究を続けたい」(37.3%),「高度専門職業人の技術知識を習得したい」(31.2%)の順となる。大学教育の完成の時期が学部から修士課程に移行している状況がわかる。

将来の進路志向でみると、「研究者になりたい」は24.6%で、「就職に有利だから」を挙げる者が25.7%で、それぞれ4分の1ほどいる。進学時点で将来を特定している学生は半数くらいといえそうだ。

「一般」「留学」「社会人」別に見ると、多少の違いがみえる。それぞれトップ3の動機をみると、「一般」は、「学部教育だけでは不十分」(61.1%),「修士の学位を取得したい」(41.7%),「さらに研究を続けたい」(38.7%)である。「留学」は、「学部教育だけでは不十分」(41.5%),「国際的な研究をしたい」(39.0%),「高度専門職業人の知識・技術を身に付けたい」(35.4%)である。「社会人」は、「高度専門職業人」(48.4%),「修士の学位を得たい」(45.1%),「研究者になりたい」(23.1%)となる。「社会人」の場合特にリ・ヌ・ヲなどの職業に関する選択肢を選ぶ率が高く、それだけで80%くらいになり他の学生と対照をなす。各選択肢の中でとくに比率の高い学生層をピックアップすると、「研究者になりたい」は「留学」が34.1%,「学部教育では不十分」は「一般」が61.1%,「さらに研究を続けたい」は「一般」が38.7%,「高度専門職業人」は「社会人」が48.4%,「国際的な研究をしたい」は「留学」が39.0%となる。こうして見ると、「一般」は進学し勉強するという理由が、「留学」は研究と高度専門職志向が、「社会人」は学位の取得と高度専門職のウエイトが高い。

男女別にはあまり違いが出ないが、女性は「さらに研究を続けたい」が多く（女44.9%, 男35.2%）、男性は「就職に有利」と考える比率が高い（女17.0%, 男28.1%）。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「学部の教育だけでは不十分」の比率が高いのは「文」(66.0%)と「法」(63.6%)であり、あとは「全体」の平均値(58.4%)以下である。「修士の学位を取得したい」の比率が平均値(41.7%)以上は、「法」(15.2%)を除く全研究科となる。

進学以降の進路志向でみると研究科の違いがはっきりする。

「研究者になりたい」が高いのは「文」(42.3%)と「教」(36.8%)であり、「法」の6.1%に比べると違いが目立つ。「さらに研究を続けたい」も「文」(62.9%)と「教」(42.1%)が高く、「経」の19.0%とは異なる。逆に「高度専門職業人」の比率が高いのは、「法」(60.6%),「国際」(51.4%),「経」(44.8%)であり、「文」「教」の21%とは異なる。

こうして見ると、傾向としては、「文」「教」は研究者志向が強く、「法」「経」は高度専門職希望が多いといえる。「国際」は両者の中間に位置しているようだ。

その他の個別の選択肢で平均値との差がやや大きいのを拾ってみると、「職業人として継続職業教育を受けたい」の「法」(12.1%),「国際的な研究をしたい」の「国際」(20.0%)あたりが目立つ。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「理」「薬」「地球」「工」に共通していえるのは、「学部教育だけでは不十分」という点である。いずれも5割を超え、「工」は6割を超える。

「理」「薬」「地球」のサイエンス系研究科は、学部教育だけでは満足できず、さらに研究をしたい(40-50%台)、研究者になりたい(30%台)、という回答が多い。このような研究志向の強い学生の比率は全体平均より高い。また、これら3研究科に入学してくる学生の20%近くは修士課程への入学を大学入学以前から決めていると回答している。このことから、もともと研究志向の強い学生が卒業研究を経験することによってその研究意欲をさらに強くしたものと推測される。従って、卒業研究の実施は学生にとって意義のある授業科目であると推量される。「工」の場合は、こうした研究者志向は比較的少ない。

修士課程進学が「就職に有利」と答える学生は「薬」(39.1%),「工」(37.2%)に多い。この点では「薬」は「工」と同じ反応をしている。また「修士の学位を取得したい」も「薬」「工」は5割前後を示し、「理」「地球」の3割台とは異なる。

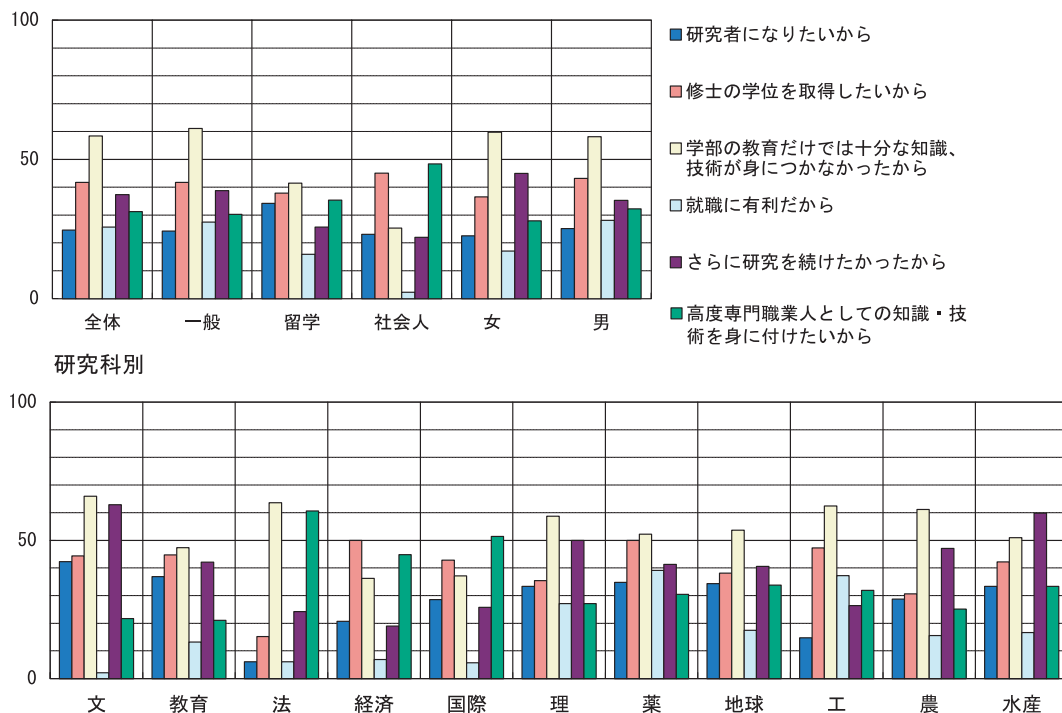
「地球」の場合その比率(17.9%)は決して高くはないが、職業以外の幅広い知識・教養を身につけたいと回答している学生がいる。これは今後、カリキュラム等の改訂が行われる際には考慮すべき事項であろう。

「農」「水」に共通していえるのは、「学部の教育では不十分」と「さらに研究を続けたい」の二つがトップ2の理由だということである。

違いを見ると、「研究者になりたい」「学位を取得したい」「さらに研究を続けたい」「高度専門職業人の知識・技術を身につけたい」がいずれも「水」が高く、「学部の教育では不十分」「就職したくなかった」が「農」に多いという点である。あえていうと「水」の方が進学の動機が具体的にあり、「農」の場合は進学の動機が特定されていないという特徴をもつかもしれない。

「先生や先輩に勧められた」率が少なく（「水」3.9%）、また設問15の「ガイドブックを見てよいと思った」の率が低い（「水」0.0%）という点は全学的な傾向といえるが、今後、ポスターやHPなどでの宣伝が必要なことを示唆している。

図 I-1 <修士課程進学動機（設問13）>



所属研究科の志望理由（修士課程 設問15）

【全体の傾向】

「自分の興味ある研究が行われている」(57.6%) がトップで、次いで「出身大学だから」(51.5%), 「指導を受けたい先生がいるから」(24.7%) となる。「教育研究設備が充実している」「先端的な研究ができる」「他大学にない特色がある」などの選択肢を選んだ学生はいずれも10%前後であり、予想外に少なかった。

「一般」「留学」「社会人」別に見ると、「自分の興味ある研究が行われている」「指導を受けたい先生がいる」がいずれもトップ3の志望理由に入っている。違うのは「一般」の場合は「出身大学だから」が55.8%と圧倒的に多く、「留学」は「先生や先輩に勧められた」といった人脈をあげるケースが多い (20.7%)。「社会人」は「昼夜開講制などの通学条件」という通学・就学条件をあげるケースが多い (18.7%)。それぞれの置かれた特殊性を反映している。

男女別の差はほとんどない。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「文」「教」「経」は類似しており「自分の興味ある研究が行われている」「指導を受けたい先生がいる」が志望理由のトップ2であり、「法」は「出身大学だから」「指導を受けたい先生がいる」を、「国際」は「自分の興味ある研究が行われている」「他大学にない特色がある」をトップ2としてあげている。

各選択肢の平均値との差が大きい研究科をあげてみると、「先生や先輩に勧められた」では「国際」(20.0%)・「文」(17.5%), 「特定の資格をとれる」の「経」(12.1%), 「昼夜開講制」の「教」

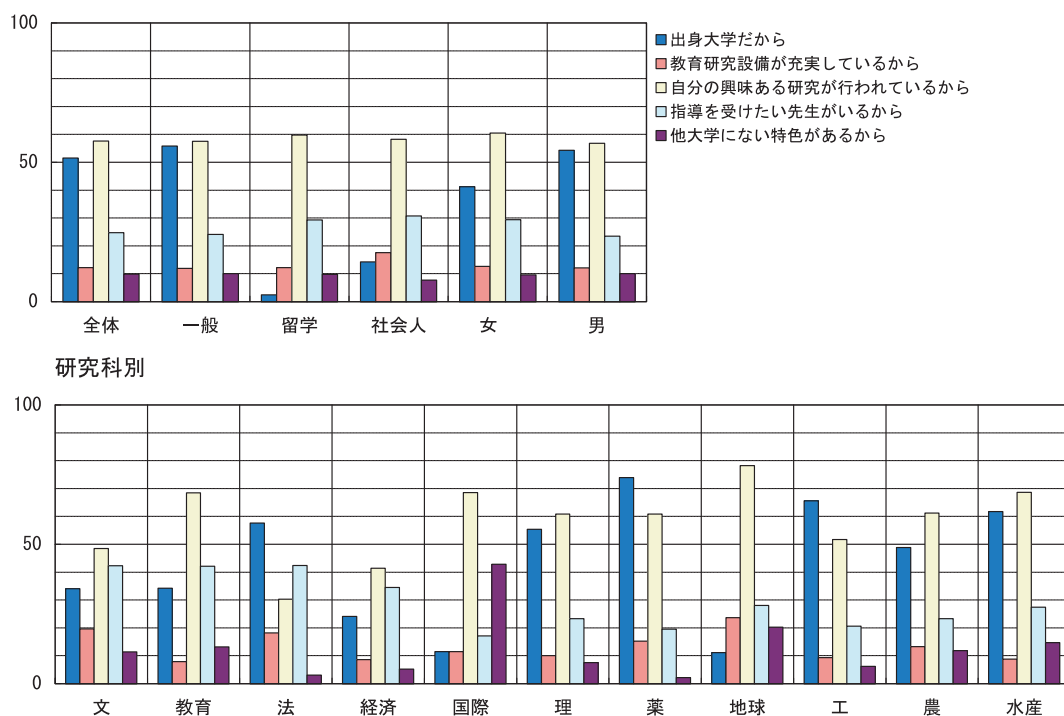
(13.2%)・「法」(12.1%)・「国際」(11.4%),「大学院ガイドブックがよかった」の「経」(15.5%)・「文」(11.3%)などが目に付く。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

志望理由のトップ3のうち「興味ある研究が行われている」と「指導を受けたい先生がいる」の二つは「理」「薬」「地球」「工」に共通する。他の一つは「理」「薬」「工」の場合は「出身大学だから」となるが、「地球」は「教育研究設備が充実している」「他大学にない特色がある」となる。興味深いのは理由の第1位をみると、「理」「地球」は「興味ある研究が行われている」(60.8%, 78.3%)であるが、「薬」「工」は「出身大学だから」が第1位となる(73.9%, 65.6%)。次に注目できるのは「地球」の場合の反応が他の研究科と違う点である。学部を持たない「地球」が「出身大学だから」をあげないのは当然であり、志望理由はそれだけ具体的になる。研究科選択に際して「大学院ガイドブック」などを参考にしたと回答する学生が顕著に多い(22.2%)。このことは地球環境科学研究科に限らず、全ての研究科にとって、大学院案内などの充実、さらに積極的な広報活動が学生募集にとって重要であることを示唆しているものと考えられる。理学研究科では志望理由の第一は「興味ある研究が行われている」であるが、「出身大学である」という理由をあげている学生も多く、3研究科の中では中間的な回答例となっている。

「農」「水」は、「興味ある研究が行われている」「出身大学だから」「指導を受けたい先生がいる」の3つにいずれも集中している。違いをあえていうと、「水」は「先端的な研究ができる」(10.8%),「他大学にない特色がある」(14.7%)をあげる学生が多少多く、「農」は「他の大学院に比べて入りやすい」をあげる学生が多少多い(13.2%)。

図 I-3<修士の所属研究科志望理由（設問15）>



博士課程(博士後期課程,医学系博士課程)への進学動機(設問17)

【全学の傾向】

動機のトップ5を見ると、「さらに高度の知識・技術を身につけたい」(56.0%),「博士の学位を取得したい」(55.6%),「研究者になりたい」(46.5%),「さらに研究を続けたい」(39.6%),「国際的な研究をしたい」(17.8%)となる。いずれも「研究」が動機となっている。就職を理由とするものや、他者の勧めなどが動機となっている例は少ない。

「一般」「留学」「社会人」別に見ると、「一般」は「高度の知識・技術」「研究者」「博士の学位」「さらに研究を続けたい」の4つに分散するが、「留学」は「博士の学位」「研究者」に集中し、「社会人」は「博士の学位」に集中する。選択肢別にみると、「研究者」は「一般」「留学」に多く、「博士の学位」は「社会人」が圧倒的に多く「留学」「一般」の順に少なくなる。「留学したい」「国際的な研究をしたい」は「留学」に多く、「さらに研究を続けたい」は「一般」に多く「留学」「社会人」の順に少なくなる。

(A) 文系4研究科(文学・教育学・法学・経済学)の特徴

「国際」は、まだ博士課程の学生がいないのでここでは省く。

全学平均より高いのは「研究者になりたい」と「さらに研究を続けたい」の二つであり、全学平均より低いのは「博士の学位を取得したい」と「さらに高度の知識・技術を身につけたい」である。前者の場合は全学平均とほぼ20%の差があり、文系研究科の際立つ特徴である。

個別研究科ごとの比較をすると、「研究者になりたい」は「文」(81.4%)に多く、「教」(59.1%)など他の研究科は6割台となる。「さらに研究を続けたい」は「文」(60.5%),「教」(59.1%),「法」(55.0%),「経」(44.4%)の順となり、「経」がやや少ない。他の研究科と比べ多少比率の高い理由を見ると、「文」は「研究者になりたい」,「教」は「希望する就職ができなかった」,「法」は「先生に進学を勧められた」,「経」は「留学をしたい」「国際的な研究をしたい」などであり、それぞれの研究科の特徴を多少反映しているかもしれない。

(B) 理系6研究科(理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学)の特徴

「理」「薬」「地球」「工」は、総じて動機の大体の順位は、「研究者になりたい」「さらに高度の知識・技術を身に付けたい」「博士の学位を取得したい」「さらに研究を続けたかった」となる。「理」「薬」「地球」の場合は「研究者になりたい」が第1位である。「工」は「高度の知識・技術」がトップである。入学の動機は、修士課程入学者同様に、全体平均より研究志向の強い学生が多い。しかし、高度の知識・技術の習得を志向した学生も多く、研究一辺倒の教育では対応できないことを指摘しておきたい。

「工」では博士の学位を取りたい,「研究者になりたい」という順で拮抗しており,「理」では「研究者になりたい」が最も多く,「さらに研究を続けたい」というのが次に続いている。

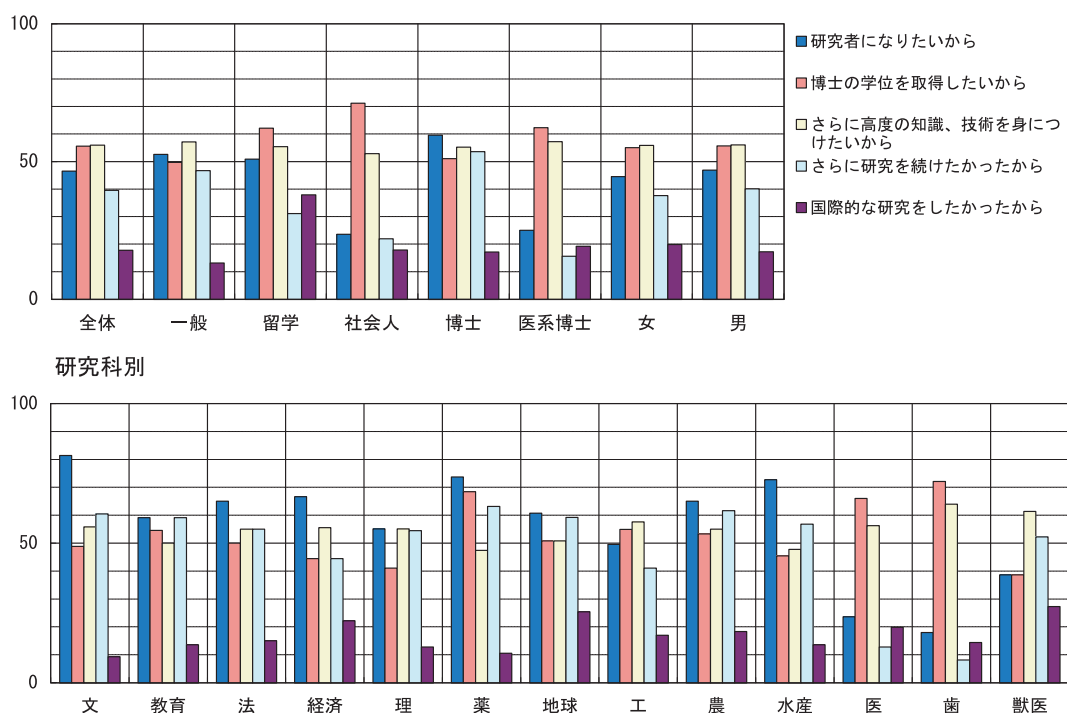
「農」「水」では、博士後期課程の学生は「研究者になりたい」,「さらに研究を続けたい」,あるいは「高度な知識・技術を身につけたい」など、全学と同様な傾向。

博士後期課程の学生は「研究者になりたい」,「さらに研究を続けたい」など全学的傾向と同じだが,「高度な知識・技術を身につけたい」は比較的少ない方である。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

進学の動機は、「医」「歯」では学位取得・高度な知識や技術の修得が過半数と多く、また先生や職場で勧められたも併せて約30%であったが、研究者志望は約20%できわめて少ない。「獣医」では、他系・他科と同様の傾向を示し、高度な知識や技術の修得・研究の継続が過半数で、次いで研究継続・学位取得・研究者志望・国際的な研究志望が多かった。

図 I-5 <博士課程進学動機（設問17）>



所属研究科の志望理由（博士課程 設問19）

【全体の傾向】

理由のトップ5は、「自分の興味ある研究が行われている」(51.9%),「出身大学だから」(30.7%),「指導を受けたい先生がいる」(29.9%),「修論テーマをさらに深めたい」(27.5%),「先生や先輩に勧められた」(15.0%)となる。これを修士課程の学生の志望理由と比較し、志望理由の率が上がっているのを挙げると、「先生や先輩に勧められた」(8.9%→15.0%),「指導を受けたい先生がいる」(24.7%→29.9%),「先端的研究をしている」(8.7%→13.0%),「教育研究設備が充実している」(12.2%→14.2%)となる。この変化からいえることは、研究科の志望理由が具体的になっており、当該研究室のスタッフや設備、研究のレベルなどの要因が進学理由を左右していることがわかる。

(A) 文系4研究科（文学・教育学・法学・経済学）の特徴

いずれの研究科もほぼ同じ理由をあげている。つまり「自分の興味ある研究が行われている」「指導を受けたい先生がいる」「修論テーマを続けたい」「出身大学だから」などである。言うまで

もないが、このうち前二者の理由は修士課程の学生に比べその率は高くなっており、博士課程への進学が研究室の条件に左右されていることがわかる。

各研究科ごとにトップをなす理由を見ると、「文」「法」「経」は「指導を受けたい先生がいる」であるが、「教」は「自分の興味ある研究が行われている」となる。「法」「経」の場合は「出身大学だから」をあげる比重が若干高い。

他の研究科に比べ多少高い比率を示している指標を研究科ごとにあげると、「文」は「先端的な研究をしている」、「教」は「他大学にない特色ある研究が行われている」、「法」は「教育研究設備が充実している」、「経」は「国際的に優れた研究をしている」を挙げる比率が若干高い。各研究科の特徴をある程度反映しているといえそうだ。

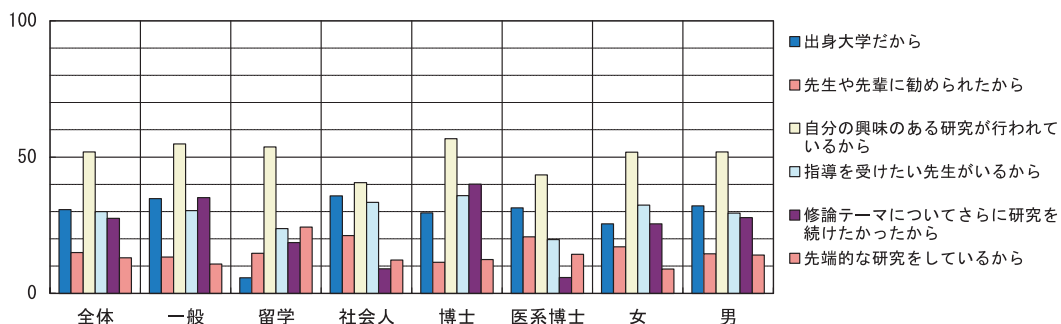
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

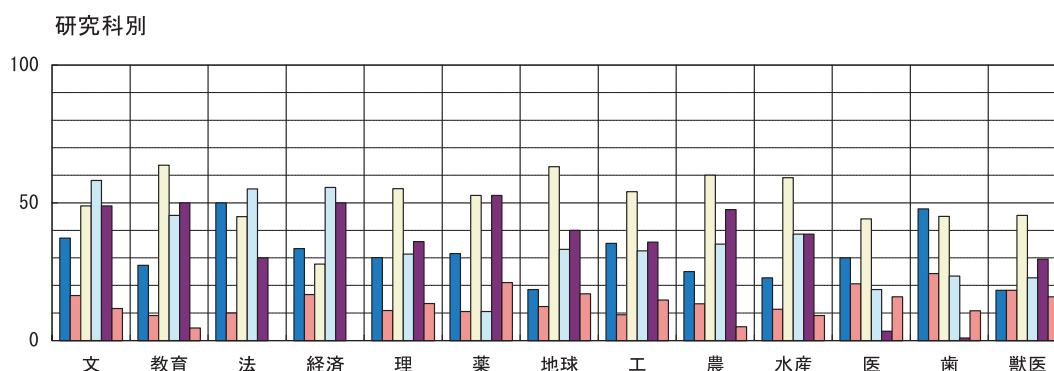
「理」「工」とも「自分の興味のある研究が行われているから」が過半数を超えている。「出身大学だから」という理由が30-35%とランクされている。薬学研究科では「修士論文研究を続けた」と回答した学生（52.6%）が3研究科中で最も多く、逆に「指導を受けたい先生がいるから」と回答した学生（10.5%）が極端に少ない。また、3研究科に共通していることは、全平均（15%）より少ない（約10%）学生が「先生や先輩に勧められたから」と回答している。このことは博士課程入学に際して教官側の勧誘努力も必要であると推量できるが、自由記述欄ひはそれに行き過ぎがあつて困ると書いている学生の意見も散見されるので、進路指導にはきめ細かい配慮が必要であることを指摘しておきたい。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

所属研究科を選んだ理由は、「医」「歯」では「興味ある研究が行われている」、「出身大学だから」が多く、「先生や先輩に勧められた」も20%を超えており、以下「指導を受けたい先生の存在」、「先端的研究」が多かった。「獣医」でも「興味ある研究が行われている」が45%で最も多く、以下「修論テーマの継続」、「設備の充実」、「指導を受けたい先生の存在」が多く、「出身大学だから」や「先生や先輩に勧められた」は20%以下と比較的少なかった。

図 I-7 <博士の所属研究科志望理由（設問19）>





進学を決めた時期（修士課程 設問14）

【全体の傾向】

進学を決めた時期は、学部3年（28.2%）、学部4年（31.4%）が圧倒的に多く（両者で59.6%）、ついで大学入学前（19.4%）となる。これに比べ学部卒業後（1.5%）とか、就職後（5.8%）はきわめて低い。

（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

学部3・4年で進学を決めた率を研究科別に出してみると、「文」（67.1%）、「教」（39.5%）、「法」（57.6%）、「経」（43.1%）、「国際」（45.7%）となり、「文」を除くといずれも平均値より低い。

逆に「就職後決めた」率をみると、「教」（36.8%）、「経」（36.2%）、「国際」（40.0%）となり、これら3研究科は社会人・職業人の入学が際立って多いことがわかる。

（B）理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

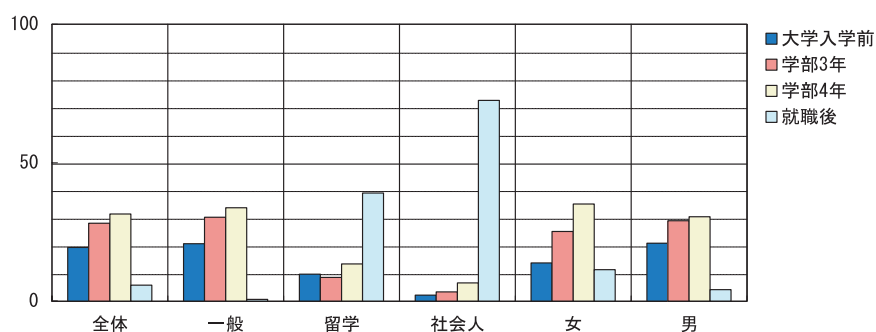
「理」「薬」「地球」は、入学時期の決定は殆どの学生が学部3・4年生である。

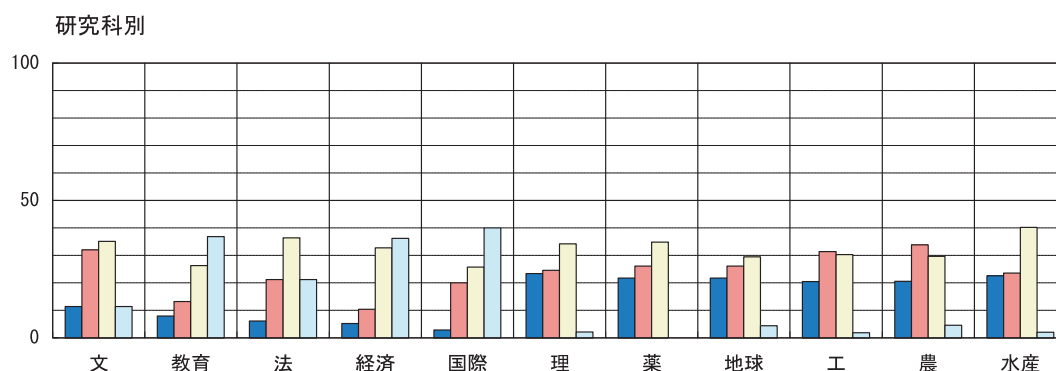
「工」の場合は、大学3年あるいは4年という時期が多かったが、「理」の場合、大学入学前に決めた場合がやや工学に比べ多かった。またそれ以外では、大学4年で決めた場合が多かった。

「農」は、進学は60%以上が学部3・4年で決定。しかし、入学前も20.5%いる。

「水」は、「大学入学前」が22.5%で、「理」の23.3%に次いで多い。入学前から大学院進学を考えていた者が多いのも特徴。

図 I-2<修士課程進学を決めた時期（設問14）>





進学を決めた時期（博士課程 設問18）

【全体の傾向】

博士課程進学を決めた時期は、学部卒業前が4分の1、学部卒業後が4分の1、修士課程在学中が37.2%、修士課程修了後が12.2%となる。したがって約半数は修士課程に入る前に決めており、半数は修士課程在学中ないし修了後に決めていることになる。

(A) 文系4研究科（文学・教育学・法学・経済学）の特徴

進学を決めた時期は研究科による違いが著しい。修士課程に入る前に決めている比率をみると、「文」は46.5%、「教」は4.5%、「法」は50%、「経」は33.4%となる。逆に修士課程在学中ないし修了後の比率をみると、「文」53.5%、「教」95.4%、「法」50.0%、「経」66.6%となる。したがって「文」「法」は比較的早く決めており、「教」「経」は遅い。特に「教」の場合はそのほとんどが修士課程入学後に決めていることになる。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「理」「薬」「地球」は、博士課程への入学意志の決定は、「大学入学前」と回答している学生が全体平均の倍の10数%となっている。過半数以上（60%前後）の学生は修士1・2年で意志決定をしている。しかし、地球環境科学研究科入学者では40%の学生が修士課程2年、つまり修了学年になってから最終意志決定をしている。

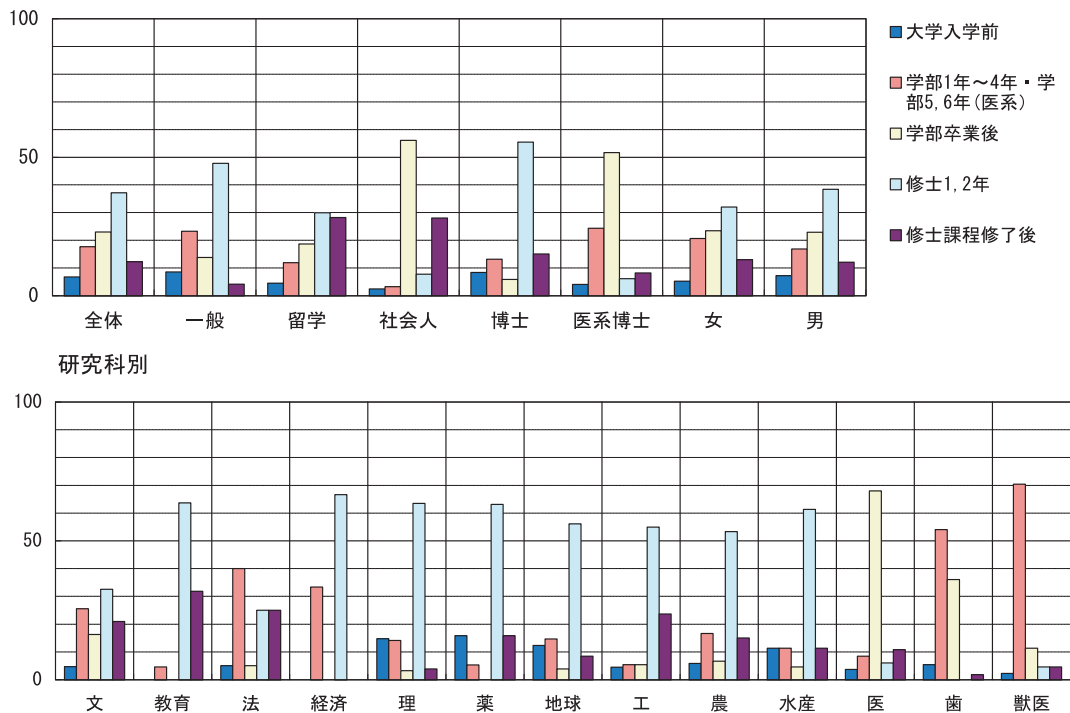
「理」では、大学入学前が「工」に比べ3倍と高くなっている。また「工」の場合、修士課程修了後に決めたものも多く（24%）、「理」の4%に比べ著しい違いを見せている。

「農」「水」は、修士で決めた者が多い。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

「獣」では約70%、「歯」では約50%が学部在学中に大学院進学を決めていたが、「医」では約70%が学部卒業後であった。なお、「医」の10%は修士課程修了後に決定。

図 I-6<博士課程進学を決めた時期（設問18）>



入学試験の形式（修士課程 設問16）

【全体の傾向】

一般入試が61%，専修コース入試が30%で，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜で入学するのが各3%となる。

（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

一般入試で入学する学生はいずれの研究科も平均値以下であるが，その中でも比較的高いのが「国際」(51.4%)，「文」(42.3%)，「教」(39.5%) で，低いのが「法」(15.2%)，「経」(19.0%) となる。

専修コース入試で入学するのは，「法」(60.6%)，「文」(41.2%)，「経」(32.8%) に多い。

社会人特別選抜で入学する学生はいずれの研究科も平均値を超すが，「教」(36.8%)，「経」(36.2%) が多い。

留学生特別選抜は比較的「国際」(11.4%)，「経」(12.1%) に多い。

こうしてみると文系の場合，理系と比較すると，入学試験が多様化しており，かつ多様な学生が入っていることがわかる。とくに一般入試の入学生が半数を割っており，この点で理系大学院とは異なる。

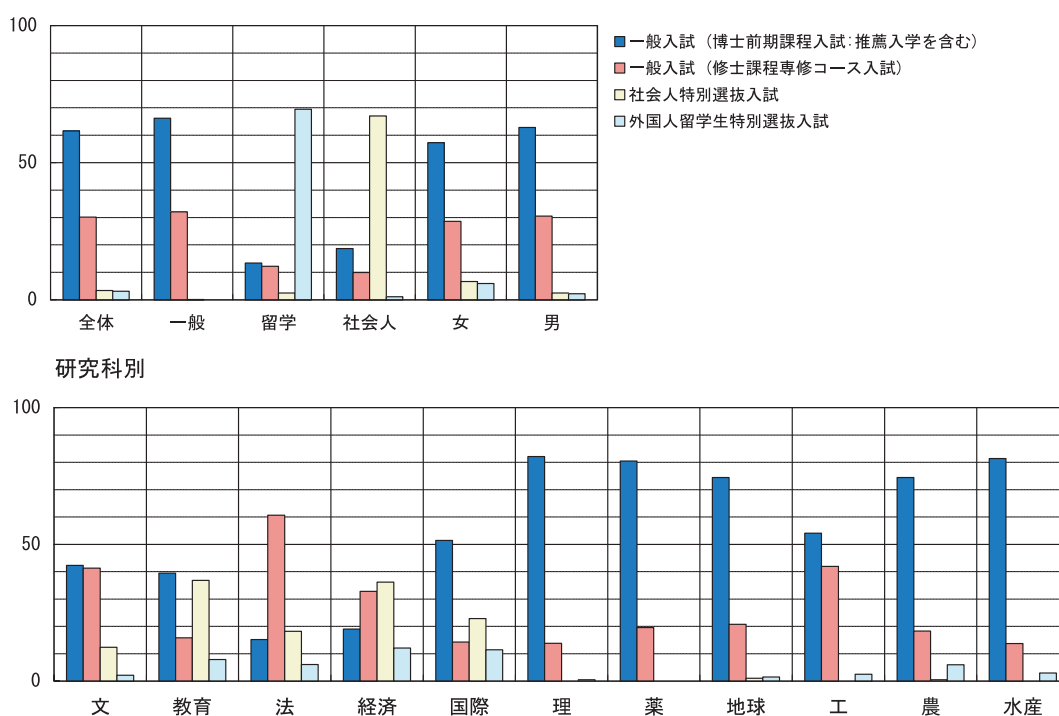
（B）理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「理」「薬」「地球」の修士課程へ入学している学生の70-80%は一般入試を受けて入学している。

「工」も一般入試が過半数に達しているが、「理」では82%が一般入試（博士前期課程入試）で入学している。「工」では一般入試が54%で専修コースにも42%と回答が多かった。これはどういう理由かはっきりしない。

「水」は、一般入試で入った者が「理」(82.1%) に次いで81.4%と多いのは留学生や社会人入学者が少ないことを意味している。全体として一般入試入学者が全学でも多い方であるのは、留学生や社会人入学者が少ないことを意味している。

図 I-4<修士の入学試験の種類（設問16）>



入学試験の形式（博士課程 設問20）

【全体の傾向】

博士課程への入試の形式は圧倒的に一般入試である（82.5%）。外国人留学生特別選抜が9.6%，社会人特別選抜が5.9%あるが，いずれの研究科で具体的にどのように実施しているか確認する必要がある。制度としてはないが，回答者の思い込みで回答している場合があるかもしれない。

(A) 文系4研究科（文学・教育学・法学・経済学）の特徴

外国人留学生特別選抜は、「教」「法」「経」で各20%前後いる。社会人特別選抜は「教」「法」に1-2割いることになるが，その形式は確認する必要がある。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「理」「薬」「地球」の博士課程への入学者もその80%以上は一般入学試験を受けて入学してい

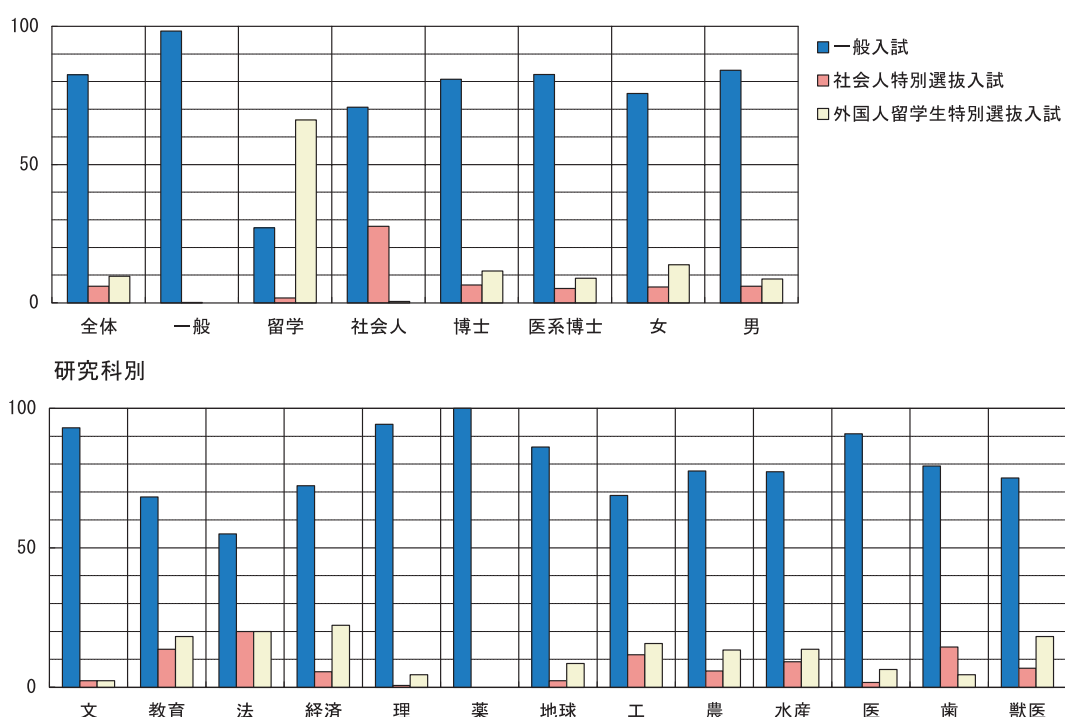
る。

「理」の場合、ほとんどが一般入試（94%）であるが、「工」の場合は、一般入試（69%）の他に、外国人留学生特別選抜入試（16%）、社会人特別選抜入試（12%）での入学もみられる。

（C）医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

入学試験は、大多数が一般入試であるが、「獣医」では約20%が留学生特別選抜、「歯」では約15%が社会人特別選抜である。「医」は社会人学生が約半数を占めるが、そのほとんどは一般入試を受けている。

図 I -8<博士の入学試験の種類（設問20）>



進学についての自己評価（設問21）

【全体の傾向】

「本学の大学院へ進学してよかったかどうか」を問うた結果、「よかった」38.5%、「まあよかった」25.7%となり、64%がほぼ積極的な評価をしている。「よいことはなかった」は2.0%と少ないが、「どちらともいえない」と無回答が3分の1おり、この層がなにを考えているかが気になる。

（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「よかった」とするのは「文」がわずかに全学平均（38.5%）を下回るが、ほかは大体45%前後であり、理系にくらべ高い。「まあよかった」を加えると、全学平均（64.2%）を超えるのは「法」と「国際」であり、ともに77%となり、研究科への帰属意識は高いといえよう。「経」「教」「文」の場合は無回答が多いのが気になる。

(B) 理系6研究科(理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学)の特徴

「理」「薬」「地球」に関しては、それぞれ65.1%, 53.9%, 65.3%の学生が「よかった」,「まあよかった」と回答している。

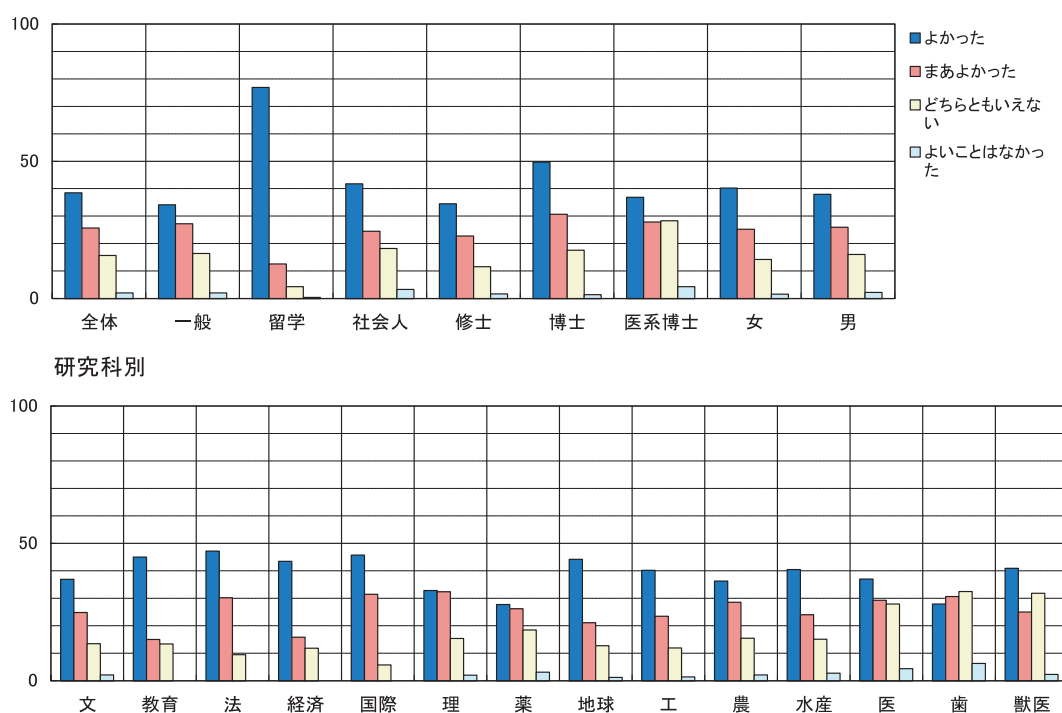
「よかった」および「まあよかった」と答えたのが,「理」と「工」で差がないが,「よかった」との回答では,「工」が「理」をやや上回っている。

「農」は, 64.9%が進学して「よかった」と思っている。「水」は進学して「よかった」,「まあよかった」と思っている者は64.4%で全学の平均である。

(C) 医系3研究科(医学・歯学・獣医学)の特徴

入学して「よかった」と「まあよかった」が併せて約2/3で差はなかったが,「どちらともいえない」が約30%,「よいことはなかった」も2-6%あり, 他系・他科に比べてやや多かった。

図 I -9<大学院進学満足度(設問21)>



[II] 所属する研究科の教育について (設問22-43)

研究テーマの決定の仕方 (設問22,23,25,26)

【全体の傾向】

修士論文のテーマを「自分で決めた」学生は全体(1,889人)の4分の1(25.5%)で,「指導教

官の指導による」とするものが6割（59.2%）である（図Ⅱ-1）。「決めていない」ものが1割強（11.4%）となる。テーマの決定は総じて教官の指導によるものが多いが、ほぼ4分の1は自分の関心で決定している。

博士課程では、「テーマは自分で決めた」学生が全体（1,249人）の35.9%で、修士課程学生（25.5%）に比べると比率は上がっている（図Ⅱ-2）。これを反映して、「テーマは指導教官の指導による」とする学生は47.0%で、修士課程学生（59.2%）に比べ率は下がっている。つまり博士課程になると「テーマは自分で決める」学生の比率は増加するが、他方「テーマの決定に際して指導教官による指導」に依存している学生が半数いることを示している。

その他の属性別にみると、修士の場合、「テーマは自分で決めた」を高い順に挙げると、「社会人」57.1%、「留学」39.0%、「一般」23.1%となる。また女性（36.8%）の方が男性（22.3%）より高い。テーマ決定の自律性は「社会人」の場合が圧倒的に高く、「一般」の場合低いことがわかる。逆に「指導教官の指導」により決める場合は「一般」が高く（62.4%）、「社会人」が低い（12.1%）。「留学」（46.3%）はその中間をなす。また男性（62.4%）の方が女性（48.1%）より高い。

以上の傾向を博士課程でみると、違った傾向を読み取れる。つまり、テーマを「自分で決める」ケースは、「一般」の方が高く（41.4%）、「社会人」の方が低い（26.8%）。修士とは逆の傾向となる。「指導教官の指導で決める」場合は、「留学」に多くなり（64.4%）、「一般」「社会人」は44%とほぼ同じである。男女差の違いはなくなる。「博士」と「医系博士」の違いも目立つ。「自分で決める」は、「博士」47.6%、「医系博士」15.8%となり、逆に「指導教官の指導による」は、「博士」40.9%、「医系博士」58.0%となる。つまり「医系博士」の方が教官への依存が高い。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

修士課程（回答者261人）では、テーマを「自分で決めている」ケースは、「法」を除くと7割前後となり、圧倒的に多い。「法」の場合は30.3%でありむしろ全学平均値（25.5%）に近い。逆に「指導教官の指導による」ケースはどの研究科をとっても1割前後であり、全学平均（59.2%）に比べ極めて少ない。これが文系5研究科の特徴である。なお、「法」の場合は他の文系4研究科と異なり、アンケート実施時点では「テーマを決めていない」学生が多い（51.5%）。文系5研究科で「テーマを決めていない」学生の場合、テーマ決定は指導教官の指導によるものが多いが（7割前後）、「自分で決める」ケースも3割ある（「法」「経」「国際」（設問23）。博士課程（回答者103人）では、「自分で決める」学生の比率が極めて高い。「文」76.7%、「教」86.4%、「法」70.0%、「経」66.7%であり、いずれも全学平均（35.9%）の倍の値を示している。「指導教官の指導による」とした学生が比較的多いのが「経」（33.3%）であり、「まだ決めていない」が多少多いのが「法」（15.0%）である。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

修士課程（回答者1,621人）の研究テーマは「指導教官によって与えられている」ケースが最も多く（56-82%）、研究テーマが決まっていない学生（169人）の多くも（66-100%）「研究テーマは指導教官と相談して決める」と回答している。しかし、「農」（33.3%）、「水」（27.5%）では「テーマは自分で決める」学生が多い。また、全学平均（25.5%）より比率は低いものの各研究科の一定の割合（10-22%）の学生が「研究テーマを自分で決めた」と回答している。理系学生

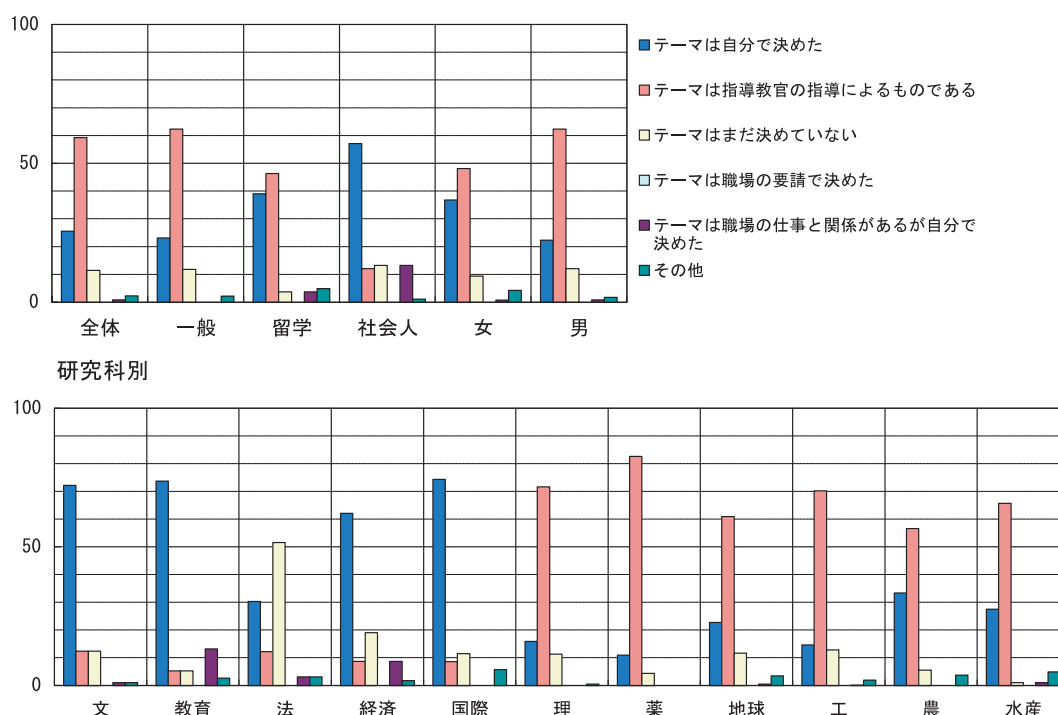
にも自立心の高い学生が一定数いることを伺わせる点から興味深い。研究テーマを自分で決めるかあるいは指導教官から与えられるかは別として、理系6研究科のほとんどの学生(1,402人)は入学後の早い時期に研究テーマを決定し、研究テーマに興味を持ち、研究意欲は旺盛であると推測される。しかし、6研究科には少なからぬ数の学生(「理」25.8%,「薬」28.3%,「地球」30.0%,「工」25.9%,「農」23.3%,「水」9.8%)がアンケート実施時点で「研究テーマについての理解が十分できていない」と回答している。さらに、「テーマに興味を持てず、仕方なく研究している」学生が各研究科に一定数いる(「理」10.4%,「薬」8.7%,「地球」6.8%,「工」10.5%,「農」10.0%,「水」4.9%)。これらの学生に対する指導の必要性を指摘しておきたい。

博士課程(回答者693人)では、「指導教官の指導」によって研究テーマを決める学生も多いが、「薬」(21.1%)を除く5研究科(「理」43.6%,「地球」52.3%,「工」36.2%,「農」49.2%,「水」52.3%)では「研究テーマを自分で決める」と回答した学生の比率が全学平均(35.9%)より顕著に高い。博士課程になると学生の自立性が高くなるものと考ええる。一方、各研究科に数%ずついる「研究テーマが決まっていない」学生は「指導教官と相談して決める」と回答していることから、これらの学生は他大学あるいは他研究科から当該研究科の博士課程に入学してきたばかりで、研究テーマが決まっていないものと推量する。

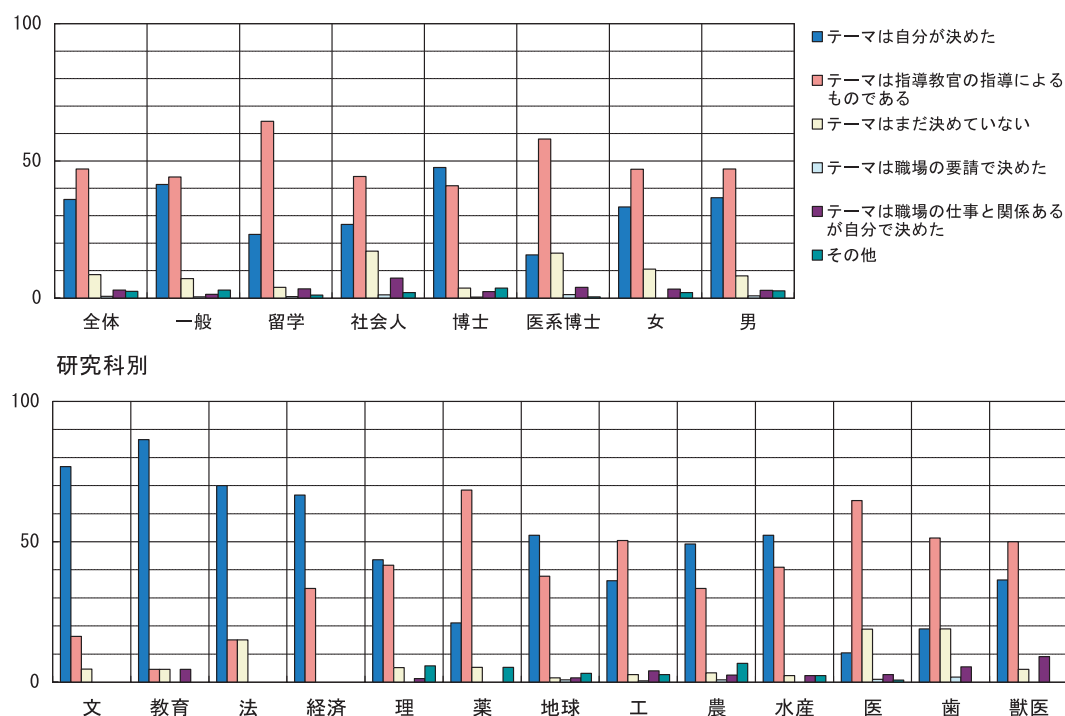
(C) 医系3研究科(医学・歯学・獣医学)の特徴

博士課程のみの医系3研究科(回答者452人)では半数以上の学生が指導教官による指導のもとにテーマを決めている。未決定者が2割に近い「医」(18.9%)及び「歯」(18.9%)でもその9割前後の学生が指導教官と相談してテーマを決めると回答している。しかし、「獣」では36.4%の学生が「自分でテーマを決めている」と回答しており、しかも研究テーマの未決定者は数%しかない。

図Ⅱ-1<修士課程の研究テーマの決め方(設問22)>



図Ⅱ-2＜博士課程の研究テーマの決め方（設問25）＞



自分の研究テーマについての自己評価（設問24,27）

【全体の傾向】

これは「あなたの研究テーマについてどう思いますか」について聞いた設問である。修士課程（回答者1,889人）では、「テーマに興味があり研究のやり甲斐がある」と回答した学生が69.3%で、ほぼ7割が自らのテーマに満足している。しかし、「テーマについて理解できない」、「テーマに興味をもてない」、「テーマを変えようと思う」などの否定的な回答が3割弱を占める。これにはやはり適切な対応が必要になろう。博士課程（回答者1,249人）では、「テーマに興味があり、やり甲斐がある」と回答した学生は78.5%で、修士課程に比べ10%ほど増している。逆にその他の否定的な回答は19.8%で、修士課程に比べ10%ほど減っている。つまり研究への求心性は強化されていることがわかる。

その他の属性別にみると、「修士」では、「テーマに興味があり、やり甲斐がある」は、「社会人」（81.3%）に比べると、「一般」（68.2%）が低くなる。「留学」（78.0%）はその中間である。逆にマイナス指標である「興味をもてない」「理解できない」「変えようと思う」の合計でみると、「一般」（37.7%）、「留学」（23.1%）、「社会人」（18.7%）となり、「一般」院生が自分の研究テーマに否定的・消極的である。男女差はあまりない。

「博士」では、自分の研究テーマに積極的・肯定的なのは、「一般」（79.4%）、「留学」（85.9%）、「社会人」（70.3%）となり、「修士」とはほぼ逆の結果で、「社会人」がもっとも低い。逆に消極的・否定的なのは、「一般」（19.9%）、「留学」（11.9%）、「社会人」（25.2%）となり、「社会人」の3割弱が自分の研究テーマに自信をもてないでいる。なんらかの指導が必要であろう。

「博士」「医系博士」別にみると、研究テーマに積極的なのは「博士」（87.9%）であり、消極的なのは「医系博士」（29.9%）である。男女差はない。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

修士課程（回答者261人）では、「テーマに興味があり、やり甲斐がある」への回答は、「文」（77.3%）、「教」（92.1%）、「法」（48.5%）、「経」（74.1%）、「国際」（77.1%）で、「教」が高く、「法」が低い。あとは70%台で全学平均値（69.3%）より高い。「テーマについてまだ十分理解できない」は、「文」（34.0%）と「法」（33.3%）に若干多く、テーマ選定の仕方に他研究科との違いが見られる。博士課程（回答者103人）では、「文」「教」「経」は9割前後が「テーマに興味があり、やり甲斐がある」と回答している。「法」は若干下がり80%であるが、全学平均（78.5%）よりは高い。したがって文系の場合は理系に比べテーマへの求心力は高いと言える。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

修士課程（回答者1,621人）では、「テーマに興味があり、やり甲斐がある」への回答は「地球」（70.5%）、「農」（71.7%）及び「水」（87.3%）の3研究科で全学平均値（69.3%）より高く、「理」（67.9%）、「薬」（65.2%）及び「工」（65.1%）の3研究科では低い。また、「テーマについて十分理解できていない」学生の比率は「水」（9.8%）で少なく、他の5研究科（「理」25.8%、「薬」28.3%、「地球」30.0%、「工」25.9%、「農」23.3%）では全学平均（25.4%）に近い。博士課程では「薬」（73.7%）を除く5研究科（「理」83.3%、「地球」86.2%、「工」88.8%、「農」88.3%、「水」93.2%）で全学平均（78.5%）より多い学生が「テーマに興味があり、やり甲斐がある」と回答している。「薬」では21.1%の学生が「テーマに興味を持てず、仕方なく研究している」と回答しており、「理」では14.1%の学生が「テーマについて十分理解できない」と回答している。これらの学生に対する対応が望まれる。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

医系研究科（回答者452人）では、「獣」（回答者44人）で90.9%の学生が「テーマに興味があり、研究のやり甲斐がある」と答えているが、「医」（回答者297人）（61.3%）及び「歯」（回答者111人）（59.5%）では60%前後に留まっている。また、「獣」では「テーマについて十分理解できない」学生は11.4%と少ないが、「医」（23.9%）及び「歯」（23.4%）ではテーマを理解できないと回答している学生の比率が「獣」より高い。

指導教官に対する大学院学生の評価について（設問28）

【全体の傾向】

「指導教官は十分な指導能力があり、安心して指導を受けられる」が全体（回答者3,140人）の74.2%で、ほぼ4分の3の学生は指導教官への信頼度は高い（「一般」73.2%、「留学」86.3%、「社会人」71.6%、「修士」75.1%、「博士」78.8%、「医系博士」63.3%、「女」72.8%、「男」74.6%）。それ以外の場合は、「実質的な指導は指導教官以外の先生から受けている」10.8%、「別の先生の指導を受けたい」9.6%となり、各1割弱の院生が指導教官以外の教官から指導を受けているか、指導教官を変えたいと考えていることがわかる（図Ⅱ-3）。それなりの対応が必要であろう。

その他の属性別にみると、指導教官の指導への信頼度が高いのは、「留学」(86.3%)であり、「一般」(73.2%),「社会人」(71.6%)と続く。「別の先生につきたい」「まだ見つからない」などの問題をもつのは、「一般」(341人, 13.5%),「留学」(13人, 5.1%),「社会人」(40人, 12.0%)となり、「留学」の場合はそれほど問題はないが、「一般」「社会人」の場合はその1割強が問題をもっている。

「修士」「博士」「医系博士」別に見ると、指導教官への信頼度が高いのは「博士」(78.8%)で、低いのが「医系博士」(63.3%)である。「別の先生につきたい」「まだ見つからない」は、「修士」(238人, 12.6%),「博士」(78人, 9.8%),「医系博士」(81人, 16.6%)で、やはり医系博士に問題が多くなる。男女差はない。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

文系学生(回答者365名)の指導教官への信頼度の高さは、「文」82.3%,「教」88.3%,「法」84.9%,「経」93.4%で、いずれも全学平均(74.2%)より高いが、「国際」の場合65.7%と低い(図Ⅱ-3)。「国際」の場合、逆に「指導教官はまだみつからない」が28.6%であり、大学院発足時の一時的問題と言えようが対策が求められる。別の教官の指導を求めている大学院生はいずれも全学平均より低いが、「文」6.4%(9人),「教」5.0%(3人),「国際」2.9%(1人)が問題をかかえていることになる。「法」「経」にはいない。

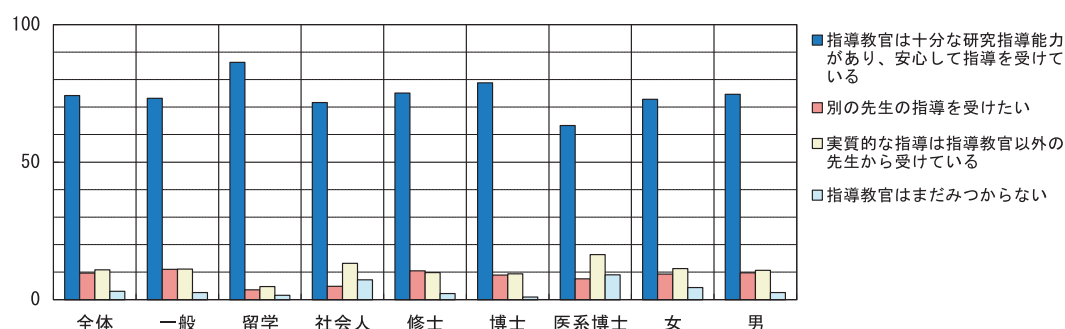
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

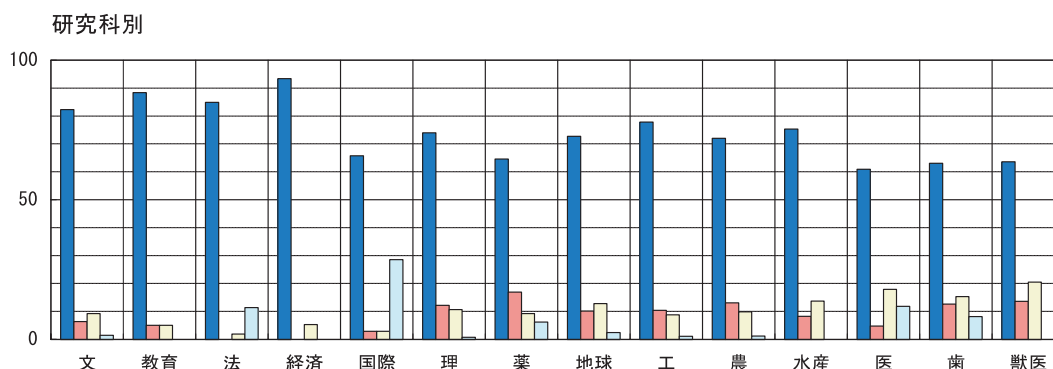
理系研究科学生(回答者2,306人)の指導教官への信頼度の高さの指標は図Ⅱ-3に示したとおりである。「薬」を除く5研究科では全学平均に近い比率で、6割以上の学生は指導教官の指導力を信頼して学生生活を送っていると推量される。理系6研究科の修士課程・博士課程には「別の先生の指導を受けたい」と回答している学生が1割前後いる(「理」48人,「薬」11人,「地球」34人,「工」106人,「農」44人,「水」12人)。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

指導教官の指導能力を高く評価しているものは、医系では約60%と他系に比べて低く、「獣」・「歯」では10%以上が別の教官の指導を望んでいる。別の教官の指導を望む理由は、他系では指導教官の指導能力に疑問を感じるが約60%、十分な指導をしてくれない40%であったが、医系では十分な指導をしてくれないが最も多く、次いで指導能力に疑問を感じるであった。

図Ⅱ-3<大学院指導教官について(設問28)>





指導教官を変えたい理由（設問29）

【全体の傾向】

「別の先生の指導を受けたい」学生は全学に302人（9.6%）、文系5研究科に13人（3.6%）、理系6研究科に255人（11.1%）、医系3研究科に34人（7.5%）おり、その理由を聞いてみた（設問29）。全学レベルでは、「研究指導能力に疑問を感じる」177人（58.6%）、「忙しくて十分な指導をしてくれない」117人（38.7%）、「指導教官の研究が自分の予想と違っていった」51人（16.9%）、その他69人（22.8%）となる。

「教官の指導能力に疑問を感じる」が多いのは、「社会人」(62.5%)、「一般」(59.6%)、「博士」(63.4%)、「修士」(58.4%)、「医系博士」(51.4%)で、「留学」以外では5割以上が教官の指導能力を問題としている。「教官が多忙すぎる」を理由とするのは、「社会人」(62.5%)、「留学」(44.4%)、「博士」(42.3%)、「医系博士」(56.8%)となる。「指導教官の研究が自分の予想とは違った」というミスマッチをあげるのは「留学」(55.6%)に多い。いずれも「別の先生の指導を受けたい」(302人)とする理由であり、対応が必要である。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

文系（回答者13人）では、「別の先生の指導を受けたい」学生は「文」(9人)と「教」(3人)に集中しているが、「文」の場合は「指導能力に疑問」(4人)、「忙しくて指導してくれない」(4人)が多く、「教」の場合は「予想と違っていった」(3人)が多い。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系(回答者255人)では、「指導教官の研究指導能力に疑問を感じる」(「理」72.9%、「薬」54.5%、「地球」64.7%、「工」50.0%、「農」70.5%、「水」58.3%)または「教官が忙しくて十分な指導をしてくれない」(「理」31.3%、「薬」36.4%、「地球」32.4%、「工」38.7%、「農」40.9%、「水」25.0%)である。研究科によって異なる指導教官の決定方法なども影響していることも考えられるが、対応が必要であろうと思われる。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

医系（回答者34人）では指導教官を変えたい理由は、「指導教官の研究指導能力に疑問を感じ

る」「医」8人、「歯」6人、「獣」3人）と「教官が忙しくて十分な指導をしてくれない」（「医」7人、「歯」8人、「獣」4人）が主なものであった。

指導教官とは別の教官の指導を受けている理由（設問30）

【全体の傾向】

「実質的な指導は指導教官以外の先生から受けている」学生が全学で338人（10.8%）、文系5研究科に22人（6.0%）、理系6研究科に234人（10.1%）、医系3研究科に79人（17.5%）いる（設問28）。その理由を設問30で聞いた。

理由は多岐にわたるが、全学平均では「指導教官の研究分野がちがう」24.0%、「指導教官が忙しくて指導時間をとれない」24.0%、「その先生のテーマが自分のテーマに近い」17.8%、「研究室の方針で決まった」16.9%となる。「研究分野の違い」、「多忙」を理由にあげるケースがそれぞれ4分の1いることがわかる。

その他の属性別に見ると、それほど差は見られない。いずれも「指導教官の研究分野がちがう」「指導教官が忙しい」などの理由に集中する（5割前後）。「研究室の方針で決まった」をあげるの多いのは、「一般」（18.3%）、「修士」（18.9%）、「女」（19.2%）などであり多少注目できる。

（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

文系5研究科では指導教官以外の教官から実質的な指導を受けている学生は「文」13人、「教」3人、「法」1人、「経」4人、「国際」1人である。その理由は「その先生のテーマが自分に近い」（6人）、「指導教官の研究分野がちがう」（4人）であり、結局指導教官の研究分野やテーマが大学院生のテーマと違っている点が主要な理由となっている。

（B）理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系6研究科では指導教官以外から指導を受けている学生に共通している理由は「指導教官の分野がちがう」（「理」7人、「薬」1人、「地球」7人、「工」17人、「農」11人、「水」8人）、「指導教官が忙しくて指導時間を取れない」（「理」11人、「薬」2人、「地球」10人、「工」24人、「農」8人、「水」5人）である。他は研究科によって異なるが、「研究室の方針でそのように決まった」が「理」12人、「工」18人と比較的多く、「その先生のテーマが自分のテーマに近い」が「地球」14人で多く、「工」12人、「理」5人がそれに続く。

（C）医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

医系3研究科では指導教官以外から指導を受けている学生の主な理由は「指導教官の分野がちがう」（「医」15人、「歯」6人、「獣医」3人）、「指導教官が忙しくて指導時間を取れない」（「医」11人、「歯」4人、「獣」2人）、「その先生のテーマが自分のテーマに近い」（「医」10人、「歯」3人、「獣」2人）となっている。

指導教官の決め方（設問31）

【全体の傾向】

決め方のトップ3は、「最初から自分で希望した」37.2%（1,168人）、「研究室から指定された」23.1%（725人）、「入学以前から指導を受けておりほとんど決まっていた」21.1%（661人）となる（図Ⅱ-4）。これは入学前の学生の所属がどこかによって異なるが、「自分で希望」と「入学前から決まっていた」は研究室との距離が近いことを示しており、「研究室からの指定」は従来の距離の遠さを暗示している。前者はほぼ過半数であり、後者は4分の1である。

今回の調査では、大学院入学者の7割（1,657人、69.7%）が北大出身者であり、その他の3割は他大学ないし外国からの入学者であり、こうした背景と指導教官の決め方とは相当の関係があると言えよう。

その他の属性別にみると、「一般」と「社会人」は同じ傾向を示し、「最初から自分で希望した」が35%、「研究室から指定された」「入学以前から指導を受けていた」がそれぞれ4分の1弱である。したがって6割前後が指導教官となんらかのつながりが事前にあったことをうかがわせている。「留学」は、「最初から自分で希望した」が多い（52.5%）。課程別にみると、「博士」は「最初から自分で希望した」が多く（49.3%）、教官とのパイプは強い。「医系博士」は「研究室から指定された」が多く（35.5%）、「自分から希望した」が少ない（26.4%）。

（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

文系5研究科（回答者365人）で、「最初から自分で希望した」学生の比率の高い順からみると、「法」54.7%、「経」52.6%、「教」46.7%、「文」40.4%、「国際」37.1%となる。「国際」を除く他研究科はいずれも全学平均より高く、文系の場合大学院生本人の希望が優先していることがわかる。「入学以前からほとんど決まっていた」は、「教」33.3%、「文」20.6%、「経」19.7%、「法」17.0%、「国際」0%の順となる。「教」だけが全学平均を上まわっている。個別研究科に即して特徴点をあげると、「国際」の場合は「入学後ガイダンスを受けて自分で希望した」が31.4%と多く、「文」の場合は「研究室から指定された」(22.7%)が比較的多い。

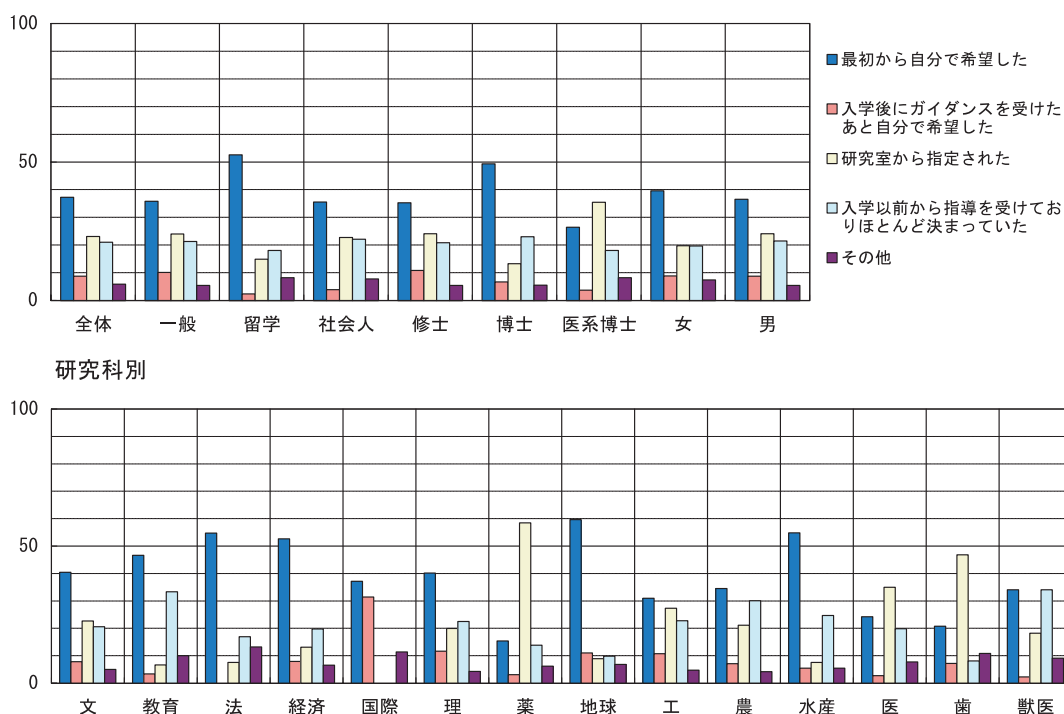
（B）理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「薬」(10人)を除く5研究科では比率は異なるものの「最初から自分で希望した」学生の比率が高い、とりわけ「理」「地球」「水」では高い（図Ⅱ-4）。「薬」(38人)では半数以上、「理」(79人)、「工」(280人)及び「農」(71人)でも2割以上の学生が「研究室から指定された」と回答している。理系6研究科に共通していることは「入学以前から指導を受けておりほとんど決まっていた」と答えている学生が一定数存在することである。

（C）医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

「医」(104人)及び「歯」(52人)ではテーマの決定は「研究室から指定された」と回答しており、「最初から自分で希望した」テーマを研究している学生はそれぞれ72人、23人で回答者の約2割ほどである。「獣」では、「入学前から決まっていた」と「自分で希望した」が最も多くそれぞれ15人で、「研究室から指定」は8人である。

図Ⅱ-4＜指導教官の決め方（設問31）＞



大学院カリキュラムについての評価（設問32）

【全体の傾向】

授業形態別に満足度を聞いたのが設問32である。「いまのままでよい」(とりあえず「満足」とする)とする比率は、講義51.9%、演習37.8%、実験34.1%、実習27.5%、教官の個人指導44.3%となる。「不満がある」は、講義29.4%で、あとはいずれも10%以下である。選択肢を授業形態ごとに「満足」、「不満」の二者択一にしたので、両者の中間の評価は明らかではないが、満足度についての傾向は出ていると思われる。講義についてはほぼ半数が「満足」しているが、「不満」も3割あり、評価が分かれる状況が出ている。演習、実験、実習については「満足」が3割前後で、「不満」が1割台なので、満足度は高くはないが、さりとて不満が大きいわけでもない(図Ⅱ-5)。

その他の属性についてみる。「講義」についての満足度は、「留学」(62.0%)が高く、ついで「一般」(52.2%)、「社会人」(43.3%)の順となる。社会人の率が低いのが気になる。「講義」についての不満が多いのは、「一般」(31.5%)、「社会人」(25.4%)であり、ほぼ3割弱が「不満」をもっている。「留学」の場合は少ない(12.2%)。演習、実験、実習についてはほぼ3-4割が満足しており、「不満」は全体に少ない。「教官の個人指導」について満足しているのは、「留学」(52.2%)が多く、ついで「社会人」(44.2%)、「一般」(43.6%)となるが、さりとて「不満」があるわけでもない。選択肢を二つに分けた結果中間層が対応できなかったのであろう。

「修士」と「博士」を比較すると、いずれの授業形態においても「修士」の方が満足度は高いのが特徴となる。しかし「修士」の場合「講義」への不満は33.5%でちょうど3分の1が不満をもっていることになる。再考を要する問題であろう。「医系博士」の場合はいずれの授業形態でも満足度は若干低くなる。男女差はほとんどない。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

講義について「満足」が高い（上位2つ）のは、「法」（67.9%）、「文」（53.9%）であり、低いのは「教」（35.0%）、「国際」（42.9%）である。逆に「不満」が多い（上位2つ）のは「経」（44.7%）、「教」（25.0%）となる。演習について「満足」が高いのは、「法」（66.0%）、「文」（61.7%）で、「不満」が比較的多いのは、「文」（19.1%）、「国際」（17.1%）となる。個人指導について「満足」が高いのは、「教」（53.3%）、「文」（47.5%）で、「不満」が比較的多いのは「教」（18.3%）、「文」（9.2%）となる。その他の授業形態は文系では一般的ではなく、かつ回答者も少ないので説明は省く。

こうしてみると各種授業に比較的満足しているのは「文」「法」に多い。とはいえ「文」は「不満」とするケースも他研究科に比べると多い。「教」「国際」は「不満とする」ケースが他と比較し多いが、「教」の場合「教官の個人指導」では「満足」度が高い。

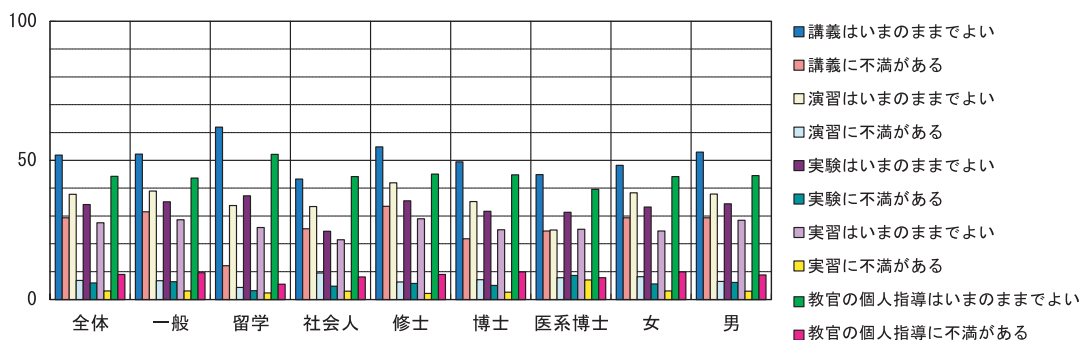
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

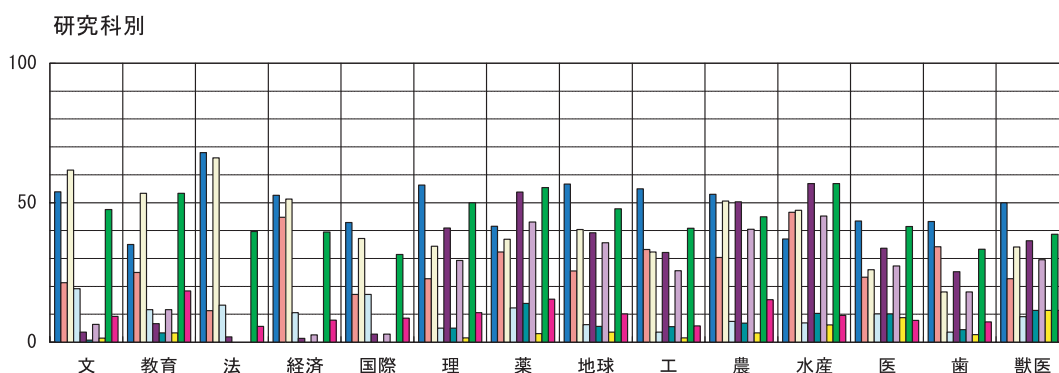
理系研究科では講義に対する「満足」が全学平均（51.9%）より高いのは、「理」（56.3%）、「地球」（56.7%）、「工」（55.0%）、「農」（53.0%）であり、低いのは「薬」（41.5%）、「水」（37.0%）である。逆に「不満」は「水」（46.6%）を除く5研究科で全学平均（29.4%）前後である。演習について「満足」が高いのは「地球」（40.4%）、「農」（50.6%）、「水」（47.3%）であり、他の3研究科は全学平均（37.8%）に近い比率である。実験については「工」（32.2%）が全学平均（34.1%）をわずかに下まわるが他の5研究科は比較的高い。実習に対する「満足」は「薬」（43.1%）、「農」（40.5%）、「水」（45.2%）が全学平均（27.5%）を大きく上まっているが、他の3研究科も全学平均前後である。「教官の個人指導」については全学平均（44.3%）前後の比率の学生が「満足」としている。「薬」（15.4%）及び「農」（15.2%）では「不満がある」学生が全学平均よりわずかに高い。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

医系3研究科では講義、演習、実験、実習、教官の個人指導とも、「満足」「不満」の比率は全学平均をわずかに下まっている。しかし、研究科による違いはないが、「不満」の割合は無視しうるものではなく、特に講義に関して「不満」の割合が高いことには関係教官は留意すべきことと思われる。

図 II-5 <大学院のカリキュラムについて（設問32）>





講義への出席（設問33）

【全体の傾向】

「80%以上出席」が63.2%,「60-80%出席」が18.1%であり,「ほとんど出席しない」は8.6%となる。したがってほぼ8割の学生が講義について「60%以上出席」しており,講義に出席していない学生は1割弱となる。男女別では「80%以上出席」する学生の比率(全学平均は63.5%)は女子学生(69.2%)の方が男子学生(61.5%)より高い。当然ではあるが「出席しない」学生では,「社会人」25.7%,「博士」11.9%,「医系博士」26.4%が多い。

(A) 文系5研究科(文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア)の特徴

文系の場合「80%以上出席」が多い。比率の高い順でいうと,「国際」97.1%,「経」92.1%,「教」88.3%,「法」83.0%,「文」80.1%となる。いずれも全学平均(63.2%)を超えている。

(B) 理系6研究科(理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学)の特徴

理系研究科では「80%以上出席」する学生の比率はそれほど高くなく,全学平均(63.2%)を超えているのは「工」(72.2%)だけで,「理」(66.7%),「薬」(63.1%)が全学平均なみで,「地球」(51.9%),「農」(54.5%),「水」(47.3%)は全学平均以下である。「ほとんど出席しない」は「農」(14.6%)以外の5研究科では全学平均なみである。

(C) 医系3研究科(医学・歯学・獣医学)の特徴

医系研究科では「80%以上出席」する学生の比率は「歯」(69.4%)が全学平均なみのほかは「医」(29.6%),「獣」(45.5%)では極端に低い。逆に,「ほとんど出席していない」が「医」(38.4%),「獣」(27.3%)で極めて高い(「歯」では0.0%)。

講義の評価（設問34）

【全体の傾向】

講義の意義を認める積極的根拠の第1位は,「専攻分野にかかわらず幅広く先端的な知識を得るために必要」(52.4%)であり,次いで第2位は「自分の専攻分野の知識を得るために必要」

(48.1%)となる。逆に講義を「不要」とするものは15.6%いる。「非常勤講師の講義は意味がある」は11.1%である(図Ⅱ-6)。

大学院「講義」への反応は属性別に異なる。選択肢のイ・ロは「講義」を積極的にみる指標で、その支持率は「留学」が5-6割,「一般」が4-5割,「社会人」が3-4割となる。したがって「社会人」の場合「講義」の必要性を認める層は比較的少ない。逆に選択肢のホ・ヘは「講義」に消極的な指標であり,「社会人」の2割がこれを支持している。「留学」の場合は「講義」に積極的である。

課程別には,「医系博士」が「講義」に消極的でこの点で際立っている。男女差はない。

(A) 文系5研究科(文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア)の特徴

「自分の専攻分野の知識を得るために必要」は文系のいずれの研究科も全学平均(48.1%)を超えている。特に,「経」(67.1%),「法」(62.3%),「国際」(60.0%)で高い。「専攻分野にかかわらず先端的な知識を得るために必要」(全学平均52.4%)は「国際」(77.1%)で特に高く,「経」(64.5%)も高い。講義を「不要」と考える学生は文系5研究科には少なく,最も多い「文」でも9.2%である(全学平均は15.6%)。全学平均と比較し比率が高いのは,「講義と演習の区別が不明確で,講義は講義としてやってほしい」(全学平均5.0%)は,「教」15.0%,「国際」14.3%であり,「非常勤講師の講義は意味がある」(全学平均11.1%)は,「法」26.4%,「教」20.0%であり,講義の改善に示唆を与えている。

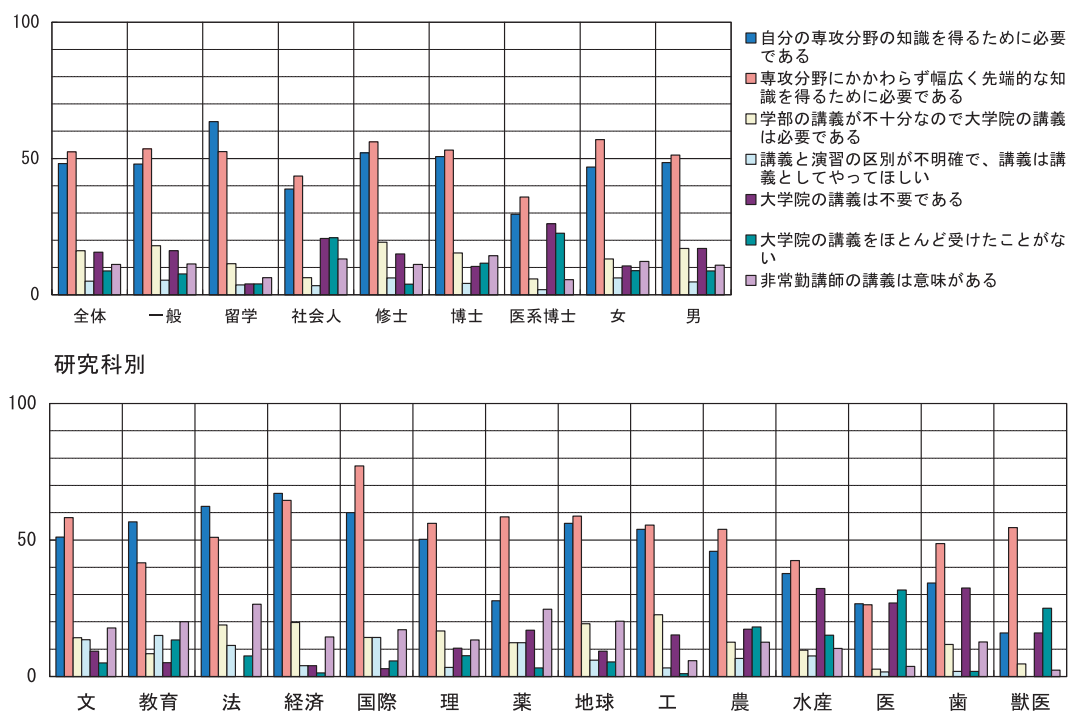
(B) 理系6研究科(理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学)の特徴

理系各研究科では,講義は「専攻分野にかかわらず幅広く先端的な知識を得るために必要である」が最も多い(「理」56.1%,「薬」58.5%,「地球」58.8%,「工」55.5%,「農」53.9%,「水」42.5%)。次いで多いのは「自分の専攻分野の知識を得るために必要」であるが,研究科によってその比率は異なる(「理」50.3%,「薬」27.7%,「地球」56.1%,「工」53.9%,「農」45.8%,「水」37.7%)。一方,「大学院の講義は不要である」と回答している学生が各研究科に1割以上,特に「水」では32.2%いることを指摘しておきたい。また,「農」(18.2%),「水」(15.1%)には「大学院の講義を受けたことがない」と答えている学生が多い。さらに,比率は異なるが「非常勤講師の講義は意味がある」(「理」53人,「薬」16人,「地球」68人,「工」59人,「農」42人,「水」15人),「学部の講義が不十分なので大学院の講義は必要である」(「理」66人,「薬」8人,「地球」65人,「工」232人,「農」42人,「水」14人)と回答している学生が各研究科に一定数いることも指摘しておきたい。

(C) 医系3研究科(医学・歯学・獣医学)の特徴

医系では研究科によって回答結果が異なる。講義は「自分の専攻分野の知識を得るために必要である」は「医」では26.6%であるが,「歯」では34.2%,「獣」では15.9%である。「専攻分野にかかわらず幅広く先端的な知識を得るために必要である」は「医」では26.3%,「歯」「獣」では比較的多くそれぞれ48.6%,54.5%である。また,「大学院の講義は不要である」は3研究科とも全学平均(15.6%)より高い(「医」26.9%,「歯」32.4%,「獣」15.9%)。「大学院の講義を受けたことがない」は「歯」では全学平均(8.7%)より低くわずか1.8%であるが,「医」(31.6%),「獣」(25.0%)では極めて高い。

図Ⅱ-6＜大学院の講義について（設問34）＞



「講義は不要」とする理由（設問35）

【全体の傾向】

「大学院の講義は不要である」と回答した学生は全学で489人いる。主たる理由は、「大学院は研究が中心であるべきだ」(33.7%)、「講義のために実験や実習、調査の時間が制約される」(29.9%)の2つであり、いずれも研究時間の確保に優先権が与えられている。また「ゼミや自分で勉強することで十分だ」とする理由も2割(19.0%)あり、講義の意義を認めないが6.3%いる。博士課程学生は、このうちの第1の理由をあげる者が多く(48.2%)、社会人の場合は第3の理由をあげる者が多い(30.4%)。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「講義は不要」とする者は文系5研究科全体で20人しかいない。それも「文」に13人集中しているので全体についての特徴は言えない。「文」の場合の理由は、やはり研究優先であり、全学的傾向とそれほど違うわけではない。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系6研究科全体では「大学院の講義は不要である」と回答した学生は344人いるが、その半数近くは「工」(156人)で、理由の第1は「研究を中心にしたい」(57人)、次いで「実験時間が割かれる」(41人)で、これら2つで過半数を占める。この傾向は「理」「地球」「農」「水」でも同じである。「薬」では「実験時間が割かれる」(9人)に集中している。「薬」(0人)を除く各研究科に10名以下ではあるが、「講義に意味がない」と答えている学生がいる。

(C) 医系3研究科(医学・歯学・獣医学)の特徴

医系3研究科には「講義は不要」と回答した学生は合計123人(「医」80人,「歯」36人,「獣」7人)で,その理由として「医」「歯」では「研究を中心にしたい」,「実験時間が割かれる」,「自分で勉強する」がほぼ同数である。「獣」は「講義は不要」とする学生の半数が「研究を中心にしたい」と答えている。

「大学院の講義をほとんど受けたことはない」の理由(設問36)

【全体の傾向】

全体で274人いる。理由は,「開講されていない」(37.6%),「実験・実習・調査が忙しい」(28.1%)に集中している。「その他」が24.5%ある。「開講されていない」をあげるのは,「留学」(70.0%),「博士」(54.3%)に多い。「実験・実習・調査が忙しい」をあげるのは「社会人」(35.7%)に多い。「その他」は「社会人」に多く(41.1%),「社会人」の置かれた状況をあらわしている。

(A) 文系5研究科(文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア)の特徴

文系5研究科で22人いるが,少数なのでその特徴を言うのは難しい。「教」と「法」の場合,「開講されていない」をあげるのが比較的多数であり,これが実相に近いといえようか。

(B) 理系6研究科(理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学)の特徴

理系6研究科では6.2%(143人),研究科別では「理」30人,「薬」2人,「地球」18人,「工」10人,「農」61人,「水」22人となる。「農」「水」で多いが,その理由として,「開講されていない」(「農」60.7%,「水」59.1%)が最も多い。「理」(40.0%)でも同じ理由をあげている学生が最も多い。当然のことながらカリキュラムに掲載している講義は開講すべきである。

(C) 医系3研究科(医学・歯学・獣医学)の特徴

医系3研究科には107人いるが,そのほとんどは「医」(94人)で,理由として「実験・実習・調査が忙しい」が41人と最も多い。しかし,「開講されていない」も「医」に14人,「獣」に8人いる。

所属研究室の教育スタッフについての評価(設問37)

【全体の傾向】

「現行のままでよい」とするのは,半数以下(42.3%)であり,あとは何らかの意見をもっている。意見として多いのは,「助手などの若手の教官層が少ない」(32.2%),「社会人など学外者の研究者ともっと接触があったほうがよい」(26.1%)であり,次いで「技官や事務官など教育支援職員が少ない」(17.7%)となる(図II-7)。

その他の属性別にみると,差がみられる。「研究室の教育スタッフ」に問題があるとみる層は「社会人」「博士」「医系博士」に多い。特に「博士」に顕著である。「博士」は「現行のままでよい

い」とするのは34.8%でもっとも少ない。逆に「助手など若手教官層が少ない」(39.8%),「技官・事務官など教育支援職員が少ない」(24.3%),「社会人など学外研究者との接触が必要」(29.9%)など教育スタッフの強化を要求する指標の支持が他の層にくらべ高い。「社会人」「医系博士」もほぼ同じ傾向を示している。つまり研究職に近い院生は、研究室の人的条件の欠陥に敏感であり、その充実を必要としている。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「現行のままでよい」とする比率は全学平均より少ない。したがって意見が多いということになるが、「助手・若手教官層」、「技官・事務官」、「社会人など学外研究者」を要求する声はそれほど多くはなく、むしろ全学平均では8.6%である「非常勤講師をもっと積極的に利用したほうがよい」と回答している学生が多い。「教」26.7%、「文」22.7%、「国際」20.0%などであるが、「法」11.3%、「経」6.6%はそれほど多くはない。

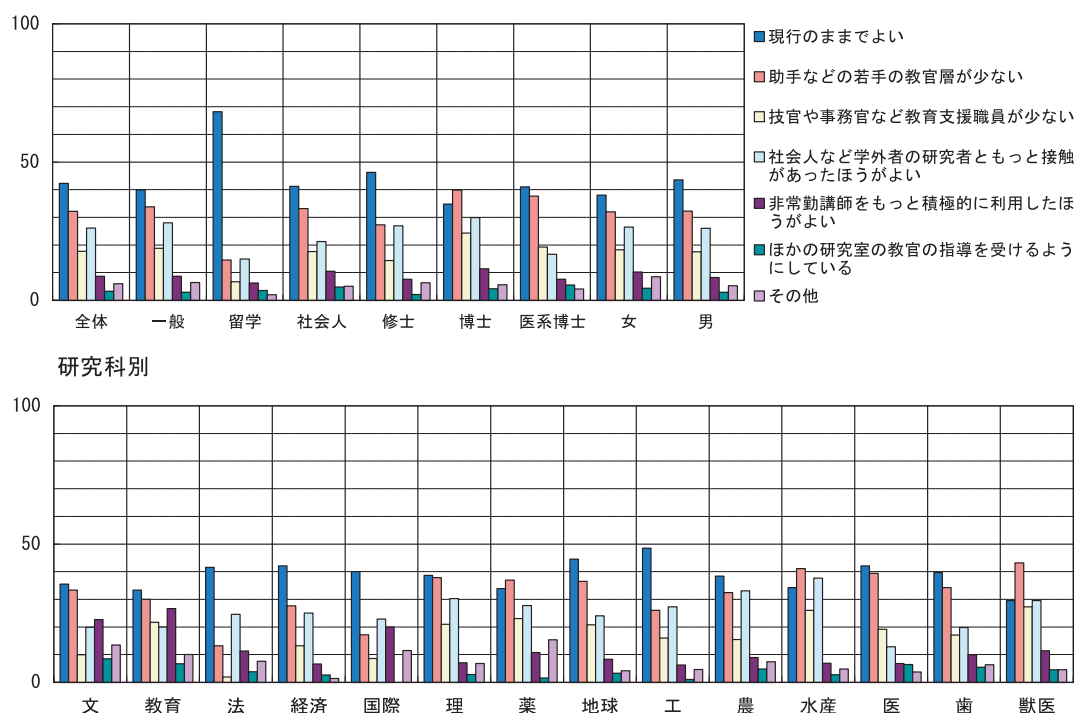
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系研究科は若干の違いはあるが、各研究科とも全学の傾向と似ている（図Ⅱ-7）。回答者が2,306人と全学の73%を占め、しかも理系の各研究科間で傾向が似ていることが全学の傾向を左右しているともいえる。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

教育スタッフについては、「現行のままでよい」が多いが、「若手教官が少ない」、「教育支援職員が少ない」、「学外者との接触を望む」声も比較的大きい。医系では、「獣」で現状否定意見が多い。

図Ⅱ-7＜研究室の教育スタッフについて（設問37）＞



他研究科・他大学との単位互換について（設問38）

【全体の傾向】

単位互換を希望する機関を高い比率から順次あげると、北大内の他研究科（45.9%）、他大学（35.1%）、外部の研究機関（25.0%）、外国の大学（24.5%）となる。「希望しない」は26.4%である。約半数は北大内の他研究科との互換を希望しており、単位互換の需要は結構高い。大学以外の研究機関や外国の大学との互換を希望するものが4分の1いることは注目してよい。一方、4分1は単位互換を希望していない。

その他の属性別にみると、「北大内他研究科との単位互換」の希望者が多い層は「一般」（48.5%）と「修士」（49.1%）であり、「他大学との互換」は「社会人」（42.1%）と「博士」（38.0%）に多く、「外部研究機関との互換」は「社会人」（32.5%）と「医系博士」（31.8%）に多く、「外国大学との互換」は「留学」（39.2%）と「博士」（29.0%）に多い。傾向としては、「一般」「修士」は学内での単位互換を要求し、「博士」「社会人」は学外・国外の大学・研究機関との互換を希望している。「留学」の要求度が高いのは「外国大学との互換」（39.2%）であり、当然といえば当然である。こうした要求にもっと積極的に応える必要があろう。

（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

希望する比率の高いトップ2を各希望機関別にあげると、北大内他研究科は「国際」68.6%、「教」43.3%、他大学は「文」51.1%、「教」45.0%、外部研究機関は「国際」34.3%、「文」33.3%、外国の大学は「国際」42.9%、「文」41.1%となる。「文」「国際」「教」に比較的多いことがわかる。逆に「希望しない」が比較的多いのは、「法」35.8%、「経」27.6%となる。

（B）理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系6研究科の傾向は全学の傾向に近い。「北大内他研究科との単位互換を希望する」学生が多いのは「地球」（53.7%）で、「他大学との単位互換を希望する」学生の多いのは「水」（42.5%）である。また、「薬」では35.4%の学生が「単位互換を希望しない」と回答している。

（C）医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

単位互換については、外国の研究機関を含め、望むものの方が多いが、望まないものも少なくなく、医系では約30%が望んでいない。

大学院全学共通講義について（設問39）

【全体の傾向】

理系・医系を通じて北大の大学院では研究科間の共通講義が開講されている。これについての学生の反応を聞いてみた。「受講している」は23.1%あり、その6割が「意味がある」としている。「あることは知っているが受講していない」は34.9%で、「あることを知らない」は37.9%である。「知らない」層が全学平均より多いのは、「経」67.1%、「工」54.6%、「法」49.1%、「文」42.6%

などとなる。受講している層が多いのは、「薬」 64.6%,「地球」 37.4%,「獣」 34.1%,「医」 34.0%である。「受講しており意味がある」とするのは「薬」 29.2%,「地球」 26.7%,「獣」 22.7%に多いが、受講生の多い「薬」は35.4%が「意味がない」としている（図Ⅱ-8）。この違いはどこからくるのであろうか。

研究科共通講義の受講割合が比較的多く「意味がある」としているのは、「留学」(32.9%),「女」(21.2%),「医系博士」(17.8%)であり、あとは1割前後である。しかし「医系博士」は「受講しているが意味がない」とするのも多い(15.4%)。全体としてみると「あることは知っているが受講しない」がもっとも多い分布でほぼ3-4割がこうした反応である。同様に「知らない」層も3-4割で、特に「博士」(46.3%)「男」(40.8%)に多い。共通講義はまだ始まったばかりだからこうした反応も当然であるがなんらかの対応が必要であろう。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「教」「国際」は、「知っている」割合は高いが（それぞれ50.0%, 60.0%）,「受講している」が少ない（各8.3%, 2.9%）。「文」「経」は、「知らない」割合は高いが（各42.6%, 67.1%）,「受講している」割合も比較的多い（各31.9%, 15.7%）。文系には共通科目はないから、この設問への回答は他研究科の授業科目の聴講を指しているのではあろうか。

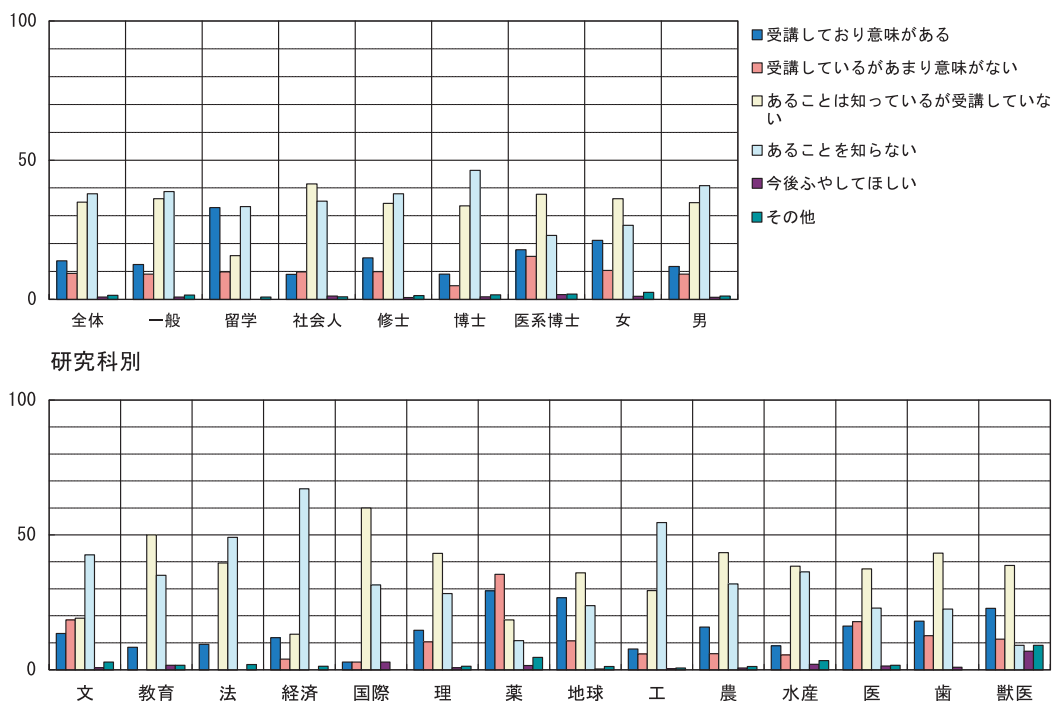
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

この設問に対する回答は理系では研究科によって異なる（図Ⅱ-8）。「理」「農」では「あることは知っているが受講していない」が43%あまりで最も多い。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

全学共通講義が「あることを知らない」は1-2割,「知ってはいるが受講していない」は約4割。受講している学生の感想は,「意味がある」が若干多い程度で,「意味がない」とするものも少ない。「今後増やしてほしい」はほとんどいない。

図Ⅱ-8＜大学院全学共通講義について（設問39）＞



大学外でのインターンシップへの参加希望（設問40）

【全体の傾向】

「参加する」が43.1%,「検討したい」が47.1%,「参加しない」が8.9%という分布である。「参加する」比率の高い順にみると,「水」54.8%,「国際」54.3%,「獣」52.3%,「教」51.7%,「地球」50.4%,「農」49.1%,「文」46.1%,「経」44.7%となる。これらはいずれも全学平均を超える研究科である。参加希望者が明確に5割を超す研究科が5研究科あり, なんらかの施策があってもよい状況になっている。「参加しない」が多いのは,「医」19.2%,「法」15.1%,「理」10.9%などとなる。

その他の属性別にみると,「社会人」「医系博士」に消極的な対応が見られるが, 全体としてはかなり積極的な反応である。インターンシップに「参加する」は,「留学」(76.1%) が最も多く, あとは大体4割台である。「修士」(42.8%) より「博士」(47.3%) の方が高いのは予想外であった。「参加しない」は「社会人」(20.0%)「医系博士」(14.8%) を除くとすべて10%以下である。大学院でのインターンシップの可能性を追及するのも意味がありそうだ。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「参加する」が5割を超す研究科は「国際」54.3%,「教」51.7%である。「参加を検討したい」を加えると, いずれの研究科も8割から9割の院生が参加について積極的である。「国際」の場合はすでに制度化し, 単位の認定もしており, 先行事例として参考になろう。

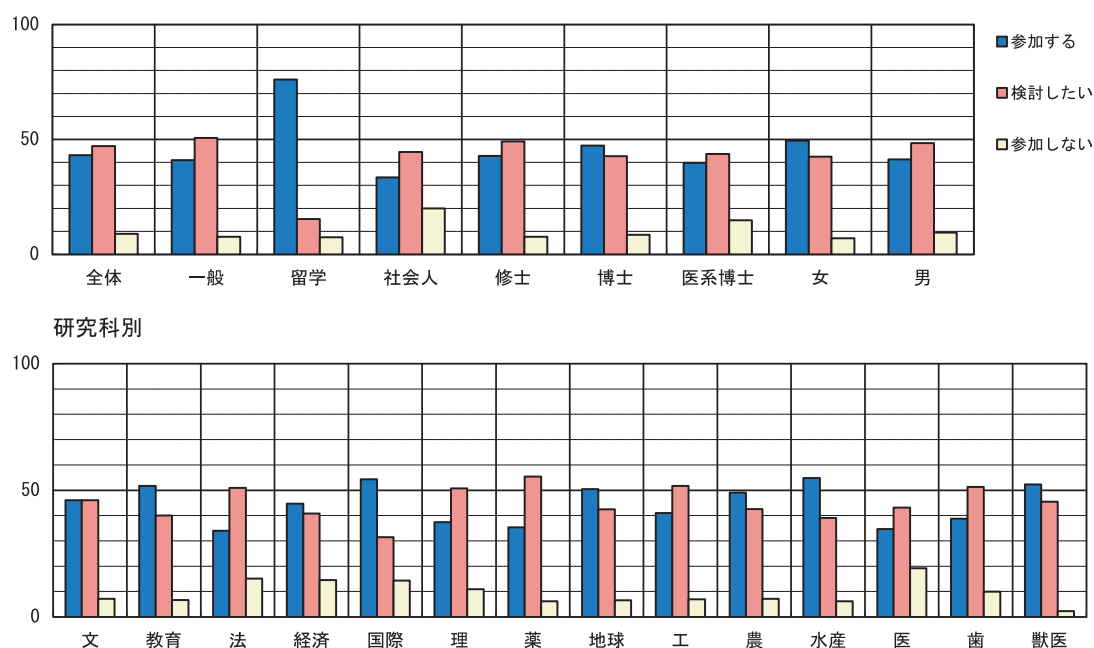
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系研究科では「参加する」が多いのは「水」(54.8%),「地球」(50.4%),「農」(49.1%) であるが、これら3研究科を含め6研究科で約9割以上の学生が参加に積極的である。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

「医」で参加に否定的な学生が2割いるが、「歯」「獣」では9割以上が参加に積極的である。

図Ⅱ-9 くインターンシップへの参加希望（設問40）



自分の研究への自己評価（設問41）

【全体の傾向】

「うまくいっている」が7.6%,「だいたい計画どおりいっている」が47.2%で、両者で54.8%となる。この層は研究上それほど支障がないとみてよく、自己評価の「よい層」である。「予定どおりいっていない」34.4%,「研究計画を変える必要がある」2.9%の両者は合計37.3%となり、この層は何らかの支障をかかえている。自己評価の「悪い層」である。

自己評価の「良い層」(全学平均54.8%)の比率が高い研究科は、「水」65.7%,「獣」63.6%,「工」57.4%,「農」57.4%,「地球」56.7%,「理」56.0%,「経」55.3%などである。低い研究科は、「薬」36.9%,「文」41.8%,「法」45.2%,「国際」45.7%,「医」46.5%などである。

自己評価の「悪い層」(全学平均37.3%)の比率が高い研究科は、「薬」60.0%,「文」52.4%,「法」45.3%,「国際」42.3%,「教」41.7%となる。「薬」を除くと文系に多いことがわかる。

「一般」「留学」「社会人」別にみると、「良い層」は「留学」(75.0%)に多く、「悪い層」は「一般」(40.0%)に多い。「社会人」の場合は「よい層」が51.4%,「悪い層」が31.7%で、「その他」(15.2%)が多いのが気になるが、全学平均から際立った違いがあるわけではない。「修士」「博士」別にみ

ると、「良い層」は「博士」に多く、「悪い層」は「修士」に多い。

研究についての大学院生のこうした自己評価をみると、研究科による差異が割合はっきりでている。こうした自己評価は研究科の要求水準ともかかわるが、半数前後が研究上の支障を抱えているわけで、個別の検討が必要となろう。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

上で見たように、文系の場合学生の自己評価には厳しいところがある。特に「文」「法」の場合そうであるが、その理由は学生のカテゴリー差（「一般」「留学」「社会人」の違い）からくるといよりも、研究科の要求水準によるものと思われるが、検討されてよい問題であろう。

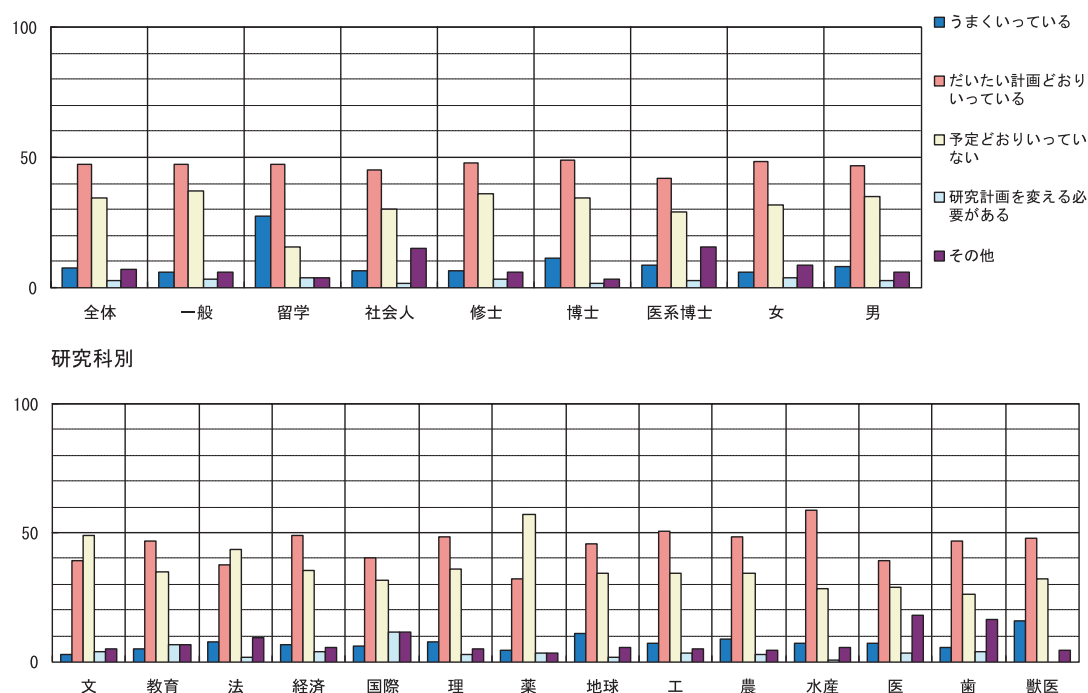
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系研究科も全学の傾向と同様である。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

医系研究科の場合も全学の傾向と似ているが、「医」と「歯」で「その他」の理由をあげている学生がそれぞれ18.2%および16.2%いることが目立つ。

図Ⅱ-10 〈研究への自己評価（設問41）〉



博士後期課程への進学希望の有無（設問42）

【全体の傾向】

文系（261人）および理系（1,621人）修士課程学生に博士課程への進学希望を聞いたところ、「進学する」は20.4%であり、「進学しない」の77.0%に比較し、かなり少ない。また研究科による違いも顕著である。「進学する」が多い研究科を順にあげると、「教」63.2%、「文」53.6%、「国際」37.1%、「理」28.8%、「地球」27.5%となり、比較的的文系および基礎科学系に多い。「進学しない」が多い研究科は、理系では「工」90.1%、「水」78.4%、「農」77.6%となり、文系では、「法」75.8%、「経」74.1%となる。「一般」「留学」「社会人」別にみると、「進学する」が多いのは「留学」62.2%、「社会人」46.2%であり、「一般」の17.1%に比べ明らかな違いをなしている（図Ⅱ-11）。男女差をみると、進学希望者は男子282人、女子102人で男子のほうが多いが、率では男子（19.1%）より女子（25.2%）が高い。

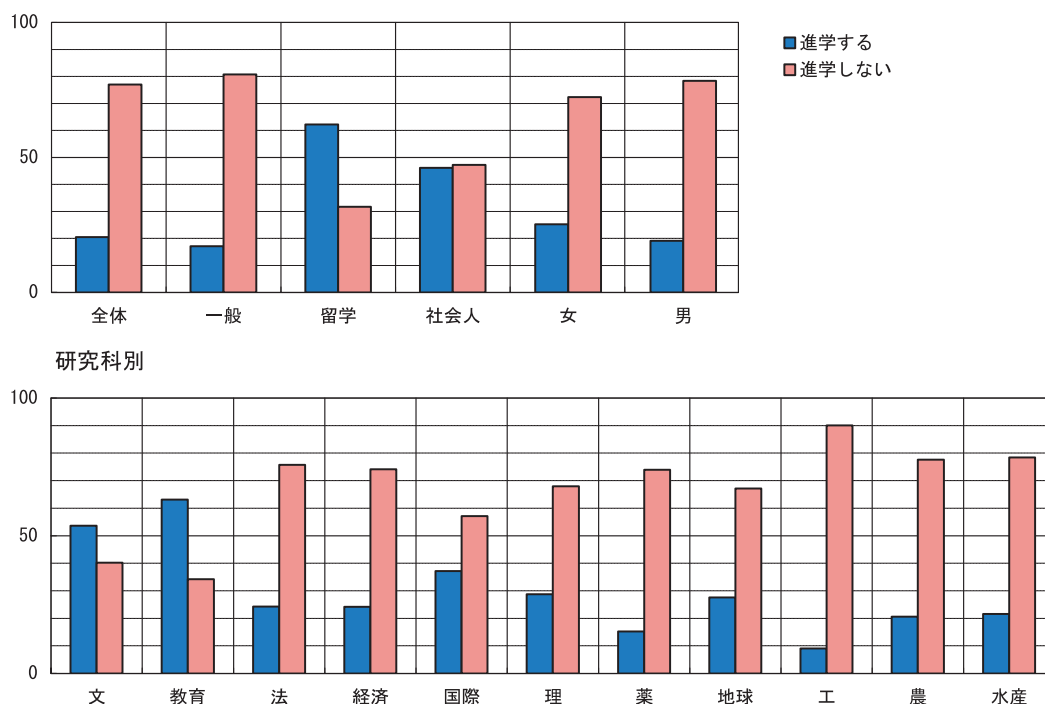
（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「文」「教」の場合進学希望者は過半数を示し、「法」「経」の2割台と顕著な対称をなしている。「国際」はその中間に位置している。進学希望はそのまま博士課程の実員とはならないが、博士課程での研究活動の需要が大きいことを示唆している。

（B）理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系6研究科の平均進学希望率は16.8%で、「薬」「工」以外の4研究科では進学希望率はこれを上回っている。

図Ⅱ-11＜博士課程への進学について（設問42）＞



博士後期課程への進学を希望しない理由（設問43）

【全体の傾向】

希望しない理由のトップ4をあげると、「もともと修士課程後は就職するつもりだった」62.1%、「早く社会に出て修得したことを実践したい」38.8%、「経済的に無理」36.9%、「就職のためには修士課程修了が一番有利だ」16.9%となる。経済的理由を除くと就職との関係が主たる理由をなしている。とはいえ研究への関心や学習の継続を断念したわけではないことはその他の理由を支持する回答者が少ないことからわかる。博士課程への潜在的な進学希望者はいるわけで、生涯学習ないし継続教育への需要ははっきりしてきている。

「一般」「留学」「社会人」を比較し、特に後二者に顕著なのは、進学を希望しない理由として経済的理由よりも「時間的に進学する余裕がない」をあげるものが多いという点である。これについては「一般」が9.9%であるのに、「留学」50.0%、「社会人」37.2%となる。また「もともと修士課程後は就職するつもりだった」は「一般」が64.0%と多いが、「留学」は26.9%、「社会人」は18.6%と少なく、就職するつもりはないが、時間的理由でやめざるを得ないといった背景が留学生、社会人大学院生にはみえてくる。

男女別で見ると、「修士課程修了後就職するつもりであった」と回答した学生は男子63.3%、女子57.0%で、男子のほうが多い。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

全学平均と違った文系の傾向を示しているのは、「経済的に無理だから」が多い点である。「法」52.0%、「国際」45.0%、「文」43.6%は全学平均の36.9%とは差がある。文系大学院生の経済的・社会的なバックグラウンドの理系との違いを示しているのであろうか。

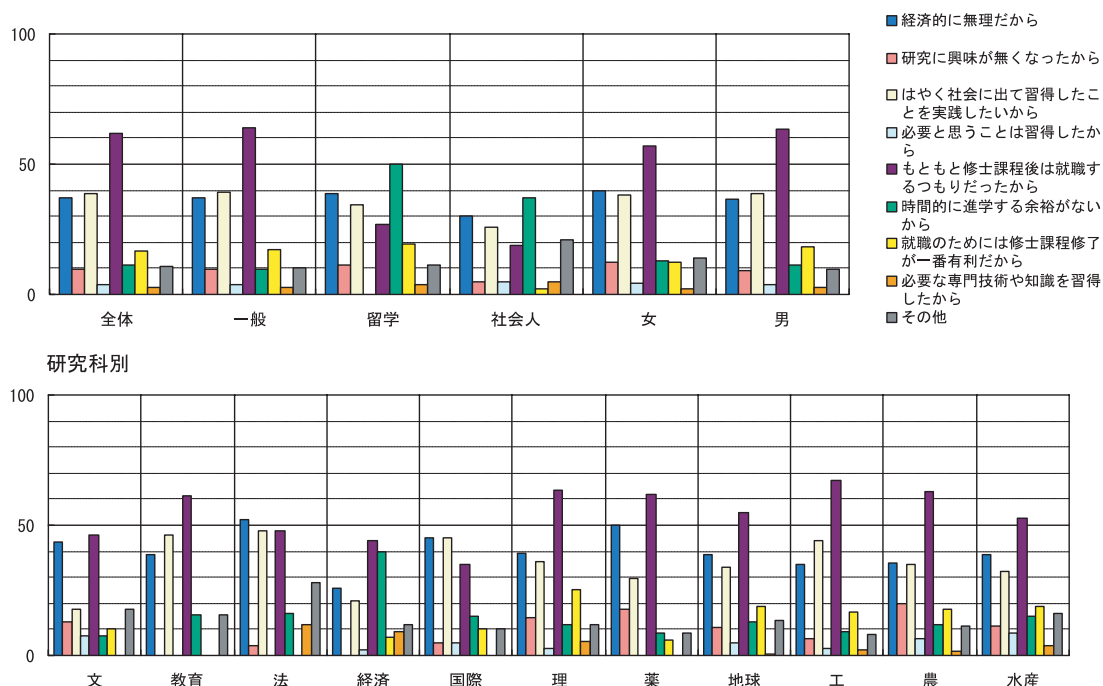
個別研究科にみた特徴をあげると、「早く社会に出て修得したことを実践したい」は「法」48.0%、「教」46.2%、「国際」45.0%に多い。「もともと修士課程修了後は就職するつもりだった」は「教」61.5%が多く、「時間的に進学する余裕がない」は「経」39.5%に多い。「教」の場合、博士課程進学希望者が多かった点を考えると、高度専門職希望者と研究者希望者とが画然と共存しているといえるからであろうか。あるいは高度専門職であっても博士課程を希望する大学院生が増加しているからであろうか。いずれも今後の各研究科に共通する現象と思われる。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

進学しない理由としてあげている事項で最も多いのは「修士課程修了後就職するつもりであった」（「理」63.2%、「薬」61.8%、「地球」54.7%、「工」67.3%、「農」62.9%、「水」52.5%）で、次いで「経済的に無理だから」（「理」39.3%、「薬」50.0%、「地球」38.8%、「工」35.1%、「農」35.3%、「水」38.8%）と「早く社会に出て習得したことを実践したい」（「理」36.2%、「薬」29.4%、「地球」33.8%、「工」44.0%、「農」34.7%、「水」32.5%）が続く。

また、「研究に興味がなくなった」と回答している学生（「理」14.7%、「薬」17.6%、「地球」10.8%、「工」6.3%、「農」20.0%、「水」11.3%）も無視できない比率でいることを指摘しておきたい。

図Ⅱ-12<博士後期課程への進学を希望しない理由（設問43）>



Ⅲ 学位取得について（設問44-50）

学位取得の見通しについて（設問44）

【全体の傾向】

「正規の就学年内にとれる」とする院生が多い研究科は、「工」90.1%、「薬」89.2%、「国際」88.6%、「水」87.7%、「歯」82.0%となる。この指標が少ない研究科は、「文」55.3%、「教」56.7%、「医」57.6%、「法」62.3%となり正規の期限内に完成できる見通しをもった院生はこれらの研究科では6割前後ということになる。

逆に「2年ないしそれ以上かかる」とみている院生が比較的多い研究科は、「教」21.6%、「医」17.2%、「文」15.6%、「経」13.1%となる。その要因はいろいろあると思われるが、各研究科個別の検討が必要であろう。

「一般」「留学」「社会人」別にみると、やはり社会人院生の困難性がみえてくる。正規内は58.8%であり、正規プラス2年以上が13.5%である。これはほぼ文系にみられる傾向と共通するが、また文系には社会人修士の院生が多いことと関連して考えると、社会人院生の学位取得についてそれとした検討が要求される。

（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

正規の期限内での取得率が理系に比べ低いという特徴は上述したが、「正規プラス1年以内」で

みると、「文」80.8%、「教」73.4%、「法」84.9%、「経」84.2%、「国際」91.5%となり、「教」を除くとそれほど全学平均（88.8%）に遠いわけではない。「教」の場合は社会人院生の比率が圧倒的に高い（43.3%）からであろうか。

（B）理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

学位取得については「理」「薬」「地球」の修士課程2年、博士課程3年の学生の70%以上は「正規の就学年限内に取得できる」と考えている。

「工」では就学年数以内でとれる見通しを持っているとの回答が90%に達しているが、「理」では76%となっている。その差の分だけ、「理」では年数を加算した見通しを持っていることがわかる。

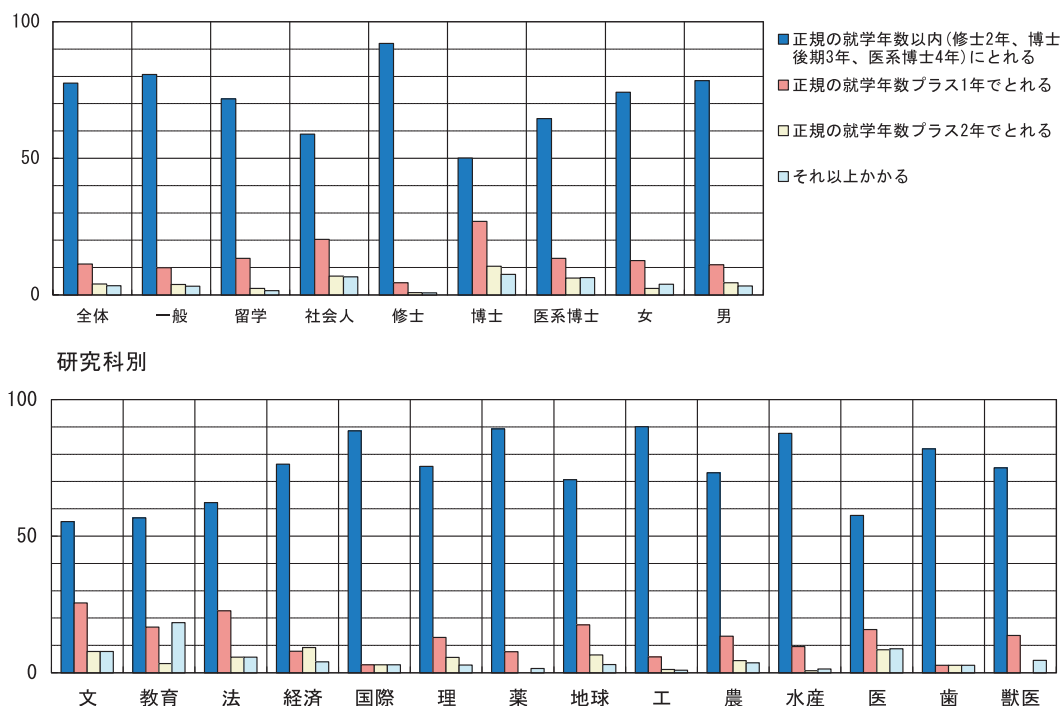
「農」は、7割以上の学生が規定の就学年数で学位を取得できていると思っている。

「水」は、87.7%の者が規定の就学年数で学位を取得できていると思っている。

（C）医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

医系でも差があり、医では15%以上が2年以上余分にかかると考えている。

図Ⅲ-1＜学位取得の見通し（設問44）＞



博士学位取得の条件について（設問45）

【全体の傾向】

学位取得のためには全学共通の条件や各研究科別の条件があり、審査委員会や申請時期、審査のプロセスなど異なる。したがってこれらの条件を院生は知っておく必要がある。そこで博

士の学位に限って博士課程の院生にこの問いを出した。

「知っている」は42.6%で半数弱が理解していることになるが、その他は「不明なところもある」(49.3%) か、「知らない」(5.4%) となる。

「知っている」が5割を超える研究科は「獣」(59.1%),「地球」(56.9%),「工」(51.3%) である。この比率が低い研究科は「法」(30.0%),「医」(31.6%),「教」(31.8%) などである。こうした違いは文系・理系の違いということではなさそうで、むしろ課程博士を出そうとする研究科の姿勢の違いのようにも思われる。

「一般」「留学」「社会人」の違いでみると、「知っている」は留学生に多く、社会人の場合はこの比率が落ちる。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「知っている」は、「文」(46.5%),「経」(44.4%) が半数弱であり、「教」(31.8%),「法」(30.0%) は3割となる。いずれにしても過半数はあいまいか、知らないわけで、博士論文執筆の見通しをもっと具体化させる必要があるだろう。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「地球」の博士課程学生の手半数以上は学位取得の条件を知っているのに反して、「理」及び「薬」では学位取得条件を知っている学生は36%である。両研究科においては、学生に対する学位取得条件の説明に努力することが望まれる。

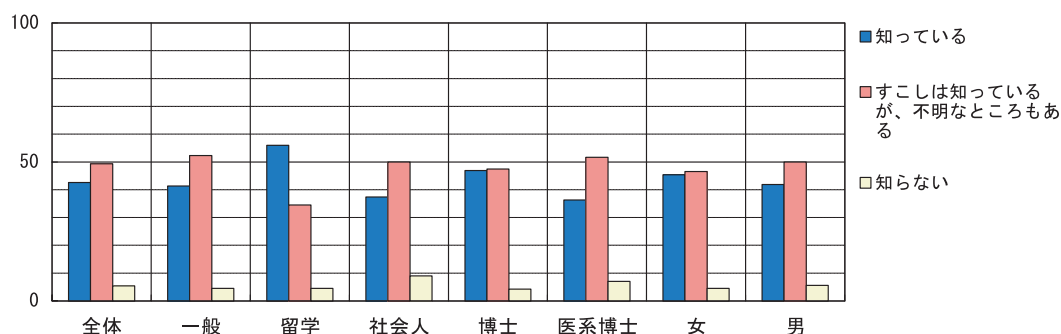
「知っている」と答えたのは、「工」では51%と過半数を超えているが、「理」では36%にとどまっており、その知っている度合いには差がある。

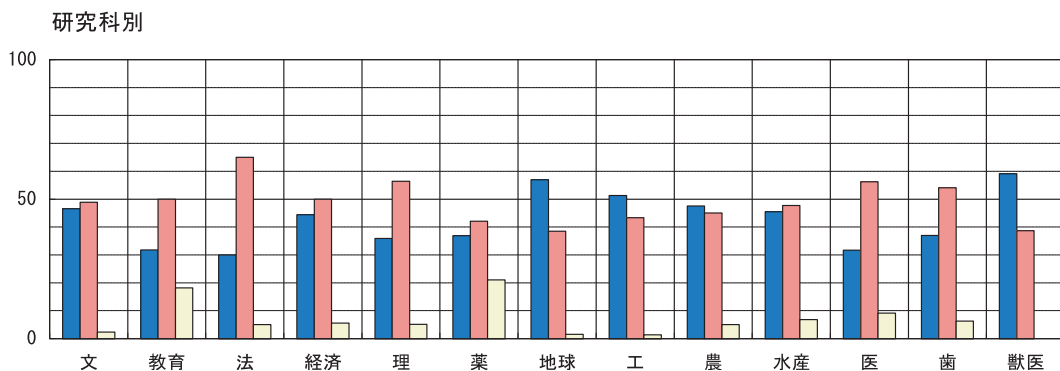
「農」では、その条件を知っている者は約半数であり、残りの者は不明瞭と感じている。「水」は、半数以上の者が取得条件を不明瞭と感じている。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

医系では、「知らない」は10%以下であるが、「医」「歯」の過半数、「獣」の40%は明確ではないと回答。

図Ⅲ-2＜博士の学位取得条件（設問45）＞





修士課程修了の特例について（設問46）

【全体の傾向】

北海道大学大学院通則第22条第1項は、修士課程の修了要件として2年の在学を課しているが、「優れた業績を上げた者」は「1年以上」の在学で修了できる特例を設けている。設問46・47ではこの特例の利用の有無をきいた。

利用したいと「思う」は11.3%と少ない。「思わない」は31.4%で、55.7%は「思うけれども実際には難しい」と答えている。したがってこの制度を利用したいと考える院生はほぼ1割ということになる。

「思う」が比較的多いのが「法」(21.2%)、「水」(18.6%)であり、「思わない」が平均値(31.4%)より高いのは、「法」(48.5%)、「文」(42.3%)、「理」(34.2%)である。

「留学」は「思う」(28.0%)が多く、3割弱がこの制度を利用したいと考えている。「社会人」は「留学」と比較すると、「思う」が少なく(12.1%)、「思わない」(30.8%)が多い。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

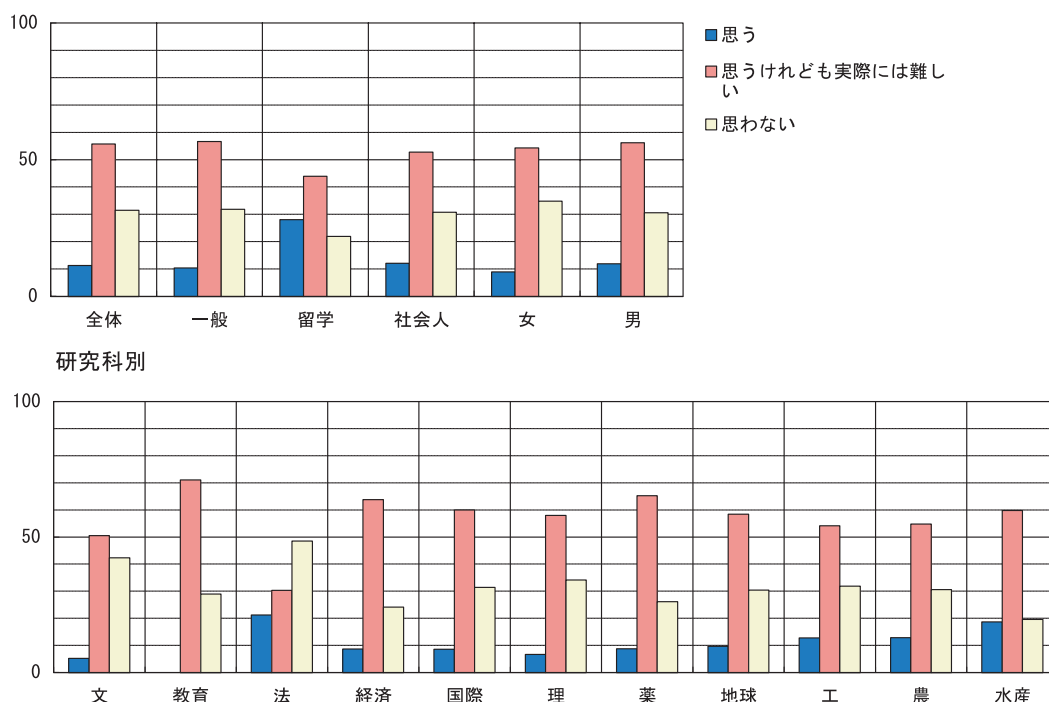
「法」は他の研究科に比べ、利用について「思う」が多いが、また「思わない」も多い(48.5%)。「文」は「思う」が少なく(5.2%)、「思わない」(42.3%)が多い。他の3研究科はその中間で「思うけれども実際には難しい」が6-7割となる。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「理」「薬」「地球」の修士及び博士の両課程に修了年限の短縮があることは学生に周知されているものと推量される。しかし、この制度の適用を受けたいと回答している学生は、修士課程では10%以下である。博士課程では薬学研究科の31%と比較的その比率は高いが、地球環境科学研究科では19%、理学研究科では14%に過ぎない。しかし、3研究科間でその比率は異なるが、この制度の適用を受けるのは能力的に困難であると回答している学生が最も多い。

「工」では利用したいのが13%、したいが難しいが54%であった。一方、「理」では利用したいのが7%、したいが難しいが58%となっている。これをみると、工学では制度に対する実現を望む声強い事がわかる。「利用したいと思わない」が、「工」では32%、「理」では34%となっている。「農」では、短縮で学位を取りたいと思うものの、6割前後の者が難しいと考えている。

図Ⅲ-3＜修士課程の1年修了制度（設問46）＞



修士課程1年修了の特例を利用しない理由（設問47）

【全体の傾向】

圧倒的に多い理由は「自分の研究能力では1年間で優れた成果を得ることは困難」とするもので、52.2%いる。それに次ぐ理由は「研究テーマからいって少なくとも2年は必要」(31.4%)となる。結局1年間で修士論文を完成することは無理だ、という判断である。自分の研究能力では「困難」とする比率が高い研究科は、「薬」78.6%、「教」65.8%、「法」61.5%、「文」61.1%となる。文系に多いが、理系では「薬」が目立つ。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

上述したように「文」「教」「法」の場合、自分の研究能力では困難とする比率が高い。また「経」(56.9%)、「国際」(56.3%)にしてもこの比率は全学平均以上である。設問46で見たように特例制度を利用したいと「思う」比率は、「文」(5.2%)、「教」(0.0%)、「経」(8.6%)、「国際」(8.6%)のようになっており、いまのところ特例制度への需要は少ない。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

研究能力の問題が「工」では55%、「理」では50%となっており、最も多い。次の理由は、研究テーマから2年かかるとの答えで、「工」では25%、「理」では29%となっている。

「農」の修士課程の年限は、テーマから見て2年が必要と思っている割合が全学で最も多い。「水」の修士課程の年限は、テーマから見て2年が必要と思っている割合が「農」に次いで多い。

博士課程修了要件の特例についての評価（設問48）

【全体の傾向】

博士課程修了のためには、修士課程を含め5年間の在学を必要（医系の場合4年）とするが、「優れた業績をあげた者」は「3年以上」（北海道大学大学院通則第22条第3項、第23条）で修了できる。設問48は、この特例制度を利用するかどうかをきいた。

利用したいと「思う」は23.4%、「思わない」は14.3%、「思うけれども実際には難しい」は58.8%となる。修士課程での比率と比較すると、利用したいと「思う」が12.1%増え、「思わない」が17.1%減っている。したがって利用したいと考える院生は増えている。

「思う」が多い研究科は、「獣」(34.1%)、「薬」(31.6%)、「医」(30.3%)、「歯」(28.8%)が目立つ。これらの研究科では3割前後の院生が特例の利用を考えていることがわかる。

「留学」はほぼ半分の47.5%が短期での修了を考えている。これは「一般」(18.3%)、「社会人」(23.2%)との大きな違いである。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

利用したいと「思わない」が全学平均よりかなり多く、「文」(39.5%)、「教」(36.4%)、「経」(27.8%)、「法」(25.0%)となる。研究科共通の傾向としてこの特例を利用したいとする院生は理系に比べかなり少ないといえよう。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

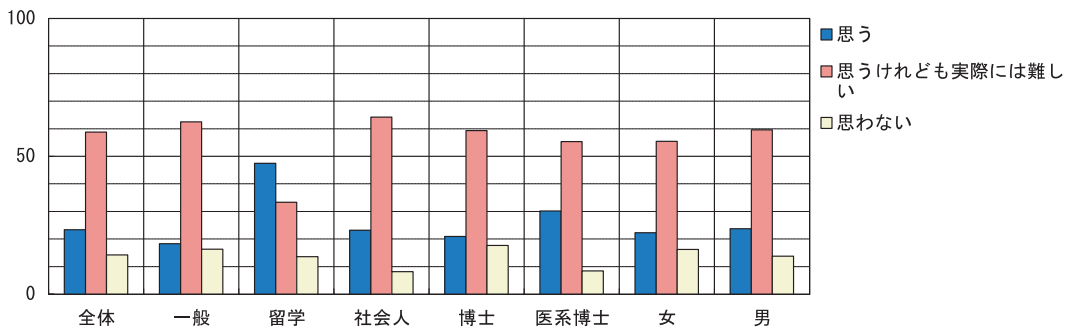
利用したいとの回答は「工」では26%、「理」では14%となっている。したいが難しいとの回答は、「工」では61%、「理」では64%となっている。また利用したいと思わないは、「工」では10%、「理」では19%である。

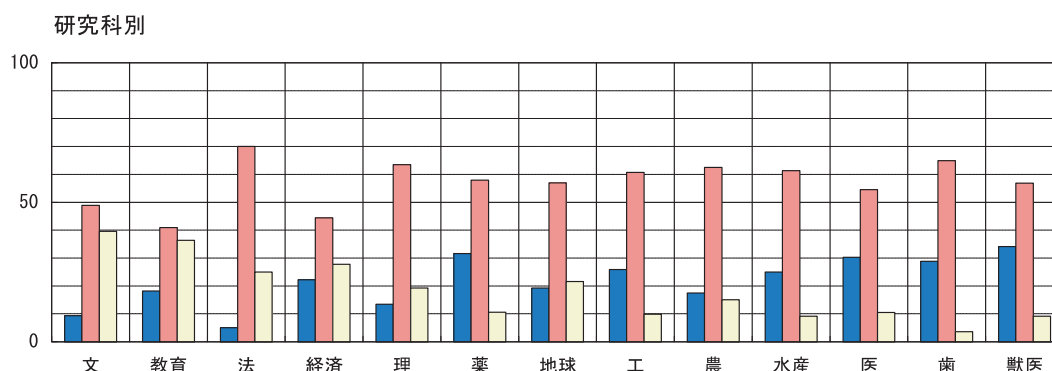
短縮で学位を取りたいと思うものの、「農」「水」の6割前後の者は難しいと考えている。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

3年修了制度の利用については、全体に利用したいが難しいと考えているものが多い。文系以外では利用したいが比較的多く、特に「医系」・「薬」では30%と高い。「留学」では半数が利用を望んでいる。

図Ⅲ-4＜博士課程の3年修了制度（設問48）＞





博士課程修了の特例を利用しない理由（設問49）

【全体の傾向】

利用しない理由として「自分の研究能力では3年間で困難」とするのが53.7%で半数を超える。次が「研究テーマからいって少なくとも4年以上必要」とするのが27.6%であり、いずれも院生自身の能力についての自己評価と関連する。これは修士課程の場合と同じ傾向である。指導教官の方針とはほとんど関係ないといえよう。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

全体の傾向とほとんど同じである。

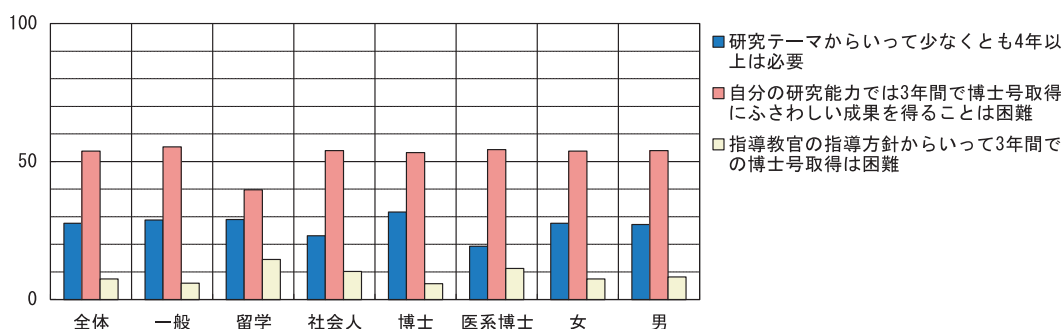
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

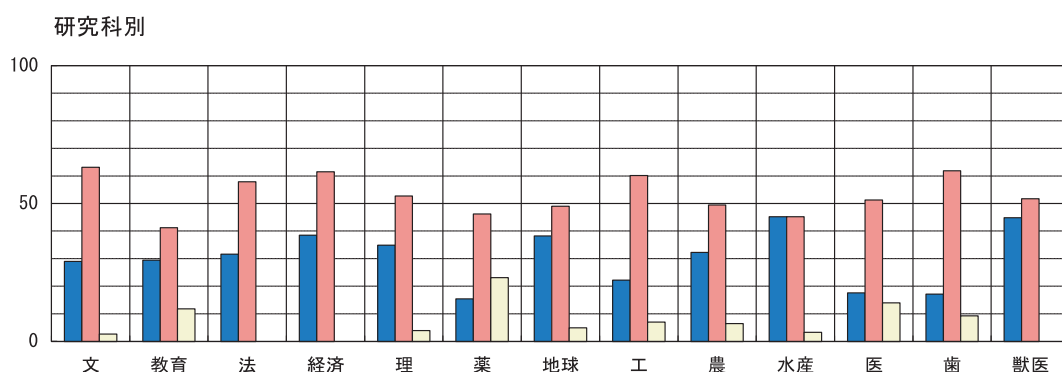
研究能力の問題が、「工」では60%、「理」では53%と最も多い理由となっている。次に多い理由は研究テーマから4年以上かかるとの答で、「工」では22%、「理」では35%となっている。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

利用しない理由としては、全体に自分の能力からみて3年では無理とするものが過半数で、次いでテーマから3年では無理が多い。医系では、「獣」でテーマから3年では無理の割合が高い。

図Ⅲ-5 <3年修了制度の利用に否定的な理由（設問49）>





博士号取得と専門医取得のいずれを重視するか（設問50）

博士号と専門医の取得については、両者を同程度に重視しているものが40%。いずれかを選択したのは、「医」では専門医重視、「歯」では博士号重視がやや多い。

〔IV〕 研究活動や研究成果について（設問51-58）

国内および国際学会の会員とその費用（設問51，52）

【全体の傾向】

「国内学会の会員である」が54.2%で半数強である。国際学会にも入っている層は少数ではあるが4.9%いる。「会員ではない」層が39.3%であり、ほぼ4割が学会に所属していない。研究科別では医系が特に多い。「一般」「留学」「社会人」別にみると、「社会人」では、8割弱が国内あるいは国外も含めた学会に所属している。「修士」「博士」別では言うまでもないが「博士」が多く、8割以上が学会メンバーである。「修士」の学会員は過半数に満たない（図IV-1）。

学会所属の院生に会費の負担状況を聞いた。当然ではあるが「自己負担」が圧倒的に多く、全学平均で89.7%であった。「自己負担でない」「自己負担のある場合とない場合」がそれぞれ5.1%、3.9%と少ないが、「留学」の場合は他者負担が比較的多かった（16.7%）。

（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

国内の学会員が多いのは「教」（60.0%）と「文」（50.4%）であり、学会に所属していない院生が多いのは、「法」（84.9%）、「経」（77.6%）、「国際」（77.1%）である。「教」の場合は、社会人院生が多く（43.3%）、また30歳台・40歳台が多い（45.0%）ので学会員も多くなるのはわかるが、「文」の場合は「一般」が83.0%、20歳台が78.8%であり、比較的若い層が多いのにもかかわらず学会員が多い点に特徴がある。「国際」は現在修士課程だけなので学会員は少ない。

自己負担は「法」「国際」の場合100%で、「文」（97.5%）、「教」（94.9%）、「経」（92.3%）となり、他者負担はきわめて少ない。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

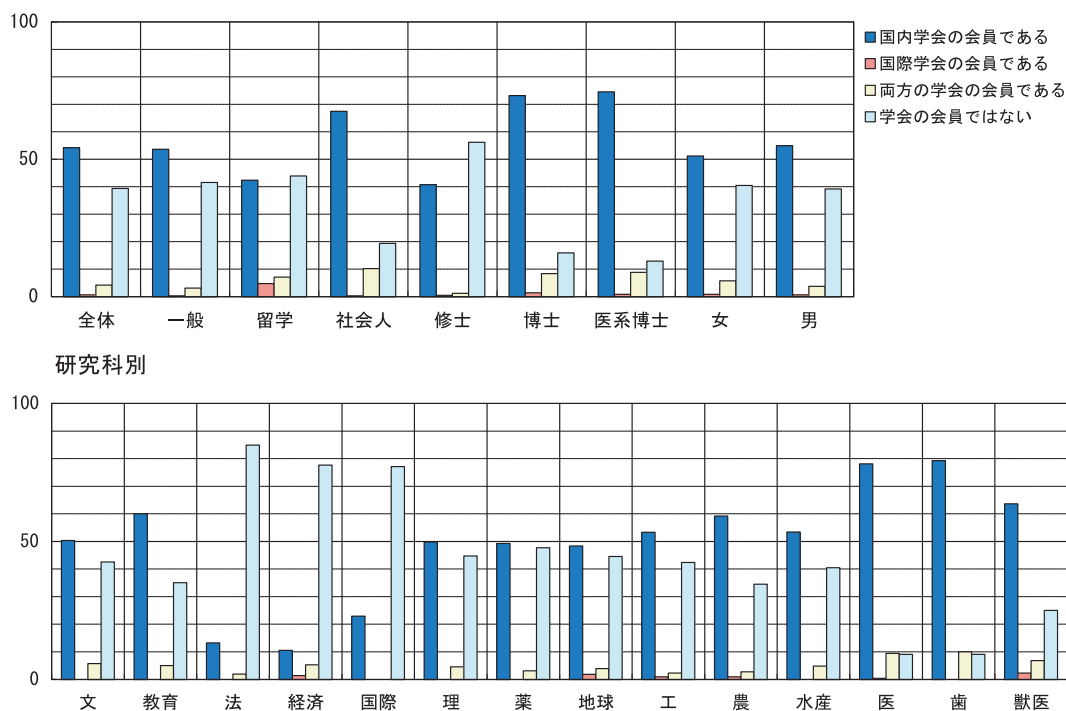
国内学会員は「農」が59.2%と比較的多く、その他の研究科はほぼ半数である。国内・国外の両学会に入っている者は全学平均の4.2%に近い数字である。

学会費用の自己負担は「工」を除く5研究科では9割程度であるが、「工」は全学で2番目に低い数字である84.3%であった。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

国内の学会員になっている比率は、「歯」79.3%、「医」78.1%、「獣」63.6%で、これは全学で最も多いベスト3である。また、10%前後が国際学会会員でもある。「獣」の学会費用の自己負担71.9%は全学で最も低いものである。

図IV-1＜学会の会員について（設問51）＞



学会参加と発表形式およびその費用（設問53,54,55）

【全体の傾向】

学会出席の経験は、全体として「ある」が65.2%、「ない」が30.4%である（図IV-2）。医系が圧倒的に多く文系の幾つかの研究科が極端に少ない。また、「社会人」は多く（80.9%）、「留学」は少ない（56.5%）。

学会参加者（2,047人）に限定して、発表の形式を聞いた。多い順にあげると、「個人口頭発表」（59.7%）、「ポスター発表」（36.8%）、「共同口頭発表」（18.5%）、「シンポジスト・パネリスト」（4.2%）であった。

学会参加者に対してその時の交通費・宿泊費などの経費負担を聞いた。「全額自己負担」は

24.5%で比較的少ない。逆に「自己負担なし」は26.8%，一部自己負担は31.2%であった。これからみると何らかの他者負担があるのが通例のようである。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

学会の参加経験者は、「文」63.1%、「教」70.0%で全学平均であるが、「法」30.2%、「経」26.3%、「国際」22.9%は極端に少ない。ただ、「国際」は現在修士課程だけなので当然であろう。

学会には参加したものの、発表はしなかったというのが全学的に見て圧倒的に多く、「国際」では100%、「法」では81.3%、「文」で70.8%、「経」で65.0%にのぼる。そのせいか、参加費用の自己負担も多く、「文」「経」「国際」では7割前後である。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

これらの研究科では6-7割が学会参加の経験を持っており、全学の平均と言える。「工」の73.9%の個人口頭研究発表は全学で最も多い数字であり、「水」の62.4%、「農」の58.9%も比較的多い方である。これに対し、「理」「薬」「地球」では口頭発表とポスター発表が相半ばしている。

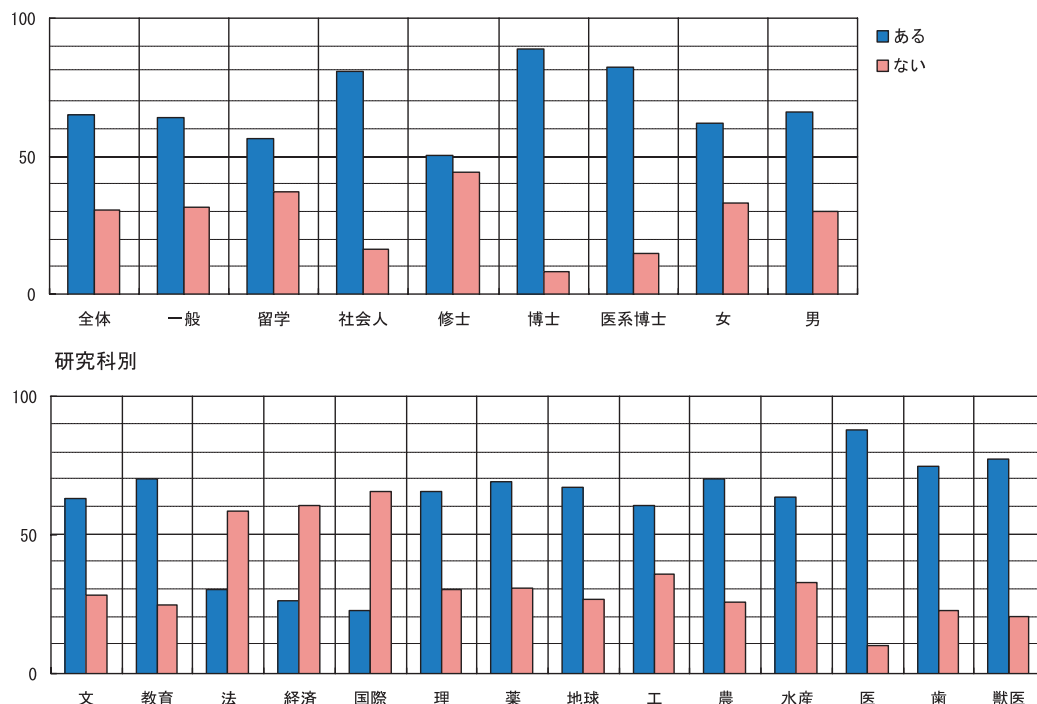
学会参加は自己負担が少なく、「工」の「自己負担なし」の47.9%は学内で最も多い数字である。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

医系の学会参加経験者は非常に多く、「医」で87.9%、「獣」の77.3%、「歯」の74.8%は全学の1-3位である。発表の多くは、個人ないし共同の口頭発表であるが、ポスター発表も他の研究科に比べて多いのが特徴だ。

「医」および「歯」では全額自己負担が47.5%、51.8%と多い方であるが、「獣」の8.8%は「工」に次いで少ない数字である。

図IV-2＜学会出席の有無（設問53）＞



論文発表と作成形式（設問56,57,58）

【全体の傾向】

論文の発表の有無と発表の掲載誌について質問した。「紀要あるいは研究雑誌に発表」の経験がある者は全体で14.2%であるが、「現在投稿中」が16.6%、「まだ論文を書いていない」は53.3%であることから、およそ4割の院生が論文発表しているかこれに近い状態であると言える（図IV-3）。当然であるが、未発表者は「修士」で69.5%と多く、「博士」では23.4%と少ない。また、「留学」(34.1%)や「社会人」(37.9%)の未発表者も比較的少ない。国内誌の場合、筆頭著者である者が13.8%で、そうでない者が8.0%、外国誌ではいずれも8.6%である。

論文の作成は、「教官に直してもらって発表」が62.3%と断然多く、「自分で書いて発表」は16.5%である。前者の傾向は文系以外で多く、逆に文系では後者が多い。「研究成果を教官に提供して教官が筆頭著者となる」は8.7%である（図IV-4）。筆頭著者の論文を持つ者に限って論文の作成方法を尋ねた。その大半は自分で論文を書いて教官に直してもらったようである。無回答（2,113人）のほとんどは筆頭著者の論文をまだ発表していないものと判断される。

（A）文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「教」では紀要あるいは研究誌に41.7%もの院生が論文を発表しており、全学で最も高い比率である。逆に「経」および「国際」は、75.0%、77.1%と未発表者が多い。文系の発表の特徴は「自分で書いて自分の名前で発表する」であり、「文」の51.8%をトップに「教」の50.0%、「法」の41.5%、「経」の40.8%が続く。また、自分で論文を書いた比率も理系、医系研究科に比べて多く、「教」の25.0%、「文」の16.3%は全学で1位、2位である。

（B）理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系における論文発表経験者は、「工」の20.0%、「農」の14.6%が多い方である。「理」や「地球」では発表者数は多くはないが、外国雑誌に発表の比率が比較的高いのが特徴と言える。

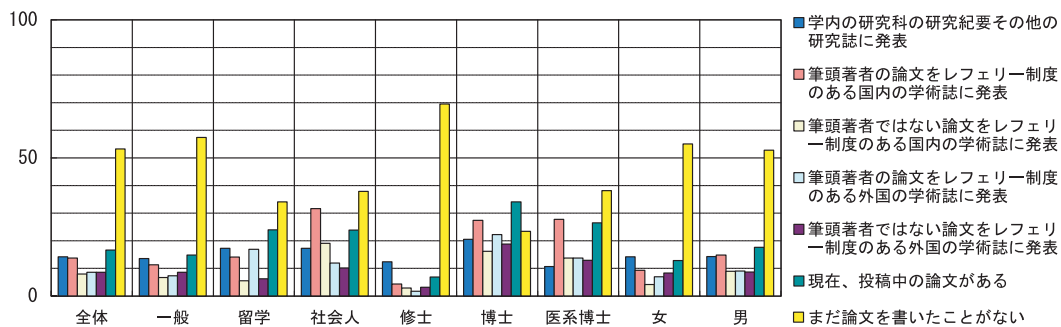
論文の作成については、自分で書いて教官に直してもらうのが圧倒的に多く、6-7割にのぼるが、「薬」ではこれが40.0%ときわめて低く、その代わりに成果を教官に提供し教官が筆頭著者となる率が30.8%と全学で最も高い。

（C）医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

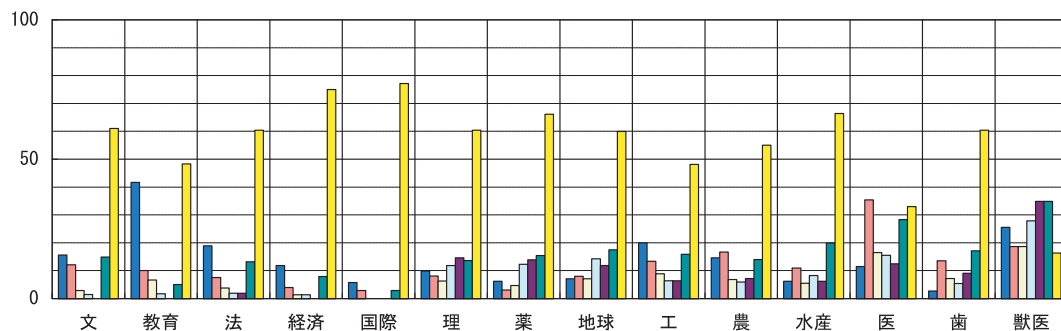
「獣」の25.6%の論文発表経験者は「教」に次いで多い数字である。「国内雑誌の筆頭著者」が「医」で35.4%、「獣」で18.6%、「筆頭ではない国内雑誌」では「獣」の18.6%、「医」の16.5%、「筆頭および筆頭ではない国外雑誌」は「獣」の27.9%および34.9%、「医」の15.5%および12.5%は、学内でほぼ1、2位に多い。しかし、同じ医系でも、「歯」では論文発表経験者は2.7%と最も少ない。

論文の作成は理系と同様に教官に直してもらったが多く、「医」や「獣」では8割近い。「獣」の直してもらったが筆頭著者というのが50.0%で、全学で最も高い数字である。

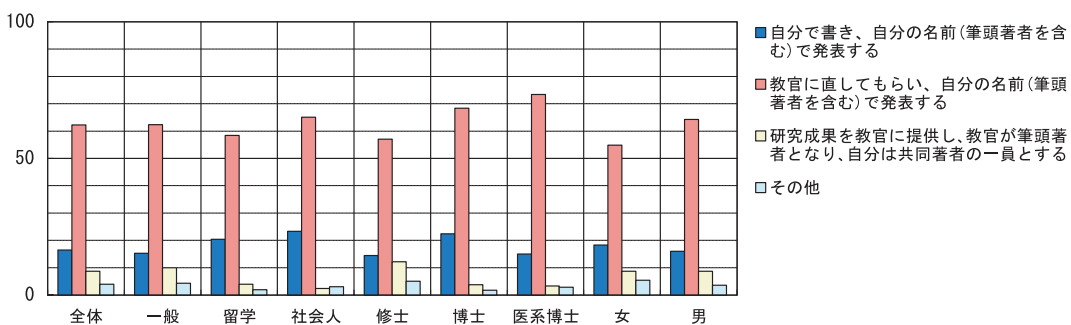
図IV-3＜論文発表について（設問56）＞



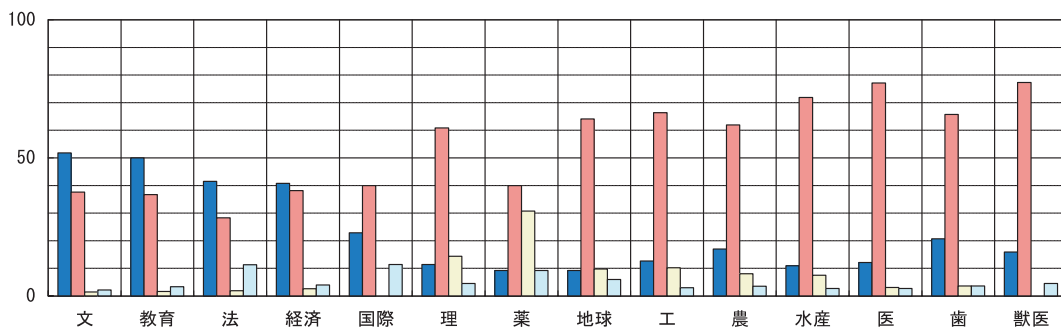
研究科別



図IV-4＜論文の作成状況（設問57）＞



研究科別



[V] 国内・国外の教育研究機関との交流について（設問59-66）

留学経験について（設問59）

【全体の傾向】

大学院在学中の外国大学への留学経験を尋ねたところ、「ある」(単位取得)が0.9%、「ある」(単位取得なし)が1.1%で、両者を足しても2.0%であった。人数にして62人である。「ない」は96.5%である。経験者のうち、「一般」は35人、「留学」は21人で、「留学」の割合が全体の1/3である。当然であるが「修士」は21人、「博士」は36人と「博士」が多い。「女」は22名であった。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

各研究科に数人の留学経験者がいるが、まだ修士課程の学生しかいない。「国際」では経験者はいなかった。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「地球」と「工」の14人は最も多い経験者数。とくに、「地球」は研究科院生の4.2%である。「理」や「農」も多い方と言える。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

「医」2人（0.6%）、「歯」0人（0%）、「獣」1人（2.3%）と少ない人数である。

他の大学および研究機関での実験・実習・調査（設問60,61,62）

【全体の傾向】

国内の他大学・研究機関での実験・実習・調査活動の有無を調べた。「ある」と答えたのは541人（17.2%）で外国留学に比べるとはるかに多い。「博士」だけをみると29.7%（237人）になる。理系で多く（図V-1）、研究科によっては1/4前後が国内の他大学・研究機関での学習経験をもつことを示している。文系は理系に比べ少ない。

外国の他大学・研究機関での実験・実習・調査活動は、「ある」と答えたのは190人で全体の6.1%である。理系の「地球」「農」で、文系では「教」が比較的多い。院生の種差別には、「留学」21.6%、「博士」13.9%が多く、また比率的には「女」が「男」よりも若干上回る。

このような学外の大学・研究機関での研究機会の希望を尋ねた（図V-2）。「国内の大学・研究機関」については45.5%が、「外国の大学・研究機関」については52.9%が研究機会を得たいと希望している。つまり半数前後が学外研究機関での研究機会を望んでいることになる。「行く必要を感じない」層は18.7%で少ない。望んでも「語学上の制約があって行けない」と考えている層

が16.1%いる。したがって1/3が消極的・否定的である。院生の種差別にみると、「留学」が違った傾向を示している。「国内」希望は他の院生と差はないが、「国外」希望は73.7%と2割以上の差がある。逆に「語学上の制約があって行けない」は2.4%と極めて少ないし、「行く必要を感じない」も他の院生に比べ少ない（10.6%）。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「教」では国内も国外もそれぞれ13.3%が他機関での実験・実習等の経験を持つ。まだ修士しかない「国際」や「法」ではほとんどこのような経験者はなく、「ない」と答えた者が全学的に1, 2位である。「文」や「経」では多少全学平均よりは低いものの経験者はいる。

このような他の機関での希望を聞くと、「教」では国内に対し55.0%の者が、「国際」では外国の機関に対し77.1%の者が行きたいと答えている。「法」では国外に行きたいが語学上の制約を感じているものが28.3%と全学で最も多い。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「水」では29.5%、「地球」では27.3%、「農」では23.2%が国内の他機関での研究経験を持っており、全学のトップ3の数字を示している。国外に対しては「地球」の12.8%、「農」の9.5%が大きい値である。「理」は国内・国外とも全学平均的であるが、理系にあって「薬」は低い数字を表している。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

「獣」は国内20.5%、国外9.1%と他の機関での研究経験者は多い方である。「医」や「歯」はいずれも全学平均より少ない。「獣」では国外機関での研究を72.7%もが希望しているが、「歯」では行く必要を感じていない者が25.2%であり、同じ医系でも大きなばらつきがある。

図 V-1 <国内の他大学等における実験・実習・調査実施の有無（設問60）>

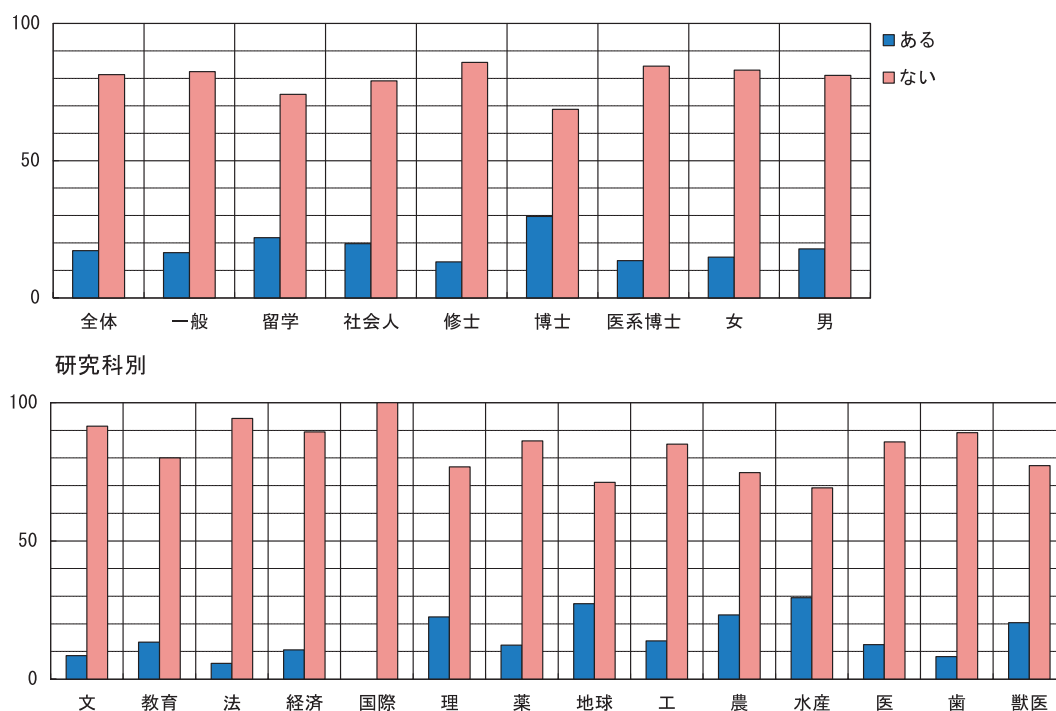
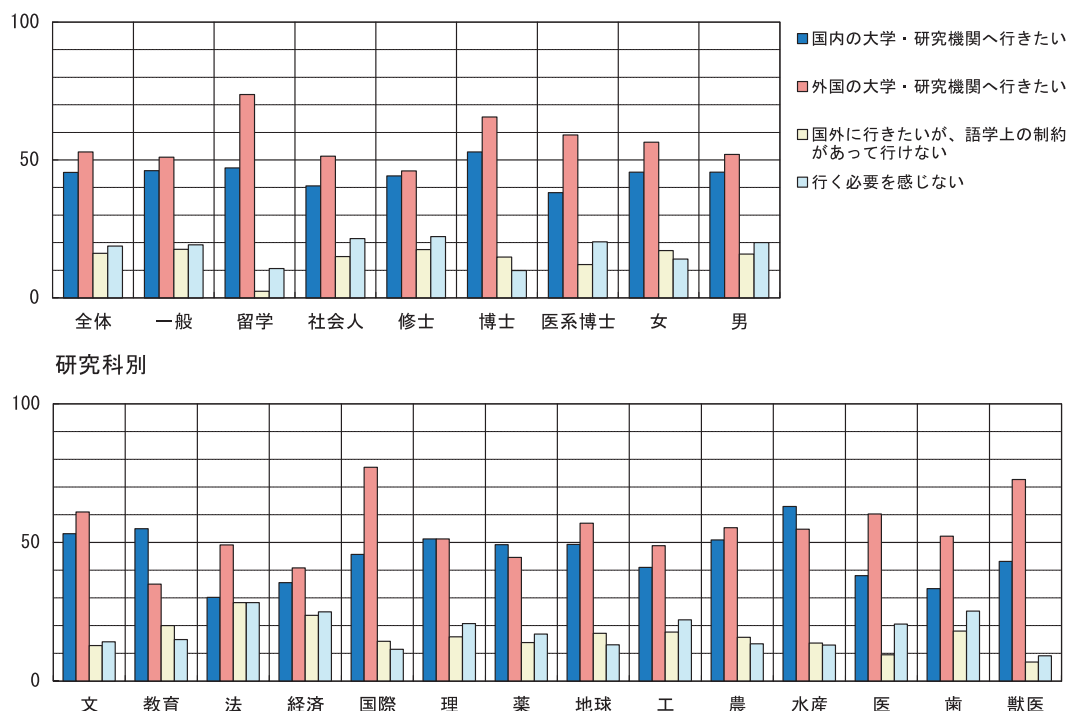


図 V-2 < 本学以外の大学等で研究機会がある場合（設問62） >



外国人研究者との交流（設問63,64,65）

【全体の傾向】

「海外の研究者の講演・講義・演習に出席したことがある」と答えた者は全体で48.4%,「ない」が49.7%で両者相半ばする（図 V-3）。「ある」が多いのは、理系では比較的基礎科学分野や「農」「水」でありこれらは6割弱を示し、「獣」は70.5%と極めて高い。文系は「国際」「法」以外は3割台であり少ない。種差別に見ると、それほどの違いはないが、「ある」は若干「社会人」に多い（55.5%）。

海外の研究者の講演・演習に参加した院生の反応を、「ある」と答えた1,521人を対象にして3種類の質問をした。第1の質問は、講演・演習への参加は「イ、自分の意志」からか、「ロ、先生に言われた」からかを聞いたものである。イが7割で多い。8割を超えている研究科は「文」「法」「国際」「歯」「獣」であり、「工」「経」「薬」「医」「農」の場合はロの割合が他の研究科に比べ比較的多い。第2の質問は、出席してその内容について「ハ、よく理解できなかった」か、あるいは「ニ、おおいに参考になった」かを聞いたものである。ハは4割強、ニは2割弱である。したがって出席はしても何らかの障害や制約がみられるといえる。第3の質問は、今後こうした機会に「積極的に参加する」かどうかを聞いた。3割弱が肯定的であることがわかる。

研究室における外国人研究者との共存についての評価に関し、理由はともかく積極的に「歓迎する」層は3/4で、「歓迎するが意思疎通について不安がある」が1/4あり、「意味がない」は2.3%ときわめて少ない（図 V-4）。積極的な肯定は文化や学術の交流で意味を認めている（回答のイ）。また外国語の修得の利点から評価するのも半数いる（回答のロ）。研究科別の傾向でいうと、文化・学術交流に若干傾斜しているのが文系で、理系は外国語の修得に多少傾斜している。

「意志疎通に不安がある」は文系より理系に多い。院生の種差別に見ると、「社会人」「一般」は文化・学术交流および外国語の修得を理由として歓迎する傾向が強い。「留学」は「著名な研究者なら歓迎する」が比較的多いのが特徴である。「意志疎通に不安がある」のは「一般」に多い。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「文」では67.4%,「経」では61.8%,「教」では61.7%が外国人の講演等に出席の経験を持たない。これは出席に消極的というよりも研究の質から言って、そのような機会に恵まれていないのが実状であろう。「国際」は出席者のうち95.0%が自分の意志で参加しておりこの数字は全学で最も大きい。出席者は35.0%と多くはないものの参加した結果、「内容がおおいに参考になった」と答えた「教」の33.3%の数字は全学で1位である。外国人が滞在することについては、文系全体に歓迎しているようである。

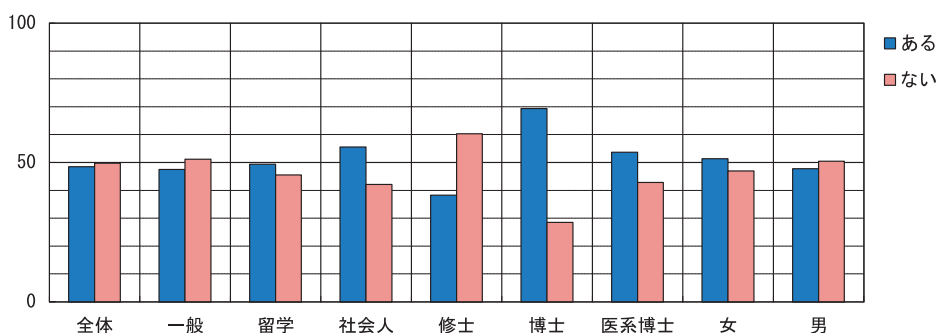
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「工」の38.1%を除いて、他の理系の研究科では6割近くが外国人の講演・講義・演習に出席したことがある。特に、「水」の59.6%,「農」の59.5%は全学でも2番目、3番目に多い数字である。しかし、出席したが内容が理解できなかったという層も理系には多く、「工」では52.9%,「薬」では52.6%にものぼる。そのこともあってか、「薬」では外国人の滞在を歓迎しても意志の疎通に不安を持っている者が36.9%と全学で最も多い。一方、「水」や「農」では、異文化に触れる興味や外国語の習得の点から、かなり高い比率でこれを歓迎している。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

「獣」の70.5%が外国人の講演等の参加経験を持ち、全学的に並はずれて高い。他の医系研究科の出席経験はおおよそ5割で平均的である。「歯」の自分の意志で参加した（87.7%）、また大いに参考になった（29.8%）は高い数字を示している。

図 V-3 <海外研究者による講演等への出席の有無（設問63）>



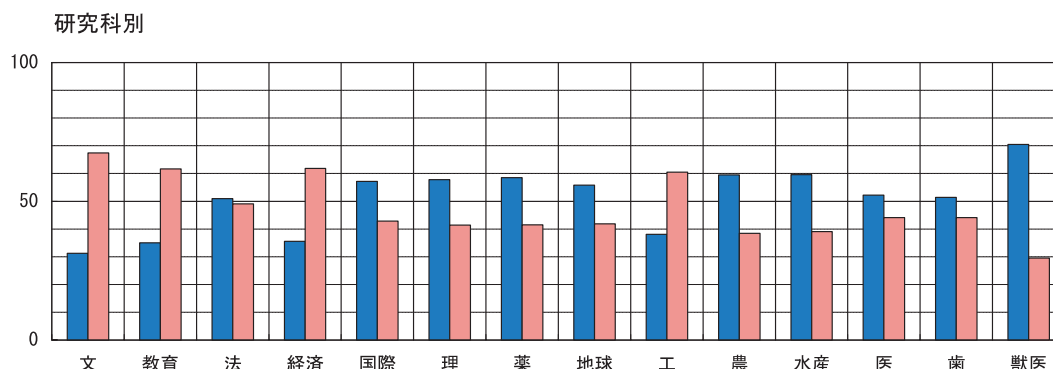
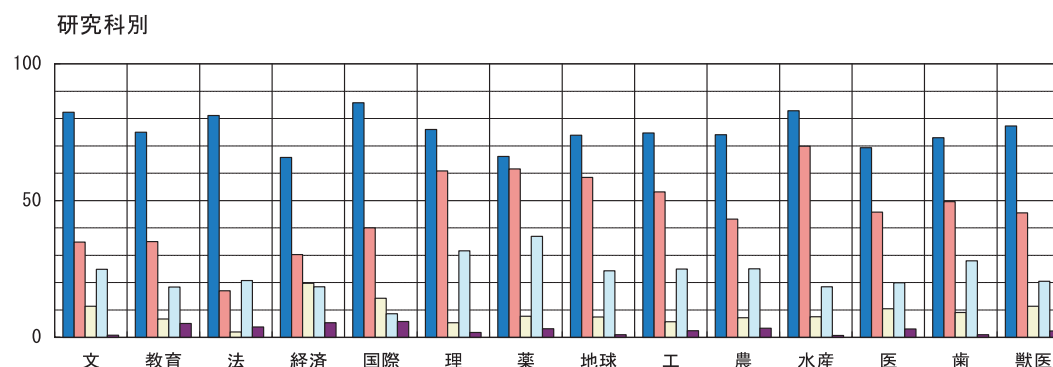
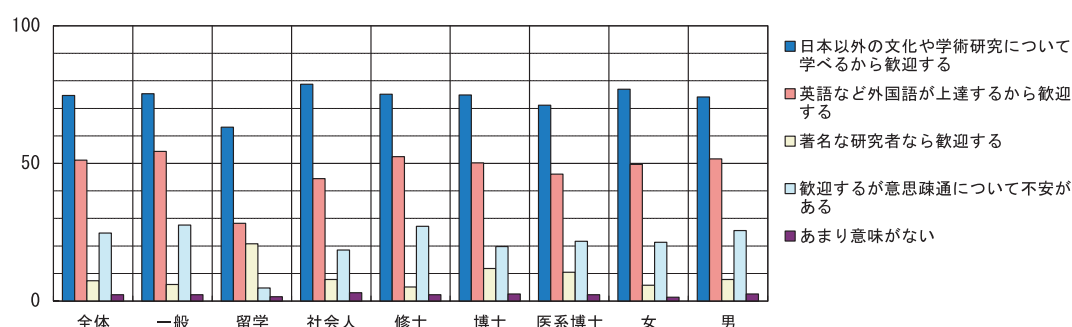


図 V-4<研究室の滞在する外国人研究者について（設問65）>



欧文論文の作成（設問66）

【全体の傾向】

「書いたことはない」が8割である。「複数書いた」、「1編書いた」が各1割弱で、したがって2割弱が執筆経験をもつ。研究科別にみると、20%以上の院生が書いている研究科は、多い順に「獣」54.5%、「医」27.6%、「地球」23.2%、「国際」22.9%、「理」20.2%である。種差別には、「博士」42.3%、「医系博士」27.6%、「修士」6.3%が欧文論文を書いている。やはり課程別の差は大きい。「留学」40.8%、「社会人」26.5%、「一般」は15.0%となりこの点での違いも大きい。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

修士学生しかいない「国際」が8人（22.9%）欧文論文を書いた経験を持つのは特筆すべきことである。また「文」の経験者13.5%は文系にあって多い方と言える。

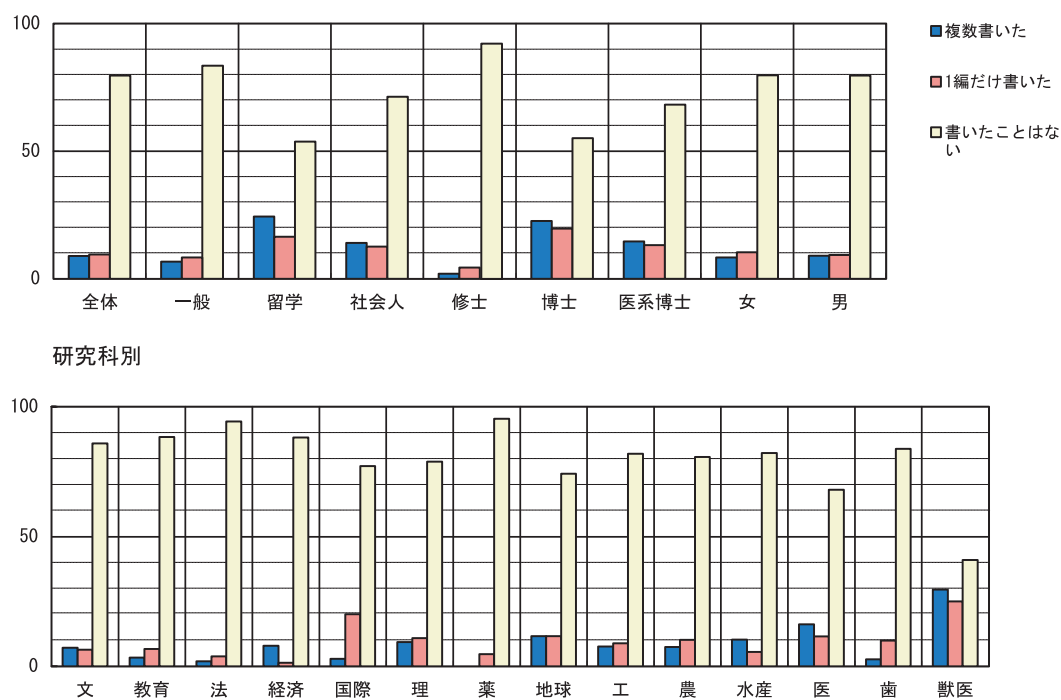
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「地球」「理」では20%以上が欧文論文の執筆経験を持つ。「農」「工」「水」も全学平均であるが、「薬」の4.6%は極端に少ない数字である。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

「獣」の1編ないし複数の論文を書いた経験者54.5%は全学一で、極めて高い数字と言える。「医」の27.6%はこれに次ぐ。

図V-5〈欧文論文の作成経験（設問66）〉



[VI] TA及びRA, その他の制度について (設問67-76)

TAの任用について (設問67-70)

【全体の傾向】

TAの任用経験について、全体では「ある」が44.1%、「ない」が54.4%と、半数近くがTA任用を経験している。ただし、研究科によって著しい差があり、「獣」「歯」では8割を超えているが、「国際」「法」「地球」「経済」では2割台にすぎない。種差別では、「博士」が66.7%、「医系博士」が60.2%と多く、「修士」は30.3%と少ない。「一般」「留学」は4割台であるが、「社会人」は3割台とやや少ない。

TA任用の希望の有無について、全体では「希望する」が63.9%、「希望しない」が33.6%と、希望者がほぼ3分の2で、けっこう多い。研究科別にみると、「法」と「医」以外の研究科では過半数が任用を希望しており、特に「薬」「文」「獣」「農」「歯」では4分の3以上が希望している。種差別では、希望者は「留学」71.8%に多く、「社会人」は「希望しない」が57.9%と多い。「修士」は62.0%、「博士」は72.2%、「医系博士」は58.2%と、「博士」で希望者がやや多い。

実際にTAに任用されたものの割合が希望するものの割合を超えているのは医系のみで、文系・理系では全ての研究科で下回っており、特に「国際」「経済」「理」「薬」「地球」「工」で、その差が大きい。種差別では、「留学」と「修士」でその差が大きい。希望者が3分の2を超えていることからみて、採用枠の拡大等を考慮すべきと思われる。

TAの任用を希望する理由は、「経済的に助かる」が72.6%と圧倒的に多いが、「教育活動のトレーニングに役立つ」や「自分の専門を教育に生かせる」など、教育活動としての意味を評価するものも4分の1ほどいる。研究科別では、経済的理由に傾斜しているのは理系・医系に多く、文系、特に「教」「国際」は教育的理由を重視する傾向にある。種差別では、「留学」で教育的理由を重視する傾向が高く、約半数を占めている。TA任用を希望しない理由は、「研究（実験）の支障になる」が36.1%と最も多く、次いで「職務内容が不明確」が26.9%である。「給与が少ない」は、研究科により差はあるものの、全体では13.0%と少数である。研究科別にみると、理系・医系で研究上の支障をあげるのが多く、特に「水」「獣」「理」「工」では約半数を占めている。文系では「研究（実験）の支障になる」と「職務内容が不明確」とがほぼ同数で、「医」では「職務内容が不明確」が約半数である。種差別では、「留学」「一般」及び「博士」「修士」は研究上の支障、「社会人」及び「医系博士」は「職務内容が不明確」が最も多い。

希望しない理由として「研究（実験）の支障になる」が最も多いことから、採用に際しては学生の意思の確認が必要である。また、研究科により差はあるが、「職務内容が不明確」と回答したものの割合は決して無視しうるものではなく、TAの募集に当たっては職務内容を的確に説明する必要がある。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

研究科の間で、TAの任用経験や希望者の割合、ならびに希望する理由に大きな差がある。「文」「教」を除き、TAの任用経験の割合が少なく、「国際」「経」「法」では2割台にすぎない。TAの任用希望者の割合も「文」以外では全学平均を下回っており、特に「法」では過半数、「国際」「経」でも約4割が希望していない。「法」「国際」「経」で希望者が少ない理由の1つは社会人・有職者の比率が高いためと考えられる。

希望する理由は、「経済的に助かる」が多いが、「教育活動のトレーニングに役立つ」や「自分の専門を教育に生かせる」など、教育活動としての意味を評価するものの割合が他系に比べて多く、特に「教」「国際」では半数を超えている。

希望しない理由として、「研究（実験）の支障になる」と「職務内容が不明確」とがほぼ同数であり、他系に比べて「職務内容が不明確」をあげるものが多い。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

研究科の間で、TAの任用経験の割合に大きな差がある。「農」「水」では過半数がTAを経験しているが、他の研究科では25-40%にとどまっている。TAの任用希望者の割合は全学平均とほぼ同様であるが、「薬」で87.7%、「農」で79.2%とやや多い。

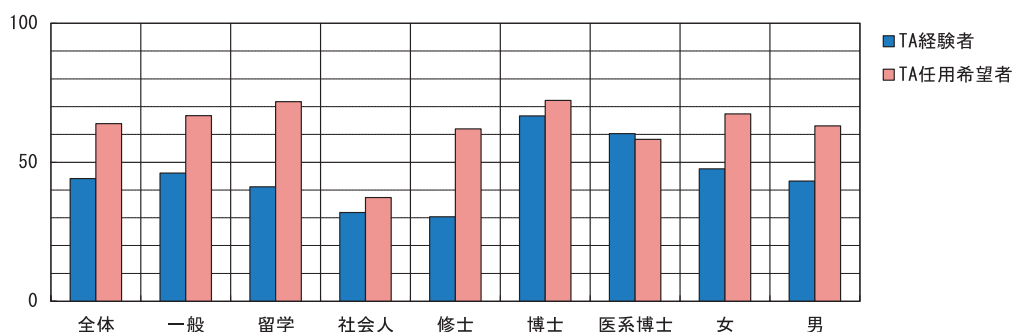
希望する理由は、「経済的に助かる」が圧倒的に多く、4分の3を占めているが、「水」では教育活動としての意味を評価するものが3割を占める。希望しない理由として、「研究（実験）の支障になる」をあげるものが多く、特に「水」52.4%、「理」46.1%、「工」41.3%で多い。

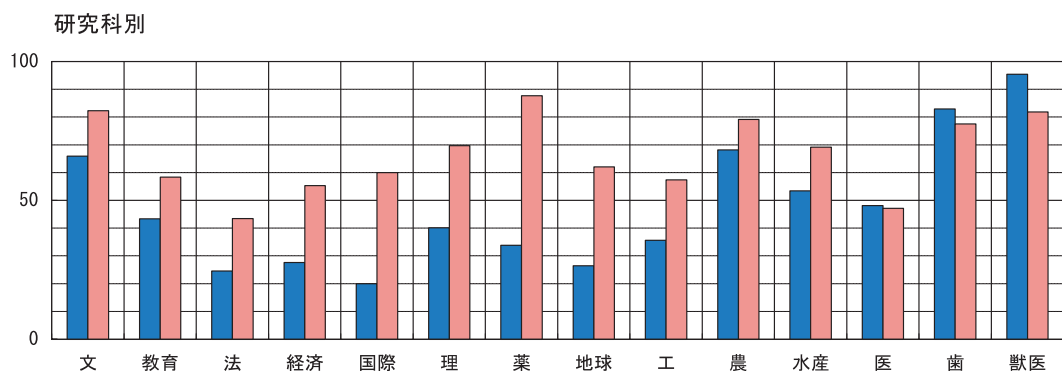
(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

TAの任用経験ならびに希望者の割合は、「歯」「獣」では全学平均と比べて著しく多く、8割以上を占めているが、「医」ではともに少なく、半数を下回っている。「医」で少ない理由の1つは社会人・有職者の比率が高いためと考えられる。

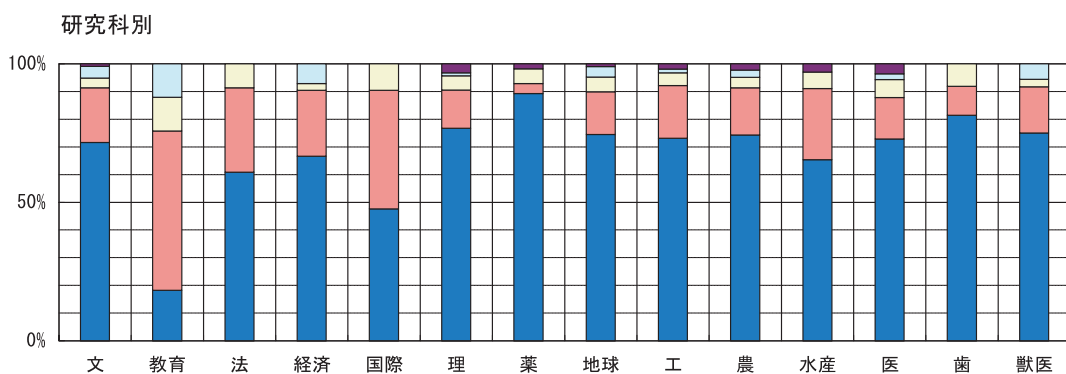
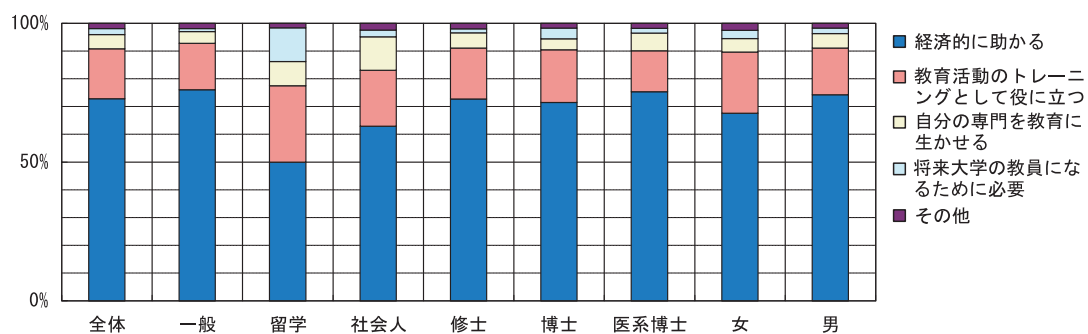
希望する理由は、「経済的に助かる」が圧倒的に多く、約4分の3を占めている。希望しない理由として、「獣」では「研究（実験）の支障になる」が50%と多く、「医」では「職務内容が不明確」が47.1%と多い。

図VI-1＜TA経験者及びTA任用希望者（設問67・68）＞

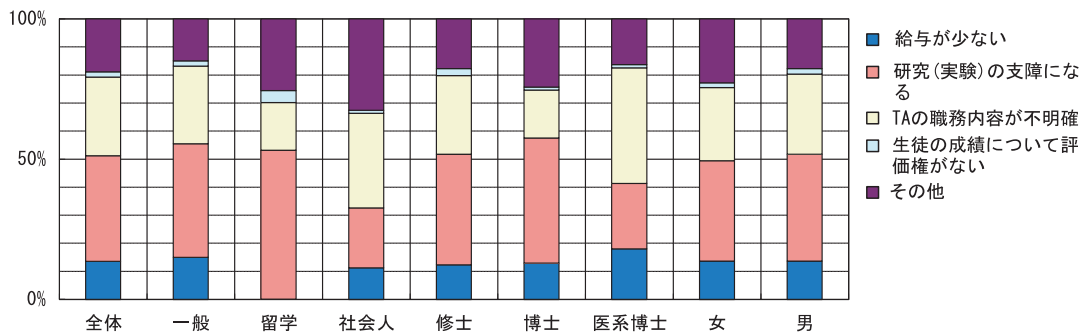


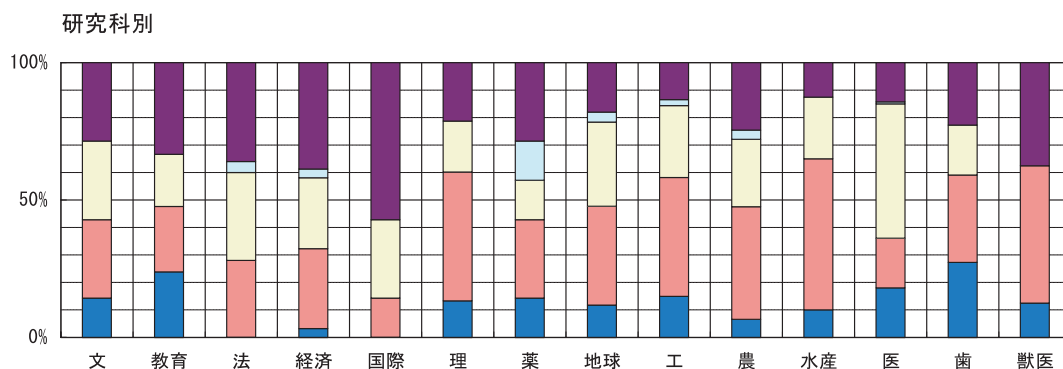


図VI-2＜TA任用を希望する最大の理由（設問69）＞



図VI-3＜TA任用を希望しない最大の理由（設問70）＞





RAについて（設問71-72）

【全体の傾向】

RA任用経験について、全体では「ある」が6.8%、「ない」が89.8%で、RAを経験しているものは少ない。「ある」が若干多いのは、「獣」「地球」「医」であるが、いずれも10%台にとどまっている。種差別では、「博士」が18.1%、「医系博士」が12.1%で多く、「修士」は0.8%と極めて少ない。「留学」は10.2%で、「一般」「社会人」に比べてやや多い。

RA任用の希望の有無について、全体では「希望する」が34.9%、「希望しない」が58.9%と、希望者はほぼ3分の1で、そう多くはない。ただし、研究科別にみると、「文」55.3%、「地球」49.3%、「獣」47.7%、「農」「国際」42.9%と、希望者が半数近い研究科もある。種差別では、「留学」66.7%と「博士」58.4%で希望者が半数を超えている。また「女」が若干多い。一方、「法」77.4%、「工」71.2%、「社会人」71.0%では、「希望しない」が7割を超えている。

研究志向が強い学生が多いにもかかわらず、RA任用を希望する学生がTAの場合の約半数にとどまっているのは、採用枠が少ないことを反映しているものと推測される。半数近くが希望している研究科もあることから、採用枠の拡大等を考慮すべきと思われる。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

RA任用経験の割合はいずれの研究科においても全学平均を下回っており、最も多い「文」でも5.7%に過ぎない。希望者の割合は研究科の間で大きな差があり、「文」55.3%、「国際」42.9%で多く、「法」18.9%で少ない。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

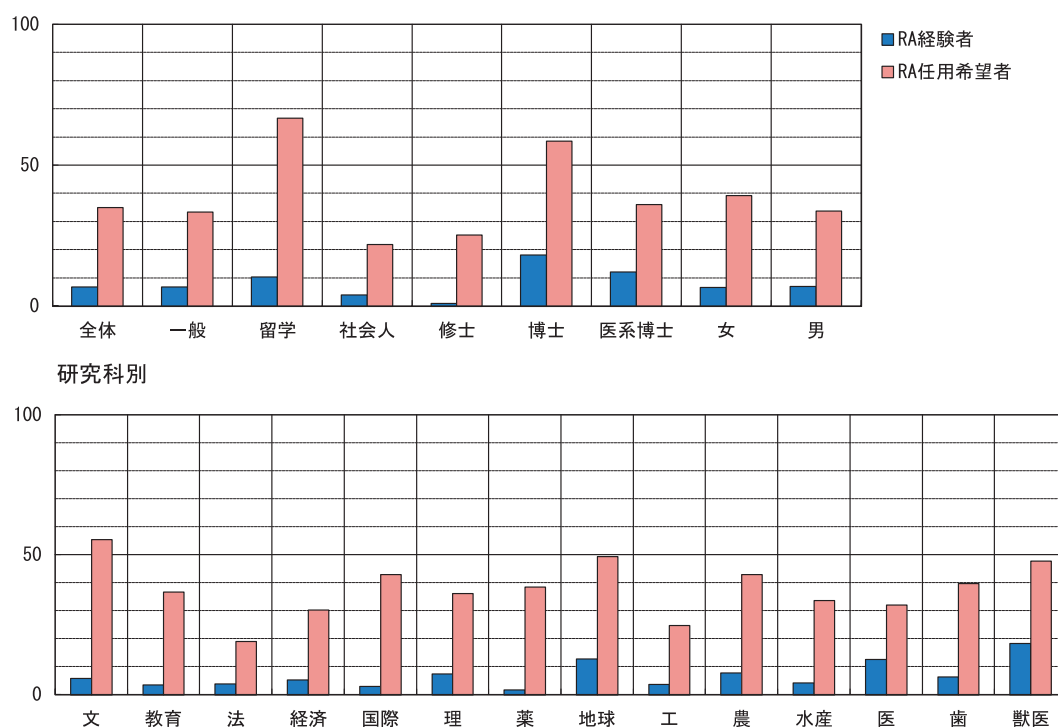
RA任用経験の割合は研究科の間で若干の差があり、「地球」では12.8%とやや多いが、「薬」1.5%、「工」3.6%、「水」4.1%では少ない。希望者の割合は研究科間でかなりの差があり、「地球」49.3%、「農」42.9%で多く、「工」24.6%で少ない。これは、「地球」「農」で博士課程の割合が多く、「工」では少ないことが関係しているものと考えられる。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

RA任用経験の割合は全学平均を大きく上回っているが、それでも「獣」18.2%、「医」12.5%、

「歯」6.3%に過ぎない。希望者の割合は「獣」で47.7%と多い。RA経験者の割合が多い理由の1つとして、医系大学院は全て博士課程であることがあげられる。

図VI-4 <RA経験者及びRA任用希望者（設問71・72）>



日本学術振興会の特別研究員について（設問73-76）

【全体の傾向】

日本学術振興会・特別研究員に応募したことがあるものは「複数回ある」7.5%と「1回ある」8.6%を合わせても16.1%に過ぎず、「ない」82.1%を大きく下回っている。応募経験者は理系に多く、「獣」68.1%で飛び抜けて多く、以下「理」29.3%、「薬」23.1%、「農」21.1%、「地球」20.5%となる。文系では、「法」「文」が17%でやや多いが、全体としては少ない。種差別では「博士」が48.6%と圧倒的に多く、ほぼ半数が応募経験をもつ。また、わずかながら「男」で応募経験者が多い。特別研究員に採用されたことが「ある」は2.3%に過ぎず、「ない」95.6%を大きく下回っている。採用者が比較的多いのは、「獣」13.6%、「理」5.8%、「薬」4.6%などで、種差別では「博士」で多いが、それでも7.8%に過ぎない。特別研究員への採用を「希望する」が30.5%、「希望しない」が43.6%で、希望しないものの方が多いが、「希望するが無理だと思う」が22.8%おり、これを含むと希望者は53.3%となり、半数を超える。理系や医系では希望者が比較的多く、「獣」52.3%、「理」40.2%、「地球」40.1%、「農」39.6%、「水」39.0%で、これらの研究科では希望者が約4割以上いることになる。文系は全体に希望者が少なく、比較的多い「文」「国際」でも35%前後に留まっている。「希望しない」がはっきりしているのは、「工」59.7%、「医」51.9%で、半数を超えており、ついで「経」「法」「薬」が4割台となっている。種差別では、希望

者が多いのは「留学」62.0%、「博士」54.3%で、逆に「社会人」「修士」では過半数が希望していない。

特別研究員への採用希望に消極的な理由については、「研究能力の不足」を上げるのが52.5%で最も多く、また「採用される見込みがない」の9.4%も同じような理由であり、両者を合わせて3分の2弱が自分の力不足を理由にあげている。なお「採用枠が少ない」は16.1%であり、意外に少ない。自分の力不足を理由とする割合が比較的少ない研究科は「獣」35.0%で、種差別では「留学」37.2%、「博士」48.4%である。逆に、自分の力不足を理由とする割合が比較的多い研究科は「薬」75.5%、「文」72.4%で、種差別では「一般」64.7%、「修士」65.8%である。「希望するが無理だと思う」を含めると、特別研究員への採用希望者が半数を超えているにもかかわらず、実際に応募したことのあるものは16.1%に過ぎない。

特別研究員への応募数と採用数には正の関係があり、応募者の多い研究科では一般に採用者も多いことから、応募者が少ない研究科では、院生が積極的に応募するような環境づくりが必要と思われる。また、研究科間で若干の差があるが、「自分の研究テーマでは採用される見込みがない」と考えているものが1割前後いることから、指導方法に改善の余地があるものと思われる。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

特別研究員に応募したことがあるものの割合は理系に比べて少なく、特に「国際」2.9%、「教」6.7%で少ない。採用者は「文」「法」各1名と極めて少なく、応募者が少ないことを反映しているものと思われる。希望者の割合も比較的少なく、「文」34.8%、「国際」34.3%以外では、「希望する」ものの割合は全学平均を下回っている。その一方で「希望するが無理だと思う」が文系全ての研究科で全学平均を上回っている。特別研究員への採用希望に消極的な理由については、「研究能力の不足」を上げるものが「法」42.1%、「国際」47.8%とやや少ない以外は、全学的な傾向と同様である。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

特別研究員に応募したことがあるものの割合は比較的多く、「工」の10.6%を除いて全学平均を上回っているが、それでも30%に達していない。採用者は応募者にほぼ比例しており、「理」5.8%、「薬」4.6%、「水」4.1%が多い。

希望者の割合も比較的多いが、研究科間で差があり、「理」「地球」「農」「水」では約40%であるが、「工」20.8%、「薬」27.7%に少い。また「希望しない」も「工」で59.7%と高く、全学平均をかなり上回っている。この理由の1つとして、博士後期課程への進学希望者が、「工」9.0%、「薬」15.2%と、全学の中で最も低いことが考えられる。

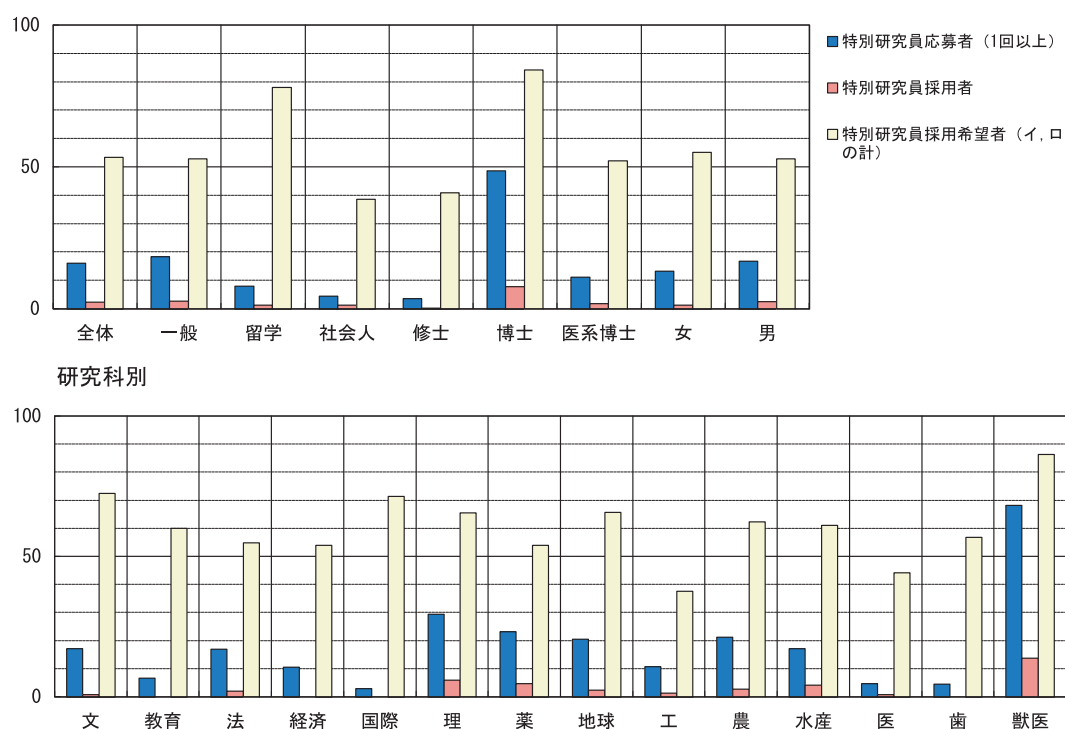
特別研究員への採用希望に消極的な理由について、理系全研究科で「研究能力の不足」を第一に上げているが、「自分の研究テーマでは採用される見込みがない」が「農」14.4%、「理」11.5%、「薬」11.1%、「水」10.5%と、1割を超えている。また「理」で「採用枠が少ない」が21.7%とやや多い。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

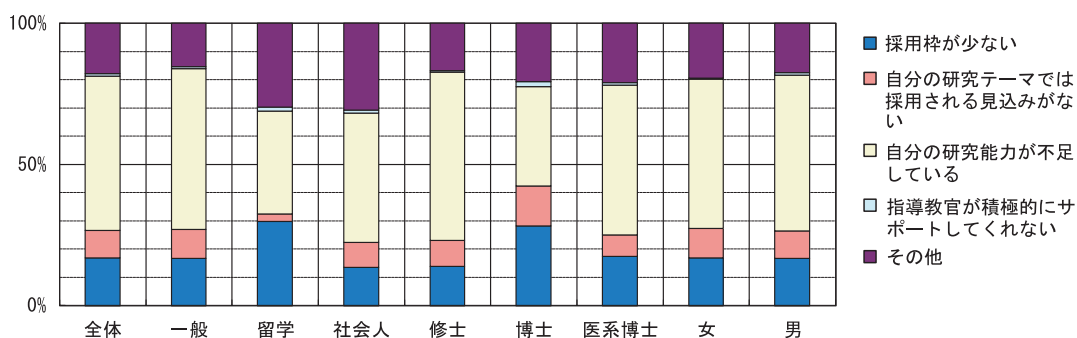
「獣」と「医」「歯」の間で大きな開きがあり、「獣」の応募者68.1%、採用者13.6%に対し、「医」

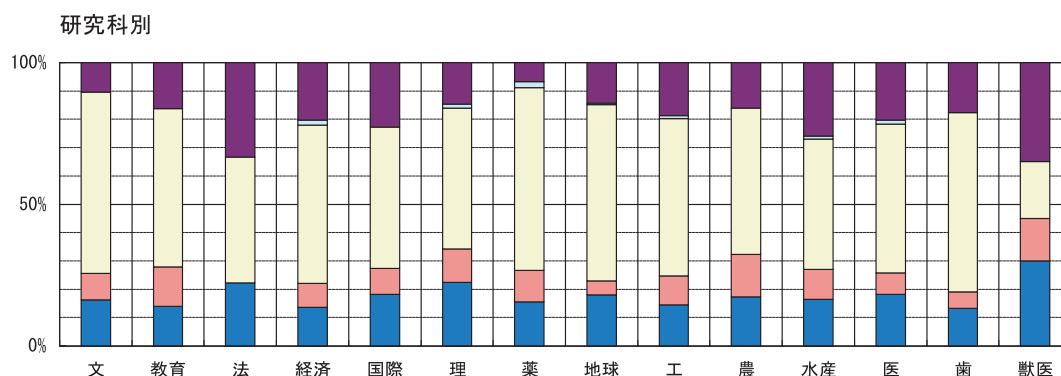
「歯」の応募者は5%以下で、採用者も1%に満たない。希望者の割合にも差があり、「獣」では過半数が希望しているのに対し、「医」では過半数が希望していない。特別研究員への採用希望に消極的な理由について、「医」「歯」では全学の傾向とほぼ同様である。一方、「獣」では「研究能力の不足」は20.0%と、全学平均を大きく下回っており、「採用枠が少ない」が30.0%で理由の第一となっている。「獣」で応募者や希望者が全学平均を大きく上回り、また採用希望に消極的な理由についても全学的な傾向と大きく異なっているのは、これまでの採用実績や欧文論文数によるものと考えられる。自ら欧文論文を書いたことのある割合は「獣」では54.5%で全学平均の18.4%を大幅に上回っている。

図VI-5＜特別研究員応募者、採用者及び希望者（設問73～75）＞



図VI-6＜特別研究員を希望しない等の理由（設問76）＞





[VII] 経済的状況について (設問77-79)

収入について (設問77)

【全体の傾向】

収入依存率を高い順に並べると、「親の仕送り」54.1%、「アルバイト」41.2%、「日本育英会奨学金」38.7%、「TA」20.9%、「自分の給料」10.9%、「その他の奨学金」4.8%、「配偶者の支援」3.5%、「RA」3.3%となる。全体の傾向として、理系で「親の仕送り」が多いのに対し、文系や医系では「親の仕送り」の割合が減少し、「自分の給料」や「配偶者の支援」が増加している。種差別にみると、違いはかなりはっきりしてくる。「一般」は「親の仕送り」65.0%、「日本育英会奨学金」46.1%、「アルバイト」44.8%、「TA」22.7%、「留学」は「その他の奨学金」42.7%、「アルバイト」27.1%、「TA」18.4%、「社会人」は「自分の給料」63.6%、「アルバイト」26.9%への依存が高い。「修士」は「親の仕送り」73.4%、「アルバイト」44.2%、「育英会奨学金」38.1%、「博士」は「育英会奨学金」47.7%、「TA」34.3%、「親の仕送り」31.0%、「アルバイト」30.2%、「医系博士」は「アルバイト」47.5%、「自分の給料」33.8%、「TA」27.5%、「日本育英会奨学金」25.0%への依存が高い。いずれの層も「アルバイト」は共通するが、他の収入源はことなる。男女差はあまりない。

(A) 文系5研究科 (文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア) の特徴

「親の仕送り」「アルバイト」「育英会奨学金」がほぼ共通した主たる収入源であるが、「親の仕送り」への依存度は理系に比べて少ない。この理由は、文系では全体に社会人・有職者の比率が高いためと考えられる。また、「教」では「親の仕送り」が15.0%と少なく、「経」では「育英会奨学金」が19.7%と少ない。その他各研究科別の特徴をあげると、「文」では「TA」、「教」では「自分の給料」「配偶者の支援」「TA」、「法」では「自分の給料」、「経」では「自分の給料」「TA」への依存が高い。

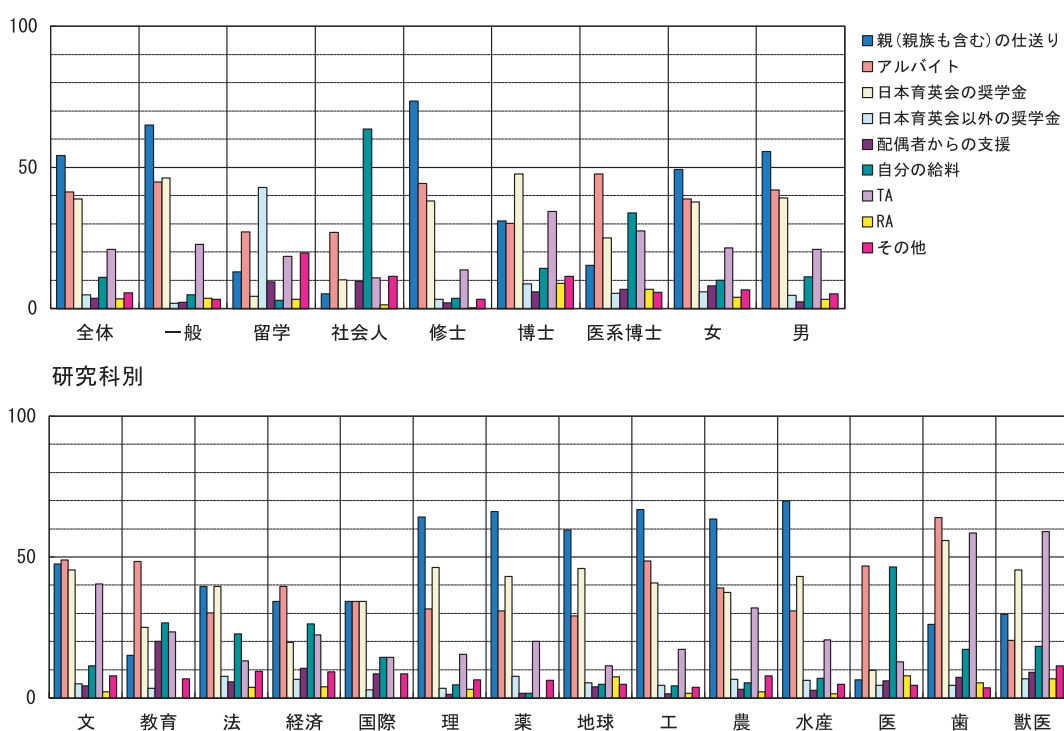
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

理系では「親の仕送り」がほぼ6割を超え、全学平均を上回っている。以下「アルバイト」と「日本育英会奨学金」が約3-4割で、この3つが共通した主たる収入源である。各研究科別の特徴をみると、「工」で「アルバイト」、「農」で「TA」への依存が高い。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

「親の仕送り」が3割以下で、理系の半分に過ぎない。その分、「医」では「アルバイト」46.8%、「自分の給料」46.5%、「歯」では「アルバイト」64.0%、「TA」58.6%、「日本育英会奨学金」55.9%、「獣」では「TA」59.1%、「日本育英会奨学金」45.5%への依存が高い。

図Ⅶ-1＜収入状況（設問77）＞



今後の在学の可能性について（設問78）

【全体の傾向】

今後の在学を可能にする経済的な見通しは「可能である」36.8%、「何とか可能である」31.8%で、合わせて68.6%がある見通しをもっている。一方、「1-2年は可能であるがそれ以上は無理」21.5%、「これ以上は無理」8.1%で、3割近くの院生が経済的な障害をもっている。

研究科別に「イ」と「ロ」をあわせた数値が低い層（経済的に比較的障害を持つ）をみると、「経」51.3%、「教」51.6%、「国際」60.0%、「地球」60.3%、「文」61.0%となり、また「ハ」と「ニ」をあわせた数値が高い方（経済的に困難な層）をみると、「経」46.0%、「教」45.0%、「地球」38.6%、「国際」37.1%、「文」36.9%で、同じ傾向を示している。経済的な見通しを持っている院生が多

い研究科は、「医」「水」「歯」「獣」などで、いずれも「イ」と「ロ」の合算額は75%を超えている。種差別にみると、経済的な見通しが比較的ある層は「社会人」「医系博士」に多く、困難層は「博士」「一般」にやや多い。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

経済的な見通しを持っているものの割合（「イ」と「ロ」をあわせた数値）は「法」を除いて全学平均を下回っており、特に「経」51.3%、「教」51.6%では、約半数にとどまっている。

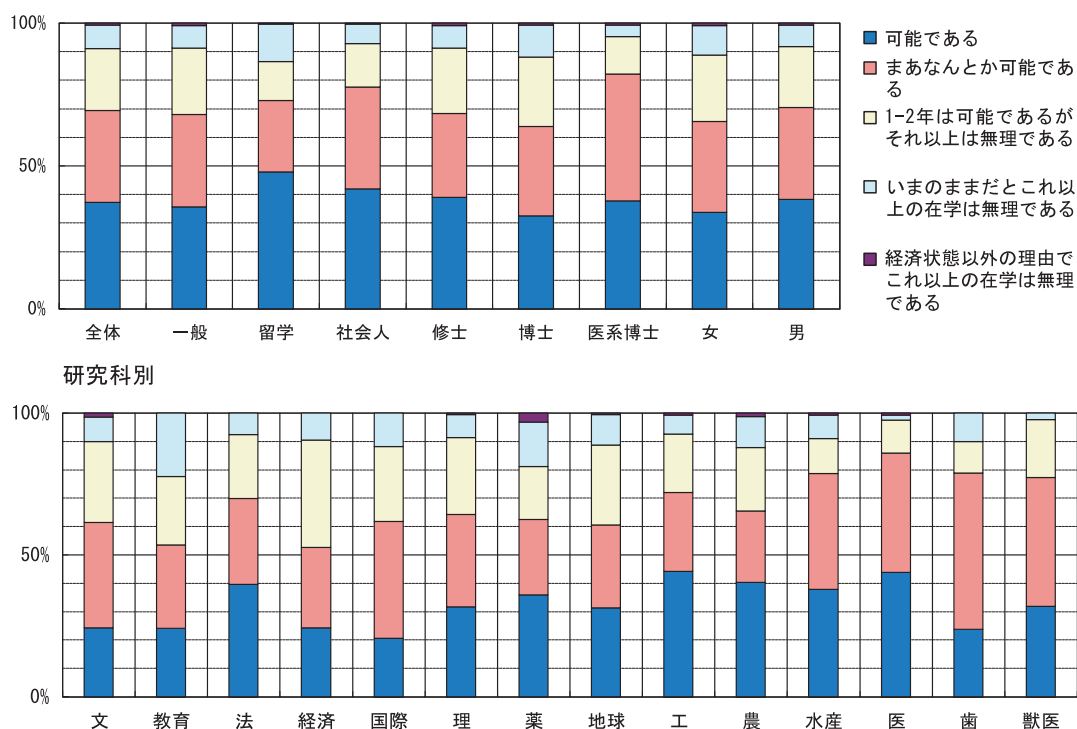
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

経済的な見通しを持っているものの割合（「イ」と「ロ」をあわせた数値）は、「工」「水」では7割を超えているが、他の研究科は6割台である。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

経済的な見通しを持っているものの割合（「イ」と「ロ」をあわせた数値）は、いずれの研究科も75%を超え、全学平均をかなり上回っている。ただし、「獣」では「1-2年は可能であるがそれ以上は無理」が20.5%と、医系の中ではやや多い。

図Ⅶ-2＜経済状況による在学の可否（設問78）＞



一ヶ月の生活費について（設問79）

【全体の傾向】

一ヶ月の生活費の額は「10-14万円」42.0%、「10万円未満」39.1%と、二つの層に集中してい

る。ついで「15-19万円」が9.7%で、「20万円以上」は7.7%に過ぎない。従って、院生のほぼ8割は15万円未満で生活していることになる。この傾向は医系を除くとほぼ共通して言えることである。種差別では、15万円未満は「一般」87.2%、「留学」77.6%、「社会人」38.5%、「修士」89.7%、「博士」81.6%、「医系博士」46.5%であり、「社会人」と「医系博士」の層は異なる傾向をみせている。ただし「社会人」の場合、自分の収入を全部カウントしている可能性があり、不正確な数字かもしれない。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

一ヶ月の生活費が15万円未満の割合は、「経」の69.7%を除き、いずれも8割を超えている。20万円以上の割合も「経」で21.1%と多く、社会人が多いことを反映しているものと考えられる。一方、「国際」では10万円未満の割合が60%と飛び抜けて多いが、これは「修士」や30歳未満の割合が多いことによるものと考えられる。

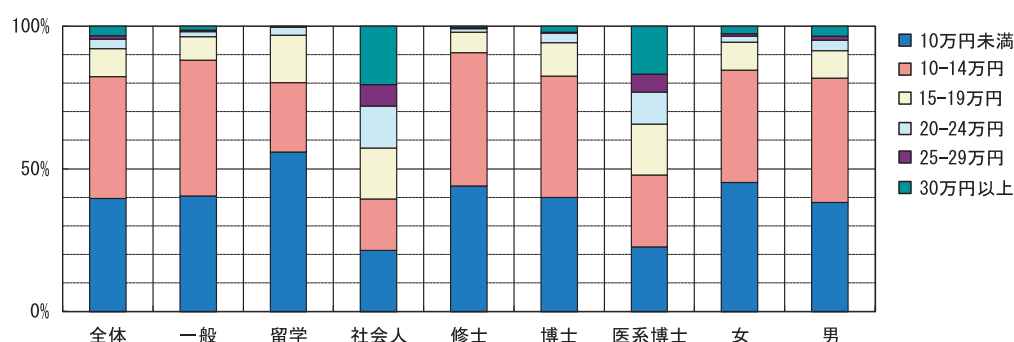
(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

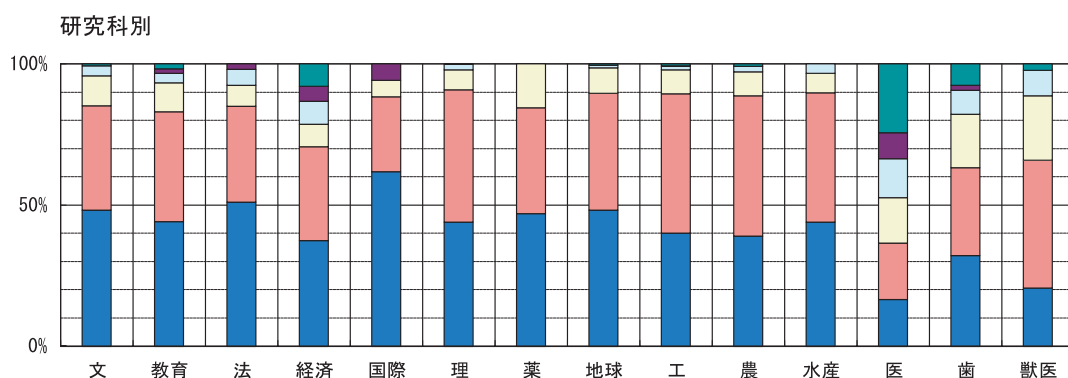
一ヶ月の生活費が15万円未満の割合は、全研究科で8割を超えており、9割近い研究科も少なくない。20万円以上の割合は最も多い「水」でも3.4%で、社会人・有職者が少ないことを反映しているものと考えられる。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

一ヶ月の生活費が15万円未満の割合は、「医」35.7%、「歯」60.3%、「獣」66.0%であり、全学平均と比べてかなり少ない。医系の中でも「医」で特に少なく、他方20万円以上の割合が46.5%と突出して多いが、これは「医」の院生の約3分の2が有職者であることによるものと思われる。

図Ⅶ-3＜1ヶ月の生活費（設問79）＞





[Ⅷ] 将来の進路（就職）について（設問80, 81）

希望する職種について（設問80）

【全体の傾向】

希望する職種を高いものから順に上げると、「民間企業の高度専門職」22.4%、「国公立研究機関」20.8%、「大学教員」14.3%、「民間研究機関」10.8%であり、この4者で68.3%となる。従って、ほぼ7割がこれらの国立・公立・民間の教育研究機関の職員を希望している。他の選択肢はいずれも高度専門職であるが個別領域に傾いているため5%台以下となっている。

職種別にみると、「大学教員」の希望者は「国際」を除く文系に多く、特に「文」「教」は4割台と多い。医系では「獣」29.5%に多い。「国公立研究機関」が多いのは理・医系で、中でも「獣」43.2%、「地球」39.2%、「水」31.5%、「理」28.3%、「薬」26.2%、「農」25.9%などで多い。「民間高度専門職員」は、「工」41.8%、「国際」37.1%で特に多く、ついで「理」21.7%、「薬」21.5%、「経」19.7%などで多い。「民間研究機関」は、「薬」18.5%、「工」15.5%、「理」13.4%、「農」12.8%である。あと個別にみて目立つのは、「法」「経」の「国家公務員」、「法」「農」「水」の「地方公務員」、「医」の「大学以外の医療機関の職員」、「歯」の「開業」などである。「その他」が多いのは「法」「教」でここには弁護士やカウンセラーなどの専門職が入るであろう。

種差別にみると、「一般」は「民間企業の高度専門職」26.0%、「国公立研究機関」21.0%、「留学」は「大学教員」40.0%、「国公立研究機関」31.0%の希望が多く、「修士」は「民間企業の高度専門職」33.8%、「博士」は「国公立研究機関」37.8%、「大学の教員」31.2%、「医系博士」は「大学以外の医療機関の職員」31.8%、「国公立研究機関」20.3%の希望が多い。「国公立研究機関」は共通して希望が多いが、他の希望先は種差別で異なる。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

「大学教員」の希望者が多く、特に「文」46.8%、「教」40.0%で多く、「法」30.2%、「経」27.6%がこれに次ぐ。「国公立研究機関」も全体的にやや多く、「法」を除いて10%台である。この他、「教」では「その他」13.3%、「法」では「その他」22.6%、「国家公務員」15.1%、「経」では「民

間企業の高度専門職」19.7%,「国家公務員」11.8%,「国際」では「民間企業の高度専門職」37.1%の希望が多い。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

「国公立研究機関」「民間企業の高度専門職」が多いが、「民間研究機関の職員」の希望も多く、全研究科で10%台である。「大学教員」は比較的少なく、10%を超えるのは「農」17.3%,「理」15.2%のみである。研究科別に特に希望の多い職種は、「地球」で「国公立研究機関」39.2%,「工」で「民間企業の高度専門職」41.8%,「水」で「国公立研究機関」31.5%である。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

理系や文系とかなり異なっており、「医」「歯」では「大学以外の医療機関の職員」や「開業」が多く、ともに過半数を占める。「国公立研究機関」「大学教員」はともに10%台である。「獣」では「国公立研究機関」43.2%,「大学教員」29.5%が圧倒的に多く、両方で7割を超えている。

就職の見通しについて（設問81）

【全体の傾向】

就職の見通しについて、希望する職種への就職が「見つかると思う」は37.4%,「困難だと思う」は27.5%で、楽観的なものが多い。なお、「まだ考えていない」が15.5%おり、「どこへ就職すればよいかわからない」も5.0%いる。楽観的なものが特に高いのは「医」45.8%,「工」44.8%で、他の理系や「法」でも30%台と比較的多い。一方、「法」を除く文系では困難だとみるものが多く、特に「文」53.9%,「国際」48.6%で悲観的なものが多い。理系では、楽観的なものが多いが、「地球」「農」「水」「理」で困難だとみるものが30%台いる。医系では「歯」が27.0%で、やや厳しいとみている。「まだ考えていない」層は、医系に多い。

種差別にみると、楽観的なものが多いのは「一般」38.3%,「留学」39.2%,「修士」40.3%,「医系博士」39.5%,「男」39.1%で、悲観的なものは「博士」43.7%に多く、また「女」32.9%にやや多い。「社会人」の場合は、当然のことながら「職場に復帰する」が13.1%と他の層に比べ多いが、「まだ考えていない」が14.9%もいる。

(A) 文系5研究科（文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア）の特徴

悲観的なものが多いが、「法」を除き、「見つかると思う」は「困難だと思う」を下回っている。特に「文」53.9%,「国際」48.6%で多く、ついで「経」39.5%,「教」36.7%と続き、「法」26.4%では比較的少ない。逆に楽観的なものは「法」37.7%で多く、ついで「経」26.3%である。「経」「法」で「職場に復帰する」が若干みられるのは、社会人が多いことを反映しているものと思われる。

(B) 理系6研究科（理学・薬学・地球環境科学・工学・農学・水産科学）の特徴

比較的楽観的なものが多いが、「地球」を除き、「見つかると思う」が「困難だと思う」を上回っ

ており、特に「工」でそれぞれ44.8%、17.9%と、この傾向が著しい。「まだ考えていない」「どこへ就職すればよいかわからない」も「薬」「工」「理」「地球」で20%前後おり、適切な進路指導が必要である。

(C) 医系3研究科（医学・歯学・獣医学）の特徴

「医」では楽観的なものが45.8%で、悲観的なものは13.1%に過ぎない。「獣」ではそれぞれ29.5%、18.2%で楽観的なものが多いが、「歯」では26.1%、27.0%と、医系の中では悲観的なものの割合が多い。「まだ考えていない」ものが「獣」36.4%、「歯」27.0%、「医」21.2%と、文系や理系と比較してかなり多い。「医」「獣」で「職場に復帰する」が10%前後みられるのは、社会人・有職者の比率が高いことを反映しているものと思われる。

(別表)

大学院教育に係るアンケート集計表

1.あなたは次のどの学生に属しますか。

	全体		文		教育		法		経済		医歯		理		農		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 一般学生	2,927	80.5	117	83.0	25	41.7	35	66.0	35	46.1	22	62.9	372	93.9	61	93.8	295	87.5	917	89.4	279	83.0	132	90.4	129	40.4	89	74.8	31	70.6	3	17.0
ロ 留学生	256	8.1	9	6.4	9	15.0	6	11.3	13	17.1	4	11.4	15	3.8	1	1.5	27	8.0	73	7.1	89	11.6	9	6.2	34	11.4	8	7.2	8	18.2	9	0.0
ハ 社会人学生	335	10.7	15	10.6	26	43.3	12	22.6	28	36.8	9	25.7	7	1.8	2	3.1	15	4.5	34	3.3	17	5.1	5	3.4	141	47.5	20	18.0	4	9.1	0	0.0
無回答	23	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.5	1	1.5	0	0.0	2	0.2	1	0.3	0	0.0	2	0.7	0	0.0	1	2.3	14	82.4
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学生		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 一般学生	2,927	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1,711	90.6	682	72.8	249	51.0	4	23.5	485	73.0	2,040	82.4	2	11.1
ロ 留学生	0	0.0	256	100.0	0	0.0	0	0.0	82	4.3	131	16.4	68	13.8	0	0.0	83	12.8	170	6.9	2	11.1
ハ 社会人学生	0	0.0	0	0.0	335	100.0	0	0.0	91	4.8	84	10.5	108	34.4	0	0.0	76	11.7	238	10.4	1	5.6
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	23	100.0	5	0.3	2	0.3	3	0.6	13	76.5	3	0.5	7	0.3	13	72.2
計	2,927		256		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

2.あなたは現在どの研究科に在籍していますか。

イ 文学	141 人	4.5 %
ロ 教育学	60 人	1.9 %
ハ 法学	53 人	1.7 %
ニ 経済学	76 人	2.4 %
ホ 理学	396 人	12.6 %
ヘ 医学	297 人	9.5 %
ト 歯学	111 人	3.5 %
チ 薬学	65 人	2.1 %
リ 工学	1,026 人	32.7 %
ヌ 農学	336 人	10.7 %
ル 獣医学	44 人	1.4 %
フ 水産科学	146 人	4.6 %
ワ 地球環境科学	337 人	10.7 %
カ 国際広報メディア	35 人	1.1 %
無回答	17 人	0.5 %
計	3,140 人	100.0 %

3.あなたの学年は(医系大学院生を除く)。

イ 修士課程1年	964 人	35.9 %
ロ 修士課程2年	925 人	34.4 %
ハ 博士後期課程1年	231 人	8.6 %
ニ 博士後期課程2年	223 人	8.3 %
ホ 博士後期課程3年	345 人	12.8 %
計	2,688 人	100.0 %

4.あなたの学年は(医系大学院生に限る)。

イ 博士課程1年	152 人	31.1 %
ロ 博士課程2年	114 人	23.4 %
ハ 博士課程3年	99 人	20.3 %
ニ 博士課程4年	123 人	25.2 %
計	488 人	100.0 %

5.性別

イ 男	647 人	20.6 %
ロ 女	2,475 人	78.8 %
無回答	18 人	0.6 %
計	3,140 人	100.0 %

大学院教育に係るアンケート集計表

6.年齢

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 24歳以下	1,497	47.7	61	43.3	12	20.0	20	37.7	12	34.3	208	52.5	49	73.4	161	47.8
ロ 25-29歳	1,028	32.7	50	35.5	13	21.7	14	26.4	25	32.9	14	40.0	156	39.4	12	18.5
ハ 30-34歳	374	11.9	11	7.8	11	18.3	7	13.2	10	14.2	3	8.6	29	7.3	4	6.2
ニ 35-39歳	121	3.8	10	7.1	7	11.7	4	7.5	3	3.9	1	2.9	2	0.5	0	0.0
ホ 40-44歳	45	1.4	4	2.8	5	8.3	2	3.8	6	7.9	2	5.7	0	0.0	0	0.0
ヘ 45-49歳	23	0.7	1	0.7	4	6.7	3	5.7	3	3.9	2	5.7	1	0.3	0	0.0
ト 50-54歳	13	0.4	2	1.4	4	6.7	1	1.9	2	2.6	1	2.9	0	0.0	0	0.0
チ 55-59歳	9	0.3	2	1.4	0	0.0	0	0.0	3	3.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
リ 60歳以上	13	0.4	0	0.0	4	6.7	2	3.8	4	5.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	17	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 24歳以下	1,483	98.7	9	3.0	2	0.6	3	13.0	1,433	76.0	49	6.1	17	3.8	3	17.6	296	45.7	1,200	48.5	1	5
ロ 25-29歳	872	34.5	91	35.7	63	18.8	2	8.7	342	18.1	506	63.3	198	40.6	0	0.0	199	30.8	826	33.4	3	16
ハ 30-34歳	135	5.3	93	36.5	141	42.1	5	21.7	38	2.0	145	20.1	41.2	0	0.0	82	12.7	231	11.8	1	5	
ニ 35-39歳	23	1.0	53	20.8	43	12.8	0	0.0	20	1.1	62	7.8	50	10.2	0	0.0	34	5.3	87	3.5	0	0
ホ 40-44歳	6	0.2	7	2.7	32	9.6	0	0.0	20	1.1	11	1.4	16	3.3	1	5.9	16	2.5	29	1.2	0	0
ヘ 45-49歳	3	0.1	0	0.0	20	6.0	0	0.0	12	0.6	7	0.9	4	0.8	0	0.0	8	1.2	19	0.6	0	0
ト 50-54歳	0	0.0	0	0.0	13	3.9	0	0.0	9	0.5	4	0.5	0	0.0	0	0.0	6	0.9	7	0.3	0	0
チ 55-59歳	1	0.0	0	0.0	8	2.4	0	0.0	5	0.3	4	0.5	1	0.3	0	0.0	3	0.5	6	0.2	0	0
リ 60歳以上	1	0.0	0	0.0	12	3.6	0	0.0	6	0.3	6	0.8	1	0.2	0	0.0	2	0.3	11	0.4	0	0
無回答	1	0.0	2	0.8	1	0.3	13	56.3	2	0.1	2	0.3	0	0.0	13	76.8	1	0.2	3	0.1	18	72
計	2,927		295		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

7.あなたは結婚していますか。

イ. 結婚している	460 人	14.6 %
ロ. 結婚していない	2,662 人	84.8 %
無回答	18 人	0.6 %
計	3,140 人	100.0 %

8.あなたの出身大学・学部はどちらですか(修士課程および医学博士課程の学生に限る・複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 北海道大学 いまの研究科と同じ学部	1,922	64.0	41	41.8	17	43.6	21	61.8	17	28.8	0	0.0	106	80.0	39	84.8
ロ 北海道大学 いまの研究科と違う学部	94	4.0	0	0.0	3	7.7	1	2.9	3	5.1	7	20.0	2	0.8	1	2.2
ハ 他大学 いまの研究科と同系列の学部	369	15.5	38	38.8	7	17.9	5	14.7	16	27.1	2	5.7	46	14.3	6	10.9
ニ 他大学 いまの研究科と異系列の学部	199	8.4	14	14.3	12	30.8	4	11.8	15	24.4	20	57.1	9	3.7	0	0.0
ホ 外国の大学 いまの研究科と同系列の学部	85	3.6	2	2.0	0	0.0	1	2.9	6	10.2	1	2.9	2	0.8	0	0.0
ヘ 外国の大学 いまの研究科と異系列の学部	27	1.1	2	2.0	2	5.1	1	2.9	0	0.0	4	11.4	1	0.4	0	0.0
ト 学位授与機構	19	0.8	1	1.0	2	5.1	0	0.0	1	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
チ その他	3	0.1	0	0.0	0	0.0	1	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	2,977	100.0	98		39		34		59		35		245		46	

	一般				留学				社会人				無回答				修士				博士				医学博士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%								
イ. 北海道大学 いまの研究科と同じ学部	1,396	71.2	9	6.0	112	43.2	5	62.5	1,294	68.5					237	48.6					261	49.5	1,258	68.2	3	60																		
ロ. 北海道大学 いまの研究科と違う学部	85	4.3	1	0.7	8	3.1	0	0.0	83	4.4					12	2.3					104	6.8	58	3.1	0	0																		
ハ. 他大学 いまの研究科と同系列の学部	272	13.9	7	4.7	89	34.4	1	12.5	240	12.7					132	27.0					79	19.7	264	14.3	1	20																		
ニ. 他大学 いまの研究科と異系列の学部	161	8.2	4	2.7	34	13.1	0	0.0	180	9.5					19	3.9					61	11.6	138	7.5	0	0																		
ホ. 外国の大学 いまの研究科と同系列の学部	3	0.2	81	54.0	1	0.4	0	0.0	49	2.6					38	7.8					31	5.9	34	2.9	0	0																		
ヘ. 外国の大学 いまの研究科と異系列の学部	2	0.1	23	15.3	2	0.8	0	0.0	22	1.2					5	1.0					18	2.7	13	0.7	0	0																		
ト. 学位授与機構	2	0.1	13	8.7	4	1.5	0	0.0	8	0.4					11	2.3					4	0.8	13	0.8	0	0																		
チ. その他	2	0.1	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.1					2	0.4					0	0.0	3	0.2	0	0																		
計	1,900		150		259		8		1,889						488						527		1,843		5																			

大学院教育に係るアンケート集計表

9.あなたの出身大学・研究科はどちらですか(博士後期課程の学生に限る・複数選択可)。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		農工		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 北海道大学 いまの研究科と同じ研究科	499	62.5	27	64.3	16	72.7	14	73.7	11	61.1	0	0.0	115	73.9	10	52.6	68	52.7	130	69.2	75	65.2	31	70.5	3	17.6	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ロ 北海道大学 いまの研究科と違う研究科	32	4.0	0	0.0	0	0.0	1	5.3	0	0.0	0	0.0	3	2.0	1	5.2	13	10.1	12	8.6	1	0.9	0	0.0	1	5.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ハ 他大学 いまの研究科と同じ系列の研究科	121	15.1	11	26.2	4	18.2	1	5.3	6	33.3	0	0.0	20	13.1	8	26.3	16	12.4	38	17.6	14	12.2	4	9.1	1	5.9	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ニ 他大学 いまの研究科と異系列の研究科	62	7.8	3	7.1	0	0.0	0	0.0	3	16.7	0	0.0	9	5.9	2	10.5	23	17.8	8	3.7	9	7.8	3	6.8	1	5.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
ホ 外国の大学 いまの研究科と同じ系列の研究科	85	10.6	3	7.1	2	9.1	2	10.5	2	11.1	0	0.0	7	4.6	1	5.3	11	8.5	31	14.4	13	11.3	5	11.4	7	41.2	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ヘ 外国の大学 いまの研究科と異系列の研究科	19	2.4	0	0.0	0	0.0	1	5.3	0	0.0	0	0.0	2	1.3	0	0.0	6	4.7	5	2.3	5	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ト その他	6	0.8	0	0.0	1	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.9	2	1.7	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	799		42		22		19		18		0		153		19		129		216		118		44		17		5		1		1		1	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 北海道大学 いまの研究科と同じ研究科	429	73.7	27	20.6	45	51.2	0	0.0			499	62.5					70	32.2	428	64.9	1	100
ロ 北海道大学 いまの研究科と違う研究科	23	4.0	1	0.8	8	9.5	0	0.0			32	4.0			3	2.2	29	4.4	0	0	0	0
ハ 他大学 いまの研究科と同じ系列の研究科	95	16.9	9	6.9	16	19.0	1	30.0			121	15.1			25	18.7	96	14.5	0	0	0	0
ニ 他大学 いまの研究科と異系列の研究科	49	8.4	1	0.8	12	14.3	0	0.0			62	7.8					11	8.2	51	7.7	0	0
ホ 外国の大学 いまの研究科と同じ系列の研究科	4	0.7	78	59.5	3	3.6	0	0.0			85	10.6					22	16.4	63	9.5	0	0
ヘ 外国の大学 いまの研究科と異系列の研究科	1	0.2	17	13.0	1	1.2	0	0.0			19	2.4					8	6.0	11	1.7	0	0
ト その他	1	0.2	1	0.8	4	4.8	0	0.0			6	0.8					2	1.5	4	0.6	0	0
計	582		131		84		2				799				131		664		1			

10.あなたは大学卒業後、職業についてはありますか(医学系の場合は研修医を含む)。

イ. ある(2年以内)	185人	5.9%
ロ. ある(3-5年)	255人	8.1%
ハ. ある(6年以上)	269人	8.6%
ニ. ない	2,382人	75.9%
無回答	49人	1.6%
計	3,140人	100.0%

11.あなたは現在職業についていますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		農工		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. 職業についている	391	12.9	17	12.1	18	30.0	9	17.0	21	27.6	6	17.1	5	1.3	1	1.9	19	5.6	35	8.4	22	6.5	9	6.2	192	64.6	29	26.1	0	13.6	2	11.8		
ロ. 職業についていない	2,710	86.3	123	87.2	42	70.0	44	83.0	51	67.1	28	80.0	386	97.5	63	96.9	314	93.2	980	95.5	312	92.9	137	93.8	90	33.3	81	73.0	37	81.1	13	78.5		
無回答	39	1.2	1	0.7	0	0.0	0	0.0	4	5.3	1	2.9	5	1.3	1	1.5	4	1.2	11	1.1	2	0.6	0	0.0	6	2.0	1	0.9	1	2.3	2	11.8		
計	3,140		141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17			

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 職業についている	117	4.6	33	12.9	238	71.0	3	13.0	74	3.9	94	11.8	231	47.5	4	23.5	79	12.2	310	12.5	2	11
ロ 職業についていない	2,391	94.6	218	84.3	89	28.6	15	65.2	1,793	94.9	697	87.2	249	51.0	11	64.7	561	86.7	2,135	86.3	14	77
無回答	19	0.8	7	2.7	8	2.4	5	21.7	22	1.2	8	1.0	5	1.6	2	11.8	7	1.1	30	1.2	2	11
計	2,537		255		335		23		1,889		799		486		17		647		2,473		18	

12.あなたが北海道大学に入学する前の住所はどちらですか。

	全体		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		農工		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 札幌市および近郊	885	28.2	25	39.0	41	68.3	29	54.7	32	42.1	22	62.9	108	27.3	20	39.8	34	10.1	289	28.8	48	14.5	56	24.7	105	33.4	59	58.2	5	11.6	2	11.6
ロ 北海道内	424	13.5	15	10.6	8	13.3	3	5.7	12	15.8	3	8.6	30	12.6	7	10.8	55	16.3	138	13.5	19	5.7	15	10.3	80	26.9	13	11.7	3	6.8	3	17.8
ハ 北海道外(国内)	1,500	50.0	62	44.0	8	13.3	15	28.3	27	35.5	7	20.0	229	65.3	36	55.4	220	65.3	51	51.8	231	69.8	87	59.6	83	27.0	33	29.7	26	59.1	10	58.8
ニ 外国	206	6.6	9	6.1	3	5.0	6	11.3	3	3.9	2	5.7	13	3.3	1	1.5	25	7.4	37	8.6	36	10.7	8	8.3	27	9.1	6	5.4	9	20.5	1	8.6
無回答	26	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.6	1	2.9	2	0.5	1	1.5	3	0.9	11	1.1	2	0.6	0	0.0	5	0.7	0	0.0	1	2.3	1	0.9
計	3,140		141		80		54		76		35		396		65		337		1,020		389		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 札幌市および近郊	694	27.5	29	11.4	153	48.3	7	30.4	529	28.0	189	23.7	179	36.7	4	23.5	232	35.9	650	26.3	3	16
ロ 北海道内	335	13.3	12	4.7	74	22.1	3	13.6	231	12.4	90	11.3	98	20.1	3	17.6	99	14.9	331	13.3	3	16
ハ 北海道外(国内)	1,474	58.3	21	8.2	85	28.4	0	39.1	1,052	55.7	402	50.3	163	31.4	8	47.1	256	38.9	1,334	53.9	10	55
ニ 外国	10	0.4	190	74.3	4	1.2	2	8.7	56	3.0	114	14.3	65	13.7	1	5.9	64	9.8	147	5.7	1	5
無回答	14	0.6	3	1.2	7	2.3	2	8.7	18	1.0	4	0.5	3	0.6	1	5.9	5	0.8	20	0.8	1	5
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		617		2,476		18	

大学院教育に係るアンケート集計表

13.(修士課程学生への設問) 修士課程進学の実機はなんですか(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	看護	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 研究者になりたいから	464	24.6	41	42.3	14	36.8	2	6.1	12	20.7	10	28.6	89	33.3	16	34.8
ロ 修士の学位を取得したいから	787	41.7	43	44.3	17	41.7	5	15.2	29	50.0	13	42.9	83	35.4	23	50.0
ハ 学部の教育だけでは十分な知識・技術が身につかなかったから	1,103	58.0	61	66.0	18	47.4	21	63.6	21	36.2	13	37.1	141	58.8	24	52.2
ニ 先生や先輩に進学を勧められたから	136	7.2	11	11.3	1	2.6	2	6.1	3	5.2	1	11.4	13	6.3	7	15.2
ホ 希望する就職ができなかったから	88	4.7	7	7.2	3	7.5	4	12.1	6	10.3	1	2.9	11	4.6	1	2.2
ヘ 就職しなかったから	315	16.7	10	10.3	1	2.6	1	3.0	4	6.9	2	5.7	36	15.0	9	19.6
ト 就職に有利だから	485	25.7	2	2.1	5	13.2	2	6.1	4	6.9	2	5.7	63	27.1	18	39.1
チ さらに研究を続けたいから	705	37.3	61	62.9	16	42.1	8	24.2	11	19.9	9	25.7	120	50.0	19	41.3
リ 高度専門職業人としての知識・技術を身につけたいから	590	31.2	21	21.6	8	21.1	20	60.6	26	44.8	18	51.1	63	27.1	14	30.4
ス 職業人として継続職業教育を受けたから	35	1.9	3	3.1	2	5.3	4	12.1	3	5.2	1	2.9	2	8.6	0	0.0
ル 職業以外の幅広い知識・教養を身につけたいから	228	12.1	15	15.5	2	5.3	4	12.1	11	19.9	5	14.3	23	9.6	4	8.7
ヲ 転職したいから	12	0.6	2	2.1	3	7.5	0	0.0	3	5.2	3	8.6	1	0.4	0	0.0
フ 国際的な研究をしたかったから	89	5.2	12	12.4	3	7.5	1	3.0	5	8.6	7	20.0	11	4.6	2	4.3
カ その他	52	2.8	2	2.1	2	5.3	6	18.2	4	6.9	3	8.6	3	2.1	1	2.2
無回答	23	1.3	1	1.0	0	0.0	0	0.0	2	3.4	1	2.9	0	0.0	1	2.2
計	1,889	100.0	97	38	33	58	35	249	46	207	89	219	102	1	3	3

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 研究者になりたいから	114	24.2	28	34.1	21	23.1	1	20.0	464	24.0					191	22.5	371	23.1	2	50.0		
ロ 修士の学位を取得したいから	711	41.7	31	37.8	41	45.1	1	20.0	787	41.7					448	36.5	638	43.1	1	25.0		
ハ 学部の教育だけでは十分な知識・技術が身につかなかったから	1,045	61.1	34	41.5	23	25.3	1	20.0	1,103	58.4					242	59.8	609	38.1	1	25.0		
ニ 先生や先輩に進学を勧められたから	125	7.3	8	9.8	3	3.3	0	0.0	136	7.2					20	6.4	110	7.4	0	0.0		
ホ 希望する就職ができなかったから	84	4.9	1	1.2	3	3.3	0	0.0	88	4.7					28	6.9	60	4.1	0	0.0		
ヘ 就職しなかったから	312	18.2	3	3.7	0	0.0	0	0.0	313	16.7					18	11.9	267	18.0	0	0.0		
ト 就職に有利だから	470	27.5	13	15.9	2	2.2	0	0.0	485	25.7					69	17.0	416	26.1	0	0.0		
チ さらに研究を続けたいから	663	38.7	21	25.6	20	22.0	1	20.0	705	37.3					182	41.9	521	35.2	2	50.0		
リ 高度専門職業人としての知識・技術を身につけたいから	517	30.2	29	35.4	44	48.4	0	0.0	590	31.2					113	27.9	477	32.2	0	0.0		
ス 職業人として継続職業教育を受けたから	19	1.1	6	7.3	10	11.0	0	0.0	35	1.9					5	1.2	30	2.0	0	0.0		
ル 職業以外の幅広い知識・教養を身につけたいから	201	11.7	9	11.0	18	19.8	0	0.0	228	12.1					37	14.1	171	11.0	0	0.0		
ヲ 転職したいから	2	0.1	0	0.0	10	11.0	0	0.0	12	0.6					5	1.2	7	0.3	0	0.0		
フ 国際的な研究をしたかったから	64	3.7	32	39.0	3	3.3	0	0.0	99	5.2					26	6.4	72	4.9	1	25.0		
カ その他	42	2.5	1	1.2	8	8.8	1	20.0	52	2.8					13	3.7	37	2.5	0	0.0		
無回答	16	0.9	1	1.2	8	8.8	0	0.0	23	1.3					8	2.0	15	1.1	0	0.0		
計	1,711		82		91		5		1,889						405		1,480		4			

14.(修士課程学生への設問) 修士課程進学を決めた時期はいつですか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	看護	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 大学入学前	366	19.4	11	11.3	3	7.9	2	6.1	3	5.2	1	2.9	36	15.0	10	21.7
ロ 学部1年	118	6.2	2	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.9	12	5.0	4	8.7
ハ 学部2年	102	5.4	3	3.1	1	2.6	2	6.1	2	3.4	2	5.7	23	9.6	3	6.5
ニ 学部3年	532	28.2	31	32.0	5	13.2	7	21.3	6	10.3	7	20.0	59	24.6	12	26.1
ホ 学部4年	594	31.4	34	35.1	10	26.3	12	36.4	19	32.8	9	25.7	82	34.2	16	34.8
ヘ 学部卒業後	29	1.5	3	3.1	4	10.3	3	9.1	4	6.9	0	0.0	1	0.4	0	0.0
ト 就職後	109	5.8	11	11.3	14	36.8	7	21.2	21	36.2	14	40.0	5	2.1	0	0.0
無回答	39	2.1	2	2.1	1	2.6	0	0.0	3	5.2	1	2.9	2	0.8	1	2.2
計	1,889	100.0	97	38	33	58	36	249	46	207	89	219	102	1	3	3

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 大学入学前	353	20.7	8	9.8	2	2.2	1	20.0	366	19.4							56	13.8	309	20.9	1	25.0
ロ 学部1年	115	6.7	3	3.7	0	0.0	0	0.0	118	6.2							18	4.4	99	6.7	1	25.0
ハ 学部2年	100	5.8	2	2.4	0	0.0	0	0.0	102	5.4							19	4.7	83	5.6	0	0.0
ニ 学部3年	519	30.3	7	8.5	3	3.3	3	60.0	532	28.2							102	23.2	430	29.1	0	0.0
ホ 学部4年	577	33.7	11	13.4	6	6.6	0	0.0	594	31.4							142	35.1	451	30.5	1	25.0
ヘ 学部卒業後	10	0.6	10	19.5	3	3.3	0	0.0	29	1.5							9	2.2	20	1.4	0	0.0
ト 就職後	11	0.6	32	39.0	66	72.5	0	0.0	109	5.8							46	11.4	62	4.2	1	25.0
無回答	24	1.4	3	3.7	11	12.1	1	20.0	39	2.1							13	3.2	26	1.8	0	0.0
計	1,711		82		91		5		1,889								405		1,480		4	

大学院教育に係るアンケート集計表

15.(修士課程学生への設問) 所属する研究科を志望した理由は何ですか(複数選択可)。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		情報		工		農		水産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 出身大学だから	978	61.6	33	34.0	13	34.2	19	57.6	14	24.1	4	11.4	133	55.4	34	73.9	23	11.1	529	65.6	107	48.9	63	61.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3
ロ 先生や先輩に勧められたから	169	8.9	17	17.5	2	5.3	1	3.0	3	8.6	7	20.0	17	7.1	3	6.5	37	17.9	53	6.6	18	8.2	8	7.8	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0
ハ 就職に有利だから	100	3.3	0	0.0	0	0.0	1	3.0	3	5.2	1	2.9	8	3.3	1	2.2	6	2.8	68	8.4	7	3.2	5	4.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3
ニ 教育研究設備が充実しているから	230	12.2	19	19.6	3	7.9	6	18.2	5	8.6	4	11.4	24	10.0	7	15.2	49	23.7	73	9.2	29	13.2	9	8.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ホ 自分の興味ある研究が行われているから	1,089	57.6	47	48.6	26	68.4	10	30.3	24	41.4	24	68.6	146	60.8	28	60.9	162	78.5	417	51.7	134	61.2	70	68.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3
ヘ 指導を受けたい先生がいるから	467	24.7	41	42.3	16	42.1	14	42.4	20	34.8	6	17.1	56	23.3	9	19.6	58	28.0	166	20.6	51	23.3	28	27.5	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3
ト 職場で動められたから	9	0.2	0	0.0	1	2.6	1	3.0	0	0.0	0	0.0	2	0.8	0	0.0	2	1.0	3	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
チ 特定の資格を取れるから	27	1.4	2	2.1	1	2.6	0	0.0	7	12.1	2	5.7	2	0.8	0	0.0	3	2.4	6	0.7	1	0.5	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
リ 先端的な研究ができるから	165	8.7	9	9.3	8	7.9	1	3.0	3	5.2	2	6.7	24	10.0	6	13.0	25	12.1	65	8.1	16	7.3	11	10.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ス 他大学にない特色があるから	187	9.9	11	11.3	6	13.2	1	3.0	3	5.2	15	42.9	18	7.3	1	2.2	42	20.3	50	6.2	26	11.9	15	14.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ル 星夜朝講制など通学条件に合うから	27	1.4	3	3.1	3	13.2	4	12.1	4	6.9	4	11.4	3	1.3	0	0.0	1	0.3	2	0.2	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ヲ 転職に都合がいいから	3	0.2	0	0.0	1	2.6	0	0.0	2	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ヅ 大学院ガイドブックなどの大学紹介をみてよいと思ったから	108	5.7	11	11.3	1	2.6	3	9.1	9	15.5	2	5.7	12	5.0	3	6.5	46	22.2	16	2.0	5	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
カ ほかの大学院と比べて入学するのにやさしいから	172	9.1	4	4.1	1	2.6	5	15.2	4	6.9	1	2.9	21	8.8	3	6.5	28	12.1	73	9.0	29	13.2	6	5.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
コ 日本の文部科学省や自国の文部科学省や大使館の推薦があったから	10	0.5	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.9	1	0.4	0	0.0	3	1.4	3	0.4	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ク その他	83	4.4	10	10.3	2	5.3	4	12.1	3	5.2	5	14.3	8	3.3	0	0.0	12	5.8	23	3.1	9	4.1	5	4.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	34	1.8	2	2.1	1	2.6	0	0.0	2	3.4	0	0.0	6	2.5	0	0.0	4	1.9	13	1.6	4	1.8	0	0.0	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0
計	1,889	100.0	97		38		33		58		35		240		46		207		807		219		102		1		3		0		3	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 出身大学だから	953	56.8	2	2.4	13	14.3	3	60.0	973	51.3					167	41.2	804	54.3	2	56		
ロ 先生や先輩に勧められたから	143	8.5	17	20.7	7	7.7	0	0.0	169	8.9					41	10.1	128	8.6	0	0		
ハ 就職に有利だから	90	5.3	7	8.5	2	2.2	1	20.0	100	5.3					13	3.2	87	5.9	0	0		
ニ 教育研究設備が充実しているから	204	11.9	10	12.2	16	17.6	0	0.0	230	12.2					51	12.6	179	12.1	0	0		
ホ 自分の興味ある研究が行われているから	985	57.6	49	59.8	53	58.2	2	40.0	1,089	57.6					243	60.5	841	56.8	3	70		
ヘ 指導を受けたい先生がいるから	412	24.1	24	29.3	28	30.8	3	60.0	467	24.7					119	29.4	347	23.4	1	25		
ト 職場で動められたから	3	0.2	4	4.9	2	2.2	0	0.0	9	0.5					4	1.0	5	0.3	0	0		
チ 特定の資格を取れるから	17	1.0	4	4.9	6	6.6	0	0.0	27	1.4					7	1.7	20	1.4	0	0		
リ 先端的な研究ができるから	141	8.2	15	18.3	9	9.9	0	0.0	165	8.7					19	4.7	146	9.9	0	0		
ス 他大学にない特色があるから	172	10.1	8	9.8	7	7.7	0	0.0	187	9.9					38	9.6	148	10.0	0	0		
ル 昼夜朝講制など通学条件に合うから	10	0.6	0	0.0	17	18.7	0	0.0	27	1.4					10	2.5	17	1.1	0	0		
ヲ 転職に都合がいいから	0	0.0	0	0.0	3	3.3	0	0.0	3	0.2					0	0.0	3	0.2	0	0		
ヅ 大学院ガイドブックなどの大学紹介をみてよいと思ったから	91	5.3	7	8.5	10	11.0	0	0.0	108	5.7					25	6.2	83	5.6	0	0		
カ ほかの大学院と比べて入学するのにやさしいから	199	9.9	1	1.2	2	2.2	0	0.0	172	9.1					36	8.9	136	9.2	0	0		
コ 日本の文部科学省や自国の文部科学省や大使館の推薦があったから	1	0.1	9	11.0	0	0.0	0	0.0	10	0.5					5	1.2	5	0.3	0	0		
ク その他	66	3.9	4	4.9	13	14.3	0	0.0	83	4.4					39	7.2	54	3.6	0	0		
無回答	26	1.5	4	4.9	4	4.4	0	0.0	34	1.8					10	2.5	24	1.6	0	0		
計	1,711		82		91		5		1,889						403		1,480		4			

16.(修士課程学生への設問) あなたが受けた入学試験は次のどれですか。

	全体			教育			法			経済			国際			理			薬			情報			工			農			水産			医			歯			獣医			無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%							
イ 一般入試(修士前期課程入試推薦入学を含む)	1,163	61.6	41	42.3	15	39.5	5	15.2	11	19.0	18	51.4	197	82.1	37	80.4	154	74.4	120	54.0	163	74.4	83	81.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0									
ロ 一般入試(修士課程専修コース入試)	569	30.1	40	41.2	6	15.8	20	60.6	19	32.8	5	14.3	33	13.8	9	19.6	43	20.8	338	11.9	40	18.3	14	13.7	1	100.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0									
ハ 社会人特別選抜入試	61	3.4	12	12.4	14	36.9	6	18.2	21	35.2	8	22.9	0	0.0	0	0.0	2	1.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0									
ニ 外国人留学生特別選抜入試	58	3.1	2	2.1	3	7.9	2	6.1	7	12.1	4	11.4	1	0.4	0	0.0	3	1.4	20	2.5	13	5.9	3	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0									
無回答	35	1.9	2	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.4	13	1.6	2	0.9	2	0.9	2	2.0	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0											
計	1,889	100.0	97		38		33		58		35		240		46		207		807		219		102		1		3		0		3														

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 一般入試(修士前期課程入試推薦入学を含む)	1,133	66.2	11	13.4	17	18.7	2	40.0	1,163	61.6							232	57.3	630	62.8	1	35
ロ 一般入試(修士課程専修コース入試)	518	32.0	10	12.2	9	9.9	2	40.0	569	30.1							116	28.6	432	30.5	1	25
ハ 社会人特別選抜入試	1	0.1	2	2.4	61	67.0	0	0.0	64	3.4							27	36	2.4	2.3		
ニ 外国人留学生特別選抜入試	0	0.0	57	69.5	1	1.1	0	0.0	58	3.1							24	5.9	33	2.2	1	25
無回答	39	1.7	2	2.4	3	3.3	1	20.0	35	1.9							6	1.5	29	2.0	0	0
計	1,711		82		91		5		1,889								405		1,480		4	

大学院教育に係るアンケート集計表

17.(博士後期課程および医系博士課程の学生への設問) 博士課程進学の動機はなんですか(複数選択可)。

	全世	女	初登	法	経済	理	農	地球	工	農	文芸	医	農	獣	看護	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 研究者になりたいから	581	46.5	35	81.4	13	56.1	13	65.0	12	66.7	0	0.0	86	55.1	11	73.7
ロ 博士の学位を取得したいから	691	55.6	21	48.8	12	54.5	10	50.0	8	44.4	0	0.0	64	41.0	13	86.4
ハ 留学したいから	143	11.4	4	9.3	3	13.6	3	15.0	4	22.2	0	0.0	13	8.3	0	26.3
ニ さらに高度の知識、技術を身につけたいから	695	56.0	21	55.8	11	59.0	11	55.0	10	55.6	0	0.0	86	55.1	9	47.4
ホ 先生に進学を勧められたから	131	10.5	4	9.3	2	9.1	3	15.0	1	5.6	0	0.0	8	5.1	2	10.5
ヘ 希望する就職ができなかったから	57	4.6	4	9.3	4	18.2	1	5.0	2	11.1	0	0.0	12	7.7	1	5.0
ト 就職しなくなったから	46	3.7	3	7.0	0	0.0	1	5.0	1	5.6	0	0.0	12	7.7	3	15.8
チ 就職に有利だから	46	3.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	7	4.5	1	5.0
リ さらに研究を続けたかったから	494	39.6	26	60.5	13	59.1	11	55.0	8	44.4	0	0.0	85	54.5	12	63.2
ヌ 職場で勧められたから	68	5.4	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.3	0	0.0
ル 資格取得に必要なから	21	1.7	1	2.3	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ヲ 国際的な研究をしたかったから	222	17.8	4	9.3	3	13.6	3	15.0	4	22.2	0	0.0	20	12.8	2	10.5
ヲ その他	33	2.6	1	2.3	1	4.5	0	0.0	1	5.6	0	0.0	1	0.6	0	0.0
無回答	32	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.3	0	0.0
計	1,249	100.0	43		22		20		18		0		156		19	

	一般				留学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 研究者になりたいから	492	52.6	80	50.8	58	23.6	1	20.0			476	59.6	122	25.0			110	44.5	489	95.9	2	100		
ロ 博士の学位を取得したいから	408	49.7	110	62.8	175	71.1	1	20.0			408	51.1	304	62.3			136	55.9	557	85.7	5	100		
ハ 留学したいから	62	7.6	64	36.2	17	6.9	0	0.0			78	9.8	74	15.2			48	19.4	95	9.5	0	0		
ニ さらに高度の知識、技術を身につけたいから	489	57.1	98	55.4	130	52.8	2	40.0			411	55.3	379	57.2			138	55.9	560	66.0	1	100		
ホ 先生に進学を勧められたから	78	9.5	13	7.3	40	16.3	0	0.0			52	6.5	83	17.0			30	12.1	103	10.3	0	0		
ヘ 希望する就職ができなかったから	51	6.2	2	1.1	4	1.6	0	0.0			50	6.3	8	1.6			12	4.9	43	4.5	0	0		
ト 就職しなくなったから	43	5.2	3	1.7	0	0.0	0	0.0			41	5.1	3	1.0			7	2.8	39	3.9	0	0		
チ 就職に有利だから	17	2.1	21	11.9	8	3.3	0	0.0			26	3.3	23	4.7			11	4.5	35	3.5	0	0		
リ さらに研究を続けたかったから	383	46.7	55	31.1	64	22.9	2	40.0			428	53.6	76	15.6			39	37.7	401	40.1	0	0		
ヌ 職場で勧められたから	13	1.6	4	2.3	51	20.7	0	0.0			13	1.6	55	11.3			8	3.2	60	6.0	0	0		
ル 資格取得に必要なから	6	0.7	9	5.1	6	2.4	0	0.0			8	1.0	14	2.9			7	2.8	14	1.4	0	0		
ヲ 国際的な研究をしたかったから	108	13.2	67	37.9	44	17.9	3	60.0			137	17.1	94	19.3			49	19.8	172	17.2	1	100		
ワ その他	19	2.3	4	2.3	10	4.1	0	0.0			19	2.4	14	2.9			7	2.8	26	2.6	0	0		
無回答	20	2.4	9	5.1	3	1.2	0	0.0			11	1.4	24	4.9			14	4.5	21	2.1	0	0		
計	821		177		246		5				799		488				247		1,000		21		21	

18.(博士後期課程および医系博士課程の学生への設問) 博士課程進学を決めた時期はいつですか(複数選択可)。

	全世	女	初登	法	経済	理	農	地球	工	農	文芸	医	農	獣	看護	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 大学入学前	85	6.9	2	4.7	0	0.0	1	5.0	0	0.0	23	14.7	3	15.8	10	4.5
ロ 学部1年	10	0.8	1	2.3	0	0.0	0	0.0	2	1.3	0	0.0	1	0.8	0	0.0
ハ 学部2年	5	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8	1	2.3
ニ 学部3年	24	1.9	5	11.6	0	0.0	2	10.0	2	11.1	0	0.0	3	2.6	0	0.0
ホ 学部4年	76	6.1	5	11.6	1	4.5	6	30.0	3	16.7	0	0.0	16	10.3	0	0.0
ヘ 学部5年(医系)	24	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ト 学部6年(医系)	82	6.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	0	0.0
チ 学部卒業後	287	23.0	7	16.3	0	0.0	1	5.0	0	0.0	5	3.2	0	0.0	5	3.8
リ 修士1年	181	14.5	4	9.3	3	13.6	0	0.0	8	44.4	0	0.0	44	28.2	7	36.8
ヌ 修士2年	283	22.7	10	23.3	11	50.0	5	25.0	4	22.2	0	0.0	55	35.3	8	26.3
ル 修士課程修了後	153	12.2	9	20.9	7	31.8	5	25.0	0	0.0	6	3.8	3	15.8	11	8.6
無回答	39	3.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	6	4.6
計	1,219	100.0	43		22		20		18		0		156		19	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 大学入学前	70	8.5	8	4.5	6	2.4	1	20.0			67	8.4	30	4.1			13	5.3	72	7.2	0	0.0
ロ 学部1年	7	0.9	3	1.7	0	0.0	0	0.0			7	0.9	4	0.8			3	1.2	7	0.7	0	0.0
ハ 学部2年	4	0.5	1	0.6	0	0.0	0	0.0			4	0.5	2	0.4			0	0.0	4	0.4	1	50.0
ニ 学部3年	22	2.7	2	1.1	0	0.0	0	0.0			24	3.0	0	0.0			2	0.8	22	2.2	0	0.0
ホ 学部4年	67	8.2	7	4.0	2	0.8	0	0.0			69	8.6	7	1.4			8	3.2	68	6.8	0	0.0
ヘ 学部5年(医系)	18	2.2	4	2.3	1	0.4	1	20.0			0	0.0	24	4.9			10	4.0	14	1.4	0	0.0
ト 学部6年(医系)	73	8.9	4	2.3	5	2.0	0	0.0			1	0.1	82	16.8			28	11.3	54	5.4	0	0.0
チ 学部卒業後	113	13.8	33	18.6	138	56.1	3	60.0			47	5.9	292	31.6			58	23.5	229	22.9	0	0.0
リ 修士1年	133	16.3	21	11.9	5	2.0	0	0.0			174	21.8	9	1.8			27	10.9	151	15.4	0	0.0
ヌ 修士2年	237	28.9	32	18.1	14	5.7	0	0.0			269	33.7	21	4.3			32	23.1	230	23.0	1	50.0
ル 修士課程修了後	34	4.1	50	28.2	69	28.0	0	0.0			120	15.0	40	8.2			32	13.0	121	12.1	0	0.0
無回答	21	2.6	12	6.8	6	2.4	0	0.0			17	2.1	27	5.5			14	5.7	25	2.5	0	0.0
計	821		177		246		5				799		488				247				2	

大学院教育に係るアンケート集計表

19.(博士後期課程および医系博士課程の学生への設問) あなたが所属する研究科を志望した理由はなんですか(複数選択可)。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		薬		水産		獣		商		医療		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 出身大学だから	384	39.7	16	37.2	6	27.3	10	50.0	6	33.3	0	0.0	47	30.1	6	31.6	24	18.3	79	35.3	30	25.0	10	22.7	89	30.0	63	47.7	8	18.2	0	0.0
ロ 先生や先輩に勧められたから	187	19.6	7	16.5	2	9.1	3	16.0	3	16.7	0	0.0	17	10.9	2	10.5	16	12.3	21	9.4	16	13.3	5	11.4	61	20.5	27	24.3	8	18.2	0	0.0
ハ 就職に有利だから	28	2.9	3	4.7	0	0.0	2	10.0	0	0.0	0	0.0	2	1.3	0	0.0	3	2.3	8	3.6	0	0.0	0	0.0	8	2.7	2	1.8	1	2.3	0	0.0
ニ 教育研究設備が充実しているから	177	14.2	7	16.3	2	9.1	4	20.0	1	5.6	0	0.0	24	15.4	6	31.6	29	22.3	27	12.1	23	19.2	2	4.3	31	10.4	10	9.0	11	25.0	0	0.0
ホ 自分の興味のある研究が行われているから	648	51.9	21	48.8	11	63.6	9	45.0	5	27.8	0	0.0	86	55.1	10	52.6	82	63.1	121	54.0	72	60.0	26	58.1	131	44.1	30	45.0	20	43.8	1	100.0
ヘ 指導を受けたい先生がいるから	374	29.9	25	58.1	10	45.5	11	55.0	10	52.6	0	0.0	19	12.1	2	10.5	43	33.1	73	32.6	42	35.0	17	38.6	63	18.6	26	23.4	16	22.7	1	100.0
ト 修論テーマについてさらに研究を続けたかったから	343	27.5	21	48.8	11	56.0	6	30.0	9	50.0	0	0.0	36	35.9	10	52.6	32	40.0	80	35.7	37	47.8	17	38.6	10	3.4	1	0.9	13	29.5	0	0.0
チ 職場で勧められたから	56	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	1	0.8	3	2.2	2	1.7	0	0.0	42	14.1	5	4.5	0	0.0	0	0.0
リ 転機を考えているから	7	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.3	2	1.3	1	0.4	1	0.8	0	0.0	1	0.3	1	0.9	0	0.0	0	0.0
ヌ 資格を取れるから	23	1.8	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	3.7	6	3.4	1	2.3	0	0.0
ル 先進的な研究をしているから	182	13.0	5	11.6	1	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	21	13.5	4	21.1	22	16.9	33	14.7	6	5.0	4	9.1	47	15.8	12	10.8	7	15.0	0	0.0
ロ 昼夜間断続など通学条件にかなうから	14	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	1	0.8	2	0.9	0	0.0	0	0.0	2	0.7	8	7.2	0	0.0	0	0.0
ワ 他大学にない特色ある研究をしているから	86	6.9	4	9.3	3	13.6	1	5.0	2	11.1	0	0.0	12	7.7	0	0.0	19	14.6	21	9.4	7	5.8	5	11.4	6	2.0	3	1.5	1	2.3	0	0.0
カ 国際的に優れた研究をしているから	105	8.4	3	7.0	0	0.0	0	0.0	2	11.1	0	0.0	9	5.8	2	10.5	17	13.1	20	8.9	6	5.0	2	4.3	33	11.1	5	4.5	5	11.4	1	100.0
ヨ その他	60	4.8	2	4.7	1	4.5	2	10.0	1	5.6	0	0.0	7	4.3	2	10.5	3	2.3	6	2.7	7	5.8	6	11.4	13	4.4	7	6.3	4	9.1	0	0.0
無回答	26	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.3	0	0.0	3	2.3	8	3.6	5	4.2	0	0.0	7	2.4	1	0.9	0	0.0	0	0.0
計	1,249	100.0	43		22		20		18		0		156		19		130		224		120		44		297		111		44		1	

	一般		法学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 出身大学だから	285	34.7	10	5.6	88	35.8	1	20.0			236	29.5	153	31.4			63	23.3	321	32.1	0	0.0
ロ 先生や先輩に勧められたから	109	13.8	26	14.7	52	21.1	0	0.0			91	11.4	101	20.7			42	17.0	145	14.3	0	0.0
ハ 就職に有利だから	12	1.5	10	5.6	6	3.4	0	0.0			17	2.1	13	2.7			8	3.2	20	2.0	0	0.0
ニ 教育研究設備が充実しているから	136	16.6	22	12.4	19	7.7	0	0.0			125	15.6	55	11.3			28	11.3	149	14.0	0	0.0
ホ 自分の興味のある研究が行われているから	450	54.8	95	53.7	100	40.7	3	60.0			453	56.7	212	43.4			128	51.8	319	31.9	1	50.0
ヘ 指導を受けたい先生がいるから	249	30.3	42	23.7	82	33.3	1	20.0			285	35.8	96	19.7			80	32.4	204	20.4	0	0.0
ト 修論テーマについてさらに研究を続けたかったから	288	35.1	53	18.6	22	8.9	0	0.0			320	40.1	28	5.7			63	25.5	278	27.8	2	100.0
チ 職場で勧められたから	12	1.5	3	1.7	41	16.7	0	0.0			10	1.3	48	9.8			7	2.8	49	4.9	0	0.0
リ 転機を考えているから	1	0.1	3	1.7	3	1.2	0	0.0			6	0.6	2	0.4			1	0.4	6	0.6	0	0.0
ヌ 資格を取れるから	10	1.2	5	2.3	9	3.7	0	0.0			4	0.5	19	3.9			7	2.8	16	1.6	0	0.0
ル 先進的な研究をしているから	88	10.7	43	24.3	30	12.2	1	20.0			99	12.4	70	14.3			22	8.9	140	14.0	0	0.0
ロ 昼夜間断続など通学条件にかなうから	2	0.2	0	0.0	12	4.9	0	0.0			3	0.6	10	2.0			3	1.2	11	1.1	0	0.0
ワ 他大学にない特色ある研究をしているから	58	7.1	13	7.3	13	6.1	0	0.0			73	9.4	14	2.9			9	3.6	77	7.7	0	0.0
カ 国際的に優れた研究をしているから	50	6.1	34	19.2	20	8.1	1	20.0			64	8.0	46	9.4			16	6.5	89	8.9	0	0.0
ヨ その他	41	5.0	3	1.7	16	6.5	0	0.0			37	4.6	23	5.1			12	4.9	48	4.8	0	0.0
無回答	16	1.9	7	4.0	2	0.8	1	20.0			6	0.8	21	4.3			10	4.0	16	1.6	0	0.0
計	824		177		246		5				796		488				247		1,000		2	

20.(博士後期課程および医系博士課程の学生への設問) あなたが受けた入学試験は次のどれですか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		建設		工		薬		水産		畜		獣医		無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
イ 一般入試	1,030	82.5	40	93.0	15	68.2	11	55.0	13	72.2	0	0.0	147	94.2	19	100.0	112	86.0	154	68.8	83	77.5	34	77.3	270	90.9	98	79.3	33	75.0	1	100.0
ロ 社会人特別選抜入試	74	5.9	1	2.3	3	13.6	4	20.0	1	5.6	0	0.0	1	0.6	0	0.0	3	2.3	26	11.6	7	5.8	4	9.1	5	1.7	16	14.4	3	6.8	0	0.0
ハ 外国入留学生特別選抜入試	120	9.6	1	2.3	4	18.2	4	20.0	4	22.2	0	0.0	7	4.5	0	0.0	11	8.5	33	15.6	16	13.3	6	13.6	19	6.4	3	1.5	8	18.2	0	0.0
無回答	25	2.0	1	2.3	0	0.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	4	3.1	9	4.0	4	3.3	0	0.0	3	1.0	2	1.8	0	0.0	0	0.0
計	1,249	100.0	43		22		20		18		0		156		19		130		224		120		44		297		111		44		1	

	一般		法学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 一般入試	807	98.3	48	27.1	174	70.7	1	20.0			646	80.9	403	82.6			187	73.7	841	84.1	2	100.0
ロ 社会人特別選抜入試	1	0.1	3	1.7	68	27.6	2	40.0			51	6.4	23	5.1			14	5.7	60	6.0	0	0.0
ハ 外国入留学生特別選抜入試	0	0.0	117	66.1	1	0.4	2	40.0			92	11.5	43	8.8			34	13.8	86	8.6	0	0.0
無回答	13	1.6	9	5.1	3	1.2	0	0.0			10	1.3	17	3.5			12	4.9	13	1.3	0	0.0
計	824		177		246		5				796		488				247		1,000		2	

21.あなたは本学の大学院へ進学してよかったと思いますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		工		薬		水産		畜		獣医		無回答					
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%				
イ よかった	1,208	38.3	52	36.9	27	45.0	23	47.2	33	43.4	16	55.7	130	32.8	18	27.7	149	44.2	412	40.2	122	36.3	58	40.4	110	37.0	31	27.9	18	40.9	6	33.3
ロ まあよかった	806	25.7	35	24.8	9	15.0	16	30.2	12	15.8	11	31.4	128	32.3	17	26.2	71	21.1	241	23.5	96	28.6	35	24.0	87	29.3	34	30.6	11	25.0	3	17.6
ハ どちらともいえない	491	15.6	19	13.5	8	13.3	5	9.4	9	11.8	2	5.7	13	15.1	12	18.5	43	12.8	122	11.9	62	15.5	22	15.1	83	27.6	36	32.4	14	31.5	3	17.6
ニ よくないとはなかった	63	2.0	3	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	2.0	2	3.1	4	1.2	14	1.4	7	2.1	4	2.7	13	4.1	7	6.3	1	2.3	0	0.0
無回答	572	18.2	32	22.7	16	26.7	7	13.2	22	28.6	6	17.1	69	17.4	16	24.6	70	20.8	237	23.1	59	17.6	26	17.6	4	1.3	3	2.7	0	0.0	6	29.4
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		317		1,026		336		146		297		111		44		17	

大学院教育に係るアンケート集計表

2.2.(修士課程学生への設問)

修士課程の研究テーマはどのようにして決めましたか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	農	工学	医	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ テーマは自分で決めた	482	25.3	70	72.2	28	73.7	10	30.3	36	62.1	26	74.3	38	15.8	5	10.9
ロ テーマは指導教官の指導によるものである	1,119	59.2	12	12.4	2	5.3	4	12.1	8	8.6	3	8.6	172	71.7	38	82.6
ハ テーマはまだ決めていない	216	11.4	12	12.4	2	5.3	17	51.5	11	19.0	4	11.4	27	11.3	2	4.3
ニ テーマは職場の要請で決めた	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ホ テーマは職場の仕事と関係があるが自分で決めた	15	0.8	1	1.0	5	13.2	1	3.0	5	8.6	0	0.0	0	0.0	1	0.3
ヘ その他	42	2.2	1	1.0	1	2.6	1	3.0	1	1.7	2	5.7	1	0.4	0	0.0
無回答	15	0.8	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.5	1	0.4	1	0.3
計	1,889	100.0	97		38		33		58		35		240		46	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		臨床修士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ テーマは自分で決めた	366	23.1	32	39.0	52	57.1	2	10.0	482	25.5					149	36.8	350	32.3	3	75		
ロ テーマは指導教官の指導によるものである	1,067	62.4	38	46.5	11	12.1	3	60.0	1,119	59.2					195	48.1	923	62.4	1	25		
ハ テーマはまだ決めていない	201	11.7	3	3.7	12	13.2	0	0.0	216	11.4					38	9.4	178	32.6	0	0		
ニ テーマは職場の要請で決めた	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0					0	0.0	0	0.0	0	0		
ホ テーマは職場の仕事と関係があるが自分で決めた	0	0.0	3	3.7	12	13.2	0	0.0	15	0.8					3	0.7	12	0.8	0	0		
ヘ その他	37	2.2	4	4.9	1	1.1	0	0.0	42	2.2					17	4.2	25	1.7	0	0		
無回答	10	0.6	2	2.4	3	3.3	0	0.0	15	0.8					3	0.7	12	0.8	0	0		
計	1,711		82		91		5		1,889						405		1,480		4			

2.3.(設問22でハと答えた方)

修士課程の研究テーマをどのようにして決めますか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	農	工学	医	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 自分で決める	23	10.6	1	8.3	0	0.0	6	35.3	3	27.3	1	25.0	2	7.4	0	0.0
ロ 指導教官と相談し、自分で決める	172	79.6	10	83.3	2	100.0	11	61.7	8	72.7	3	75.0	22	81.5	2	100.0
ハ 自分で決めることができないので、指導教官の指示に従う	16	7.4	1	8.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	11.1	0	0.0
ニ その他	3	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	216	100.0	12		2		17		11		4		27		2	

	一般				留学				社会人				無回答				修士				博士				臨床修士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%								
イ 自分で決める	21	10.4	0	0.0	2	16.7	0	0.0	23	10.6																	4	10.5	19	10.7	0	0												
ロ 指導教官と相談し、自分で決める	189	79.1	3	100.0	10	83.3	0	0.0	172	79.6																	32	84.2	140	78.7	0	0												
ハ 自分で決めることができないので、指導教官の指示に従う	16	8.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	16	7.4																	1	2.6	15	8.4	0	0												
ニ その他	6	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	2.3																	1	2.6	4	2.2	0	0												
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0																	0	0.0	0	0.0	0	0												
計	201		3		12		0		216																		35		174		0													

2.4.(修士課程学生への設問)

あなたの研究テーマについてどう思いますか(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	農	工学	医	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ テーマに興味があり、研究のやり甲斐がある	1,309	69.3	75	77.3	35	92.1	16	98.8	43	74.1	27	77.1	163	67.9	30	65.2
ロ テーマに興味持せず、仕方なく研究している	159	8.4	2	2.1	0	0.0	0	0.0	2	3.4	0	0.0	25	10.4	4	8.7
ハ テーマについてまだ十分理解できない	479	25.4	33	34.0	6	15.8	11	33.3	13	22.4	8	22.9	62	25.8	10	21.7
ニ テーマを変えようと思う	44	2.3	0	0.0	1	2.6	1	3.0	4	6.9	2	5.7	16	4.2	1	2.2
無回答	91	4.8	2	2.1	0	0.0	6	18.2	1	1.7	1	2.9	10	4.2	4	8.7
計	1,889	100.0	97		38		23		58		35		240		46	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		臨床修士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ テーマに興味があり、研究のやり甲斐がある	1,107	68.2	64	78.0	74	81.2	4	80.0	1,309	69.3							398	73.0	1,009	68.2	2	50
ロ テーマに興味持せず、仕方なく研究している	150	8.8	7	8.6	1	1.1	1	20.0	159	8.4							24	5.9	134	9.1	1	25
ハ テーマについてまだ十分理解できない	450	26.6	10	12.2	14	15.4	0	0.0	470	25.4							105	26.9	373	27.5	21	230
ニ テーマを変えようと思う	40	2.3	2	2.4	2	2.2	0	0.0	44	2.3							9	2.2	35	2.4	0	0
無回答	85	5.0	2	2.4	4	4.4	0	0.0	91	4.8							17	4.2	74	6.0	0	0
計	1,711		82		91		5		1,889								405		1,480		3	

大学院教育に係るアンケート集計表

25.(博士後期課程および医系博士課程の学生への設問) 博士課程の研究テーマはどのようにして決めましたか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	農	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	総合医
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. テーマは自分が決めた	449	35.9	33	78.7	19	86.4	14	70.0	12	66.7	0	0.0	68	43.6	4	21.1
ロ. テーマは指導教官の指導によるものである	587	47.0	7	16.3	1	4.5	3	15.0	6	33.3	0	0.0	63	41.7	13	68.4
ハ. テーマはまだ決めていない	107	8.6	2	4.7	1	4.5	3	15.0	0	0.0	0	0.0	8	5.1	1	5.3
ニ. テーマは職場の要請で決めた	8	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8	1	0.4
ホ. テーマは職場の仕事と関係があるが自分で決めた	36	2.9	0	0.0	1	4.5	0	0.0	0	0.0	2	1.3	0	0.0	2	1.5
ヘ. その他	31	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	5.8	1	5.3	4	3.1
無回答	31	2.5	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	2.6	0	0.0	3	2.6
計	1,249	100.0	43		22		30		18		0		156		19	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. テーマは自分が決めた	340	41.4	41	23.2	66	26.8	2	40.0	380	47.6	77	13.6			82	33.2	306	36.0	1	50		
ロ. テーマは指導教官の指導によるものである	362	44.1	114	64.4	109	44.3	2	40.0	727	47.9	283	88.0			116	47.0	470	47.0	1	50		
ハ. テーマはまだ決めていない	58	7.1	7	4.0	42	17.1	0	0.0	29	3.6	80	16.4			26	10.5	81	8.3	0	0		
ニ. テーマは職場の要請で決めた	4	0.5	1	0.6	3	1.2	0	0.0	3	0.4	6	1.2			0	0.0	5	0.8	0	0		
ホ. テーマは職場の仕事と関係があるが自分で決めた	11	1.3	6	3.4	18	7.3	1	20.0	19	2.4	19	3.9			8	3.2	28	2.8	0	0		
ヘ. その他	34	2.9	2	1.1	5	2.0	0	0.0	29	3.6	2	0.4			5	2.0	26	2.6	0	0		
無回答	22	2.7	6	3.4	3	1.2	0	0.0	12	1.5	21	4.3			10	4.0	21	2.1	0	0		
計	821		177		246		5		799		488				247		1,003		2			

26.(設問25でハと答えた方) 博士課程の研究テーマをどのようにして決めますか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	農	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	総合医
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. 自分で決める	8	7.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	25.0	0	0.0	0	0.0
ロ. 指導教官と相談し、自分で決める	78	72.9	2	100.0	1	100.0	3	100.0	0	0.0	5	62.5	1	100.0	4	100.0
ハ. 自分で決めることはできないので、指導教官の指示に従う	16	15.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	12.5	0	0.0	0	0.0
ニ. その他	5	4.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	16.7
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	107	100.0	2		1		3		0		8		1		4	

	一般				修士				博士				医系博士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%				
イ. 自分で決める	0	0.0	1	14.3	2	4.8	0	0.0	4	13.8	4	5.0			0	0.0	0	0.0	5	9.9	0	0.0										
ロ. 指導教官と相談し、自分で決める	41	70.7	5	71.4	32	78.2	0	0.0	21	72.4	58	72.5			21	80.8	57	70.4	0	0.0												
ハ. 自分で決めることはできないので、指導教官の指示に従う	9	15.5	0	0.0	7	16.7	0	0.0	2	6.9	15	18.8			0	0.0	11	13.8	16	0.0												
ニ. その他	3	5.2	1	14.3	1	2.4	0	0.0	2	6.9	3	3.8			2	7.7	3	3.7	0	0.0												
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0			0	0.0	0	0.0	0	0.0												
計	58		7		42		0		29		80				26		81		0													

27.(博士後期課程および医系博士課程の学生への設問) あなたの研究テーマについてどう思いますか(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	農	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	総合医
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. テーマに興味があり、研究のやり甲斐がある	981	78.5	38	88.4	20	90.9	16	80.0	16	88.9	0	0.0	130	83.3	14	73.7
ロ. テーマに興味は持てず、仕方なく研究している	68	5.4	0	0.0	1	4.5	1	5.0	1	5.6	0	0.0	9	5.8	4	21.1
ハ. テーマについてまだ十分理解できない	158	12.7	0	0.0	2	9.1	3	15.0	1	5.6	0	0.0	22	14.1	1	5.3
ニ. テーマを変えようと思う	23	1.7	0	0.0	1	4.5	1	5.0	0	0.0	2	1.3	1	0.8	2	1.5
無回答	90	7.2	1	2.3	1	4.5	3	15.0	0	0.0	7	4.5	0	0.0	8	6.2
計	1,249	100.0	43		22		30		18		0		156		19	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. テーマに興味があり、研究のやり甲斐がある	652	79.4	152	85.5	173	70.3	4	80.0			702	87.9	308	63.1			194	78.5	786	78.6	1	50
ロ. テーマに興味は持てず、仕方なく研究している	45	5.5	12	6.8	11	4.5	0	0.0			37	4.6	31	6.4			10	4.0	98	8.8	0	0
ハ. テーマについてまだ十分理解できない	100	12.2	7	4.0	50	20.3	1	20.0			60	7.5	105	21.5			24	9.7	134	13.4	0	0
ニ. テーマを変えようと思う	18	2.2	2	1.1	1	0.4	0	0.0			12	1.5	10	2.0			6	2.4	15	1.5	0	0
無回答	56	6.8	9	5.1	26	10.2	0	0.0			30	3.8	64	13.1			28	11.3	61	6.1	1	60
計	821		177		246		5				799		488				247		1,000		2	

大学院教育に係るアンケート集計表

28.あなたの大学院指導教官についてどうお考えですか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	農薬	無回答															
イ 指導教官は十分な研究指導能力があり、安心して指導を受けている	2,329	74.2	116	82.3	93	88.3	45	84.9	71	93.4	23	65.7	293	74.0	42	64.6	245	72.7	798	77.8	242	72.0	110	75.3	181	60.9	70	63.1	28	63.6	12	70.6
ロ 別の先生の指導を受けたい	302	9.5	9	6.4	3	3.0	0	0.0	0	0.0	1	2.9	48	12.1	11	16.9	34	10.1	106	10.3	44	13.1	12	8.2	14	4.7	11	12.6	6	13.6	0	0.0
ハ 実質的な指導は指導教官以外の先生から受けている	338	10.8	13	9.2	3	3.0	1	1.9	4	5.3	1	2.9	42	10.6	6	9.2	43	12.8	90	8.8	33	9.8	20	13.7	53	17.8	17	15.3	9	20.5	8	17.6
ニ 指導教官はまだみつからない	93	3.0	2	1.4	0	0.0	0	11.3	0	0.0	10	28.6	3	0.8	4	6.2	8	2.4	11	1.1	4	1.2	0	0.0	35	11.8	9	8.1	0	0.0	1	5.9
無回答	78	2.5	1	0.7	1	1.7	1	1.9	1	1.3	0	0.0	10	2.5	2	3.1	7	2.1	21	2.0	13	3.9	4	2.7	14	4.7	1	0.9	1	2.3	1	5.9
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		法学		社会人		無回答		修士		博士		国際博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 指導教官は十分な研究指導能力があり、安心して指導を受けている	1,851	73.2	220	86.3	240	71.6	18	78.3	1,418	75.1	630	78.8	309	63.3	12	70.6	471	72.8	1,847	74.6	11	61.1
ロ 別の先生の指導を受けたい	277	11.0	9	3.5	16	4.8	0	0.0	197	10.4	71	8.9	37	7.6	0	0.0	60	9.3	241	9.7	1	5.6
ハ 実質的な指導は指導教官以外の先生から受けている	279	11.0	12	4.7	44	13.1	3	13.0	185	9.8	78	9.4	80	16.4	3	17.6	78	11.3	262	10.6	3	16.7
ニ 指導教官はまだみつからない	64	2.5	4	1.6	24	7.2	1	4.3	41	2.2	7	0.9	44	9.0	1	5.9	28	4.3	64	2.6	1	5.0
無回答	56	2.2	10	3.9	11	3.3	1	4.3	47	2.5	16	2.0	18	3.7	1	5.9	15	2.3	61	2.5	2	11.1
計	2,527		255		335		23		1,889		798		488		17		647		2,475		18	

29.(設問28で口と答えた方) その理由はなんですか(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	農薬	無回答															
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%															
イ 指導教官の研究指導能力に疑問を感じる	177	68.6	4	44.4	1	33.3	0	0.0	0	0.0	1	100.0	36	72.9	0	64.3	22	64.7	53	50.0	31	70.5	7	58.3	8	57.1	6	42.9	3	50.0	0	0.0
ロ 指導教官が忙しくて十分な指導をしてくれない	117	38.7	4	44.4	1	33.3	0	0.0	0	0.0	1	100.0	15	31.3	4	36.4	11	32.4	41	38.7	18	40.9	3	25.0	7	50.0	8	57.1	4	66.7	0	0.0
ハ 指導教官の研究が自分の予想とは違っていた	51	16.9	1	11.1	3	100.0	0	0.0	0	0.0	4	8.3	0	0.0	0	17.6	22	20.8	4	9.1	1	8.3	5	35.7	4	28.6	1	16.7	0	0.0	0	0.0
ニ 自分の研究テーマや対象が変わったので	18	5.9	1	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	5.9	8	7.5	3	6.8	1	8.3	2	14.3	1	7.1	0	0.0	0	0.0
ホ その他	69	22.8	4	44.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	16.7	5	45.5	16	29.4	21	19.8	11	25.0	6	41.7	1	7.1	2	14.3	2	33.3	0	0.0
無回答	3	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	302	100.0	9		3		0		6		1		48		11		34		106		44		12		14		14		6		0	

	一般				社会人				修士				博士				国際博士				無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 指導教官の研究指導能力に疑問を感じる	165	59.6	2	22.2	10	62.5	0	0.0	115	58.4	45	63.4	19	51.4	0	0.0	35	58.3	142	58.9	0	0.0						
ロ 指導教官が忙しくて十分な指導をしてくれない	103	37.2	4	44.4	10	62.5	0	0.0	68	34.5	30	42.3	21	56.8	0	0.0	32	53.3	85	35.3	0	0.0						
ハ 指導教官の研究が自分の予想とは違っていた	41	14.8	5	55.6	5	31.3	0	0.0	39	16.2	9	12.7	10	27.0	0	0.0	13	21.7	37	15.4	1	100						
ニ 自分の研究テーマや対象が変わったので	17	6.1	0	0.0	1	6.3	0	0.0	13	5.6	4	5.6	3	8.1	0	0.0	6	10.0	12	5.0	0	0.0						
ホ その他	65	23.5	0	0.0	4	25.0	0	0.0	40	23.4	18	23.4	5	13.5	0	0.0	14	23.3	55	22.8	0	0.0						
無回答	3	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0	1	1.7	2	0.8	0	0.0						
計	277		9		16		0		197		71		37		0		60		241		1							

30.(設問28でハと答えた方) その理由はなんですか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	農薬	無回答															
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%														
イ 指導教官の研究分野がちがう	81	24.0	3	23.1	1	33.3	0	0.0	0	0.0	7	16.7	1	16.7	7	16.3	17	18.9	11	33.3	8	40.0	15	28.3	0	35.3	3	33.3	2	66.7		
ロ 指導教官が忙しくて指導時間をとれない	81	24.0	1	7.7	1	33.3	1	100.0	0	0.0	0	0.0	11	26.2	2	33.3	10	23.3	24	26.7	8	24.2	5	25.0	11	20.8	4	33.3	2	22.2	1	33.3
ハ 研究室の方針でそのように決まった	57	16.9	1	7.7	0	0.0	0	0.0	1	25.0	0	0.0	12	28.6	1	16.7	4	9.3	18	20.0	5	15.2	2	10.0	9	17.0	3	17.6	1	11.1	0	0.0
ニ その先生のテーマが自分のテーマに近い	60	17.8	4	30.8	1	33.3	0	0.0	1	25.0	0	0.0	5	11.9	1	16.7	14	32.6	12	13.3	3	9.1	4	20.0	10	18.9	3	17.6	2	22.2	0	0.0
ホ その先生が指導熱心で自然にそうなった	20	5.9	1	7.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	3	7.1	0	0.0	1	2.3	11	12.2	1	3.0	0	0.0	2	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ハ その他	32	9.5	3	23.1	0	0.0	0	0.0	2	50.0	0	0.0	3	7.1	1	16.7	7	16.3	6	6.7	3	9.1	1	5.0	5	9.4	0	0.0	1	11.1	0	0.0
無回答	7	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.4	0	0.0	0	0.0	2	2.2	2	6.1	0	0.0	1	1.9	1	8.0	0	0.0	0	0.0
計	338	100.0	13		3		1		4		1		42		6		43		90		39		20		53		17		9		3	

	一般		法学		社会人		無回答		修士		博士		国際博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 指導教官の研究分野がちがう	62	22.2	4	33.3	13	29.0	2	66.7	37	20.0	20	26.7	23	31.3	2	66.7	20	27.4	59	22.6	2	66.7
ロ 指導教官が忙しくて指導時間をとれない	66	23.7	3	25.0	11	25.0	1	33.3	46	24.9	18	24.0	17	21.3	1	33.3	9	12.3	71	27.1	1	33.3
ハ 研究室の方針でそのように決まった	51	18.3	1	8.3	5	11.4	0	0.0	35	18.9	9	12.0	13	16.3	0	0.0	14	19.2	43	16.4	0	0.0
ニ その先生のテーマが自分のテーマに近い	30	17.9	3	25.0	7	15.9	0	0.0	28	15.1	18	24.0	15	18.8	0	0.0	19	26.0	41	15.6	0	0.0
ホ その先生が指導熱心で自然にそうなった	18	6.3	0	0.0	2	4.6	0	0.0	17	9.2	1	1.3	2	2.5	0	0.0	3	4.1	17	6.5	0	0.0
ヘ その他	27	9.7	0	0.0	5	11.4	0	0.0	18	9.7	8	10.7	6	7.5	0	0.0	7	9.6	25	9.5	0	0.0
無回答	5	1.8	1	8.3	1	2.3	0	0.0	4	2.2	1	1.3	2	2.5	0	0.0	1	1.4	6	2.3	0	0.0
計	279		12		44		3		185		75		80		3		75		262		3	

大学院教育に係るアンケート集計表

31.あなたは指導教官をどのようにして決めましたか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 最初から自分で希望した	1,168	37.2	57	40.4	28	46.7	29	54.7	40	52.6	13	37.1	139	90.2	10	15.4
ロ 入学後にガイダンスを受けたあと自分で希望した	275	8.8	11	7.8	2	3.3	0	0.0	6	7.9	11	31.4	46	11.6	2	3.1
ハ 研究室から指定された	725	23.1	32	22.7	4	6.7	4	7.5	10	13.2	0	0.0	79	19.9	38	58.5
ニ 入学以前から指導を受けておりほとんど決まっていた	661	21.1	29	20.6	20	33.3	9	17.0	15	19.7	0	0.0	89	22.5	9	13.8
ホ その他	183	5.9	7	5.0	6	10.0	7	13.2	5	6.6	4	11.4	17	4.3	4	6.2
無回答	126	4.0	5	3.5	0	0.0	4	7.5	0	0.0	7	20.0	6	1.5	2	3.1
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 最初から自分で希望した	905	35.8	134	52.5	119	35.5	10	43.5	668	35.3	394	49.3	129	26.4	6	33.3	256	39.0	904	36.3	5	44
ロ 入学後にガイダンスを受けたあと自分で希望した	255	10.1	6	2.4	13	3.9	1	4.3	204	10.8	53	6.6	18	3.7	1	5.9	57	8.8	217	8.8	1	5
ハ 研究室から指定された	607	24.0	38	14.9	76	22.7	4	17.4	454	24.0	106	13.3	173	35.3	4	23.5	128	19.8	695	24.0	2	11
ニ 入学以前から指導を受けておりほとんど決まっていた	557	21.9	46	18.0	74	22.1	4	17.4	394	20.9	184	23.0	68	18.0	3	17.6	127	19.6	531	21.5	3	16
ホ その他	137	5.4	21	8.2	26	7.8	1	4.3	102	5.4	44	5.5	40	8.2	1	5.9	48	7.4	135	5.5	2	11
無回答	86	3.4	10	3.9	27	8.1	3	13.0	69	3.7	18	2.2	40	8.2	2	11.6	31	4.8	93	3.8	2	11
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

32.大学院のカリキュラムについて、該当する項目に○をつけてください(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 講義は今のままでよい	1,629	51.9	76	53.9	21	33.0	36	67.9	40	52.6	13	49.9	223	56.3	27	41.5
ロ 講義に不満がある	922	29.6	30	21.3	15	23.0	6	11.3	34	44.7	6	17.1	90	22.7	21	32.3
ハ 演習は今のままでよい	1,187	37.8	87	61.7	32	63.3	35	66.0	39	51.3	13	37.1	136	34.3	21	36.9
ニ 演習に不満がある	214	6.8	27	19.1	7	11.7	7	13.2	8	10.5	6	17.1	29	5.1	8	12.3
ホ 実験は今のままでよい	1,070	34.1	5	3.5	4	6.7	1	1.9	1	1.3	1	2.9	162	40.9	35	53.8
ヘ 実験に不満がある	187	6.0	1	0.7	2	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	20	5.1	9	13.8
チ 実習は今のままでよい	894	27.9	9	6.4	7	11.7	0	0.0	2	2.6	1	2.9	116	29.3	28	43.1
テ 実習に不満がある	95	3.0	2	1.4	2	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	1.5	2	3.1
リ 教官の個人指導は今のままでよい	1,396	44.5	67	47.5	32	63.3	21	39.6	30	39.5	11	31.4	198	50.0	36	55.4
ヌ 教官の個人指導に不満がある	283	9.0	13	9.2	11	18.3	2	5.7	6	7.9	3	8.6	42	10.5	10	15.4
無回答	232	7.1	7	5.0	3	5.0	5	9.4	1	1.3	3	8.6	30	7.6	2	3.1
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 講義は今のままでよい	1,320	52.2	158	62.0	115	33.3	6	26.1	1,036	54.8	393	49.4	219	44.0	5	20.4	312	38.2	1,310	62.9	7	38.5
ロ 講義に不満がある	797	31.3	31	12.2	85	25.4	9	39.1	672	33.5	174	21.8	120	24.6	6	36.3	190	29.4	736	29.9	6	33.3
ハ 演習は今のままでよい	985	38.0	86	33.7	112	33.4	4	17.4	792	41.9	281	35.2	123	25.0	3	19.6	518	38.3	837	37.9	2	11.1
ニ 演習に不満がある	171	6.8	11	4.3	32	9.6	0	0.0	118	6.2	57	7.1	38	7.8	1	3.9	53	8.2	161	6.5	0	0.0
ホ 実験は今のままでよい	888	35.1	93	37.3	82	24.5	5	21.7	699	35.4	253	31.7	153	31.4	3	17.6	216	33.2	832	34.4	5	16.7
ヘ 実験に不満がある	162	6.4	8	3.1	16	4.8	1	4.3	108	5.7	40	5.0	42	8.6	1	5.9	36	5.6	150	6.1	1	5.0
チ 実習は今のままでよい	728	28.6	66	24.9	72	21.3	3	13.0	647	29.0	200	25.0	120	25.2	2	11.8	158	24.6	704	28.4	1	5.0
テ 実習に不満がある	78	3.1	6	2.4	10	3.0	1	4.3	40	2.1	21	2.6	34	7.0	1	5.9	26	3.1	74	3.0	1	6.0
リ 教官の個人指導は今のままでよい	1,103	43.6	133	52.2	148	44.2	6	26.1	852	45.1	358	44.8	193	39.6	5	29.4	286	44.2	1,101	44.5	3	16.3
ヌ 教官の個人指導に不満がある	242	9.6	14	5.5	27	8.1	0	0.0	169	8.9	79	9.9	38	7.8	0	0.0	64	9.9	218	8.8	1	5.0
無回答	169	6.3	20	7.8	38	11.3	5	21.7	83	4.4	81	10.1	61	12.6	3	17.6	50	7.7	170	6.9	2	11.1
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

33.大学院の講義にどの程度出席しましたか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 80%以上出席している	1,984	63.2	113	80.1	63	88.9	44	83.0	70	92.1	34	97.1	364	66.7	41	63.1
ロ 出席率は60%以上80%未満である	569	18.1	17	12.1	2	3.3	3	5.7	2	2.6	0	0.0	67	16.9	19	29.2
ハ 出席率は40%以上60%未満である	139	4.4	1	0.7	1	1.7	0	0.0	0	0.0	1	2.9	17	4.3	1	1.5
ニ 出席率は40%未満である	92	2.9	3	2.1	1	1.7	0	0.0	2	2.6	0	0.0	11	2.8	2	3.1
ホ ほとんど出席していない	271	8.6	6	4.3	3	5.0	2	3.8	1	1.3	0	0.0	26	6.6	0	0.0
無回答	85	2.7	1	0.7	0	0.0	4	7.5	1	1.3	0	0.0	11	2.8	2	3.1
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 80%以上出席している	1,605	63.6	204	80.0	161	48.1	14	60.9	1,312	69.5	488	61.1	211	43.2	11	64.7	448	69.2	1,323	61.5	13	72.2
ロ 出席率は60%以上80%未満である	522	20.7	12	4.7	32	9.6	3	13.0	387	20.5	106	13.3	73	14.4	3	17.6	95	14.7	472	19.1	2	11.1
ハ 出席率は40%以上60%未満である	119	4.7	5	2.0	14	4.2	1	4.3	87	4.6	32	4.0	35	5.1	0	0.0	23	3.6	116	4.7	0	0.0
ニ 出席率は40%未満である	38	2.3	3	2.0	28	8.4	1	4.3	29	1.5	31	3.9	32	6.6	1	5.0	18	2.8	73	2.9	1	5.0
ホ ほとんど出席していない	170	6.7	14	5.5	86	23.7	1	4.3	70	3.6	95	11.9	129	26.4	1	5.9	47	7.3	223	9.0	1	5.6
無回答	53	2.1	15	5.9	14	4.2	3	13.0	24	1.3	47	5.9	16	3.3	1	5.9	10	2.5	68	2.7	1	5.6
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,435		18	

大学院教育に係るアンケート集計表

34. 大学院の講義についてどう思いますか(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
イ 自分の専攻分野の知識を得るために必要である	1,511	48.1	72	51.1	34	56.7	35	62.3	51	67.1	21	60.0	199	50.3	18	27.7
ロ 専攻分野にかかわらず幅広く基礎的な知識を得るために必要である	1,646	52.4	82	68.2	25	41.7	27	50.9	49	64.5	27	77.1	222	56.1	38	68.5
ハ 学部での講義が不十分なので大学院の講義は必要である	507	16.1	20	14.2	5	8.3	10	18.0	15	19.7	5	14.3	66	16.7	8	12.3
ニ 講義と実習の区別が不明確で、講義は講義としてやってほしい	156	5.0	19	13.5	9	15.0	6	11.3	3	3.9	3	11.3	13	3.8	8	12.3
ホ 大学院の講義は不要である	489	15.0	13	9.2	3	5.0	0	0.0	3	3.9	1	2.9	41	10.4	11	16.9
ヘ 大学院の講義をほとんど受けたことがない	274	8.7	7	5.0	8	13.3	4	7.5	1	1.5	2	5.7	39	7.6	2	3.1
ト 非常勤講師の講義は意味がある	348	11.1	25	17.7	12	20.0	11	14.5	6	17.1	55	13.1	16	21.6	88	23.2
無回答	87	2.1	2	1.4	0	0.0	3	5.7	1	1.3	1	2.9	10	2.5	1	1.5
計	3,140	100.0	141	45.2	60	19.1	53	16.9	76	24.2	35	11.2	396	12.6	65	20.7

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		専攻修士		無回答		女		男		無回答		
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
イ	自分の専攻分野の知識を得るために必要である	1,212	48.0	162	63.0	130	88.8	7	30.4	984	52.1	405	50.7	144	29.3	8	47.1	303	45.8	1,200	48.0	8	44.4
ロ	専攻分野にかかわらず幅広く基礎的な知識を得るために必要である	1,353	53.5	134	52.5	146	43.6	12	52.2	1,090	56.1	424	53.1	175	35.9	8	47.1	368	55.9	1,207	51.2	10	54.5
ハ	学部での講義が不十分なので大学院の講義は必要である	455	18.0	29	11.4	21	6.3	2	8.7	363	19.2	122	15.3	26	5.7	2	11.8	171	43.9	169	3	16.3	16.3
ニ	講義と実習の区別が不明確で、講義は講義としてやってほしい	135	5.3	9	3.5	11	3.3	1	4.3	116	6.1	33	4.1	9	1.8	1	5.9	40	62.5	115	4.6	1	8.3
ホ	大学院の講義は不要である	407	16.1	10	3.9	69	20.6	3	13.0	282	14.9	83	10.4	127	26.0	3	11.8	68	10.3	419	16.9	2	11.1
ヘ	大学院の講義をほとんど受けたことがない	192	7.6	10	3.9	70	20.9	2	8.7	72	3.8	92	11.3	110	22.5	3	17.6	87	8.8	216	8.7	2	11.1
ト	非常勤講師の講義は意味がある	260	11.3	16	6.3	44	13.1	2	8.7	209	11.1	114	14.3	27	5.5	1	5.9	79	12.2	268	10.8	1	5.5
無回答		38	1.5	14	5.5	12	3.6	3	13.0	22	1.2	31	3.9	14	2.9	1	5.9	21	3.2	45	1.8	1	5.5
計		2,527	255	333	24	1,889	799	488	17	647	2,475	18											

35. (設問34でホと答えた方) その理由はなんですか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
イ 大学院は研究が中心であるべきだ	165	33.7	5	38.5	1	33.3	0	0.0	1	33.3	1	100.0	11	26.8	1	9.1
ロ 講義のために実験や実習や調査の時間が削られる	146	29.9	2	15.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	13	31.7	9	81.8	7	22.6
ハ 研究のせみや自分で勉強することで十分である	90	19.0	3	23.1	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	7	17.1	1	9.1
ニ 講義内容が学部とほとんど同じで意味がない	31	6.3	2	15.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	9.8	0	0.0	2	6.3
ホ その他	47	9.6	1	7.7	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	1	3.2	19	12.2
無回答	5	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	489	100.0	15	3.1	3	0.6	3	0.6	1	0.2	11	2.3	11	2.3	156	32.0

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		専攻修士		無回答		女		男		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
イ	大学院は研究が中心であるべきだ																						
ロ	講義のために実験や実習や調査の時間が削られる																						
ハ	研究のせみや自分で勉強することで十分である																						
ニ	講義内容が学部とほとんど同じで意味がない																						
ホ	その他																						
無回答																							
計																							

36. (設問34でヘと答えた方) その理由はなんですか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
イ 興味がない	24	8.8	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	20.0	1	5.6	2	20.0
ロ 開講されていない	103	37.6	1	14.3	7	87.5	3	75.0	0	0.0	1	50.0	5	27.8	1	10.0
ハ 実験・実習・調査が忙しい	72	28.1	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	44.4	2	20.0
ニ 学部と同じ先生で、内容が予想される	1	0.4	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ホ その他	67	24.5	2	28.6	1	12.5	1	25.0	1	50.0	6	20.0	0	0.0	4	22.2
無回答	2	0.7	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	16.7
計	274	100.0	7	2.5	8	2.9	4	1.4	1	0.4	13	4.7	14	5.1	22	8.0

	一般				社会人				修士				専攻修士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%				
イ、興味がない	24	12.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12	16.7	6	6.5	6	5.5	0	0.0	3	5.3	21	9.8	0	0.0										
ロ、開講されていない	80	41.7	7	70.0	16	32.9	0	0.0	31	43.1	50	54.3	34	21.8	0	0.0	28	49.1	73	34.9	0	0.0										
ハ、実験・実習・調査が忙しい	49	25.5	2	20.0	25	35.7	1	30.0	20	27.8	13	14.1	47	39.1	1	33.3	14	24.6	62	28.8	1	50.0										
ニ、学部と同じ先生で、内容が予想される	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	1	1.8	0	0.0	0	0.0										
ホ、その他	35	18.8	1	10.0	29	41.4	1	30.0	9	12.5	21	22.8	37	33.6	1	33.3	11	19.3	35	26.0	1	100.0										
無回答	2	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	6.9	0	0.0										
計	192		10		70		2		72		92		110		3		37		215		2											

大学院教育に係るアンケート集計表

37.あなたの所属する研究室の教育スタッフについてどう思いますか(複数選択可)。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		農工		農	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. 既行のままでよい	1,328	42.0	80	35.5	20	33.3	22	41.5	32	42.1	14	40.0	153	38.6	22	33.8	150	44.5	498	48.5	129	38.4	50	34.2	125	42.1	44	39.6	17	29.5	5	25.8		
ロ. 助手などの若手の教育層が少ない	1,011	32.2	47	33.3	18	30.0	7	13.2	21	27.6	6	17.1	150	37.9	24	36.9	123	36.5	267	26.0	109	32.4	40	41.1	117	39.4	38	34.2	16	43.0	5	39.4		
ハ. 教官や事務官など教育支援職員が少ない	555	17.7	14	9.8	13	21.7	1	1.8	10	13.2	3	8.6	83	21.0	15	23.1	70	20.8	164	16.0	52	15.5	38	20.0	57	19.2	16	17.1	12	27.5	4	23.5		
ニ. 社会人など学外者の研究者としっかりと接触がある(ほうがよい)	819	26.1	28	19.9	12	20.0	15	24.5	19	25.0	8	22.8	120	30.3	18	27.7	81	24.0	280	27.3	111	33.0	55	37.7	38	12.8	22	19.8	15	29.5	1	5.9		
ホ. 非常勤講師をもっと積極的に利用したほうがよい	271	8.6	32	22.7	16	26.7	6	11.8	5	6.6	7	20.0	28	7.1	7	10.8	28	8.2	84	6.2	30	8.9	10	6.8	20	6.4	11	9.9	5	14.4	2	13.8		
ヘ. ほかの研究家の教官の指導を受けるようにしている	101	3.2	12	8.5	4	6.7	2	3.8	2	2.6	0	0.0	11	2.8	1	1.6	11	3.3	10	1.0	16	4.8	4	2.7	19	6.4	6	5.1	2	4.5	1	5.9		
ト. その他	187	6.0	19	13.5	6	10.0	4	7.5	1	1.3	4	11.4	27	6.8	10	15.4	14	4.2	47	4.6	35	7.4	7	4.8	11	7.7	7	6.3	2	4.5	3	17.6		
無回答	78	2.4	2	1.4	2	3.3	6	11.3	6	7.9	2	5.7	7	1.8	1	1.5	7	2.1	15	1.5	6	1.6	3	2.1	14	4.7	3	2.7	0	0.0	2	11.8		
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17			

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 現行のままでよい	1,000	39.0	174	68.2	138	41.2	7	30.4	873	48.2	278	34.8	200	41.0	7	41.2	246	38.0	1,077	43.5	5	27.1
ロ 助手などの若手の数層が少ない	884	33.8	27	14.3	11	33.1	9	39.1	916	27.3	318	39.8	184	37.7	6	33.3	207	32.0	798	32.2	6	33.3
ハ 教官や事務官など教育支援職員が少ない	475	18.8	17	6.7	59	17.6	4	17.4	272	14.4	184	24.3	84	19.3	3	17.6	118	18.2	434	17.6	9	16.3
ニ 社会人など学外者の研究者としっかり接触がある(ほうが多い)	707	28.0	38	14.9	71	21.2	9	13.0	509	26.9	239	29.9	81	16.6	1	5.9	171	26.4	545	26.1	8	16.3
ホ 非常勤講師をもっと積極的に利用したほうがよい	219	8.7	16	6.3	35	10.4	1	4.3	143	7.6	91	11.4	37	7.6	1	5.9	66	10.2	204	8.9	1	5.1
ヘ ほかの研究家の教官の指導を受けるようにしている	78	2.9	9	3.5	16	4.8	3	13.0	40	2.1	33	4.1	27	5.5	1	5.9	28	4.3	72	2.9	1	5.1
ト その他	163	6.4	5	2.0	17	5.1	4	17.4	120	6.4	45	5.6	90	3.7	3	17.6	55	8.5	129	5.2	3	16.3
無回答	40	1.6	14	5.5	10	5.7	2	8.7	41	2.2	16	2.0	18	3.7	2	11.8	17	2.6	55	2.2	3	16.3
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

38.他の研究科や大学との単位互換についてどう思いますか(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	農	地球	工	農	水産	医	歯	獣	農工	農	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 北大内の他研究科との単位互換を希望する	1,442	45.9	51	38.3	26	43.3	17	32.1	29	38.2	24	68.6	189	47.7	33	50.8	181	53.7
ロ 他大学との単位互換を希望する	1,101	35.1	72	51.1	27	43.0	19	35.8	31	40.8	14	40.0	128	34.8	21	32.3	106	31.5
ハ 外部の研究機関との単位互換を希望する	785	25.0	47	33.3	12	20.0	10	18.9	17	22.4	12	34.3	96	24.2	11	16.9	90	26.7
ニ 外国の大学との単位互換を希望する	768	24.5	58	41.1	14	23.3	9	17.0	21	27.6	15	42.9	86	21.7	10	15.4	82	24.3
ホ 希望しない	828	26.4	24	17.0	14	23.3	19	35.8	21	27.6	4	11.4	100	25.3	23	35.4	74	22.0
ヘ その他	83	2.6	8	5.7	1	1.7	3	5.7	2	2.6	1	2.9	16	4.0	1	1.5	9	2.7
無回答	135	4.3	7	5.0	6	10.0	1	1.9	4	5.3	1	2.9	17	4.3	2	3.1	17	5.0
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337	

	一般				留学				社会人				無回答				修士				博士				医学博士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%								
イ 北大内の他研究科との単位互換を希望する	1,226	48.5	86	33.7	125	37.3	5	21.7	927	49.1	355	44.4	175	35.9	7	41.2	319	48.4	1,124	45.6	6	27.3																						
ロ 他大学との単位互換を希望する	889	33.2	67	26.3	141	42.1	4	17.4	628	33.2	304	38.0	175	35.9	7	41.2	229	35.2	867	34.6	6	27.3																						
ハ 外部の研究機関との単位互換を希望する	627	24.8	45	17.6	109	32.5	4	17.4	409	21.7	332	29.0	155	31.8	2	11.8	163	25.2	619	25.0	3	16.1																						
ニ 外国の大学との単位互換を希望する	588	23.3	100	39.2	75	23.4	5	21.7	415	22.0	232	29.0	128	26.4	8	17.6	174	26.9	591	23.9	3	16.1																						
ホ 希望しない	670	26.5	69	27.1	81	24.2	8	34.8	509	26.9	189	23.7	139	28.2	4	23.5	135	21.5	684	27.6	27	13.7																						
ヘ その他	68	2.7	1	0.4	12	3.6	2	8.7	47	2.5	24	3.0	11	2.3	1	5.0	17	2.6	65	2.6	1	5.0																						
無回答	81	3.2	26	10.2	24	7.2	4	17.4	66	3.5	49	6.1	20	4.1	2	11.8	41	6.5	92	3.7	2	11.8																						
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18																							

39.現在行われている大学院全学共通講義についてどう思いますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 受講しており意味がある	433	13.8	19	13.5	5	8.3	5	9.4	9	11.8	1	2.9	58	14.6	19	29.2	99	26.7	79	7.7	53	15.8	13	8.9	48	16.2	20	18.0	10	22.7	4	23.1
ロ 受講しているがあまり意味がない	291	9.3	26	18.4	0	0.0	0	0.0	3	3.9	1	2.9	41	10.4	23	35.4	36	10.7	60	5.8	20	6.0	8	5.5	53	17.8	14	12.6	8	11.4	1	2.5
ハ あることは知っているが受講していない	1,097	34.9	27	19.1	30	50.0	21	39.6	10	13.2	21	60.0	171	43.2	12	18.5	121	35.9	301	29.3	146	43.7	56	38.4	111	37.4	48	43.2	17	38.6	5	29.0
ニ あることを知らない	1,191	37.9	60	42.6	21	35.0	26	49.1	51	67.1	11	31.4	112	28.3	7	10.8	80	23.7	560	54.6	107	31.8	53	36.3	68	22.9	25	22.5	4	9.1	6	31.0
ホ 今後ふやしてほしい	25	0.8	1	0.7	1	1.7	0	0.0	0	0.0	1	2.9	3	0.8	1	1.5	1	0.3	4	0.4	2	0.6	3	2.1	4	1.3	1	0.9	3	6.8	0	0.0
ヘ その他	44	1.4	4	2.8	1	1.7	1	1.9	1	1.3	0	0.0	5	1.3	3	4.6	4	1.2	7	0.7	4	1.2	5	3.4	5	1.7	0	0.0	4	9.1	0	0.0
無回答	59	1.9	4	2.8	2	3.3	0	0.0	2	2.6	0	0.0	8	1.9	0	0.0	5	1.5	15	1.5	4	1.2	8	5.3	8	2.7	3	2.7	1	2.3	1	5.0
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		338		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 受講しており意味がある	315	12.5	84	32.9	30	9.0	4	17.4	281	14.9	72	9.0	87	17.8	5	29.4	157	21.2	292	11.8	4	2.0
ロ 受講しているがあまり意味がない	229	9.1	25	9.8	33	9.9	4	17.4	187	9.9	39	4.9	75	15.4	1	5.9	67	9.0	233	9.0	1	0.5
ハ あることは知っているが受講していない	913	36.1	40	15.7	139	41.5	8	21.7	851	34.5	268	33.5	184	37.7	3	17.6	234	36.2	659	34.7	4	2.0
ニ あることを知らない	979	38.7	85	33.3	118	35.3	9	39.1	716	37.9	370	46.3	112	23.0	7	41.2	172	26.6	1,011	50.8	8	4.0
ホ 今後ふやしてほしい	21	0.8	0	0.0	4	1.2	0	0.0	11	0.6	7	0.9	8	1.6	0	0.0	7	1.1	18	0.7	0	0.0
ヘ その他	39	1.5	2	0.8	3	0.9	0	0.0	25	1.3	13	1.6	9	1.8	0	0.0	16	2.5	28	1.1	0	0.0
無回答	31	1.2	19	7.5	8	2.4	1	4.3	18	1.0	30	3.8	13	2.7	1	5.9	14	2.2	44	1.8	1	0.5
計	2,527		255		335		23		1,889		799		458		17		647		2,475		18	

大学院教育に係るアンケート集計表

40. あなたの研究に関連する企業、施設、諸機関での職場実習や、共同研究などの機会(インターンシップ)があれば、参加したいですか。

	全体		女		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 参加する	1,333	43.1	65	46.1	31	51.7	18	34.0	34	44.7	19	54.3	148	37.4	23	33.4	170	50.6	421	41.0	165	49.1	80	54.8	103	31.7	43	38.7	23	52.3	10	68.8
ロ 検討したい	1,178	47.1	65	46.1	24	40.0	27	50.9	31	40.8	11	31.4	201	50.8	30	55.4	147	42.4	530	51.7	143	42.6	57	39.0	128	43.1	57	51.4	20	45.5	5	29.4
ハ 参加しない	281	8.9	10	7.1	4	6.7	8	16.1	11	14.5	5	14.3	43	10.0	4	6.2	22	6.5	71	6.9	24	7.1	9	6.2	67	19.2	11	9.9	1	2.3	1	5.9
無回答	28	0.9	1	0.7	1	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	1.0	2	3.1	2	0.6	4	0.4	4	1.2	0	0.0	9	3.0	0	0.0	0	0.0	1	5.9
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		高度博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 参加する	1,557	41.0	194	76.1	112	33.4	10	43.5	808	42.8	378	47.3	194	39.8	8	47.1	320	49.5	1,022	41.5	11	61.1
ロ 検討したい	1,381	50.7	39	15.3	149	44.5	9	39.1	925	49.2	341	42.7	217	43.6	7	41.2	275	42.5	1,108	48.4	5	27.8
ハ 参加しない	192	7.6	19	7.5	67	20.0	3	13.0	144	7.6	68	8.3	72	14.8	1	5.9	45	7.0	235	9.5	1	5.6
無回答	17	0.7	3	1.2	7	2.1	1	4.3	8	0.4	12	1.5	9	1.8	1	5.9	7	1.1	20	0.8	1	5.6
計	2,527		255		335		23		1,880		799		488		17		647		2,475		18	

41. あなたの研究はうまくいっていますか。

	全体		女		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ うまくいっている	238	7.6	4	2.8	3	5.0	4	7.5	5	6.6	2	5.7	31	7.8	3	4.6	37	11.9	72	7.0	30	8.9	10	6.8	21	7.1	6	5.4	7	15.9	3	17.6
ロ だいたい計画どおりいっている	1,482	47.2	55	39.0	28	46.7	20	37.7	37	48.7	14	40.0	191	48.3	21	32.3	154	43.7	517	50.4	163	48.6	86	58.0	117	39.4	52	46.8	21	47.7	6	35.3
ハ 予定どおりいっていない	1,081	34.4	69	48.9	21	35.0	23	43.4	27	35.5	11	31.4	141	35.6	37	56.9	115	34.1	349	34.0	115	34.2	41	28.1	86	29.0	29	26.1	14	31.8	3	17.6
ニ 研究計画を変える必要がある	91	2.9	5	3.5	4	6.7	1	1.9	3	3.9	4	11.4	10	2.5	2	3.1	6	1.8	32	3.1	10	3.0	1	0.7	9	3.0	4	3.6	0	0.0	0	0.0
ホ その他	214	6.8	7	5.0	4	6.7	3	9.4	4	5.3	4	11.4	19	4.8	2	3.1	10	2.8	30	4.9	14	4.2	8	5.5	54	18.2	18	16.2	2	4.5	4	23.5
無回答	34	1.1	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	1.0	0	0.0	6	1.8	6	0.6	4	1.2	0	0.0	10	3.4	2	1.8	0	0.0	1	5.9
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		高度博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ うまくいっている	144	5.7	70	27.5	21	6.3	3	13.0	118	6.2	60	11.3	41	8.4	2	11.8	38	6.0	196	7.9	3	16.7
ロ だいたい計画どおりいっている	1,202	47.6	121	47.5	151	45.1	8	34.8	900	47.6	390	48.6	205	42.0	6	35.3	312	48.2	1,164	47.0	6	33.3
ハ 予定どおりいっていない	934	37.0	40	15.7	100	29.9	7	30.4	678	35.9	273	34.2	141	28.9	5	29.4	208	31.8	871	35.2	4	22.2
ニ 研究計画を変える必要がある	75	3.0	10	3.9	6	1.8	0	0.0	65	3.4	14	1.8	13	2.7	0	0.0	25	3.9	66	2.7	0	0.0
ホ その他	150	5.9	9	3.5	51	15.2	4	17.4	113	6.0	24	3.0	76	15.6	3	17.6	57	8.8	153	6.2	4	22.2
無回答	22	0.9	3	1.2	6	1.8	1	4.3	15	0.8	8	1.0	12	2.5	1	5.9	8	1.2	25	1.0	1	5.6
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

42.(修士課程学生への設問)
あなたは修士課程修了後、博士後期課程への進学を希望しますか。

	全体		女		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 進学する	389	20.4	52	53.6	24	63.2	8	24.2	14	24.1	13	37.1	69	28.8	7	15.2	37	27.5	73	9.0	49	20.5	22	21.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	66.7
ロ 進学しない	1,455	77.0	39	40.2	17	34.2	25	75.8	43	74.1	20	57.1	163	67.9	34	73.9	139	67.1	727	90.1	170	77.6	80	78.4	0	0.0	1	33.3	0	0.0	1	33.3
無回答	48	2.6	6	6.2	1	2.6	0	0.0	1	1.7	2	5.7	8	3.3	6	10.0	11	8.3	7	0.9	4	1.8	0	0.0	1	100.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0
計	1,889	100.0	97		38		33		68		35		240		46		207		807		219		102		1		3		0		3	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		高度博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 進学する	292	17.1	51	62.2	42	46.2	1	20.0	366	20.4							102	23.2	292	19.1	2	50.0
ロ 進学しない	1,382	80.8	26	31.7	43	47.3	4	80.0	1,455	77.0							293	72.3	1,160	78.4	2	50.0
無回答	37	2.2	5	6.1	6	6.6	0	0.0	48	2.5							10	2.5	38	2.6	0	0.0
計	1,711		82		91		5		1,889								405		1,480		4	

大学院教育に係るアンケート集計表

43.(設問42で口と答えた方) その理由はなんですか(複数選択可)。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		工学		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 経済的に無理だから	537	36.9	17	43.6	0	0.0	13	52.0	11	23.6	9	43.0	64	39.3	17	50.0	54	38.8	255	35.1	60	35.3	31	38.8	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0
ロ 研究に興味が無くなったから	141	9.7	3	12.8	0	0.0	1	4.0	0	0.0	1	5.0	24	14.7	6	17.0	18	10.8	46	8.2	34	20.0	9	11.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ハ はやく社会に出て習得したことを実践したいから	564	38.8	7	17.9	0	0.0	46	12.4	9	20.9	0	0.0	59	36.2	10	29.4	47	33.8	320	44.0	39	34.7	26	32.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ニ 必要と思うことは習得したから	54	3.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.3	1	5.0	4	2.5	0	0.0	7	5.0	20	2.8	11	6.5	7	8.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ホ もともと修士課程後は就職するつもりだったから	903	62.1	18	46.2	8	81.5	12	48.0	19	44.2	7	35.0	103	63.2	21	61.8	76	54.7	889	67.3	107	62.9	42	52.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
ヘ 時間的に進学する余裕がないから	166	11.4	3	7.7	2	15.4	4	16.0	17	39.5	3	15.0	19	11.7	3	8.8	18	12.9	65	8.9	20	11.8	12	15.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ト 就職のためには修士課程修了が一番有利だから	246	16.9	4	10.3	0	0.0	0	0.0	3	7.0	2	10.0	41	25.2	2	5.9	26	18.7	122	16.9	30	17.6	15	18.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
チ 必要な専門技術や知識を習得したから	39	2.7	0	0.0	0	0.0	3	12.0	4	9.3	0	0.0	9	5.5	0	0.0	1	0.7	16	2.2	3	1.8	3	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
リ その他	153	10.5	7	17.9	2	15.4	7	28.0	5	11.6	2	10.0	19	11.7	3	8.8	19	13.7	57	7.8	19	11.2	13	16.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	5	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.7	2	0.3	1	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1,455	100.0	39		13		25		43		20		163		34		139		727		170		80		0		1		0		1	

	一般		法学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 経済的に無理だから	513	37.1	10	38.5	13	30.2	1	25.0	337	36.9							116	30.6	421	36.3	0	0.0
ロ 研究に興味が無くなったから	130	9.8	3	11.5	2	4.7	0	0.0	141	9.7							76	12.9	105	9.3	0	0.0
ハ はやく社会に出て習得したことを実践したいから	547	39.3	9	34.6	11	23.6	1	25.0	564	38.8							112	38.2	450	38.8	2	100.0
ニ 必要と思うことは習得したから	32	3.8	0	0.0	2	4.7	0	0.0	84	3.7							13	4.4	41	3.6	0	0.0
ホ もともと修士課程後は就職するつもりだったから	885	64.0	7	26.9	8	18.6	3	75.0	903	62.1							167	57.0	734	63.3	2	100.0
ヘ 時間的に進学する余裕がないから	137	9.9	13	50.0	16	37.2	0	0.0	166	11.4							38	13.0	128	11.0	0	0.0
ト 就職のためには修士課程修了が一番有利だから	240	17.4	5	19.2	1	3.3	0	0.0	246	18.0							36	12.9	210	18.1	0	0.0
チ 必要な専門技術や知識を習得したから	38	2.8	1	3.8	2	4.7	0	0.0	39	2.7							7	2.4	32	2.8	0	0.0
リ その他	141	10.2	3	11.5	9	20.3	0	0.0	153	10.5							41	14.0	112	9.7	0	0.0
無回答	4	0.3	0	0.0	1	2.3	0	0.0	5	0.3							1	0.3	4	0.3	0	0.0
計	1,382		26		43		4		1,455								283		1,160		2	

44.学位取得の見通しについてどうお考えですか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		工学		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 正規の就学年数以内(修士2年、博士後期3年、医学博士4年)にとれる	2,433	77.5	78	55.3	34	56.7	33	62.3	58	76.3	31	88.6	289	75.5	58	89.2	238	70.6	924	90.1	240	73.2	128	87.7	171	57.6	91	82.0	33	73.0	13	70.0
ロ 正規の就学年数プラス1年だととれる	353	11.3	30	25.3	10	16.7	12	22.6	6	7.9	1	2.9	51	12.9	5	7.7	59	17.5	59	5.8	48	13.4	14	9.0	47	15.8	3	2.7	6	13.6	1	5.9
ハ 正規の就学年数プラス2年だととれる	124	3.9	11	7.8	2	3.3	3	5.7	7	9.2	1	2.9	22	5.6	0	0.0	22	6.5	12	1.2	15	4.5	1	0.7	25	8.4	3	2.7	0	0.0	0	0.0
ニ それ以上かかる	103	3.3	11	7.8	11	18.3	3	5.7	3	3.9	1	2.9	11	2.8	1	1.6	10	3.0	9	0.9	12	3.6	2	1.4	26	8.8	3	2.7	2	4.5	0	0.0
無回答	121	3.9	5	3.5	3	5.0	2	3.8	2	2.6	1	2.9	13	3.3	1	1.5	8	2.4	22	2.1	18	5.4	1	0.7	28	9.4	11	9.9	3	6.8	3	17.6
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		法学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 正規の就学年数以内(修士2年、博士後期3年、医学博士4年)にとれる	2,039	80.7	183	71.8	197	58.5	16	69.6	1,730	92.1	400	90.1	315	84.5	13	76.5	489	74.2	1,342	78.5	13	72.2
ロ 正規の就学年数プラス1年だととれる	250	9.9	34	13.3	68	20.3	3	13.0	84	4.4	213	26.9	65	13.3	1	5.9	81	12.5	273	11.0	1	5.6
ハ 正規の就学年数プラス2年だととれる	95	3.8	6	2.4	23	6.9	0	0.0	15	0.8	84	10.5	30	6.1	0	0.0	13	2.0	169	4.4	0	0.0
ニ それ以上かかる	79	3.1	4	1.6	22	6.6	0	0.0	14	0.7	60	7.3	31	6.4	0	0.0	25	3.9	80	3.2	0	0.0
無回答	65	2.6	28	11.0	25	7.5	4	17.4	37	2.0	46	5.6	47	9.0	3	17.6	46	7.1	71	2.9	4	22.2
計	2,527		255		333		23		1,886		799		488		17		647		2,475		18	

45.(博士後期課程および医系博士課程の学生への設問) あなたは博士の学位取得の条件を知っていますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		工学		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 知っている	532	43.6	20	46.5	7	31.8	6	30.0	8	44.4	0	0.0	36	33.9	7	36.8	74	56.9	115	51.3	37	47.5	20	43.5	94	31.6	41	36.9	26	59.1	1	100.0
ロ すこしは知っているが、不明なところもある	616	49.3	21	48.8	11	50.0	13	65.0	9	50.0	0	0.0	88	56.4	8	42.1	50	38.3	97	43.3	54	43.0	21	47.7	167	56.2	60	54.1	17	38.6	0	0.0
ハ 知らない	67	5.4	1	2.3	4	18.2	1	5.0	1	5.6	0	0.0	8	5.1	4	21.1	2	1.5	3	1.3	6	3.0	3	6.8	27	9.1	7	6.3	0	0.0	0	0.0
無回答	34	2.7	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	2.6	0	0.0	4	3.1	9	4.0	3	2.5	0	0.0	9	3.0	3	2.7	1	2.3	0	0.0
計	1,249	100.0	43		22		20		18		0		156		19		130		221		120		44		297		111		44		1	

	一般				社会人				学生				博士				医学博士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%						
イ、知っている	399	41.3	99	53.9	92	37.4	2	40.0			375	46.9	177	36.9			112	45.3	419	41.9	1	50.0														
ロ、すこしは知っているが、不明なところもある	429	52.3	61	31.5	123	60.0	3	60.0			379	47.4	252	51.6			115	46.6	500	50.0	1	50.0														
ハ、知らない	37	4.5	8	4.5	22	8.9	0	0.0			34	4.3	34	7.0			11	4.5	36	3.6	0	0.0														
無回答	16	1.9	9	5.1	9	3.7	0	0.0			11	1.4	25	5.1			9	3.6	25	2.5	0	0.0														
計	821		177		246		5				789		488				247		1,000		2															

大学院教育に係るアンケート集計表

46.(修士課程学生への設問)

修士課程の修了には2年以上の在学を必要としますが、優れた業績をあげた者は1年で修了できます。あなたはこの制度を利用したいと思いますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		農学	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 思う	219	11.3	3	5.2	0	0.0	7	21.2	3	8.6	3	8.6	16	6.7	4	8.7	20	9.7	103	12.8	28	12.8	19	18.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
ロ 思うけれども実際には難しい	1,035	55.7	49	50.5	27	71.1	10	30.3	37	63.8	21	60.0	170	57.9	30	63.2	121	58.5	447	54.4	120	54.8	61	50.8	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0
ハ 思わない	594	31.4	41	42.3	11	28.9	16	48.5	14	24.1	11	31.4	82	34.2	12	26.1	63	30.4	237	31.8	67	30.6	30	19.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	29	1.5	2	2.1	0	0.0	0	0.0	2	3.4	0	0.0	3	1.3	0	0.0	3	1.4	10	1.2	4	1.8	2	2.0	1	100.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0
計	1,889	100.0	97	38	33		2	58	35	240	46	207	807	219	102	1	3	0	3													

	一般				留學				社会人				無回答				修士				博士				医系博士				無回答				女				男				無回答																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
イ 思う	177	10.3	23	26.0	11	12.1	2	40.0	213	11.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

47.(設問46でロ及びハと答えた方) その理由はなんですか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		農学		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 研究テーマからいって少なくとも2年は必要	317	31.4	27	30.1	11	28.9	7	26.9	16	31.4	9	26.1	63	28.5	5	11.9	67	36.4	176	23.4	96	51.3	40	49.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ロ 自分の研究能力では1年間で優れた成果を得ることは困難	860	52.2	55	61.1	25	65.8	16	61.5	29	56.9	18	56.3	110	49.8	33	78.6	91	49.5	389	44.8	71	38.0	31	38.3	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ハ 指導教官の指導方針からいって1年では困難	77	4.7	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12	5.4	2	4.8	13	7.1	41	5.9	8	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ニ 博士課程に進学するつもりがない	84	5.1	0	0.0	0	0.0	2	7.7	3	5.9	0	0.0	18	8.1	0	0.0	4	2.2	47	6.8	7	3.7	3	3.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ホ その他	80	8.2	3	3.3	2	5.3	1	3.8	3	5.9	4	12.5	14	6.3	2	4.8	8	4.3	38	5.5	3	2.7	0	7.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	23	1.4	4	4.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.1	4	1.8	0	0.0	1	0.3	12	1.7	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1,647	100.0	90	38	26	51	32	221	42	194	604	187	81	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 研究テーマからいって少なくとも2年は必要	459	30.3	36	66.7	21	27.6	1	33.3	517	31.4					131	36.3	383	30.0	1	37		
ロ 自分の研究能力では1年間で優れた成果を得ることは困難	788	52.7	15	27.8	46	60.5	1	33.3	860	52.2					184	51.0	674	52.5	2	66		
ハ 指導教官の指導方針からいって1年では困難	76	5.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	77	4.7					13	4.2	62	4.8	0	0		
ニ 博士課程に進学するつもりがない	81	5.4	1	1.9	1	1.3	1	33.3	84	5.1					9	2.5	75	5.8	0	0		
ホ その他	78	5.2	1	1.9	7	9.2	0	0.0	86	5.2					16	4.4	70	5.5	0	0		
無回答	22	1.5	1	1.9	0	0.0	0	0.0	23	1.4					6	1.7	17	1.3	0	0		
計	1,614		54		76		3		1,647						361		1,283		3			

48.(博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

博士課程(修士課程及び博士後期課程)の修了には5年の在学(医系学の場合は4年)を必要としますが、優れた研究業績をあげた者は3年で修了できます。あなたはこの制度を利用したいと思いますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		農学		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 思う	292	23.4	4	9.3	4	18.2	1	5.0	4	22.2	0	0.0	21	13.3	0	31.6	26	19.2	58	25.9	21	17.5	11	23.0	90	30.3	32	28.8	15	34.1	0	0.0		
ロ 思うけれども実際には難しい	734	58.8	21	48.8	9	40.9	14	79.0	8	44.1	0	0.0	99	63.5	11	57.9	74	56.9	70	32.6	27	61.4	162	54.5	72	64.9	25	56.8	1	100.0				
ハ 思わない	178	14.3	17	38.5	8	36.4	5	25.0	5	27.8	0	0.0	30	19.2	2	10.5	28	21.5	22	9.8	18	15.0	4	9.1	31	10.4	4	3.6	4	9.1	0	0.0		
無回答	45	3.6	1	2.3	1	4.5	0	0.0	1	5.6	0	0.0	6	3.8	0	0.0	3	2.3	8	7.6	6	5.0	3	4.5	14	4.7	3	2.7	0	0.0	0	0.0		
計	1,249	100.0	43	22	20	18	0	136	19	130	234	120	44	297	111	14	1	1																

	一般				留學				社会人				無回答				修士				博士				医系博士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%								
イ 思う	150	18.3	84	47.5	57	23.2	1	20.0																																				
ロ 思うけれども実際には難しい	513	62.5	59	33.3	138	64.2	4	80.0																																				
ハ 思わない	134	16.3	24	13.6	20	8.1	0	0.0																																				
無回答	24	2.9	10	5.6	11	4.5	0	0.0																																				
計	821		177		246		3																																					

49.(設問48でロ及びハと答えた方) その理由はなんですか。

	全体	文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		農学		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
イ	研究テーマからいって少なくとも4年以上は必要	252	27.0	11	28.9	5	29.4	6	31.0	5	28.5	0	0.0	45	34.9	2	15.4	39	38.2	35	22.2	30	32.9	14	45.2	91	17.6	13	17.1	13	44.8	0	0.0
ロ	自分の研究能力では3年間で博士号取得にふさわしい成果を得ることは困難	490	53.7	21	63.3	7	41.2	11	57.0	8	61.5	0	0.0	68	52.7	6	46.2	50	49.0	90	60.1	40	43.5	14	35.2	99	51.3	47	61.8	15	51.7	0	0.0
ハ	指導教官の指導方針からいって3年間で博士号取得は困難	68	7.3	1	2.6	2	11.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	3.9	3	23.1	5	4.9	10	7.0	6	6.5	1	3.2	17	14.0	7	9.2	0	0.0	0	0.0
ニ	その他	83	9.1	2	5.3	2	11.8	1	5.3	0	0.0	0	0.0	9	7.0	2	15.4	7	6.9	12	7.6	6	6.5	2	6.3	31	16.1	7	9.2	1	3.4	1	100.0
	無回答	19	2.1	0	0.0	1	5.9	1	5.3	0	0.0	0	0.0	2	1.6	0	0.0	1	1.0	6	3.2	5	5.4	0	0.0	2	1.0	2	2.6	0	0.0	0	0.0
	計	912	100.0	38	17	19	13	0	128	13	102	158	93	31	193	76	29	1	1														

	一般	留学	社会人	無回答	修士	博士	医系博士	無回答	女	男	無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 研究テーマからいって少なくとも4年以上は必要	186	28.7	24	28.9	41	23.0	1	25.0	195	31.7	0	0.0
ロ 自分の研究能力では3年間で博士号取得にふさわしい成果を得ることは困難	358	55.3	33	39.8	96	53.9	3	75.0	327	53.2	169	54.3
ハ 指導教官の指導方針からいって3年間で博士号取得は困難	38	5.9	12	14.5	18	10.1	0	0.0	35	5.7	50	15.7
ニ その他	56	8.7	5	6.0	22	12.4	0	0.0	43	7.0	41	13.2
無回答	9	1.4	9	10.8	1	0.6	0	0.0	15	2.4	6	1.9
計	647		83	178	4	615	311		912	734	1	

大学院教育に係るアンケート集計表

50.(医学・歯学研究科の臨床系学生への設問)
博士号取得と専門医取得のいずれを重視していますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		産		水産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 博士号取得を重視	48	11.8																							27	9.1	21	18.9				
ロ 専門医取得を重視	71	17.4																							32	17.5	19	17.1				
ハ 同程度に重視している	163	40.0																							122	41.1	41	36.9				
ニ 特に考えたことはない	47	11.5																							30	10.1	17	15.3				
ホ 専門領域に専門医制度はない	9	2.2																							6	2.0	3	2.7				
ヘ その他	4	1.0																							3	1.0	1	0.9				
無回答	66	16.2																							67	19.9	9	8.1				
計	408	100.0																							297		111					

	一般				留学				社会人				無回答				修士				専攻修士				無回答				女				男				無回答				
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%							
イ 博士号取得を重視	27	13.3	11	26.2	10	6.2	0	0.0																																	
ロ 専門医取得を重視	24	11.8	4	9.5	43	26.7	0	0.0																																	
ハ 同程度に重視している	86	42.4	10	23.8	66	41.0	1	50.0																																	
ニ 特に考えたことはない	24	11.8	2	4.8	20	12.4	1	50.0																																	
ホ 専門領域に専門医制度はない	6	3.0	0	0.0	3	1.9	0	0.0																																	
ヘ その他	3	1.5	0	0.0	1	0.6	0	0.0																																	
無回答	33	16.3	15	35.7	18	11.2	0	0.0																																	
計	203		42		161		2																																		

51.あなたは国内あるいは国際学会の会員ですか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	農	地球	工	農	水産	医	歯	獣	獣医	無回答															
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%														
イ 国内学会の会員である	1,701	54.2	71	60.4	36	60.0	7	13.2	8	10.6	8	22.9	197	49.7	32	49.2	163	18.4	347	53.3	189	39.2	78	53.4	232	78.1	88	79.3	28	63.6	7	41.2
ロ 国際学会の会員である	21	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	1.8	9	0.9	3	0.9	0	0.0	1	0.3	0	0.0	1	2.3	0	0.0
ハ 両方の学会の会員である	131	4.2	8	5.7	3	5.0	1	1.9	4	5.3	0	0.0	18	4.5	2	3.1	13	3.9	23	2.2	9	2.7	7	1.8	28	9.4	11	9.9	3	6.8	1	5.6
ニ 学会の会員ではない	1,235	39.3	60	51.6	21	35.0	45	81.9	39	77.6	27	77.1	177	44.7	31	47.7	190	44.5	135	42.4	116	34.5	59	40.4	27	9.1	10	9.0	11	25.0	7	41.3
無回答	52	1.7	2	1.4	0	0.0	0	0.0	4	5.3	0	0.0	4	1.0	0	0.0	5	1.5	12	1.2	9	2.7	2	1.4	9	3.0	2	1.8	1	2.3	2	11.8
計	3,140	100.0	141		60		52		76		35		206		65		327		1,026		236		146		297		111		44		17	

	一般				留学				社会人				無回答				修士				博士				医系博士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%								
イ 国内学会の会員である	1,356	54.7	108	42.4	226	67.3	11	47.8	769	40.7	885	73.2	364	74.6	8	47.1	331	51.2	1,260	54.9	10	65.6																						
ロ 国際学会の会員である	8	0.3	12	4.7	1	0.3	0	0.0	8	0.4	11	1.4	4	0.8	0	0.0	5	0.8	16	0.6	0	0.0																						
ハ 両方の学会の会員である	78	3.1	18	7.1	34	10.1	1	4.3	22	1.2	67	8.4	43	8.8	1	5.9	37	5.7	93	3.8	1	5.6																						
ニ 学会の会員ではない	1,050	41.6	112	43.9	69	19.4	8	34.8	1,061	56.2	127	15.9	63	12.9	6	35.3	262	40.5	989	39.2	4	22.2																						
無回答	35	1.4	6	2.0	9	2.7	3	13.0	29	1.5	9	1.1	14	2.9	2	11.8	12	1.9	37	1.5	3	16.7																						
計	2,527		256		345		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18																							

52.(学会の会員になっている方への設問)
会費は誰が負担していますか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	農	地球	工	農	水産	医	歯	獣	獣医	無回答																
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%																
イ 自己負担	1,692	89.7	77	97.5	47	94.9	8	100.0	12	92.3	8	100.0	196	82.6	32	94.1	159	87.1	488	84.4	189	89.6	78	91.8	248	95.4	95	90.0	23	71.9	8	100.0
ロ 自己負担ではない	94	5.1	1	1.3	1	2.6	0	0.0	1	7.7	0	0.0	6	2.3	1	2.9	13	7.1	50	8.6	9	4.3	4	4.7	6	2.3	1	1.0	2	6.3	0	0.0
ハ 自己負担のある場合とない場合がある	73	3.9	0	0.0	1	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	3.3	1	2.9	6	3.3	35	6.0	10	4.7	3	3.7	6	2.3	1	1.0	3	9.4	0	0.0
無回答	21	1.3	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	1.9	0	0.0	4	2.2	6	1.0	3	1.4	0	0.0	0	0.0	2	2.0	4	12.5	0	0.0
計	1,853	100.0	79		39		8		12		8		215		34		182		579		211		85		261		99		32		8	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医系博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 自己負担	1,296	89.9	107	77.5	248	95.0	11	91.7	685	83.7	609	91.9	382	93.9	9	100.0	321	86.9	1,328	90.4	10	60.9
ロ 自己負担ではない	89	4.8	19	13.8	6	2.3	0	0.0	62	7.8	28	3.8	11	2.7	0	0.0	22	5.9	72	4.9	0	0.0
ハ 自己負担のある場合とない場合がある	62	4.3	4	2.9	6	2.7	1	8.3	44	5.5	19	2.9	10	2.4	0	0.0	29	5.4	53	3.6	0	0.0
無回答	15	1.0	3	3.8	1	0.4	0	0.0	8	1.0	10	1.5	8	1.9	0	0.0	7	1.9	16	1.1	1	6.1
計	1,442		138		261		12		799		663		411		9		372		1,469		11	

53.あなたは国内あるいは国外の学会に出席したことがありますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		農		水産		医		歯		獣		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ ある	2,047	65.2	89	63.1	42	70.0	16	30.2	20	26.7	8	22.9	239	65.4	45	69.2	226	67.1	624	60.8	236	70.2	53	63.7	261	87.0	83	74.8	34	77.3	11	64.7
ロ ない	996	30.4	40	28.4	15	25.0	31	58.5	46	60.5	23	65.7	121	30.6	30	30.8	90	26.7	366	35.7	87	25.9	48	32.5	30	10.1	25	22.5	9	20.5	3	29.4
無回答	137	4.4	12	8.5	3	5.0	6	11.3	10	13.2	4	11.4	16	4.0	0	0.0	21	6.2	36	3.5	13	3.9	5	3.4	6	2.0	3	2.7	1	2.3	1	5.6
計	3,160	100.0	141		89		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留學		社会人		無回答		修士		医系博士		無回答		女		男		無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
イ ある	1,617	61.0	144	56.5	271	80.9	15	63.2	954	50.3	708	88.6	402	82.4	12	70.6	401	69.0	1,634	66.0	12	66.7
ロ ない	801	31.7	95	37.3	34	16.1	6	26.1	832	44.0	66	8.3	73	15.0	4	23.5	212	32.8	739	29.9	3	27.8
無回答	100	4.3	16	6.3	10	3.0	2	8.7	103	5.3	25	3.1	13	2.7	1	5.9	34	5.3	102	4.1	1	5.6
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

大学院教育に係るアンケート集計表

54.(設問53でイと答えた方への設問) 学会への参加の形式は次のいずれですか(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 口頭研究発表(個人発表)	1,223	59.7	37	41.6	25	59.5	4	25.0	6	30.0	1	12.5	146	66.4	14	31.1
ロ 口頭研究発表(共同発表)	378	18.9	6	6.7	9	21.4	1	6.3	2	10.0	0	0.0	40	18.4	5	11.1
ハ シンポジスト、パネリストなど	86	4.2	2	2.2	5	11.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.2	1	2.2
ニ ポスター発表	733	36.8	5	5.6	2	4.8	2	12.5	1	5.0	0	0.0	135	62.1	23	51.1
ホ 参加したが発表はしなかった	531	25.9	63	70.8	29	67.4	13	81.3	13	65.0	8	100.0	56	21.6	21	46.7
無回答	10	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	1	2.2
計	2,047	100.0	89		42		16		20		8		259		45	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 口頭研究発表(個人発表)	919	59.3	87	60.4	109	62.4	8	53.3	509	53.4	484	68.4	243	69.4	7	58.3	193	48.1	1024	62.7	6	80
ロ 口頭研究発表(共同発表)	262	16.2	21	14.6	93	34.5	2	13.3	81	8.5	181	26.0	117	28.1	1	8.9	70	17.5	307	18.8	1	0
ハ シンポジスト、パネリストなど	52	3.2	7	4.9	26	9.6	0	0.0	20	2.1	39	5.5	28	7.0	0	0.0	17	4.2	68	4.2	0	0
ニ ポスター発表	577	35.7	53	35.8	116	42.8	7	46.7	191	20.0	349	49.3	217	54.9	3	25.0	144	33.9	606	37.1	8	23
ホ 参加したが発表はしなかった	417	25.8	43	29.9	69	25.5	2	13.3	319	33.4	131	18.5	84	20.9	3	25.0	114	26.9	384	23.5	3	23
無回答	6	0.4	1	0.7	2	0.7	1	6.7	5	0.5	2	0.3	2	0.5	1	8.3	1	0.2	8	0.5	1	8
計	1,617		144		271		15		954		708		402		12		401		1,634		12	

55.(設問53でイと答えた方への設問) その時の交通費、宿泊費はどうしましたか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 全額自己負担	501	24.5	02	69.7	23	54.8	4	25.0	15	75.0	6	75.0	41	15.8	5	11.1
ロ 自己負担なし	549	26.8	2	2.2	1	2.4	0	0.0	3	15.0	6	75.0	57	22.0	14	31.1
ハ 自己負担のある場合とない場合がある	639	31.2	9	10.1	10	23.8	5	31.3	2	10.0	0	0.0	98	37.8	16	35.6
ニ その他	180	9.3	3	3.4	2	4.8	4	25.0	0	0.0	1	12.5	40	15.4	3	6.7
無回答	108	5.2	13	14.6	6	14.3	3	18.8	0	0.0	1	12.5	23	8.9	7	15.6
計	2,047	100.0	89		42		16		20		8		259		45	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 全額自己負担	0	0.0	24	16.7	131	48.3	4	26.7	184	19.3	145	20.9	179	44.5	7	25.0	120	29.9	378	23.1	3	25
ロ 自己負担なし	458	28.3	55	38.2	32	11.8	4	26.7	327	34.3	178	25.1	46	11.4	3	25.0	83	20.7	654	28.4	2	16
ハ 自己負担のある場合とない場合がある	506	31.3	47	32.6	80	29.5	6	40.0	228	23.9	285	49.5	130	32.3	4	33.3	114	28.4	521	31.9	4	33
ニ その他	171	10.6	5	3.5	14	5.2	0	0.0	118	12.4	59	8.3	15	3.7	0	0.0	40	10.0	149	9.1	1	8
無回答	140	8.7	13	9.0	14	5.2	1	6.7	97	10.2	39	5.6	32	8.0	2	16.7	44	11.0	122	7.5	2	16
計	1,617		144		271		15		954		708		402		12		401		1,634		12	

56.これまでにに行った論文発表について該当するものに○をしてください(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 学内の研究科の研究紀要その他の研究誌に発表	447	11.2	22	15.6	25	41.7	10	18.9	9	11.8	2	3.7	39	6.4	4	6.2
ロ 学内研究科の論文をレフェリー制度のある国内の学術誌に発表	432	13.8	17	12.1	6	10.0	4	7.5	3	3.9	1	2.9	32	8.1	2	3.1
ハ 学内研究科ではない論文をレフェリー制度のある国内の学術誌に発表	230	8.6	4	2.8	4	6.7	2	3.8	1	1.3	0	0.0	25	6.3	3	4.6
ニ 学内研究科の論文をレフェリー制度のある外国の学術誌に発表	369	8.6	2	1.4	1	1.7	1	1.9	1	1.3	0	0.0	47	11.9	8	13.3
ホ 学内研究科ではない論文をレフェリー制度のある外国の学術誌に発表	270	8.6	0	0.0	0	0.0	1	1.9	0	0.0	0	0.0	58	14.6	9	13.8
ヘ 現在、投稿中の論文がある	522	16.8	21	14.9	3	5.0	7	13.2	6	7.8	1	2.9	54	13.6	10	13.4
ト まだ論文を書いたことがない	1,673	53.2	86	61.0	29	48.3	32	60.4	57	75.0	27	77.1	239	60.4	43	66.2
無回答	147	4.7	5	3.5	3	5.0	3	5.7	5	6.3	3	14.3	9	2.3	2	3.1
計	3,140	100.0	141		85		53		76		35		396		65	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 学内の研究科の研究紀要その他の研究誌に	343	13.6	41	17.3	38	17.3	2	8.7	234	12.4	164	20.3	5	10.7	3	17.6	92	14.2	354	14.3	1	5
ロ 学内研究科の論文をレフェリー制度のある国内の学術誌に発表	286	11.3	36	14.1	106	31.6	4	17.4	82	4.3	219	27.4	138	27.7	8	29.4	60	9.3	367	14.8	8	27
ハ 学内研究科ではない論文をレフェリー制度のある国内の学術誌に発表	170	6.7	14	5.6	64	19.1	2	8.7	54	2.9	129	16.1	67	13.8	1	3.9	27	4.2	222	9.0	1	5
ニ 学内研究科の論文をレフェリー制度のある外国の学術誌に発表	184	7.3	43	16.9	40	11.9	2	8.7	32	1.7	178	22.3	67	13.8	0	0.0	45	7.2	234	9.3	0	0
ホ 学内研究科ではない論文をレフェリー制度のある外国の学術誌に発表	217	8.6	16	6.3	34	10.1	3	13.0	39	3.1	150	18.8	63	12.9	1	5.9	54	8.3	211	9.0	2	11
ヘ 現在、投稿中の論文がある	375	14.8	61	23.9	80	23.9	6	26.1	129	6.8	272	34.6	129	26.5	4	23.5	83	12.8	476	17.6	16	53
ト まだ論文を書いたことがない	1,430	57.4	87	34.1	127	37.9	9	39.1	1,313	69.5	187	23.4	186	38.2	8	47.1	856	55.0	1,307	52.8	10	55
無回答	115	4.6	21	8.2	8	2.4	3	13.0	103	5.3	28	3.5	18	3.7	2	11.8	46	7.1	99	4.0	2	11
計	2,526		255		335		23		1,888		799		487		17		647		2,474		18	

大学院教育に係るアンケート集計表

57.研究成果を論文発表する場合、どのように論文を作成しますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		医		歯		薬		商		経済		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 自分で書き、自分の名前(筆頭著者を含む)で発表する	518	16.5	73	51.8	30	59.0	22	41.5	31	40.8	8	22.9	45	11.4	6	9.2	31	9.2	189	12.7	57	17.0	16	11.0	36	12.1	23	20.7	7	15.9	3	17.6
ロ 教官に書いてもらい、自分の名前(筆頭著者を含む)で発表する	1,956	62.5	53	37.8	22	36.7	15	28.2	29	38.2	14	40.0	241	60.9	26	40.0	216	64.1	683	66.4	208	61.9	105	71.9	229	77.1	73	63.8	34	72.3	10	58.8
ハ 研究成果を教官に提供し、教官が筆頭著者となり、自分は共同著者の一人とする	273	8.7	2	1.4	1	1.7	1	1.9	2	2.6	0	0.0	57	14.4	20	30.8	33	9.8	103	10.2	27	8.0	11	7.5	9	3.0	4	3.6	0	0.0	1	5.9
ニ その他	123	3.9	3	2.1	2	3.8	6	11.3	3	3.9	4	11.0	18	4.5	6	9.2	29	8.9	31	3.0	12	3.6	4	2.7	8	2.7	4	3.6	2	4.3	0	0.0
無回答	270	8.6	10	7.1	5	8.3	9	17.0	13	14.5	9	25.7	35	8.8	7	10.8	37	11.0	79	7.7	32	9.6	10	6.8	15	5.1	7	6.3	1	2.3	3	17.6
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		596		65		337		1,020		396		146		297		111		44		17	

	一般		留學		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 自分で書き、自分の名前(筆頭著者を含む)で発表する	386	15.3	52	20.4	78	23.3	2	8.7	273	14.5	179	22.4	73	13.0	3	17.6	118	18.2	207	16.0	3	16.7
ロ 教官に書いてもらい、自分の名前(筆頭著者を含む)で発表する	1,576	62.4	149	58.4	218	65.1	13	56.3	1,077	57.0	646	68.3	358	73.4	9	52.9	356	54.9	1,600	64.2	11	61.1
ハ 研究成果を教官に提供し、教官が筆頭著者となり、自分は共同著者の一人とする	251	9.8	10	3.9	8	2.4	4	17.4	230	12.2	30	3.8	16	3.3	2	11.8	56	8.7	216	8.7	1	5.6
ニ その他	108	4.3	5	2.0	10	3.0	0	0.0	95	5.0	14	1.8	14	2.9	0	0.0	35	5.4	88	3.6	0	0.0
無回答	206	8.2	39	15.3	21	6.3	4	17.4	214	11.3	30	3.8	27	5.5	3	17.6	83	12.8	184	7.4	3	16.7
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,473		18	

58.筆頭著者の論文を発表した方へ

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		医		歯		薬		商		経済		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 論文はほとんど自分で書いた	206	6.6	23	16.3	15	25.0	3	9.4	7	9.2	1	2.9	2	9.5	0	0.0	10	3.0	71	6.9	24	7.1	7	4.8	32	10.8	3	2.7	5	11.4	1	5.9
ロ 論文は自分で書いたが、先生に直して貰った	733	23.3	13	9.2	5	8.3	7	13.2	6	7.9	1	2.5	76	17.7	3	4.6	63	18.7	290	28.3	78	23.2	36	17.8	127	42.8	19	17.1	22	50.0	3	17.6
ハ 論文の一部は自分で書いたが、他は先生が書いた	51	1.6	1	0.7	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	12	3.0	0	0.0	8	2.4	16	1.6	3	0.9	1	0.7	8	2.7	1	0.8	0	0.0	0	0.0
ニ 実験などは自分でしたが、論文は先生が書いた	77	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	1.8	8	12.3	6	1.8	10	1.0	3	0.9	1	0.7	1	0.3	1	0.8	0	0.0	0	0.0
無回答	2,113	67.3	104	73.8	40	66.7	41	77.4	62	81.6	33	94.3	205	77.0	54	83.1	230	74.2	639	62.3	228	67.9	111	76.0	129	43.4	87	78.4	17	38.6	13	78.5
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		596		65		337		1,020		396		146		297		111		44		17	

	一般		留學		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 論文はほとんど自分で書いた	126	5.0	28	11.0	49	14.8	3	13.0	74	3.9	92	11.5	44	9.0	2	11.8	42	6.5	162	6.5	2	11.1
ロ 論文は自分で書いたが、先生に直して貰った	517	20.3	93	36.5	118	36.2	5	21.7	248	13.0	320	40.1	185	37.9	5	29.4	120	18.5	609	24.0	4	22.2
論文の一部は自分で書いたが、他は先生が書いた	41	1.6	7	2.7	3	0.9	0	0.0	15	0.8	29	3.6	9	1.8	0	0.0	13	2.0	38	1.5	0	0.0
ニ 実験などは自分でしたが、論文は先生が書いた	35	1.4	2	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	21	1.1	14	1.8	2	0.4	0	0.0	7	1.1	30	1.2
無回答	1,808	71.5	125	49.0	163	49.3	15	63.2	1,334	61.2	344	43.1	248	50.8	10	58.8	465	71.9	1,636	66.1	12	66.7
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,473		18	

59.あなたは大学院在学中に外国の大学へ留学した経験がありますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		医		歯		薬		商		経済		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ ある(単位取得)	28	0.9	1	0.7	0	0.0	1	1.9	1	1.3	0	0.0	3	0.8	0	0.0	8	2.4	7	0.7	3	0.9	1	0.7	1	0.3	0	0.0	1	2.3	1	5.9
ロ ある(単位取得なし)	34	1.1	2	1.4	3	5.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	1.5	1	1.5	6	1.8	7	0.7	5	1.5	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ハ ない	3,029	96.0	138	97.9	55	91.7	52	98.1	72	94.7	33	100.0	385	97.2	84	98.5	716	93.8	996	97.1	320	95.2	141	96.6	390	97.6	108	97.3	42	93.6	15	88.2
無回答	49	1.6	0	0.0	2	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.5	0	0.0	7	2.1	16	1.6	8	2.4	4	2.7	5	1.7	3	2.7	1	2.3	1	5.9
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		596		65		337		1,020		396		146		297		111		44		17	

	一般		留學		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ ある(単位取得)	7	0.3	16	6.3	3	0.9	2	8.7	7	0.4	17	2.1	4	0.8	1	5.9	11	1.7	16	0.6	1	5.6
ロ ある(単位取得なし)	28	1.1	5	2.0	1	0.3	0	0.0	14	0.7	19	2.4	3	0.6	0	0.0	11	1.7	23	0.9	0	0.0
ハ ない	2,165	97.3	217	85.1	328	97.9	19	82.6	1,845	97.7	717	93.5	470	96.3	15	88.2	610	91.3	2,104	97.1	15	83.3
無回答	27	1.1	17	6.7	3	0.9	2	8.7	21	1.2	16	2.0	11	2.3	1	5.9	15	2.3	32	1.3	2	11.1
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,473		18	

60.国内の他大学・研究機関で実験・実習・調査を行ったことがありますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		医		歯		薬		商		経済		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ ある	541	17.2	12	8.5	8	13.3	5	9.7	8	10.5	6	0.0	89	22.5	8	12.3	92	27.6	142	13.8	78	23.2	43	29.5	37	12.3	9	8.1	9	20.5	3	17.6
ロ ない	2,555	81.4	129	91.5	48	80.0	50	94.3	68	89.5	35	100.0	304	76.8	56	86.2	240	71.2	872	83.0	251	74.7	101	69.2	255	88.9	99	89.3	34	77.3	13	76.5
無回答	44	1.4	0	0.0	4	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.8	1	1.8	5	1.5	12	1.2	7	2.1	2	1.4	5	1.7	4	2.7	1	2.3	1	5.9
計	3,140	100.0	141		60		58		76		35		896		65		337		1,026		336		146		297		111		45		17	

大学院教育に係るアンケート集計表

61.外国の大学及び研究機関で実験・実習・調査を行ったことがありますか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ ある	190	6.1	8	8.7	8	13.3	0	0.0	4	5.3	1	2.9	25	6.5	2	3.1
ロ ない	2,888	92.0	133	94.9	49	81.7	32	98.1	70	92.1	34	97.1	367	92.7	63	96.9
無回答	62	2.0	0	0.0	3	5.0	1	3.0	2	2.6	0	0.0	8	2.4	18	28.0
計	3,140	100.0	141		60		33		76		35		396		83	

	一般		医学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. ある	108	4.3	35	21.6	27	8.1	0	0.0	57	3.0	111	13.9	31	8.4	0	0.0	45	7.0	144	5.8	1	5
ロ. ない	2,380	94.2	185	72.5	302	90.1	21	91.3	1,798	95.2	670	83.9	447	91.6	16	94.1	685	90.4	2,288	92.4	15	83
無回答	39	1.5	15	5.9	6	1.8	2	8.7	34	1.8	18	2.3	10	2.0	1	5.9	17	2.6	43	1.7	2	11
計	2,527		255		333		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

62.本学以外の大学・研究機関で研究できる機会があればどうしますか(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 国内の大学・研究機関へ行きたい	1,429	45.5	73	53.2	33	55.0	16	30.2	27	35.3	16	43.7	203	51.3	32	49.2
ロ 外国の大学・研究機関へ行きたい	1,681	52.9	86	61.0	21	35.0	26	49.1	31	40.8	27	77.1	203	51.3	29	44.6
ハ 国外に行きたいが、留学上の制約があって行けない	896	28.1	18	12.8	12	20.0	15	28.3	18	23.7	5	14.3	63	15.9	9	13.8
ニ 行く必要を感じない	588	18.7	20	14.2	9	15.0	15	28.3	19	25.0	4	11.4	82	20.7	11	16.9
無回答	63	2.0	1	0.7	1	1.7	0	0.0	0	0.0	1	2.6	1	2.6	1	2.6
計	3,140	100.0	141		60		33		76		35		396		83	

	一般		医学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 国内の大学・研究機関へ行きたい	1,166	46.1	120	47.1	136	40.6	7	30.4	835	44.2	423	52.9	186	38.1	5	29.4	295	45.6	1,127	45.5	7	38
ロ 外国の大学・研究機関へ行きたい	1,288	51.0	188	73.7	172	51.3	13	55.5	870	46.1	324	65.6	288	59.0	10	58.8	363	56.4	1,286	52.0	10	55
ハ 国外に行きたいが、留学上の制約があるへ行けない	445	17.6	6	2.4	30	14.9	4	17.4	330	17.3	118	24.8	59	12.1	3	17.6	111	17.2	392	15.8	2	11
ニ 行く必要を感じない	486	19.2	27	10.6	72	21.5	3	13.0	419	22.2	79	9.9	99	20.3	2	11.8	91	14.1	456	20.0	1	5
無回答	42	1.7	13	5.1	6	1.8	2	8.7	35	1.9	15	3.1	4	2.9	1	5.9	18	2.8	43	1.7	2	11
計	2,527		235		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

63.海外の研究者の講演・講義・演習に出席したことがありますか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ ある	1,521	48.4	44	31.2	21	36.0	27	50.9	27	35.5	20	57.1	229	57.8	38	58.5
ロ ない	1,561	49.7	95	67.4	37	61.7	26	49.1	47	61.8	15	42.9	164	41.4	27	41.8
無回答	58	1.8	2	1.4	2	3.3	0	0.0	2	2.6	0	0.0	3	0.8	8	12.4
計	3,140	100.0	141		60		33		76		35		396		83	

	一般		医学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. ある	1,200	47.5	120	49.4	186	55.5	9	39.1	722	38.2	534	69.3	202	53.7	5	29.4	332	51.3	1,183	47.8	6	32
ロ. ない	1,293	51.2	116	45.5	141	42.1	11	47.8	1,140	60.3	228	29.5	209	42.8	10	58.8	504	47.0	1,248	50.4	9	56
無回答	34	1.3	13	5.1	8	2.4	3	13.0	27	1.4	17	2.1	17	3.5	2	11.8	11	1.7	4.4	1.8	3	16
計	2,527		235		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

64.(設問63でイと答えた方への設問) 該当する項目に○をつけて下さい(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 自分の意志で出席した	1,058	69.6	26	81.8	16	76.2	24	88.9	16	70.4	19	95.0	161	70.3	23	69.8
ロ 先生にいわれて出席した	378	24.7	8	11.4	3	4.8	4	14.8	8	29.6	0	0.0	46	21.4	10	28.3
ハ 出席したが内容をよく理解できなかった	642	42.2	16	35.4	6	23.8	7	25.9	9	33.3	2	10.0	108	47.2	20	52.6
ニ 内容はおおむね参考になった	293	19.3	12	27.3	7	33.3	7	25.9	4	14.8	2	10.0	43	18.8	9	23.7
ホ これからも積極的に参加する	442	29.1	17	38.6	10	47.6	6	22.2	9	33.3	6	30.0	77	33.6	10	28.3
無回答	6	0.4	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.6	0	0.0
計	1,521	100.0	44		21		27		27		20		229		38	

	一般		医学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 自分の意志で出席した	803	66.8	97	77.0	151	81.2	7	77.8	412	57.1	419	81.0	210	80.2	4	80.0	240	72.3	813	68.7	5	83
ロ 先生にいわれて出席した	309	25.8	32	25.4	33	17.7	2	22.2	234	31.0	99	17.9	35	21.0	1	30.0	80	24.1	295	24.9	1	16
ハ 出席したが内容をよく理解できなかった	575	47.9	20	15.9	44	23.7	3	33.3	404	56.0	162	29.2	76	29.0	2	60.0	135	40.7	504	42.6	3	50
ニ 内容はおおむね参考になった	213	17.8	29	23.0	50	26.9	1	11.1	92	12.7	135	24.4	68	26.0	0	0.0	63	19.0	230	19.4	0	0
ホ これからも積極的に参加する	334	27.8	47	37.3	60	32.3	1	11.1	157	21.7	206	37.5	83	31.7	0	0.0	119	35.8	323	27.3	0	0
無回答	4	0.3	1	0.8	1	0.5	0	0.0	3	0.4	2	0.4	1	0.4	0	0.0	1	0.3	5	0.4	0	0
計	1,200		126		186		9		722		554		262		5		332		1,188		6	

大学院教育に係るアンケート集計表

65.外国人研究者が研究室に滞在することについてどう思いますか(複数選択可)。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答																
イ 日本以外の文化や学術研究について学べるから歓迎する	2,344	74.6	116	82.3	45	76.0	43	81.1	50	65.8	30	85.7	301	76.0	43	66.2	249	73.9	766	74.7	249	74.1	121	82.9	206	69.4	81	73.0	34	77.3	10	88.8
ロ 英語など外国語が上達するから歓迎する	1,608	51.2	48	34.8	21	35.0	9	17.0	23	30.3	14	40.0	241	60.9	40	61.5	197	58.5	315	53.1	145	43.2	102	69.5	186	45.8	55	49.5	20	45.5	11	64.7
ハ 著名な研究者なら歓迎する	231	7.4	16	11.3	4	6.7	1	1.9	15	19.7	5	14.3	21	5.3	5	7.7	25	7.4	38	5.7	24	7.1	11	7.5	31	10.4	10	9.0	5	11.4	0	0.0
ニ 歓迎するが意思疎通について不安がある	774	24.6	35	24.8	11	18.3	11	20.8	14	18.4	3	8.6	125	31.6	24	36.9	82	24.3	256	25.0	84	25.0	27	18.5	59	19.9	31	27.9	9	20.5	3	17.6
ホ あまり意味がない	71	2.3	1	0.7	3	5.0	2	3.8	4	5.3	2	5.7	7	1.8	2	3.1	3	0.9	24	2.3	11	3.3	1	0.7	9	3.0	1	0.9	1	2.3	0	0.0
無回答	112	3.6	5	3.5	4	6.7	2	3.8	4	5.3	2	5.7	9	2.3	2	3.1	14	4.2	25	2.4	12	3.6	3	2.1	22	7.4	5	4.5	0	0.0	3	17.6
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般	留学	社会人	無回答	修士	博士	医学博士	無回答	女	男	無回答											
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%										
イ 日本以外の文化や学術研究について学べるから歓迎する	1,903	75.3	101	63.1	294	78.8	16	69.6	1,420	73.2	588	74.8	317	71.1	11	64.7	498	77.0	1,835	74.1	11	61.1
ロ 英語など外国語が上達するから歓迎する	1,373	54.3	72	28.2	149	44.5	14	60.9	980	52.4	401	50.2	225	48.1	10	58.8	321	49.6	1,275	51.6	9	50.0
ハ 著名な研究者なら歓迎する	152	6.0	53	20.8	26	7.8	0	0.0	96	5.1	64	11.8	51	10.5	0	0.0	37	5.7	193	7.8	1	5.6
ニ 歓迎するが意思疎通について不安がある	696	27.1	12	4.7	62	18.7	4	17.4	512	27.1	185	19.8	106	21.7	4	23.3	138	21.3	614	23.6	2	11.1
ホ あまり意味がない	57	2.3	4	1.6	10	3.0	0	0.0	42	2.2	20	2.5	11	2.3	0	0.0	9	1.4	62	2.5	0	0.0
無回答	40	1.6	68	22.7	10	3.0	4	17.4	45	2.4	44	5.3	31	6.4	3	17.6	34	5.3	74	3.0	4	22.2
計	2,527		255		335		23		1,889		789		488		17		647		2,475		18	

66.あなたは欧文論文を書いたことがありますか。

	全体	文	教育	法	経済	国際	理	薬	地球	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答																
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数																
イ 複数書いた	280	8.9	10	7.1	2	3.3	1	1.9	6	7.9	1	2.9	37	9.3	0	0.0	39	11.6	78	7.6	25	7.4	15	10.3	48	16.2	3	2.7	13	29.5	2	11.8
ロ 1編だけ書いた	237	9.5	9	6.4	5	8.7	2	3.8	1	1.3	7	20.0	43	10.9	3	4.6	39	11.6	91	8.9	34	10.1	8	5.6	34	11.4	11	9.9	11	25.0	0	0.0
ハ 書いたことはない	2,499	79.6	121	85.8	53	88.3	50	94.3	67	88.2	27	77.1	312	78.6	62	95.4	250	74.2	840	81.9	271	80.7	120	82.2	202	68.0	93	83.8	18	40.9	13	76.5
無回答	64	2.0	1	0.7	1	1.7	0	0.0	2	2.6	0	0.0	4	1.0	0	0.0	9	2.7	17	1.7	6	1.8	3	2.1	13	4.4	4	3.6	2	4.5	2	11.8
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 複数書いた	169	6.7	62	24.3	47	14.0	2	8.7	36	1.9	181	22.7	71	14.5	2	11.8	54	8.3	223	9.0	3	16.7
ロ 1編だけ書いた	209	8.3	42	16.3	42	12.5	4	17.4	83	4.4	157	19.6	64	13.1	0	0.0	67	10.4	230	9.3	0	0.0
ハ 書いたことはない	2,109	83.5	137	53.7	239	71.3	14	60.9	1,744	92.3	440	55.1	333	68.2	13	76.3	616	79.8	1,971	79.6	12	66.7
無回答	40	1.6	14	5.5	7	2.1	3	13.0	26	1.4	21	2.6	20	4.1	2	11.8	10	1.5	51	2.1	3	16.7
計	2,527		255		335		23		1,889		789		488		17		647		2,475		18	

67.あなたはT Aに任用されたことがありますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ ある	1,385	44.1	93	66.0	26	43.3	13	24.5	21	27.6	7	20.0	139	40.2	22	33.8	89	26.3	365	30.6	229	68.2	78	53.4	143	48.1	92	82.9	42	93.3	6	33.3
ロ ない	1,709	54.4	47	33.3	33	55.0	40	75.5	54	71.1	28	80.0	233	58.8	43	66.2	240	71.2	831	63.5	102	30.4	68	46.6	142	47.8	17	15.3	2	4.5	9	52.9
無回答	46	1.5	1	0.7	1	1.7	0	0.0	1	1.3	0	0.0	4	1.0	0	0.0	8	2.4	10	1.0	5	1.5	0	0.0	12	4.0	2	1.8	0	0.0	2	11.8
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ ある	1,165	46.1	105	41.2	107	31.9	8	34.8	573	30.3	533	66.7	294	60.2	6	35.3	308	47.6	1,070	47.2	7	38.9
ロ ない	1,334	52.8	142	55.7	221	66.0	12	52.2	1,295	68.6	251	31.4	179	36.7	9	52.9	330	51.0	1,371	55.4	8	44.4
無回答	28	1.1	8	3.1	7	2.1	3	13.0	20	1.1	15	1.9	15	3.1	2	11.8	9	1.4	34	1.4	3	16.7
計	2,527		255		335		23		1,889		789		488		17		647		2,475		18	

68.あなたはT Aに任用されることを希望しますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. 希望する	3,006	87.9	116	82.3	35	58.3	23	43.4	42	55.3	21	60.0	276	69.7	57	87.7	209	62.0	589	57.4	266	79.2	101	69.2	140	47.1	80	77.5	36	81.8	9	52.9
ロ. 希望しない	1,634	53.6	23	16.3	22	36.7	28	52.8	32	42.1	14	40.0	115	29.0	7	10.8	115	34.1	421	41.0	63	18.8	42	28.8	138	46.6	22	19.8	8	18.2	4	23.5
無回答	80	2.5	2	1.4	3	5.0	2	3.8	2	2.6	0	0.0	5	1.3	1	1.5	13	3.9	10	1.6	7	2.1	3	2.1	19	6.4	3	2.7	0	0.0	4	23.5
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		医学博士		無回答		女		男		無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
イ、希望する	1,688	66.8	183	71.8	125	37.3	10	43.5	1,171	62.9	577	72.2	284	68.2	7	41.2	436	67.4	1,362	63.1	8	44.4
ロ、希望しない	798	31.6	51	21.2	194	57.9	8	34.8	681	36.1	201	25.2	180	36.9	6	35.3	194	30.6	855	34.5	6	27.8
無回答	41	1.6	18	7.1	16	4.8	5	21.7	37	2.0	21	2.6	24	4.9	4	23.5	17	2.6	68	2.5	3	17.8
計	2,527		255		335		23		1,889		789		488		17		647		2,475		18	

大学院教育に係るアンケート集計表

69.(設問68でイと答えた方への設問)
その最大の理由を一つ上げて下さい。

	全体		文系		教育		法		経済		農学		理		薬		工学		農		水産		医		歯		獣医		農学			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 経済的に助かる	1,456	72.6	83	71.6	6	17.1	14	60.9	28	66.7	10	47.6	213	76.4	20	87.7	155	74.2	430	73.0	197	74.1	66	69.3	102	72.9	70	81.4	27	75.0	7	77.8
ロ 教育活動のトレーニングとして役に立つ	360	17.8	23	19.8	19	44.3	7	30.4	10	23.6	9	42.9	38	13.8	2	8.5	32	15.5	112	19.0	45	16.9	20	25.7	21	16.4	9	10.5	6	16.7	1	11.1
ハ 自分の専門を教育に生かせる	102	5.1	4	3.4	4	11.4	2	8.7	1	2.4	2	9.5	14	5.1	3	5.3	11	5.3	27	4.6	10	3.8	6	5.9	7	8.1	1	2.6	1	2.6	1	11.1
ニ 将来大学の教員になるために必要	43	2.1	3	4.3	4	11.4	0	0.0	3	7.1	0	0.0	3	1.1	0	0.0	8	3.8	8	1.4	7	2.6	0	0.0	3	2.1	0	0.0	2	5.6	0	0.0
ホ その他	38	1.9	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	3.3	1	1.8	2	1.0	11	1.9	6	2.3	3	3.0	3	3.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	7	0.3	0	0.0	2	5.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	1	1.8	1	0.5	1	0.2	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	2,006	100.0	116		35		23		42		21		276		57		309		689		266		101		140		86		30		9	

	男		女		計		割合		男子		女子		割合		男女差		教員等		女		男		割合	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 経済的に助かる	1,290	75.8	91	49.7	78	62.4	7	70.0	848	72.4	411	71.3	214	75.1	5	71.4	294	67.4	1,150	74.0	6	75.0	6	75.0
ロ 教育活動のトレーニングとして役に立つ	282	16.7	80	27.5	25	20.0	3	30.0	214	18.3	109	18.9	42	14.8	2	28.6	96	22.8	282	16.8	2	25.0	2	25.0
ハ 自分の専門を教育に生かせる	11	4.2	16	8.7	15	12.0	0	0.0	6	5.1	25	4.0	16	6.3	0	0.0	0	0.0	11	4.2	0	0.0	0	0.0
ニ 将来大学の教員になるために必要	18	1.1	22	12.0	7	5.4	0	0.0	17	1.5	22	3.8	5	1.8	0	0.0	15	3.0	30	1.9	0	0.0	0	0.0
ホ その他	32	1.9	3	1.6	3	2.4	0	0.0	29	2.0	10	1.7	5	1.8	0	0.0	11	2.5	27	1.7	0	0.0	0	0.0
無回答	5	0.3	1	0.5	1	0.8	0	0.0	5	0.4	2	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.2	6	0.4	0	0.0	0	0.0
計	1,688		183		325		10		1,171		577		284		7		430		1,562		8		8	

70.(設問68で口と答えた方への設問)
その最大の理由を一つ上げて下さい。

	全体		文系		数系		法		経済		工農		理		農		保健		工		商		水産		法		経済		医療		教育	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 総数が少ない	137	13.0	3	13.0	5	22.7	0	0.0	1	3.1	0	0.0	15	13.0	1	14.3	13	11.3	60	14.3	4	6.3	4	9.5	24	17.4	6	27.3	1	12.5	0	0.0
ロ 研究対象の支障になる	381	36.1	0	26.1	5	22.7	7	25.0	9	28.1	2	14.3	33	96.1	2	28.6	40	34.8	174	41.3	23	39.7	22	52.4	34	17.4	7	31.8	4	60.0	1	25.0
ハ TAの職務内容が不明確	284	26.9	6	26.1	4	18.2	8	28.6	8	25.0	4	28.6	21	18.3	1	14.3	34	29.6	105	21.9	16	23.8	9	21.4	63	47.1	4	18.2	0	0.0	0	0.0
ニ 生徒の成績について評価権がない	19	1.8	0	0.0	0	0.0	1	3.6	1	3.1	0	0.0	0	0.0	1	14.3	4	3.5	9	2.1	2	3.2	0	0.0	1	9.7	0	0.0	6	6.0	0	0.0
ホ その他	191	18.1	6	26.1	7	31.8	9	32.1	12	37.5	8	67.1	24	20.9	2	28.6	20	17.4	64	12.8	15	23.8	5	11.9	19	13.8	5	22.7	3	37.6	2	50.0
無回答	42	4.0	2	8.7	1	4.5	3	10.7	1	3.1	0	0.0	2	1.7	0	0.0	4	3.5	19	4.5	2	3.2	2	4.8	6	3.6	6	6.0	0	0.0	1	25.0
計	1,055	100.0	23		22		28		32		14		115		7		115		421		63		42		138		22		8		4	

	一般			学生			社会人			無回答			修士			博士			専攻博士			無回答			女			男			無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%			
イ 給きが少ない	115	14.4	0	0.0	21	10.8	1	12.5	80	11.7	25	12.4	31	17.3	1	16.7	25	12.9	112	13.1	0												
ロ 研究/実験の支障になる	313	89.2	25	46.8	40	20.6	3	37.5	258	37.9	88	42.8	40	22.2	1	16.7	66	31.0	814	36.7	1	20											
ハ TAOの職務内容が不明確	213	26.7	8	14.8	63	32.3	0	0.0	183	26.9	33	16.4	71	39.4	0	0.0	48	24.7	236	27.6	0												
ニ 生徒の成績について評価値がない	15	1.9	2	3.7	3	1.6	0	0.0	10	2.3	2	1.0	2	1.1	1	16.7	3	1.5	16	1.9	0												
ホ その他	115	14.4	12	22.2	61	31.4	3	37.5	116	17.0	47	23.4	28	15.6	2	33.3	42	21.6	146	17.1	3	60											
無回答	27	3.4	7	12.0	7	3.6	1	12.5	28	4.1	8	4.0	8	4.4	1	16.7	10	5.2	31	3.6	1	20											
計	798		54		194		8		681		201		180		6		194		855		5												

71.あなたはRAに任用されたことがありますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		健康		文		農		美術		音		歴史		地理	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ. ある	213	6.8	8	5.7	2	3.3	2	3.8	4	5.3	1	2.9	29	7.3	1	1.5	43	12.8	37	3.6	26	7.7	6	4.1	37	12.5	7	6.3	8	18.2
ロ. ない	2,980	89.8	132	93.6	55	91.7	50	94.7	70	92.1	33	94.3	357	90.2	64	98.5	282	83.7	962	93.8	296	88.1	135	92.5	241	81.1	97	87.4	35	79.5
無回答	107	3.4	1	0.7	3	5.0	1	1.9	2	2.6	1	2.9	10	2.5	0	0.0	13	3.6	27	2.6	14	4.2	5	3.4	19	6.4	7	6.3	1	2.3
計	3,140	100.0	141	60	57	93.4	51	96.5	74	97.9	36	96.2	396	95.7	65	100.0	337	1,026	336	32.8	316	100.0	146	100.0	297	100.0	111	100.0	44	100.0

	総		男		社会人		無回答		博士		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	人%	人数	人%	人数	人%	人数	人%	人数	人%	人数	人%	人数	人%	人数	人%	人数	人%	人数	人%	人数	人%
イ. ある	171	6.8	20	10.2	13	3.9	5	13.0	16	0.8	145	18.1	59	12.1	3	11.8	42	6.5	169	6.8	2	11
ロ. ない	2,288	90.5	205	80.4	312	93.1	15	65.5	1,823	96.5	824	78.1	401	82.2	11	64.7	579	89.5	2,230	90.1	11	61
無回答	8.8	2.7	24	9.4	10	3.0	5	21.7	60	2.6	30	3.8	28	5.7	4	23.5	26	4.0	76	3.1	5	27
計	2,527		255		335		25		1,889		799		488		17		617		2,475		18	

72.あなたはRAに任用されることを希望しますか。

[illegible]

	一般		学生		社会人		無回答		博士		医学博士		無回答		女		男		無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
イ 希望する	844	33.4	170	66.7	73	21.8	8	34.8	475	25.1	467	58.1	176	36.1	5	29.4	253	39.1	834	33.7	8	44
ロ 希望しない	1,561	61.4	51	20.0	238	71.0	10	43.3	1,309	69.3	286	35.8	267	54.7	8	17.1	343	53.0	1,502	60.7	5	27
無回答	132	5.2	34	13.3	24	7.2	6	21.7	105	5.6	46	5.8	45	9.2	4	23.6	51	7.9	139	5.6	5	27
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

大学院教育に係るアンケート集計表

73.あなたは日本学術振興会の特別研究員に応募したことがありますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		医		歯		獣医		無回答					
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%				
イ 複数回ある	234	7.5	11	7.8	1	1.7	5	9.4	3	3.9	0	0.0	65	16.4	4	6.2	32	9.5	46	4.5	40	11.9	7	4.8	5	1.7	1	0.9	13	29.5	1	5.9
ロ 1回ある	271	8.6	13	9.2	3	5.0	4	7.5	5	8.6	1	2.6	81	12.9	11	16.9	37	11.0	85	8.1	31	9.2	18	12.5	9	3.0	4	3.6	17	38.6	4	23.5
ハ ない	2,579	82.1	116	82.3	53	88.3	44	83.0	67	88.3	34	97.1	276	69.7	50	76.9	260	77.2	903	88.0	261	77.7	119	81.5	270	80.9	103	92.8	11	31.8	9	52.9
無回答	56	1.8	1	0.7	3	5.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	4	1.0	0	0.0	8	2.4	14	1.4	5	1.2	2	1.4	13	4.4	3	2.7	0	0.0	3	17.6
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		専攻博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 複数回ある	223	8.8	4	1.6	6	1.8	1	4.3	3	0.2	211	26.4	21	4.3	1	5.9	36	5.6	190	7.9	2	11.1
ロ 1回ある	240	9.5	16	6.3	9	2.7	6	26.1	62	3.3	177	22.2	33	6.8	4	23.5	50	7.7	216	8.7	5	27.8
ハ ない	2,037	80.6	218	85.5	512	90.1	12	52.2	1,802	95.4	792	49.1	417	85.5	9	53.9	551	86.2	2,021	81.7	7	38.9
無回答	27	1.1	17	6.7	8	2.4	4	17.4	22	1.2	19	2.4	17	3.3	3	17.6	10	1.5	42	1.7	4	22.2
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

74.あなたは日本学術振興会の特別研究員に採用されたことがありますか。

		全体		文		教育		法		経済		国際		理		地球		工		農		水産		医		歯		獣医		無回答			
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
イ	ある	73	2.3	1	0.7	0	0.0	1	1.9	0	0.0	0	0.0	23	5.8	3	4.6	8	2.4	13	1.3	9	2.7	6	4.1	2	0.7	0	0.0	6	13.6	1	5.9
ロ	ない	3,001	95.6	139	98.6	57	93.0	52	98.1	75	98.7	35	100.0	367	92.7	61	93.8	320	95.0	998	97.3	321	95.5	186	93.2	281	94.6	108	97.3	38	86.4	13	76.5
無回答		66	2.1	1	0.7	3	5.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	6	1.5	1	1.5	9	2.7	15	1.5	6	1.8	4	2.7	14	4.7	3	2.7	0	0.0	3	17.6
計		3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		専攻博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ ある	63	2.6	3	1.2	4	1.2	1	4.3	3	0.2	62	7.8	0	1.8	1	8.9	8	1.2	63	2.5	2	11.1
ロ ない	2,420	96.1	233	91.4	321	96.8	18	78.3	1,861	98.5	712	89.1	401	84.5	13	76.5	626	96.8	2,363	95.5	12	60.7
無回答	33	1.3	19	7.3	10	3.0	4	17.4	25	1.3	23	3.1	18	3.7	3	17.6	13	2.0	46	2.0	4	22.2
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

75.あなたは特別研究員に採用されることを希望しますか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		医		歯		獣医		無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 希望する	998	30.5	49	34.8	13	21.7	14	26.4	14	18.4	12	34.3	150	40.2	18	27.7	185	40.1	213	20.8	133	39.6	57	39.0	73	25.3	34	30.6	23	52.9
ロ 希望するが無理だと思う	716	22.8	50	37.6	23	38.3	15	28.3	27	35.5	13	37.1	100	25.5	17	26.2	85	23.5	172	16.8	76	22.6	32	21.5	56	18.9	29	26.1	15	34.1
ハ 希望しない	1,370	43.6	34	24.1	21	35.0	23	43.4	34	44.7	10	28.6	126	31.8	28	43.1	103	30.6	613	59.7	119	35.4	54	37.0	154	51.9	43	38.7	5	11.4
無回答	96	3.1	6	3.9	3	5.0	1	1.9	1	1.3	0	0.0	11	2.8	2	3.1	13	3.9	28	2.7	8	2.4	3	2.1	12	4.0	5	4.5	1	2.3
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		337		1,026		336		146		297		111		44	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		専攻博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 希望する	741	29.3	158	62.0	51	13.2	9	34.8	39	20.9	474	54.3	152	31.1	8	29.4	179	27.7	772	31.2	7	38.9
ロ 希望するが無理だと思う	594	23.5	41	16.1	78	23.3	9	13.0	378	20.0	238	26.8	102	20.9	2	11.8	178	27.3	535	21.6	3	16.7
ハ 希望しない	1,130	44.7	37	14.3	195	58.2	8	34.8	1,064	56.3	109	12.9	216	44.3	6	35.3	365	41.1	1,109	44.4	4	22.2
無回答	62	2.5	19	7.5	11	3.3	4	17.4	52	2.8	34	3.0	18	3.7	4	23.5	24	3.7	68	2.7	4	22.2
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

76.(設問75でロ及びハと答えた方) その理由はなんですか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		農		地球		工		医		歯		獣医		無回答					
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%				
イ 採用枠が少ない	335	16.1	14	16.1	6	15.6	8	21.1	8	13.1	5	17.4	49	21.7	7	15.6	53	17.5	108	13.8	32	16.4	14	16.3	36	17.1	9	12.5	6	30.0	1	20.0
ロ 自分の研究テーマでは採用される見込みがない	196	9.4	8	9.2	6	13.6	0	0.0	5	8.2	2	8.7	26	11.5	5	11.1	9	4.8	76	9.7	28	14.4	9	10.3	15	7.1	4	5.6	3	15.0	0	0.0
ハ 自分の研究能力が不足している	1,096	52.5	55	63.3	24	54.3	16	42.1	37	54.1	11	47.8	199	48.2	29	64.4	114	60.3	416	53.0	96	49.2	39	43.8	104	48.5	43	59.7	4	20.0	3	60.0
ニ 指導教官が積極的にサポートしてくれない	17	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.6	0	0.0	3	1.3	1	2.2	1	0.5	7	0.9	0	0.0	1	1.2	3	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ホ その他	358	17.2	9	10.3	7	15.9	12	31.6	12	19.7	5	21.7	32	14.2	3	6.7	26	13.8	140	17.8	30	15.1	22	25.6	40	19.0	12	16.7	7	35.0	1	20.0
無回答	84	4.0	1	1.1	1	2.3	2	5.3	2	3.3	1	4.3	7	3.1	0	0.0	6	3.2	38	4.8	9	4.6	1	1.2	12	5.7	4	5.6	0	0.0	6	0.0
計	2,080	100.0	87		44		38		61		23		226		45		189		785		195		68		210		72		20		5	

	学 生												教 員											
	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		専攻博士		無回答		女		男		無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
イ、採用枠が少ない	276	16.0	22	28.2	38	12.8	2	18.2	190	13.2	94	27.6	52	16.4	1	12.3	71	16.0	262	16.0	2	28.6		
ロ、自分の研究テーマでは採用される見込みがない	171	9.9	2	2.6	29	8.4	0	0.0	127	8.8	47	13.8	23	7.2	0	0.0	44	9.9	192	9.5	0	0.0		
ハ、自分の研究能力が不足している	914	54.8	27	3.4	110	43.6	6	51.6	822	67.0	118	34.4	159	50.0	0	73.0	224	50.5	858	53.1	4	57.1		
ニ、指導教授が積極的にサポートしてくれない	171	0.8	1	1.3	3	1.1	0	0.0	8	0.6	0	1.8	3	0.9	0	0.0	2	0.5	15	0.9	0	0.0		
ホ、その他	255	14.8	22	28.2	80	29.3	1	9.1	231	16.0	69	20.2	63	19.8	1	12.5	82	18.5	275	16.8	1	14.3		
無回答	65	3.8	4	5.1	13	4.8	2	18.2	64	4.4	7	2.1	18	5.7	0	0.0	21	4.7	63	3.9	0	0.0		
計	1,728		78		273		11		1,442		341		318		8		444		1,635		7			

大学院教育に係るアンケート集計表

77.あなたの収入はつぎのどれですか(複数選択可)。

	全体	文	教員	学	経済	国際	理	農	地産	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
イ 親親族も含むの仕送り	1,700	54.1	67	47.5	0	15.0	21	38.6	26	34.2	12	34.8	204	64.1	47	68.2
ロ アルバイト	1,285	41.2	69	48.9	29	48.3	16	30.2	20	39.5	12	31.3	135	31.0	20	30.8
ハ 日本育英会の奨学金	1,215	38.7	64	45.4	15	23.0	21	39.6	15	19.7	12	34.3	183	46.2	28	43.1
ニ 日本育英会以外の奨学金	182	4.8	7	5.0	2	3.3	4	7.5	5	6.6	1	2.9	13	3.3	5	7.7
ホ 配偶者からの支援	111	3.5	0	4.3	12	20.0	3	5.7	8	10.3	3	8.6	6	1.3	1	1.3
ヘ 自分の給料	343	10.8	16	11.3	16	26.7	12	22.6	20	26.3	5	14.3	18	4.5	1	1.5
ト TA	657	20.9	57	40.4	14	23.3	7	13.2	17	22.4	5	14.3	61	15.4	13	20.0
チ RA	103	3.3	3	2.1	0	0.0	2	3.8	3	3.9	0	0.0	12	3.0	0	0.0
リ その他	171	5.4	11	7.8	4	6.7	5	9.4	7	9.2	3	8.6	23	6.3	4	6.2
無回答	34	1.1	0	0.0	2	3.3	1	1.9	0	0.0	0	0.0	5	1.3	0	0.0
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65	

	一般			留学			社会人			無回答			修士			博士			医学博士			無回答			女			男			無回答		
	人数	%	割合	人数	%	割合	人数	%	割合	人数	%	割合	人数	%	割合	人数	%	割合	人数	%	割合	人数	%	割合	人数	%	割合	人数	%	割合			
イ 親(祖)族も含む)の仕送り	1,642	65.0	33	12.9	17	5.1	8	34.8	1,386	73.4	218	31.0	74	15.2	7	41.2	318	49.1	1,377	55.6	5	27											
ロ アルバイト	1,131	44.8	69	27.1	90	26.9	5	21.7	835	44.2	241	30.2	232	47.8	4	23.8	251	38.8	1,090	42.0	4	22											
ハ 日本育英会の奨学金	1,166	46.1	11	4.3	34	10.1	4	17.4	719	38.1	381	47.7	122	26.0	2	11.8	244	37.7	967	36.1	4	22											
ニ 日本育英会以外の奨学金	43	1.7	109	42.7	0	0.0	0	0.0	60	3.2	70	8.8	26	3.3	1	5.9	38	5.9	114	4.6	0	0											
ホ 配偶者からの支援	54	2.1	24	9.4	32	9.6	1	4.3	36	1.9	46	5.8	33	6.8	0	0.0	51	7.9	58	2.3	2	11											
ヘ 自分の給料	119	4.7	7	2.7	213	63.6	4	17.4	67	3.8	132	14.1	165	33.8	3	17.6	64	9.9	277	11.3	2	11											
ト TA	573	22.7	47	18.4	36	10.7	1	4.3	256	13.6	274	34.3	134	27.5	1	5.9	128	21.3	517	20.9	2	11											
チ RA	90	3.0	8	3.1	4	1.2	1	4.3	4	0.2	71	8.9	33	6.9	0	0.0	25	3.9	78	3.2	0	0											
リ その他	79	3.1	50	19.6	38	11.3	4	17.4	61	3.3	90	11.3	28	5.7	1	5.9	42	6.6	128	5.2	1	5											
無回答	20	0.8	7	2.7	4	1.2	3	13.0	17	0.9	7	0.9	8	1.6	2	11.8	9	1.4	23	0.9	2	11											
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18												

78.あなたの現在の経済状況は、今後の在学を可能にしていますか。

	全体	文	教員	学	経済	国際	理	農	地産	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
イ 可能である	1,155	36.8	84	24.1	14	23.3	21	39.6	18	23.7	7	20.0	124	31.3	23	35.4
ロ まあなんとか可能である	997	31.8	52	36.9	17	28.3	16	30.2	21	27.6	14	40.0	127	32.1	17	26.2
ハ 1-2年は可能であるがそれ以上は無理である	674	21.5	40	28.4	14	23.3	12	22.6	28	36.8	9	25.7	106	26.8	12	18.5
ニ いまのままでこれ以上の在学は無理である	233	8.1	12	8.5	13	21.7	4	7.5	7	9.2	4	11.4	32	8.1	10	15.4
ホ 経済状況以外の理由でこれ以上の在学は無理である	23	0.7	2	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.5	2	3.1	2	0.6
無回答	38	1.2	1	0.7	2	3.3	0	0.0	2	2.6	1	2.9	5	1.3	1	1.5
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65	

	一般				社会人				無回答				修士				博士				医学博士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%						
イ 可能である	894	35.4	117	45.9	139	41.5	5	21.7	730	38.6	256	32.0	182	37.3	5	29.4	214	33.1	637	37.9	4	22.0																		
ロ まあなんとか可能である	810	32.1	61	23.9	118	35.2	8	34.8	519	29.1	247	30.9	213	43.6	5	29.2	202	31.2	790	31.9	5	27.1																		
ハ 1-2年は可能であるがそれ以上は無理である	586	23.2	33	12.9	50	14.9	5	21.7	427	22.6	192	24.0	63	12.9	3	17.6	148	22.9	521	21.1	37	18.5																		
ニ いまのままでこれ以上の在学は無理である	197	7.8	32	12.3	23	6.9	1	4.3	148	7.8	87	10.9	20	4.1	2	11.8	65	10.0	186	7.6	2	11.1																		
ホ 経済状況以外の理由でこれ以上の在学は無理である	20	0.8	1	0.4	1	0.3	1	4.3	15	0.8	6	0.8	3	0.6	0	0.0	6	0.9	17	0.7	0	0.0																		
無回答	20	0.8	11	4.5	4	1.2	7	13.0	20	1.1	14	1.4	7	1.4	2	11.8	12	1.9	24	1.0	2	11.1																		
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18																			

79.あなた自身の1ヶ月の生活費は次のいずれですか(入学金、授業料は除く)。

	全体	文	教員	学	経済	国際	理	農	地産	工	農	水産	医	歯	獣医	無回答
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
イ 10万円未満	1,227	39.1	68	48.2	26	43.3	27	50.9	28	36.8	21	60.0	172	43.4	30	46.2
ロ 10-14万円	1,320	42.0	52	36.9	23	38.3	18	34.0	25	32.9	9	25.7	181	46.5	24	36.9
ハ 15-19万円	304	9.7	15	10.6	6	10.0	4	7.5	6	7.8	2	5.7	28	7.1	10	15.4
ニ 20-24万円	104	3.3	5	3.5	2	3.3	3	5.7	6	7.8	0	0.0	7	1.8	0	0.0
ホ 25-29万円	39	1.2	0	0.0	1	1.7	1	1.9	4	5.3	2	5.7	1	0.3	0	0.0
ヘ 30万円以上	102	3.2	1	0.7	1	1.7	0	0.0	6	7.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	44	1.4	0	0.0	1	1.7	0	0.0	1	1.3	1	2.9	4	1.0	1	1.5
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65	

	一般				留学				社会人				無回答				修士				博士				医学博士				無回答				女				男				無回答			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%								
イ 10万円未満	1,012	40.0	138	54.1	70	20.9	7	30.4	821	43.7	315	39.4	107	21.9	5	29.1	286	44.2	935	37.8	6	30.0																						
ロ 10-14万円	1,193	47.2	60	23.5	59	17.6	8	34.8	872	46.2	337	42.2	120	24.6	7	41.2	249	38.5	1,065	43.0	0																							
ハ 15-19万円	202	8.0	41	16.1	58	17.6	2	8.7	135	7.1	92	11.5	85	17.4	1	5.0	63	9.7	239	9.7	2	10.0																						
ニ 20-24万円	48	1.9	7	2.7	48	14.3	1	4.3	24	1.3	26	3.3	53	10.9	1	5.0	13	2.0	90	3.6	1	5.0																						
ホ 25-29万円	12	0.5	1	0.4	25	7.5	1	4.3	6	0.3	4	0.5	30	6.1	0	0.0	5	0.8	34	1.4	0																							
ヘ 30万円以上	34	1.3	0	0.0	67	20.0	1	4.3	9	0.5	16	2.0	80	16.3	1	5.0	17	2.6	81	3.3	1	5.0																						
無回答	26	1.0	8	3.1	7	2.1	3	13.0	22	1.2	9	1.1	13	2.7	2	11.8	14	2.2	28	1.1	2	10.0																						
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18																							

大学院教育に係るアンケート集計表

80.あなたの希望する職種はなんですか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		生産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 国公立研究機関の職員	654	20.8	22	15.6	0	15.0	4	7.5	8	10.5	5	14.3	112	28.3	17	26.2	132	39.2	117	11.4	87	23.9	16	31.5	53	17.8	17	15.3	19	43.2	0	35.3
ロ 民間研究機関の職員	340	10.8	5	3.8	2	3.3	0	0.0	1	1.3	1	2.9	53	13.4	12	18.5	36	10.7	189	15.5	13	12.8	19	13.0	6	2.0	0	0.0	2	4.5	1	5.9
ハ 大学の教員	449	14.3	60	46.8	24	40.0	16	30.2	21	27.6	6	17.1	69	15.2	3	4.0	31	9.2	92	9.0	68	17.3	13	8.9	35	11.8	11	9.9	13	29.5	0	0.0
ニ 大学以外の教員	69	2.2	11	7.8	3	5.0	0	0.0	2	2.6	3	8.6	13	3.3	1	1.5	14	4.2	7	0.7	8	2.4	4	2.7	2	0.7	1	0.9	0	0.0	0	0.0
ホ 大学以外の医療機関の職員	167	5.3	2	1.4	2	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.5	1	6.2	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.7	132	44.1	20	18.0	1	2.3	2	11.8
ヘ 開業(医院、薬局など)	79	2.5	0	0.0	0	0.0	4	7.5	1	1.3	0	0.0	1	0.3	3	4.6	1	0.3	5	0.5	0	0.0	0	0.0	18	6.1	45	40.5	1	2.3	0	0.0
ト 起業家	72	2.3	3	2.1	1	1.7	0	0.0	7	9.2	0	0.0	4	1.0	0	0.0	7	2.1	34	3.3	7	2.1	3	2.1	3	1.0	0	0.0	1	2.3	2	11.8
チ 国家公務員	128	4.1	3	2.1	3	5.0	8	15.1	9	11.8	2	5.7	12	3.0	3	4.6	15	4.5	41	4.0	13	4.5	9	6.2	4	1.3	1	0.9	1	2.3	2	11.8
リ 地方公務員	138	4.4	6	4.0	2	3.3	5	9.4	1	1.3	0	0.0	12	3.0	3	4.0	14	4.2	42	4.1	29	8.6	14	9.6	8	2.7	2	1.8	0	0.0	0	0.0
ス 民間企業の高専専門職員	703	22.4	3	2.1	1	1.7	3	5.7	13	19.7	13	37.1	86	21.7	14	21.5	53	15.7	429	41.8	61	15.2	22	15.1	9	3.0	1	0.9	1	2.3	2	11.8
ル 文化施設の高専専門職員	26	0.8	3	2.1	3	5.0	1	1.9	1	1.3	1	2.9	4	1.0	0	0.0	4	1.2	5	0.5	4	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ヲ その他	310	7.0	12	8.5	8	13.3	12	22.6	7	9.2	3	8.6	27	6.8	5	7.7	23	6.8	74	7.2	27	8.0	12	8.2	18	6.1	8	7.2	4	9.1	0	0.0
無回答	75	2.4	5	3.8	2	3.3	0	0.0	3	3.9	1	2.9	10	2.5	0	0.0	6	1.8	21	2.0	7	2.1	3	2.1	9	3.0	5	4.5	1	2.3	2	11.8
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		317		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		専攻博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 国公立研究機関の職員	531	21.0	79	31.0	39	11.6	5	21.7	263	13.9	302	37.8	99	20.3	4	23.3	154	23.8	496	20.0	4	22.2
ロ 民間研究機関の職員	314	12.4	11	4.3	12	3.6	3	13.0	271	14.3	59	7.4	10	2.0	2	11.8	65	10.0	273	11.0	2	11.1
ハ 大学の教員	299	11.9	102	40.0	56	16.7	1	4.3	142	7.5	249	31.2	69	14.1	1	5.9	95	14.7	353	14.3	1	5.6
ニ 大学以外の教員	58	2.3	5	2.0	6	1.8	0	0.0	49	2.6	18	2.3	4	0.8	0	0.0	30	3.1	47	1.9	2	11.1
ホ 大学以外の医療機関の職員	71	2.8	2	0.8	90	26.9	4	17.4	10	0.5	3	0.4	155	31.8	2	11.8	36	5.6	129	5.2	2	11.1
ヘ 開業(医院、薬局など)	55	2.2	2	0.8	22	6.6	0	0.0	15	0.8	2	0.3	65	13.3	0	0.0	15	2.3	63	2.5	1	5.6
ト 起業家	54	2.1	8	3.1	8	2.4	2	8.7	56	3.0	11	1.4	5	1.0	1	5.9	6	0.9	65	2.6	1	5.6
チ 国家公務員	117	4.6	6	2.4	4	1.2	1	4.3	109	5.8	19	1.6	6	1.2	1	5.9	23	3.9	102	4.1	1	5.6
リ 地方公務員	131	5.2	0	0.0	6	1.8	1	4.3	111	5.9	18	2.3	11	2.3	0	0.0	37	5.7	101	4.1	0	0.0
ス 民間企業の高専専門職員	656	26.0	16	6.3	28	8.4	3	13.0	639	33.8	49	6.1	17	3.5	4	23.5	106	16.4	595	24.0	2	11.1
ル 文化施設の高専専門職員	21	0.8	1	0.4	4	1.2	0	0.0	13	0.7	13	1.6	0	0.0	0	0.0	11	1.7	15	0.6	0	0.0
ヲ その他	182	7.2	15	5.9	43	12.8	0	0.0	162	8.6	90	6.3	31	6.4	0	0.0	35	5.5	185	7.5	0	0.0
無回答	47	1.9	8	3.1	17	5.1	3	13.0	49	2.6	12	1.5	16	3.3	2	11.8	22	3.4	51	2.1	2	11.1
計	2,527		255		335		23		1,889		799		488		17		647		2,475		18	

81.就職についての見通しはどうか。

	全体		文		教育		法		経済		国際		理		薬		地球		工		農		生産		医		歯		獣医		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 希望する就職は見つかると思う	1,173	37.4	24	17.0	18	21.7	20	37.7	20	26.3	8	22.9	146	36.9	24	36.9	105	31.2	160	44.8	116	31.5	52	35.6	136	49.8	29	26.1	13	29.8	7	41.2
ロ 希望する就職は困難だと思う	862	27.3	76	53.9	22	36.7	14	26.4	30	39.3	17	48.6	125	31.6	19	29.2	127	37.7	184	17.9	116	31.5	49	33.6	39	13.1	30	27.0	8	18.2	6	33.3
ハ 就職したくない	19	0.6	0	0.0	0	0.0	1	1.9	0	0.0	0	0.0	5	1.3	0	0.0	2	0.6	5	0.5	1	1.2	0	0.0	2	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ニ どこへ就職すればよいかわからない	157	5.0	4	2.8	3	5.0	0	0.0	3	3.9	2	5.7	20	5.1	7	10.8	14	4.2	69	6.7	12	3.6	9	6.2	9	3.0	4	3.6	1	2.3	0	0.0
ホ まだ考えていない	488	15.5	25	17.7	9	15.0	6	11.3	6	7.9	3	8.6	58	14.6	11	16.9	32	15.4	156	13.2	37	11.0	14	9.6	63	21.2	30	27.0	16	36.4	2	11.8
ヘ 就職に復帰する	79	2.5	3	2.1	0	0.0	3	5.7	6	7.9	1	2.9	4	1.0	0	0.0	4	1.2	11	1.1	6	1.8	4	2.7	27	9.1	6	5.4	4	9.1	0	0.0
ト 転職する	16	0.5	1	0.7	1	1.7	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.6	7	0.7	3	0.9	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
チ その他	249	7.9	6	4.3	6	10.0	6	11.3	7	9.2	3	8.6	29	7.3	1	6.2	22	6.5	108	10.5	32	9.5	12	8.2	8	2.7	3	4.3	1	2.3	0	0.0
無回答	97	3.1	2	1.4	6	10.0	2	3.8	4	5.3	1	2.9	9	2.3	0	0.0	9	2.7	26	2.3	10	3.0	6	4.1	12	4.0	7	6.3	1	2.3	2	11.8
計	3,140	100.0	141		60		53		76		35		396		65		317		1,026		336		146		297		111		44		17	

	一般		留学		社会人		無回答		修士		博士		専攻博士		無回答		女		男		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
イ 希望する就職は見つかると思う	969	38.3	101	39.2	96	28.7	8	34.8	762	40.3	231	29.3	193	39.5	7	11.2	196	30.6	968	39.1	7	38.9
ロ 希望する就職は困難だと思う	726	28.7	61	23.9	69	20.6	4	26.1	431	22.8	349	43.7	88	18.0	5	29.4	213	32.9	615	26.1	4	22.2
ハ 就職したくない	15	0.6	2	0.8	2	0.6	0	0.0	16	0.8	2	0.3	3	0.6	0	0.0	4	0.6	11	0.4	1	5.6
ニ どこへ就職すればよいかわからない	144	5.7	9	3.5	4	1.2	0	0.0	120	6.4	24	3.0	16	3.3	0	0.0	41	6.3	116	4.7	0	0.0
ホ まだ考えていない	490	15.8	34	13.3	50	14.9	4	17.4	279	14.8	99	12.4	111	23.4	2	11.8	104	16.1	381	15.4	3	16.7
ヘ 就職に復帰する	11	0.4	23	9.0	44	13.1	1	4.3	21	1.1	22	2.8	38	7.8	0	0.0	19	2.9	61	2.6	0	0.0
ト 転職する	19	0.4	1	0.4	5	1.5	0	0.0	8	0.4	6	0.8	1	0.2	1	5.9	4	0.6	12	0.5	0	0.0
チ その他	253	8.0	6	2.0	40	11.9	1	4.3	201	10.6	36	4.5	11	2.9	0	0.0	49	7.6	205	8.1	0	0.0
無回答	49	1.9	20	7.8	25	7.5	3	13.0	31	2.7	27	3.4	21	4.3	2	11.8	19	2.9	75	3.0	3	16.7
計	2,527		255		335		23		1,880		799		481		17		647		2,473		18	

指導教官あるいは研究科（専攻）に対する就職についての要望 (設問82)

文学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

- (1) 就職するにあたっての基本的なプロセス等を教えてほしい。
- (2) 業種にかかわらず情報集めに限界がある。資料室等の拡充を。
- (3) 公募等の情報をもう少しオープンにして欲しい。
- (4) 就職情報（大学教員採用etc）の提供の充実。
- (5) 例えば、大学の教員に採用される条件、基準のようなものがあれば教えてほしいです。
また、研究者の募集があれば告知してほしいです（掲示板などで）
- (6) 自分の研究科の卒業生の進路実践跡を詳しく知りたい。
- (7) 研究者として就職する道がどのようになっているのか不透明でつかめず、いまひとつ研究に打ちこめない。情報がきちんと、もう少しほしい。
- (8) 研究科別の就職窓口をつくってほしい。

2) 教官による就職援助に関するもの

- (9) 就職を希望時に助けてほしい。
- (10) 具体的で、もっと積極的なサポートがあればありがたいです。
- (11) 国外の研究職ポストの紹介をして頂けると助かります。
- (12) 理系学部出身の経験から言えば、文学部の教官は、学生の就職に関しあまりに無関心
- (13) 就職の困難な状況は、今後一層深刻になると予想されるが、でき得るかぎりのサポートをして頂きたい。
- (14) 求人情報をもっと活発に流してほしい。研究が続けられる就職先について、親身に相談に乗ってほしい。

3) 就職対策に関するもの

- (15) 公務員試験の対策講座（教養「専門」）や、現役の人からの話をきく機会がほしい。
- (16) コンピューターの勉強をしたいので、パソコンの台数を増やして欲しいです。
- (17) 就職活動のためのコンピューターを設置してほしい。修士1年のために、10月-11月ごろにはガイダンスをしてもらいたい。
- (18) 大学などの教員として就職できる様、教官の増員を望む。
- (19) 大学院修了後にも研究を続けていけるように、(経済的にも、身分的にも) 助手や教育支援助手等のポストを増やして欲しい。

4) その他

- (20) 文系に限っていえば、教育関係の就職を除き、学部や院の卒業生にスペシャリストとしての能力を期待する企業や自治体はほとんどないので自助努力で就職を探すしかないと思う。

- (21) 大学院在学中の学生に対して、真剣に就職を促さなければ、大学院には学生が増えるばかりであり、研究環境の悪化を招くと考えられます。
- (22) 就職したくても、指導教官にはいえない。博士課程に進まなければならない事情もあって、先生に就職したい気持ちが言えません。
- (23) 自分の専攻が日本での就職に難しいと思うので、なんとも言えません。
- (24) 就職希望者を劣等視しないでほしい。

教育学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

- (1) もし、研究科あてに公募がきているのであれば、もっとわかる形で、知らせてほしいと思います。
- (2) 就職に関してでなく、非常勤などの情報が多かたりすると、アルバイトの身としては、良いと思う。
- (3) 自分で探すものだと思っているのであまり期待していないが、口コミで情報が入ってくるような状況であれば情報提供して欲しいと思う。
- (4) もうちょっとコネというか、就職先と関わりがあればいいと思う。

2) 教官による就職援助に関するもの

- (5) 就職についてまったくサポートなし、アドバイスなし。コネ就職も多いのに、「まじめにやっていれば誰かがみていてくれる」と言う。もっと具体的なアドバイスがほしい。

3) 就職対策に関するもの

- (6) 若年研究者を育成するために、就職ガイダンスや、研究者として生きることをテーマとしたシンポ等を、開催してはどうか？
- (7) 研究助手や資料整理など、積極的にTA、RA等を活用し、学部教官のスタッフとして採用してはどうか？

4) その他

- (8) 特に博士課程に言えますが、彼らは特殊なので、研究・教育職以外に殆んど就職先がありません。オーバー Dr.にさせるくらいならば、不合格にするのも一案ではないでしょうか。
- (9) 就職に関しては、教官は、殆んど関与しないので何とも言えない。自己開拓するしかないと思うし、現状では就職に関することろまで教官は手が回らないと思っている。
- (10) 就職の絶対的な枠が少ない。ODになった際の生活が非常に不安である。
- (11) 就職のサポートは指導教官からは全く望めないが、さほど期待もしていないのでどうでもいいと思う。変にサポートしてもらって一生つきまといわれるのは嫌だ。

法学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

- (1) 具体的な選択肢を例示してもらえると助かります。現在のところは全く考えていないものの、就職についてはほとんど情報がないため、正直不安です。
- (2) 自分と同じような研究をしていた先輩が、どのような職種に就職したか、などを教えて欲しい。
- (3) 就職にいたる経緯が不明である。

2) 教官による就職援助に関するもの

- (4) もう少し研究科が、あっせん等、就職のサポートをしてくれると助かります。
- (5) 長い目で見てほしいです。
- (6) 就職さがしは、伏してお願いしたい。良き研究機関とは、就職させる力の強い研究機関です。
- (7) どうか就職させて下さい。

3) 就職対策に関するもの

- (8) 就職に直結する演習があるとよい。

4) その他

- (9) 法学研究科の場合、北大で大学院に進み、研究者としての就職を希望する場合、博士課程でD論を書き、場合によっては助手を経てから就職するということが一般的かと思われませんが、D論を書くには博士3年以上かかる人も多く就職先も見つかるか全く不確定で、精神的にも経済的にもつらい状況に追いつめられるとい場合が多々あるように思われます。博士課程は（確かに施設を利用したり部屋があたったり指導教官から指導を受けたりしますが）講義をうけたりすることがほとんどないにも拘らず、学部と同じ授業料をとられるということに納得がいけないこともあります。普通の仕事であればすでに給料をもらうような年齢であるのに、と考えると精神的な重みにもなります。特に通常在籍年数の3年をこえてしまうと奨学金を受けることもできなくなります。以上のようなことを考えると、現在の制度で研究者を目指すことはさまざまな苦難をしいられるものと思われます。

経済学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

- (1) 大学を挙げて、就職活動をバックアップすべきだ。あと、個別企業の過去の筆記問題や面接パターンを集めて、データ化し、公表すべきだ。
- (2) 文系院生向けの情報が欲しい。

2) 教官による就職援助に関するもの

- (3) 文系大学院においても、研究室推薦があれば良いと思う。
- (4) 社会人大学院生であるが就職の紹介をしてほしい。
- (5) 自らも努力をして業績を上げていきたいと思うが、そのためにもサポートが必要と感じる。
- (6) 就職活動に関するアドバイスをしてほしい。
- (7) 就職活動指導してくださると助かります。

3) 就職対策に関するもの

- (8) 学部とは別の院生中心の就職説明会や、インターンシップ、または、求人企業を分別して、就職支援に力を入れて欲しい。
- (9) 就職活動をバックアップする体制が無さすぎる。
- (10) 詳しくはわかりませんが、M1が終わるころに就職か、ドクターかで迷う人が多いようです。私は無関係ですが、本気でいい学生を育てるつもりであれば1度くらいキャリアガイダンスをやってもいいのではないのでしょうか。
- (11) 「もう大学院だから自分で考えよ」といってももう少し暖かい目があってもいいように思います。たとえば〇〇教官の研究生生活の若かりし頃の話や就職をやめて研究にうつった話、留学時代などを交えたガイダンスです。

4) その他

- (12) ビジネス・スクールなのに、研究に役立つ教官 (Staff) がすくない。Finance (財務), 人事, マーケティング戦略のないMBAは世界のどこにも存在しない。教育環境が劣悪であると、優秀な学生はあつまらない。いま、投資しなかった分、いつかそのつけがまわってくるだろう。
- (13) ロシア経済, ロシア語解説, 複数の指導教官 (他の学部研究科を含む) による合同ゼミ
- (14) 研究科全体に要望するとすれば、学生の拘束時間を減らしてほしいということにつきます。大学院とは自ら計画を立て自ら学ぶところだというイメージを持って入学してきたのですが、少々勝手がちがうようなので。

理学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

- (1) 学生の多くは、将来に希望をもって、大学院 (MC, DC) に進んでいます。そこで学んだことをもとに、活躍したいと望んでいるのです。ですから、修了後、学位取得後にどのような就職先があり、受け入れ状況はどうなっているのかを明確に示してもらいたいと考えています。現状は不十分です。この点を改善すれば、学生の学習意欲は向上し、より優秀な学生が集まる筈です。迅速な対応を切に願っています。
- (2) 情報がたくさんほしい。
- (3) 今一、現在の就職活動がどのような状況なのかを把握していない感じが見受けられる

ので、(ネット上でのエントリーが増えている、面接を何回か受けた後に最終的な合否が出るなど)、もう少し関心をもってほしい。

- (4) もうすこし、仕事内容などを詳しく提示するようにしてほしい。大学教官の募集等の掲示板も大々的に設置してほしい。
- (5) 博士卒の就職情報が少ない。
- (6) 現在の就職事情を把握し、その負担にならない程度の指導を願いたい。
- (7) 積極的に相談したいが、検討がつかない。
- (8) ドクターに対する募集をくわしくおしえてほしい。募集時期についてもくわしく知らせてほしい。
- (9) 学校でのインターネットの使用を、可能にしてほしい。専攻に求人の情報は見やすく、とても助かった。
- (10) どこかに良い推薦枠などは、ないのでしょうか？
- (11) 就職情報をもう少し、広く知らせてほしい。特に研究職関係のものが欲しい。
- (12) 求人情報などをホームページなどで公開して欲しい。
- (13) 就職の募集など専用の掲示板を設けて張り出してほしい(専攻毎の事務の近くでもいいから)。
- (14) 学部生の就職時と比べ、院卒の就職時には情報が少ないと思うので改善して欲しい。
- (15) 公務員を受ける人のためのワークショップや何らかの情報公開の場を作してほしい。またそういう場があるのかもしれないが、情報が入ってこない。
- (16) 情報等を簡単に得られるように提示して欲しい。
- (17) 自分は公募状況等をホームページで公表しているのを知っているが、周りの人々で知っている人は少ない。もう少し、その辺りをアピール等した方が良いと思う。

2) 教員による就職援助に関するもの

- (18) 研究室に対する要望、普段から就職に関する話をしてほしい。研究室内での就職に関する情報が不足している。専攻に対する要望、過去のドクターの進路を教えてほしい。
- (19) 企業とのつながりをもっと密なものにして、就職の面でもっとサポートしてほしい。専門知識を得ようと進学する限り、それを生かせるような職に就けるよう、積極的にバックアップしてほしい。
- (20) 学位取得後は社会人として独り立ちするから、自らの力で切り拓いていかなければならないのは至極当然のことである。しかしながら、こちらが持っていない情報を開示してもらえれば就職の一助になるのでは、と思う。円滑な意見、情報交換ができることが望ましい。
- (21) 特にないが、はやめの紹介があるなら、してもらうにこしたことはないと感じます。
- (22) 紹介して下さい。
- (23) 所属する専攻は就職先(民間企業)が少ない。多くの教官は、社会貢献を考えず、自分の知的好奇心を満たすだけの研究しかやっていないからだと思う。
- (24) 就職活動の相談にのって欲しい。
- (25) 『指導教官、研究科に対する要望』としては、とにかく、博士課程1年目で残されて、2年間を私は、本当に自分なり精一杯努力をし、早く論文が仕上がる様に毎日努力するの

で、就職に関しても、御指導の程宜しくお願い致します。

- (26) もう少し、教官の方から応援して欲しいと思う。
- (27) 他学部と比べて、実験などで忙しいから、もう少し就職先などをあっせんして欲しい。
- (28) 私は教授推薦も学校推薦も利用せず、自由応募で活動していたため、研究との両立が時間的にも精神的にも難しかった。けれど、それを私の指導教官は認めてくれていたの
で、とてもありがたかった。
- (29) 教官は民間出身ではないため、民間に対する考え方を取り違えている人もいるよう
です。日本の大学全体的な問題として、公と民との連けいが非常に少なく、お互いの理
解度が大変低いレベルにあると思います。特に大学教官は、民間に対して、より社会的
地位が高いと錯覚しているように、見うけられる。
- (30) 学位取得後の、国公立大学や研究機関への就職は、独立行政法人化や、学生数減少に
よって難しいと考えています。しかし、現在行っている研究を貫徹させ、その後も、研
究を継続し、自然科学と学校教育の発展のために努めていきたいと考えておりますので、
よろしく、お願い申し上げます。
- (31) 納得いくまでやれと励ましてくれ、その間（就職活動中）、研究のことを何も言わず、
応援してくれて感謝している。
- (32) 就職希望者と進学希望者とで、講座選択のときなどに差別があるので、なくしてほし
い。
- (33) 就職活動するための時間くらいはください。
- (34) 就職活動を禁止するような発言はしないでほしい。
- (35) 就職する学生に対しても、その後のサポートをしてほしい。就職することになったと
たんに、投げやりになるのはおかしいと思う。学校推薦制度がなぜないのか不満（他大
学は学校推薦でほぼ決まっているのに）。
- (36) 理解がほしい。（博士後期の進学しない学生には、あまり指導に力を入れていないので
はないか。研究室は修士のみで就職するとは言いつらい雰囲気。又、教官方は中・高の教
員に採用されること、一般企業に採用されることを、楽なことだと思っている。）

3) 就職対策に関するもの

- (37) 助手等、若手研究者の就職口をもっと多くしてほしい。
- (38) 教授推薦制の企業に対して、研究室の学生を推薦する場合は、均等に機会を与えるべ
きだと思う。就職活動中は実験等を行うことが困難なので研究報告を免除してほしかっ
た。
- (39) 就職活動をもっと十分にさせてほしい。研究しながらというのは酷だし、公務員の勉
強をしようと思ったら研究しながらでは絶対ムリ。1年は就職浪人を余儀なくされてし
まう。
- (40) 彼らが、現在の就職状況及び環境を十分に把握しているか疑わしい。見当はずれの思
い込みで、状況を理解しようとする態度に欠ける。期待はしていないが。
- (41) 就職担当の先生の位置づけがあいまい。本人は「一応そうなっている」というし、企
業は「就職担当の先生へ」という。工学のように就職担当の先生をはっきり決めるなら
決める。講座の先生にまかせるのなら廃止するというように責任を明確にしてほしい。

- (42) 推薦制度をきちんと設けてほしい。消極的すぎる。
- (43) 過去の就職した方の体験など聞けるような。
- (44) 学生の就職活動に対して、もっと協力的にしてほしい。試験の直前に多量の仕事を割り当て、拒否を認めない姿勢を改めてほしい。以上のような問題に対して具体的な解決法を相談できる機関がほしい。
- (45) この数年、私の研究科の就職担当教官は、企業につとめた経験がなく、アドバイスはほとんどなく、就職活動に関する動き出しが全てに関して遅いため、学生側は非常に困っている。また、誤った知識で混乱をまねくこともある。研究科の中には多くの教官が企業で働くことを経験し、様々な情報など持ち、学生の相談にのっていただける教官もいるのであるから、その中から担当を決めてもらいたい。
- (46) 就職担当の先生には、もっと誠意のある対応をしてほしい（訪問企業に対して）。来年以降のことを考えて。
- (47) 就職ガイダンスの時期を早めにする
- (48) ガイダンスはもっと早い時期（M1の10-12月）に行った方が良いでしょう。
- (49) 推薦の枠を増やしてほしいと思う。自由応募だと、民間では教授の名前だけで切られてしまう場合が多く、つらかった。
- (50) 理学研究科（化学専攻）は工や農に比べて就職に対して積極的でなく、とても不利だとよく耳にします。企業からの求人も同じような研究内容なのに工や農に対しては募集がかかるのに理にはかからないと聞きます。企業によっては求人を出していないところ以外受けつけてくれないところも多くあるので、そのへんの改善はできないのでしょうか。
- (51) もっと就職についても早々に指導してほしい。
- (52) 自分の力で就職を探そうとする人に冷たすぎる。
- (53) 就職担当の先生には、経験豊富で常識のある人を採用してもらいたいと思います。まれに、企業側からみれば失礼な応対をしてしまうような先生が担当になり、次年の採用枠が減る事態となることもあると聞いています。
- (54) 就職は、その後の人生をほぼ決定してしまうような大事なことなので、そういった活動を十分に行えるような時間を与えてほしい。
- (55) 教官に対しては、日経新聞をとってもらったり、談話として就職の話をしたりするの
で、まあまあ良いが、専攻に対しては、サポートが遅い（時期的に）。
- (56) 担当者には民間企業での就業の経験をもっている方が望ましい。
- (57) 大手の企業に入社を希望する場合、自分の所属する教室に推薦枠がなく、その場合に、他学科・学部を越えて就職の補助を行ってほしい。
- (58) Dr. 取得後の民間企業への就職の道を作ってほしい。

4) その他

- (59) 理学部の就職悪すぎ
- (60) 給料は安くてもいいから、採用枠を増やしてほしい。
- (61) 期待していない。
- (62) 何も期待してないので特にありません。期待できないことはわかっています。

- (63) まわりはやる気がないが、自分はあるのでギャップに困っている。
- (64) 就職に関しては全くの役立たずである。
- (65) 学生数を今の半分に、教官数をふやして欲しい。自力で勉学、研究にはげむだけでは得られない知見を得る機会がふえるように、ポストが増えることから、将来的に、研究職へ就くことを希望している私にとっては、大変ありがたいことになる。
- (66) がんばってほしい。
- (67) 札幌市または旭川市での就職を希望します。
- (68) 「なし・特になし：19件」

医学研究科

1) 就職情報のアクセスに関するもの

- (1) 医学研究科の大学院生は多くが、臨床に戻るが、他学部出身で医学研究科に入った大学院生、および、臨床に戻らなかった医系大学院生の進路状況を詳しく教えてもらいたい。
- (2) 研究所に、全国の大学研究所の教官、ポスドク等の募集広告を一覧にして貼り出してほしい。研究者の交流を外国並に流動的にしてほしい。教官もそう心掛けるべき。例えば、半分以上は他大学出身にするとか。

2) 教員による就職援助に関するもの

- (3) 成果がだせたら良い所を紹介して下さい。

3) 就職対策に関するもの

- (4) 研究機関などへの研修プログラムを設け、大学との垣根をなくしてほしい。

4) その他

- (5) 大学院生活で、臨床をはなれているので、卒業後、復帰するのが心配だ。
- (6) 日本の医師免許を取得するのは、外国人にとって、むずかしくて日本での就職希望がありません。
- (7) 全体のman-power不足のために就職先が、減少する傾向があるが、止めた方がよい。
- (8) 大学院終了後は、大学院で学んだ知識や経験を生かして、再び臨床医として、やってゆきたいと思います。
- (9) 大学病院への現職復帰は、意味がないので（自分にとって）お断りしたい。又、医局の都合のみでもどされるのも遠慮したい。やり方が思わしくない。尚、他に大学院で研究したいものが沢山あり、私などをもどす必要はないと感じている。
- (10) 医局人事でうごいているため今はなんともいえない。

歯学研究科

1) 就職情報のアクセスに関するもの

- (1) 就職情報の開示と、実情とのギャップを丁寧におしえてほしい。

2) 教員による就職援助に関するもの

- (2) 特になし。自分で探せる為。

3) 就職対策に関するもの

- なし

4) その他

- (3) 任期制にして若手研究者の受け入れ体制を早く作って欲しい。

薬学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

- (1) もっとバックアップや情報がほしい。
 (2) 大学院のいそがしい研究生の中で就職情報の取得や活動は大変困難であり、チャンスをはくす事が多いので、信頼のできる情報の提示をしていただきたい。
 (3) もっと積極的に就職に関する情報を提供してほしい。
 (4) オンラインを介した就職情報について、もっと知らせてほしい。先輩方がどの企業にいるのかも知りたい。

2) 教員による就職援助に関するもの

- (5) もっと理解して、就職活動のための休みをとりやすくするべきだ。
 (6) 博士後期課程への進学を進めるのは別にかまわないが、個人の事情による修士修了後の就職のための活動をするのを認めてほしい。
 (7) 休みが欲しい。
 (8) 希望の意見を尊重してもらいたい。
 (9) 積極的に紹介して欲しい。
 (10) 世話をしないまでも就職活動に理解を示して欲しい。研究活動への要求が高く、就職活動どころでは無い。研究室に来た就職関係資料を処分するのもやめて欲しい。
 (11) 指導教官は学生の進路（就職）に関して無関心で無知である。責任を持って指導、協力してもらいたいものだ。

3) 就職対策に関するもの

- (12) 研究科自体に就職課がなく不便。まあ、自分で探せば良いだけなんです。

4) その他

- (13) やる気のない教授はクビにすべき。教える情熱のない人から聞いても意味がない。
- (14) 「なし・特になし:4件」

工学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関する意見

- (1) 自由応募も受けさせてほしい（推薦との関係で縛りがある）。（他同様10件）
- (2) 十分な情報をもっとほしい。（他同様8件）
- (3) 迅速な情報公開をしてほしい。（他同様3件）
- (4) OBとのコンタクトをしやすいように表などにまとめてほしい。（他同様3件）
- (5) 就職情報の一元化と電子化をしてほしい。
- (6) 大学の動きが遅いのになら大学推薦をとるには、勝手に動くなということをやめてほしい。
- (7) 会社のリクルーターの情報を教えてほしい。
- (8) 他分野にきた求人情報も明らかにしてほしい。
- (9) 共同研究・インターンシップ制の活用。
- (10) いろいろな人と交流する機会がほしい。
- (11) パソコンを入れてほしい。
- (12) 就職情報はもっと公平に公開してほしい。
- (13) ネット上（ホームページ？）で最新情報を流してほしい。

2) 教員による就職援助に関する意見

- (14) 満足している。（他同様9件）
- (15) 推薦状を出すのが遅い、もっと早くしてほしい。（他同様7件）
- (16) 博士後期課程学生に対する積極的サポートがほしい。（他同様2件）
- (17) もう少しコミュニケーションをとってほしい。（他同様2件）
- (18) 経験に基づくアドバイスがほしい。（他同様1件）
- (19) 推薦等に関わるルールを当教官によって変えるのをやめてほしい。（他同様1件）
- (20) 自分で探すつもりだがもしできなかったら指導教官にお願いしたい。
- (21) 就職への選考過程と基準を明確にしてほしい。
- (22) 早いうちにガイダンスをしてほしい。
- (23) 就職に対するサポートは私学に比べ少なすぎる。
- (24) 推薦に関わるガイダンスを行ってほしい。

3) 就職対策に関する意見

- (25) 就職活動期間は活動に集中させてほしい。（他同様9件）
- (26) なるべく早く就職についての指導をしてほしい。（他同様5件）
- (27) 就職指導をもっと平等にまた徹底的にやってほしい。（他同様5件）
- (28) 博士課程修了後の就職ができるようにしてほしい。（他同様3件）
- (29) 就職担当の教官を増やしてほしい。（他同様2件）

- (30) 信頼ある教官が就職担当になってほしい。(他同様2件)
- (31) 学生個人の就職活動に任せるべきだ。(他同様2件)
- (32) より専門の就職担当の人が必要だ。(他同様1件)
- (33) 助手等若手研究者の就職口を増やしてほしい。(他同様1件)
- (34) 外国人の就職活動ができるようにしてほしい。
- (35) 社会に送り出した後のフォローもしてほしい。
- (36) もっと尻をたたいてほしい。
- (37) 推薦枠の推薦をオープンにしてほしい。
- (38) 重点化後の就職状態が改善されていない。
- (39) 研究職に就く機会が少ない。
- (40) 工学部は恵まれていると思う。
- (41) 大学と企業の交流場を増やしてほしい。
- (42) 博士後期課程への進学について指導してほしい。

4) その他

なし

農学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

- (1) ポストドクター等，博士課程修了者むけの就職情報をあつめ，インターネット（学内？）やE-mailを使って学生に教えてくれるようなシステムを研究科ごとに作って頂けるとありがたい。
- (2) 就職の募集が企業から多数きているようだが，どうなっているのか知らない。リストを作るとかして欲しい。指導教官は人脈が狭く，コネクションによる就職は理系にもかかわらず，なし。結局，頼りになるのは自分です。そういう意味では自立心が芽ばえて良いかもしれませんが…。
- (3) 農学部は生物機能科学科と応用生命科学科は，以前は同じ農芸化学科であったのに，旧農芸化学に回覧される就職の資料や募集は生物機能科学科にだけまわされます。応用生命科学科にも該当する講座はあると思うので回覧して下さい。また，企業からのリクレーターの方に，正確な学科の成り立ちを知らせて下さい。お願いします。
- (4) 学部，院生の隔てを取り，いろいろな会社を紹介してもらいたい。研究室によっても紹介に差があり，不満がある。
- (5) 企業からの求人案内を知らせてほしい。
- (6) 就職に関する情報が一部の研究室にかたよっている気がする。もっとopenに情報を開示してほしい。教官のフォローもほしい。
- (7) 専攻ごとに求人の紙が回わされたりするが，研究室によっては，情報伝達が不十分であることが多く感じた。自分の力不足はもちろんあると思うが，2年間しかない修士課程のうち6カ月間を就職活動にとられることが残念であると思う。
- (8) 就職に関する掲示板ぐらいは作ってもいいのではないかと思う。

2) 教員による就職援助に関するもの

- (9) 積極的なサポートがほしい。
- (10) 博士課程を終えた者に対するサポートが少ないように感じる。
- (11) 教官は人脈が少なく、いわゆる“コネ”による就職は不可能。“コネ”のある講座とな
い講座の差は大きい。“コネ”のない学生も就職できるように支援してほしい。
- (12) 就職は、指導教官の斡旋が必要である。
- (13) 就職を世話してほしいとは思わないが、OBあるいは同じ分野の他大学の先生に会える
ような機会を作してほしい。例えば特別講義などは、他大学の先生を時間のゆとりを持
って招いたり、学会などで紹介してもらうなど。
- (14) 就職を優先した、指導をしてもらえることだと思います。
- (15) 自分の専門分野を生かせるような働き口を見つけて欲しい。そうやって社会に人材を
送り出すことも大学院としての社会貢献だと思う。というのは甘い考えでしょうか。
- (16) 公務員試験への勉強に理解を示してもらいたい。
- (17) もっと積極的にバックアップしてほしい。少なくとも学生の就職事情を知ってほしい
(その年の厳しさ、活動の流れなど)。
- (18) 就職活動中は、研究を行うことは時間的・精神的にも厳しいものがあることを、もっ
と理解してほしい。
- (19) 学生の就職に対して、指導教官はもっと協力的になってほしい。指導教官によってそ
の差が大きすぎる。協力しないならしないで、統一してほしい。
- (20) 就職活動中の期間に必要な発表や講座の行事を作るのはやめてほしい。会社が大学
の都合に合わせてくれることはないので、大学側が少し配慮してほしい。はずせない
行事はしかたがありませんが。
- (21) もっと多くの就職先を紹介して欲しい。
- (22) よいところをすすめてくれた。
- (23) 博士課程修了時には、一般的な就職は困難な年令に達しており、最低限の就職先の紹
介はしてほしい(一時的なものを含めて)。
- (24) 就職活動に対する理解を深めてほしい。研究の手を止めて就職活動をするのは、やむ
を得ない事である。そして、手を止める事も、事前に教官に伝えてあり、教官も、「就職
活動を優先して下さい」と言ったにもかかわらず、実際に活動をして研究を止めると、
かなり白い目で見られたのが嫌であった。そして、それも、理由も聞かずに相互の歩み
よりもなく、修士2年との間に溝ができてしまったようで問題だと思う。
- (25) あんまり干渉しないでほしい。年度によって公務員志望の人への態度をかえるのはや
めてほしい。もっと就職情報を、わかりやすい場所にまとめておいてほしい。事務室の
前だったり、ポスターだけとところどころに貼ってあって、探しにくい。
- (26) 研究職の紹介に対して活動時ではないので活発な斡旋を期待している。

3) 就職対策に関するもの

- (27) 公務員など志望者の多いものは説明会などOBにしてもらうと助かる。
- (28) 関連企業との意志疎通をもっと積極的に図ってほしい。(他同様2件)
- (29) 企業との共同研究を増やし、企業とのつながりを増やしてほしい。そこで、いろいろ

な企業を見て選択のチャンスがほしいです。

- (30) 工学部の様な、学部全体での推薦制度がほしいです。
- (31) 就職したOBの“声”(体験記のようなもの)をまとめたような冊子があれば良いと思う(または講演会など)。
- (32) 研究科共通の就職活動用の空間を作って欲しい。研究室内で就職活動をすると、実験を行っている者に迷惑となる。
- (33) 企業の見学などの機会を設ける。
- (34) 就職情報をより多く得たい。
- (35) 主に民間企業等の就職について、学校としてより就職活動を支援してくれるような体制を整えて欲しい。
- (36) 学科、専攻間の差異が大きすぎ、就職活動中は非常に悔しい思いをしました。教授間のつながりや研究内容で企業とのつながりが違うのは仕方ないことですが、学科移行の際にもっと就職状況についての情報を公開すべきだと思います。
- (37) 公務員試験に直結するような教育も受けてみたいです。
- (38) 留学生ができる職業の情報もっと欲しいです。

4) その他

- (39) 無事就職することができ、ありがとうございます。
- (40) これまでの卒業生がどこに就職しているのかについて、その動機とともに正確に把握してほしい。大学院での研究分野と就職業種があまりにもかけ離れているような学生があまりにも多くいる現状を知ってほしい。大学院というものが、学生のその先の人生にあまり生かされない現状を考えてほしい。
- (41) お金が足りない。学会費や学会出席、調査の為の交通費などが自己負担になってしまうのは納得がいかない。自分は専攻と全く違う分野に就職したかったので苦勞して当然かもしれないが、専門知識を活かした仕事がしたいと思っていた多くの先輩たちは、結局卒業後になっても数年就職先が決まらなかったり、公務員以外に選択肢がなかったりして大変苦勞していた。「就職できなくてもいい」という覚悟がなければ博士課程に進めないのはどうかと思う。なんとかありませんか！
- (42) 講義の時間を増やして欲しい。就職にむけて、実験も大切だが知識をつけることも必要。
- (43) 助手などの若手教官層を増やして、大学院修了後の就職先(ポスト)を増やしてほしい。
- (44) 意義ある講義、指導を望む。
- (45) 変な学生は、いれないでほしい。
- (46) 修士課程の場合はどうか、わかりかねますが、博士課程は就職しづらい事は間違いありません。ですから、キチンと3年で修了させる見通しを持ってほしいです。ただ自分の論文を書く為の、助手として扱う教官がいたとするなら、そういう方には、何らかの処置をすべきではないかなと思っています。
- (47) 就職と大学は関係ないと思う。
- (48) 独立行政法人化した研究所の詳しい情報がほしい。

- (49) 非常勤職があればつきたい。
- (50) 教室にクーラーをつけてほしい。
- (51) この設問はコネクションの有無，多少に関する質問であり，果たしてそれにどれくらいの意義があるのか分からない。
- (52) 自分で行動するものだから，特に要望はない。
- (53) 大学院重点化のもと，学生に対し大学院進学を勧めているが，研究者，教員としての採用枠はたいへん少なく，両者に矛盾を感じている。卒業後の進路に対する見通しを明示するなど，この矛盾をなくして欲しい。
- (54) 現在の状況として，博士号を取得後2年以上経って就職できるという状況なので，せめて1年ぐらいに短くしてくれればありがたい。
- (55) 就職先がほとんどないのに，大量の大学院生をとるのは，まちがっている。
大学院重点化は，現在のところ失敗している。
- (56) 指導教官が途中で退官してしまうので，次期の指導教官が誰になるのか，学振のこともあるので，はっきりさせてほしい。
- (57) 大学における雇用があればありがたい。例えば，TA，RAより給料の高い特別研究員など。
- (58) 就職に関しては個人的な努力がもっとも大切であり特別に指導をしても，それはその人自身の責任が「あいまい」になってしまい，良くない。もういい大人なんだから，自分に自信と責任をもって就職活動は行うべきである。
- (59) 先輩方がどの就職に就いているのか，研究室に入る前に詳しく教えてほしい。

獣医学研究科

1) 就職情報のアクセスに関するもの

- (1) 情報をおねがいします。
- (2) 学部生には就職の情報が行くが，博士の学生には来ないケースがあった。情報を公平に広めてほしい。

2) 教員による就職援助に関するもの

なし

3) 就職対策に関するもの

なし

4) その他

- (3) 学位取得後も1-2年は「お礼奉公」というのが，暗黙の了解のような傾向があるみたいだが，家庭や経済的理由から学位取得後はなるべく早く就職させてほしい。

水産科学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

- (1) 就職に関しては推薦などある場合はもっと学生に知らせるべきである。就職担当の人をつくり、部屋で学生の相談に応じてほしい。
- (2) 公募情報などを大学内のメーリングリストなどで公開して欲しいです。自分で探すには限度があります。
- (3) 余りにも、情報の得る場が少ない。サポートは、全くないに等しい。

2) 教員による就職援助に関するもの

- (4) 就職をより個人的に斡旋して欲しい。(他同様1件)
- (5) 院生は就職活動を行う時間が限られるので、あるていどのワガママは聞いてほしい。
- (6) 就職活動には柔軟に対応してほしい。
- (7) 博士の学生ぐらいは、就職を世話してくれないと、研究をやっていくのは無理だと思う。博士卒で就職できないなら、大学院の重点化などは、まちがっている。数をふやすのではなく、質的な向上により重点化すべきだと思う。教官の世代は残れば教官になれたと聞かすが、今の時代には、ありえないことで、その時代に教官になった人間では、この先は大学は十分な評価をえられない。
- (8) 指導教官・研究科には頼らず、自分の力で就職活動をし、内定しました。民間企業と共同研究を行うなどしてつながりがあれば、そのルートに有能な人物がのるという方法がありますが、残念ながらルート自体がありませんでした。そのため就職活動に時間がとられ、研究を犠牲にしました。従って、研究員として有能な人材を多く、社会に出していきたいなら、民間・国との連携は重要になってくると思います。
- (9) 現状のままで良いが、欲をいえばもう少し時間を考慮してもらいたい。
- (10) 各指導教官によって紹介できる会社とできない会社枠が自然と決まっているのはおかしい。もっとフェアにするべき。
- (11) 指導教官が学生の就職に対し、どうしてもよさそうで、なんか冷淡。就職活動で休むのすら大変である。おかしい。

3) 就職対策に関するもの

- (12) 企業の説明会などを本学と同じくらい函館でも開催してほしい。
- (13) 大学や大学院で研究したことがすぐに生かせるよう企業との連携をもう少し密にしてもらいたい。
- (14) 水産学部には、札幌の方の就職に関する情報が来ない、もしくは、おそい。そのへんをもう少し改善してほしい。
- (15) 本学部で行われる企業説明会をもっと増やして欲しい。
- (16) 自分の専攻を活かせるような就職先の説明会の機会を多く設定してほしいと思う。

4) その他

- (17) 社会人入学という事で大学を離れて研究を行っている。消耗品費等については、特別

な配慮（希望する品は、送付されてくる）をしていただいているが、申請に気がひけるのでもう少し良い方法がないかと思う。

- (18) 成果を上げている講座については教員採用枠を増やすべきである。
- (19) 授業の開始時期が明確ではなく、各教官にまかされており、不定期になりやすかったので、もっと定期的にやってほしい。大学院の授業も学部時代と同様に1年毎に更新してほしい。大学院の授業制度がまだ不安定でこちらが困惑してしまう。
- (20) 何もできないのは知っているのに、ほかの面でがんばってほしい。
- (21) 先行きが全く見えない中、結果を出して博士号を取っても、その先何も無いかもしれないことが不安。モチベーションは高くありたいが、もう少し先の見える環境になってほしい。
- (22) 現在は修士課程の2年目で、博士課程へ進学することを考えているのですが、就職に関してはまだ調べていません。さらに幅広く研究し、自分の能力も高めて水産学部で学んだことを他の研究所で活かしたいと思っています。修士課程だけの学位では研究職につくことが難しいではないかと考えています。また、外国人で不利な面もありますので、それを越えるためにはもっと研究することが大切です。
- (23) 大学教官の採用を、厳正な公募にするべきである。現状のままでは、現在の教官（政治家）にとって都合のよい人間だけが採用される仕組みになっている。真の大学院教育、研究を行うためには、優秀な人間を正当に採用するべきである。大学教官の採用は、利害関係のない第三者が行うべきである。

地球環境科学研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

- (1) もっとたくさんのガイダンスや説明をしてもらいたい。
- (2) 他研究科に比べて歴史が浅いのは仕方ないけど、もうちょっと就職情報を充実してほしいし、推薦の枠も広げてほしい。あと、道外の教員採用情報(中・高)も充実してほしい。
- (3) 研究職の募集をもっとはってほしい。(地環研に)
- (4) どのような進路があり、どのような可能性があるのかをもっと教えてほしい。
- (5) 専攻に対して、もう少し、学生や職員を交えた情報交換の場を設けるべきだと思う。
- (6) 研究科内で就職ガイダンス等をしてほしい。
- (7) 情報をたくさん流してほしい。
- (8) 就職情報について、資格や免許を活かせる内容を教えてほしい。就職活動におけるマナーや態度について教えてほしい。
- (9) もっと情報がほしいです。
- (10) 情報下さい。
- (11) 教官又は研究科の推薦で優先的に就職できる枠がほしい。企業とある程度のつながりがあり、今行っている研究が生かせるような企業を紹介してほしい。
- (12) 研究科で推薦枠を持っている企業はあるのかなど、研究科内での就職情報を分かりやすく公表して欲しい。
- (13) 現在の就職はどうなっているのかがわかるような講演会をやってみてはどうかと思う。

- (14) まあ、自分の問題なので、特に要望はない。過去に就職された方々の、就職前後の体験談などを、お聞かせ願いたい。
- (15) 博士課程修了後は、できるだけ早くアメリカでポスドクとしてのトレーニングを受けたいと思っている。海外でのポスドク募集の案内があればうれしいです。
- (16) ほとんど自力で探さなければならないと思うので、要望はあまりない。公募などの情報を、もらさず連絡して欲しい。
- (17) 特にはないが、研究科への求人や職に関する情報を積極的に公示したほうがよい。
- (18) 就職情報をもっと教えて欲しい。
- (19) 情報が全くないので、もう少し情報が欲しい。
- (20) 就職関連情報のみの掲示板を作って欲しい。
- (21) 自分は自然博物館に学芸員としての就職を希望しているが、そのため多くの博物館の資料や募集等の案内があれば教えてほしい。
- (22) 情報をもっと得たいです。時間などの制約があったりして自ら行動するには限りがある。ホームページやメールでの情報収集ができるようになると活用しやすくなる。
- (23) It would be better to have English version.
- (24) 何か良い所があれば積極的に紹介して欲しい。
- (25) 触媒センターにすべての連絡事項が提示されているかとても不安。博士後期課程などで地球環境科学研究科の部屋にはほとんどいかないから。
- (26) 将来に対してとても不安です。第1にこのまま研究を続けても就職が出来るかが不明です。就職に関する情報をもっとほしい。
- (27) 自分の力が少しでも発揮できる職場を紹介してもらいたい。

2) 教員による就職援助に関するもの

- (28) 就職希望の学生に、背中を向けるような、教官の態度は疑問に思う。
- (29) 大学院生向きの就職情報の提供及び斡旋を希望する。
- (30) もっと積極的に職場を紹介してほしい。(特に関連研究機関・企業に対して)
- (31) 指導教官から就職活動中はサポートをもらった。非常に感謝している。
- (32) 教官は何もしなくてよい。自分の力だけで就職先を探すように。
- (33) 私は、指導教官の指導のおかげで希望していた研究職に就職が決まったが、まわりをみると、指導教官が就職に対して、やる気がないと、就職は難しそうである。研究のための時間が就職活動にさかれてしまうことへの、理解も必要だし、就職活動をすすめていく上でのアドバイスをもっと積極的にしていくべきだと思う。
- (34) 指導教官は学生に対する教育的配慮がまったくない。かといって研究能力もなく、その致命的欠陥を隠すため学生をけなし、こき下ろし、自分を優位に立たせようと虚勢を張っている。このような能力不足・害悪教授を分限処分し、若手の先鋭研究者をもっと登用すべき。あるいは教授・助教授にも任期制を導入してほしい。
- (35) はじめのうちは、真顔で受けるのは「3社まで」と言われびっくりしましたが、結局は応援して下さったようです。先生方は「言いたいことがある」と分かるような表情でしたが、私も忙しかったのでほとんど我が道を行っていました。結論は特に要望なしですね。おかしい文なのはa.m.2:00だからです。

- (36) 指導教官は就職に関してもっと重要視すべきである。就職の話より先に実験のことを聞きに来る。実験ばかりしていてまともな就職活動ができなかったと思う。就職が決まらないうちは実験にだって身が入らない。そのくせ就職は自分の力でするようにと言う。つまり実験さえやってくれ、就職は知らないと言っているかのようだった。
- (37) 私の指導教官は、就職活動の時間をくれません。昨年の先輩方については「あいつの就職なんてどうでもいい」と暴言とも取れる発言をしました。在学中に、自分の為にデータを出させ「卒業後の事はどうでもいい」みたいな考えには賛同しかねます。また、うちの講座はサークルやアルバイトが禁止なのも納得できません。履歴書にサークルについて書けないし、アルバイトから就職する事もあるので先生の独断で禁止は納得できません。
- (38) 実験が何よりも最優先なので就職活動を長い期間できない。学生の就職活動により実験が進まなくなるなんて事は決して許されないというプレッシャーがあり、とても辛い。もう少し実験よりも学生の事を思いやる人間らしさがほしい。
- (39) 就職活動などについては、いやな顔をせずに、容認してほしい。研究テーマを与えるにあたって、いきあたりばったりではなく、長い目で見て、計画を立ててほしい。研究目的がはっきりしない。
- (40) 研究者としての能力があっても、それを指導する人間として適していない場合にすごく問題が生じると思います。
- (41) 親身に聞いてくるのならともかく、文句を言うために聞いてきたりするのはやめてほしい。職種に関しては私の希望であって、教官の希望ではないということを分かってほしい。
- (42) 指導教官にも先輩として、就職の相談にのったり、アドバイスをしてもらいたい。就職活動が長びくほど研究にも支障が出るので、できるだけスムーズに自分の力が発揮できるようサポートしてもらえたらと思う。
- (43) 就職活動に専念できる時間を与えてほしい。
- (44) 就職活動に対して、教官も積極的になってほしい。
- (45) 就職活動をもっと支援してほしい。早い時期からの情報提供など。
- (46) 指導教官にもっと就職についてアドバイスをしてほしい。いろんな就職情報を教えて欲しい。

3) 就職対策に関するもの

- (47) 共同研究を通し、自らの研究室をアピールするとともに、それに携わる学生についても、またアピールが必要ではないかと思う。
- (48) 就職に関しては全くサポートがありませんでした。特に専攻と関係のある分野へ就職したい場合、もう少し専攻のサポートがあった方がよいと思う。
- (49) せっかく熱心に研究を行ない、成果をあげても、受け皿となる企業、及び研究機関が、あまりにも少ないように感じる。優秀な先輩の就職に苦勞する姿を見ると、進学はしたいが、考え直した方がよいのではと、思うてしまうことがひんぱんにある。自分の分野だけではなく、他分野でもよく聞く話だ。このままだと、若手研究者が極端に減少してしまうことにならないだろうかと、不安である。
- (50) ポスドク→就職への道を広く開いてほしい。

- (51) 民間企業からの求人を積極的に受け入れてほしい。(工学部のように)
- (52) 就職斡旋などはあまり充実していない。
- (53) 学科、専攻で、就職についての説明が一切なかった。国立大学では普通だが、“勝手に就職しろ”という感じはどうかと思う。
- (54) 大学推薦が欲しい。
- (55) 多くの企業は我が地球環境科学研究科を知らなかった。教官には、もっと宣伝活動をしてもらいたい。ある年度まで求人していなかった企業も当研究科の存在を知ってから求人しているようなものも散見されるので、ぜひ実現して欲しい。
- (56) 就職（先）の斡旋を要望する。
- (57) 研究科の推薦枠をもっと増やしてほしい。研究科独自の就職相談会のような場を作してほしい。
- (58) 指導教官からは十分な就職活動のための休みを頂きました。研究科としては、他の研究科に比べ、学校推薦が少ない。きちんとしたリクルーター制をとり、就職活動を推進しないと、文系と同じような長期間の活動となり、研究に支障がでる。
- (59) 所属している研究所に就職相談できる場所が少ないので、より多く設けてほしい。
- (60) 就職担当者が不明なため、学校宛の企業からの書類の有無や学校推薦についての問い合わせ先が分からなかった。できれば、就職担当者を決めてほしい。
- (61) もっと積極的にやってほしい。今は個人まかせである。
- (62) 就職活動は、終えたが、就職課がなかったため、苦労した。
- (65) 我が研究科は就職に対する意識が低く、企業への推薦がとても少ないので、自分で頑張らなくてはならない。
- (63) きちんと就職させてほしい。
- (64) D向けの就職ばかり。M向けにもしてほしい。

4) その他

- (65) 就職とは少し異なるが、ポスドクの枠をもっと広げてほしい。院生に学振のお金はいらないと思う。院生は奨学金で、学位取得者にポスドクを、として2つを「すみ分け」してもらいたい。ただでさえ枠が少ないのに。
- (66) 指導する上で大切なことは全て結果なのだろうか。よいデータを得るための努力などは評価してくれないのでしょうか？また、教官が高学歴のため私のような中堅の大学から来た学生は何となくバカにされているような気がし、人間＝学歴という考えの人が多いと思います。大学関係の職につく人はそのような人が多く、これがずっと続くようであれば、広い意味において日本の大学は成長しなく、この先もこのような教官が後を絶えないと考えます。大学の方も教官を採用する際、論文の数や質・研究の成果だけ考慮するのではなく、人間性を重視するべきだと考えます。
- (67) ほっといてほしい。口出すな。
- (68) 今となっては今のままで良いと思う。だが、教官の人数と学生の人数がアンバランスなので、もっと細部まで手が届かないと、苦しんでいる学生が増えると思う。
- (69) 現時点において明確な希望はない。
- (70) 就職が無いことは覚悟の上進学している。高潔な人ほど割に合わないことが多々ある

ことは誰もが知っている。

(71) PD枠をふやす。助手の任期を5年にする。指導教官を学外でもOKとするなど、研究の向上、国際化などを目指してほしい。それには、学閥にとらわれない教官の採用も大切だと思われる。

(72) 最初からキタイしていない。

(73) 友人の話を比べると研究科によって就職の容易さには大きな開きがあると思う。

(74) 公務員希望者に対する理系教官の冷たい態度はやめて欲しい。人権を無視した態度もやめて欲しい。

(75) 「なし・特になし：26件」

国際広報メディア研究科

1) 就職情報へのアクセスに関するもの

(1) 大学院生の就職状況がどういうものなのか全くわかりません。基本的な質問ですが、自分の研究テーマ・インターンシップそして就職希望先がどの程度関わっているべきなのかその重要性もわかりません。

2) 教官による就職援助に関するもの

(2) この研究科は就職に関して“のん気”だとききました。基本的に就職は学生個人が自ら活動して成しとげるものだと思いますが、教官の協力があれば、より成功率は上がると思います。また、ジャーナリズム系以外の（例えば文化系）分野の就職情報が少ないとききました。研究科をあげて情報を集めるべきだと思います。よい就職率はその研究科の伝統として受けつがれてゆきます。今がんばれば今後楽になります。

(3) 親身になって相談に応じてくださっている。現状で満足。あとは自分の意識と取り組みの問題。研究にしろ就職にしろ幅広くいろんな方からお話をきいた方がいいが、それは用意されるべきではなく、自らが動くべき。甘やかしすぎてはいけない。bitter tasteにものが言える先生は必要。

3) 就職対策に関するもの

(4) 推薦制度があると良い。企業側としても見知らぬ者より何らかの保障付の人間の方が安心して採用できる。また、認知度の低い研究科なので、教授側のアピール行動も必要なのではないだろうか。

(5) 新研究科で実績がないのも確かだが、就職に関しては、教員や大学の影響力はあまりないと思う。個人で活動するしかない、と実感した。学生も、教員や大学に頼らず、独力でやるべきだが、北海道という地理的条件がネックとなっている。本州企業の北海道での説明会や採用試験をどんどん要請することに、大学は力を入れるべきだろう。

(6) 企業だけではなく、研究機関へのインターンなども検討してほしい。

4) その他

なし

所属研究科の教育研究についての意見等（設問83）

文学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 文学部で実施されている特論はあまり必要性が、感じられない。4単位、修士修了に必要となるのが現状であるが、2単位で充分であろう。
- (2) 外国で単位をとって交換したいが、無理ならばその分野の重要な人を招き、講義してほしい。講演でもOK。私は英語を学んでいるが、日本人は英語を日本語に訳すことに、こだわり過ぎている。アメリカのように英語の授業はすべて英語で、スペイン語の授業はすべてスペイン語でやってはどうか？
- (3) 授業科目についても講座の院生全員に意義のあるものが無いため、必然的に履修科目の選択幅が制限され、単位取得の為の無意味な授業を履修せざるをえない。
- (4) 専門（言語学）の授業の外部の先生などを招いて増やして欲しい。「南方」の授業もあったらいいなあ。
- (5) 研究科内の同一研究室（専修課程）での共通講義、共通演習のようなものが欲しい。
- (6) 現在の状況に満足はしているが、あえて要望を出すなら、講義の種類がもっと選択に幅が持てるように増えればよいと思う。
- (7) 今年度は集中講義がなくて非常に残念。(昨年度までは所属する専攻での集中講義が常に複数あったのに、急になくなった…) なぜでしょう？
- (8) (特に欧文で書く場合の) 論文の書き方のクラスを開講してほしい。論文を書く際のマナーなどを教えてほしい。
- (9) シラバスをはっきりと明示し、明確なテーマに基づいた授業を展開してもらいたいという希望があります。
- (10) オムニバス形式の講義は必要ないと思います。統計を体系的に身につけるためのプログラムが欲しい。
- (11) とにかく講義が負担になっている。演習の準備だけでも自分の研究をする時間をとられる上に、講義でのレポートなどの課題は辛い。他分野の話が聴けるのは有意義なことだが、特論などの講義は集中講義という形にして、短期で単位が取れるようになればいいと思う。
- (12) 留学生の紹介・必修講義のとりやめ・理系学科との交流（実際、心理学などは、文科系の学問分野だけで対応できないため）。
- (13) 単位が全て、半期ずつでないとい修得できないと（通年の授業がないこと）、全ての履修科目を、前期に決定しなければならないことは、どう考えてもおかしいと思います。また、院の授業にはシラバスも無く、履修確認表も配布されないのは、かなり不都合です。
- (14) 集中講義や非常勤の講師について、どの先生を呼んでほしいかリクエストする機会があればうれしいです。
- (15) 文学研究科の「特講」、多領域の講義を受講できる良い機会と思う。
- (16) 集中講義など他大学からの研究者の招請の機会を多くしてほしい。

- (17) 文学研究科の改革によって、他大学から、研究者を招いて行われる集中講義が著しく減少してしまったことが非常に残念であり、以前のように夏・冬にそれぞれ最低でも一度ずつできるようにして欲しいと思う。
- (18) 修士1年に入って感じたことは、自分の研究テーマを学習していく時間があまりとれず、講義等と、やらなくてはならないことで毎回がすぎて行き、前期が終了する今の段階で、計画を見直ししなければならないと感じている。夏休みに、かなり勉強しておかないと、自分の考えている修士論文が書けないことにもなりかねず、もう少し、研究の時間がほしいと感じている。
- (19) 共通講義はあまり意味が感じられない。文学をやるために大学院に入って哲学や社会科学の基本的な講義は楽だけど、必要ないと感じました。
- (20) 大学院の「講義」は、実質、「演習」と同じになってしまっている。「講義」では、先生方の最新の研究内容について学びたい。そういう試みがなされていないことが不満である。
- (21) 所属は歴史研究科です。講義は幅広い地域を対象に行なわれますので、ある地域を研究する前はその地域の言語を先にマスターしなければならないのです。元々幅広い世界史の講義を100%理解するのには、すぐれた外国語がないとだめだと思うので、講義の前に外国語を勉強するかあるいは直接外国に留学した方がいいと思います。又、団体外で外国の現場で直接その文化と歴史遺跡などの見学をする実習過程が必要だと思います。
- (22) 無意味な講義が多すぎる。教官自身も持て余し気味で、ただ消化するためだけにやっている。学生も単位取得のみを目的としているように思われる。(特に特論)
- (23) 講義を私物化して、学生に単純労働させて、研究を進める教官はやめさせて欲しいし、そのような講義はなくして欲しい。
- (24) 講義や演習の選択肢が増えて欲しいと思いますが、そのためにはまず、教員数を増やすべきだと思います。毎年、二人の教官の授業ですから、年に数回、よその大学の先生方のお話を伺える集中講義を楽しみにしているのですが、今年は予算の都合かなにかで、集中講義がカットされてしまったのは、とても残念なことです。文学部で外国文学を学んでいる研究科として、その言語を母国語としている外国人のスタッフがいらない、ということは、大学院生全員が不満に思っていることです。非常勤で教えるにきてくれている外国人の講師の方には、論文のチェックを頼むのにも、限界というものがありますし、正式な研究科のメンバーという形で、外国人の教官を加えて欲しいといつも願っています。
- (25) 過渡期で大変なのは理解できるが、学部、院共に早くカリキュラムを一本化して欲しい。
- (26) 学外の非常勤講師の積極的活用。学外非常勤講師による講義や演習が削減されたことは、全く納得いきません。文学部の学問は、その性格上、学内の教官の専門分野の講義や演習だけに参加していたのでは視野が狭くなり、院生の研究の質が落ちてしまうであろうことは、火を見るより明らかです。
- (27) 講義の数を充実させてほしい。例えば現状では研究員を目指さない学生も研究員育成の授業をとらねばならない。多くの科目から選べるのであればこういう事態はおこらないはずである。教官の数が学生に対し圧倒的に少ない。

- (28) 講義形式の授業がもっとほしい。実際教授の視点というのが理解しておらず、もし研究者になるならどういう視点が必要かも良くわかる。忙しいのかも知れないが、その方が良い。まだ、様々なStyleがあることも認識すべきであろう。

2) 院生指導について

- (29) 教授の指導はあまりよくないと思う。できればもっと学生のことを考えてほしい。
- (30) 指導教官を複数にしてほしい。(主と副の指導教官というように。) 指導教官以外にアドバイスを受けたいが、指導教官でもない先生にとってそのようなことは負担になるのではと心配。また、そのようなことをすると指導教官がおもしろくないかもしれないので。
- (31) 教官と週1回は研究の進行状況の確認や今後のアドバイスをもらう時間が欲しいと思います。
- (32) 個人指導の時間が確保されていれば、演習では最新の研究や定評ある著作を読むことの意味が生じてくるし、相乗効果が期待できます。
- (33) もっと学生個人に対する研究指導をケアしてもらえなければ、学生としては不満です。もっときっちりしたシステムを構築し、大学の目的の1つである学生の教育に意を用いて頂きたいと思います。
- (34) 先生方も御自分の研究にかかりきりで、授業や学生には無関心な方が非常に多いと思います。たまたま私の指導教官は熱心な方なので有り難いと思っていますが、周りを見ると、一斉指導をしない先生や、御自分の研究の補助作業ばかりやらせている先生などが目につきます。
- (35) 教官の評価は（少なくとも今までは）研究に対するものだけで、教育に対する評価方法がない上に、学生にも不熱心なのが多いですから、先生方が学生や授業に対して無関心になるのはやむを得ないことだとは思いますが、自腹で年間50万、5年で250万円＋入学金を払っている身からすると、到底満足できるものではありません。また、私の指導教官のように、個人的に指導に熱心な方が評価されないのは不公平だとも思います。何とかよい評価方法を考案し、教育面を充実させて下さるようお願いします。
- (36) 大学院等に進学する際に、合格してから教官側で指導教官や研究テーマを決めるのはよくないと思う。自分のしたい研究ができないのであれば、合格しても進学する意味がない。もし、そのような方法をとるのであれば面接等で合格しても研究テーマはこちらで決める、などと口頭で伝えて欲しい。そうすれば、進学するかしないかの選択の時点で、今後の研究についての覚悟がもう少しスムーズにできるのではないだろうか。
- (37) 少々放任主義すぎるくらいがあるように感じます。これは、メリットもあるのですが、デメリットも多いように思います。複数の教官と関わっており、それぞれに度合いが違っていたりすれば、バランスがとれて良いのかもしれませんが。
- (38) オフィスアワーが作られたのも有難いが、週1コマは少ないように思う、せめて週2回に増やして欲しいところである（授業のコマの時間に合わせなくてもよいので）。
- (39) 教官は、テーマに沿った助言や指導を与えてくださってるし、自分のテーマに近い、他の先生方にも指導をいただいております、あとは自分の努力あるのみと考えているので、時間とのたたかいが課題になっている。

- (40) 教官が授業のコマ数が多く、十分な指導時間が確保できない。国内学会の参加に関して、多少の補強があればよい。施錠の時間を延長して欲しい。
- (41) もっと教員をこの専攻で増やしてほしい。2人しかおらず、専門性が高いのももちろんよいのであるけれど、一方で限定されてしまう。増員が無理なら、集中講義や非常勤の人を入れてほしい。去年までは数人、集中に来ていたのに、今年は0人というのはひどいと思う。
- (42) 研究科内の教官の顔をもっとわかりやすくし、学生が研究室の枠を超えて相談にいけるようなシステムを講じてほしい。
- (43) 自分の研究に役立つような演習をしてほしい。例えば、研究発表や研究内容の論議等、各人の研究等について話し合う時間を演習という枠で行っても良いと思う。現行はあまりにも無意味で、時間ばかりが制約され、負担が大きすぎる。

3) 論文指導について

- (44) 私の所属する研究室では、まだ1人も博士論文を提出した人も博士号を取得した人も出ていない。従ってどのように博士論文を進めていったらよいのか前例がないため不安を感じるし、仮に3年後に納得のいく博士論文を完成・提出したとしても、本当に博士号を取得できるのだろうかという疑念を持ってしまう。理系は大体3年（修士からだ5年）で博士号を取得するのが普通になっているのに比べ、文系では（個人の研究方針もあるだろうが）博士後期課程に長く留るという傾向が強い気がして入ったとき驚いた。これは学問の種類が違うということだけが理由なのだろうか。
- (45) スラブ研究センターのスタッフ、また図書室は大変充実していて、このような環境で学ぶことができ、喜んでいる。しかし、教官に複数の学生が指導を受けており、「博士論文指導特殊演習」は事実上、個々の学生への指導というよりも、普通の演習になっている。今後、論文の執筆の為には、個別の指導をして頂きたいと思う。それ以外は、様々な分野の教官から、多くのことを学び、北大で勉強できることになって、良かったと思う。
- (46) 研究に必要な論文（修論・博論）の指導をして欲しい。指導教官にきちんと大学へ来て欲しい、いつも不在で困っている

4) 研究・学習交流、学会参加について

- (47) 大学院の講義、演習に関しては不満がない。だが道内外の他大学との交流については、大きな不満がある。地理的な不利があるのだからその不利を補なうような、例えば研究会、学会などの開催や誘致を、もう少し積極的に行ってほしい。そして、無理なことかもしれないが、道外の研究会、学会へ参加するための出費が全て自己負担となっているので、その点への援助をできれば期持したい。
- (48) 学部や研究室によっては、国内外の学会へ出席する旅費が全額ないし一部支給されるときいています。私の研究室では、学会出席の際の旅費は全額自己負担なので、特に博士後期課程になってからは経済的に苦しくなります。年に数回、関東や九州へ2-3泊すればかなりの額になります。「全国学会」で、且つ自分自身が研究発表する、などといった場合は全額ないし一部援助が出るなどの制度があると助かります。
- (49) 国内学会の参加に関して、多少の補助があればよい。

5) 大学院重点化について

- (50) 文学部は大学院を重点化し、定員を増加させたが、その分、奨学金を必要としている院生に奨学金がゆきとどかなくなってしまった。これでは何が大学院重点化なのかわからない。大学院生によりよい教育環境をあたえることこそ大学院重点化であろう。
- (51) 無理のある改組が行われたため、同一講座に所属していても共通の研究理念が無いのが残念。「改組」についてはもっと検討してほしい。
- (52) 大学院重点化になってどこがかわったのか見えにくい。例えば、他の学門分野からうつってきた学生への支援ができていない。幅広く学生を受け入れることにした研究科の方針を教官が認識していない。

6) 学習・就学条件について

- (53) 院生一人につきひとつの机がほしいです。
- (54) 同一研究室でも教官室が大きく離れている分野があるので、統一性をとる上でもなるべく近くに集結させてほしい（高等教育機能開発総合センター、古河講堂等→文学研究科棟へ）。
- (55) 蔵書が少ないのは補充して欲しい。蔵書の配架も専門的なものは分館よりも本館や共同研究室に移すべきではないでしょうか…。大学院や専門課程の学生は本館の方が行きやすい。図書の購入ももっと有益なものにすべきである。街の図書館のような蔵書を購入するより、各分野での主要的文献及び最新の研究に触れられるように配慮すべきである。
- (56) 講座によってはその研究室の人が使うための小型ノートパソコンなど用意するところもあるが、自分のところはない…など講座によって待遇が違い、予算の使い方が不透明すぎる。
- (57) 理系と文系で待遇の差が激しい。TAは不公平。同じ講座で私は採用されなかったのに他の学生は1人で2件に採用された！
- (58) 院生の数は増加しました。しかし教官の指導及び机などの研究設備の不備は旧態依然としています。
- (59) 他の研究科と比べ、教育環境が格段に悪い。(個人の利用できる机あるいはコピーの枚数など) 同じ授業料を払っているのだから、少なくとも他の文系の研究科と同等の処遇を希望する。
- (60) 図書室を広くするなどの、研究設備の充実を希望します。
- (61) 研究室間の交流が持てるような、組織や場を設定してほしいです。
- (62) 研究に必要な書籍を迅速に講入してほしいです。
- (63) 困難だとは思いますが、講座教官の増員、及び助手枠の拡大をしていただけると、幸いです。
- (64) 図書館の使い勝手をもっとよくしてほしい。(蔵書検索などのソフトが新旧差がある。) 他研究科などの資料の互換性があまりなく、閉鎖的な感がある。
- (65) コピー機が少ない。コピー枚数が少ない。
- (66) 施錠の時間を延長して欲しい。
- (67) 教育内容よりもまず、本棚の設置など、環境をもっと整備してほしい、一箇所にある

べき研究室の蔵書がスペースの関係で数箇所に別置されていたり、度重なる移動によって所在不明であったりするのは研究上大きな支障となっている。

- (68) 芸術学独自の落ちついた研究室がほしい。
- (69) 院生一人ひとりに机や書棚が与えられるような大学院研究室の設置。現状では、院生用のスペースが少なすぎ、学内でじっくりと研究に取り組むことが困難です。
- (70) 院生自習室を完備して欲しい。インターネットが一台しかない。禁酒・禁煙（研究室内）にして欲しい。学生へのハラスメントは止めて欲しい。

7) 社会人大学院生について

- (71) 社会人として仕事を持ったまま入学いたしましたが、修士課程の単位取得に必要な講義演習を全て夜間（6講時）に開設し、指導してくれるなど、現在所属する講座の教員の方たちには大変感謝しています。ただ、同じ職業人として、昼間の授業に加えて夜間も授業を行っている教員の方々の肉体的な負担を考えると、申し訳ない気持ちがあります。現在のところ、11年振りに研究・学問の現場に学ぶ者として戻り、充実した日々を過ごすことができ、研究にもやり甲斐を感じていますが、問題はむしろ、こうして働きながら学ぶ人間に対する理解のない成熟していない社会、(具体的には職場なのですが)にあるということを改めて考えさせられてもいます。同じような状況で学んでいる方たちからも、進学したことで職場から受けているハラスメントの話などをお聞きしますが、こうした精神的な苦痛を感じずに、仕事と学問を両立できる社会はいつになったら実現されるのか、と思わずにはいられません。
- (72) 講義の内容を云々する以前に、有職者で、仕事を続けながら大学院に通う学生について、カリキュラムをもっとしっかりと検討すべきである。はばひろい知識を身につけようにも現状では、非常に限定された講義に出席できないのが現状である。社会人特別入試を実施するのであれば、夜間の講義を目に見える形で行うか、または、休職して通学できる学生に限定して応募するなど、明確な態度を出すべきである。共通講義にしても教官のやる気のなさがはっきりと見える。問題点はきちんと解決してから学生にむかってほしい。
- (73) 大学院教育（学部もそうだが）が全く理解できていない教官自身の研究も得るところはない。大学院大学になって修士の院生がふえるだろうが、成長は期待できないだろう。人間的にも信頼できる人はいない。権威主義の温床であり、知的空間ではない。院生から学問的にも人間的にも信頼されていた先生方が次々と転出されるのは無理はない。これから入ってくる社会人院生と留学生が悲惨である。
- (74) 時間的制約があるので、もっとおそい時間の講義を要求するが、現在では無理か。しかし、これからは必要なものと思う。今は諸先生に便宜をはかってもらっている。先生方のご苦労たるやかなり大きなものがあると思う。改善策はありませんか!?

8) その他

- (75) 文学研究科内の各研究室間の交流をもっと活発に行う必要があると思う。具体的には公開講座や、合同研究プログラム、図書の貸借をより便利なシステムに変えるなど、開放的な策を講じてほしい。

教育学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 医療機関、施設の実習とか、もうちょっと充実していた方がよいと思う。
- (2) 所属する研究、又は専攻分野の知識を得る事が重要だけど、より幅広く各分野の知識を得ることも要求されると思います。
- (3) 複数の教官のゼミを受講しやすいようにしてほしい。現状では時間が重なっていたりしているので…。
- (4) 専攻をできるだけ極めることに時間をとられ広い教養を摂取できないのが悩みの種です。偏った研究者にはなりたくないのも、大変でも常識的な、総合的に成熟して“ヒト”になりたいと考えてます。急ぎすぎず着実にやりたい。

2) 院生指導について

- (5) 制度として、直接の指導教官だけではなく、複数の関連する研究の教官から指導を受けることが、可能なものにもかかわらず、事実上、(時間の制約等) 困難な場合が多く、残念に思う。
- (6) 指導教官が研究指導にできる限りの時間と労力を割いて下さっているのも、研究指導については特に不満はない。
- (7) 現在私が強く感じているのは、教官の事務的負担により、肝心の学生・院生指導が犠牲になっているということである。教官が自分の研究と教育にもっと力を入れられるよう、体制を変えてほしい。
- (8) 研究グループによって、院生の人数、構成に偏りが大きく、研究指導、環境等の面で公平と言えない。
- (9) 他大学の教官の指導・助言を得られる制度をきちんとしてほしい。
- (10) 教育学研究科の特殊教育に所属しております。勉強することを決めたのは、臨床心理学の知識を身につけたいからです。途中で指導教官が離職したせいもあるが、ゼミの参加で臨床の知識と触れ合うことはほとんどないです。臨床心理学を勉強するために、生理心理学の知識や基礎も必要と思いますが、片寄りすぎると、臨床をやる前に、生理心理学者にまずならなければならないような気がしてしまいます。特殊のtitleの下にどうしても臨床がなければならないのであれば、それなりの内容を充実しないと、臨床をやりたい人にとっては何か充実感を持たさないかもしれません。
- (11) 修士課程で調査研究に必要な研究方法論について指導していただきたい。
- (12) 指導教官との間で関係がうまくいなくても、どこにも相談できない。現状では、それを訴えるシステムもなく、泣き寝入りに近い状態である。もう少し、指導教官以外との接触を可能とするようなシステムにしてもらいたい。今は「指導教官一院生」という関係のみで研究している状態で、指導教官との関係が自分の研究を左右している。学問的なくろうは仕方がないが、個人的な、私的な問題が学問的な領域にも大きく影響すぎている。これでは研究がしたくても、指導教官との関係でそれをあきらめてしまうこともある。なんとかしてもらいたいと思う。

3) 論文指導について

- (13) 日本人に対する日本語の講義を開くべき、特に、論文の書き方や、文章の論理構造の組み立て方など。自分の研究groupはあまり心配していなが、他の研究groupsの中には、外部から見て心配なところもいくつかある-指導力不足だと思う。

4) 研究・学習交流, 学会参加について

- (14) 他学部の研究會について、もっとピーアールしてほしい。文系は特に、法、経、教のそれぞれが関わりを持つことが多く、ものごとをトータルで考える際も、必要である。講義はなおいいが、独自でやっている研究會に参加したい。しかし情報が少なく、HPや掲示板をみても、連絡がとれない。文系だけで何か別のHPや、書きこみのできるような横の連携がほしい。

5) 大学院重点化について

- (15) 大学院重点化の切り換えがうまくいっておらず、今までの少人数教育や、アットホームな雰囲気の中での研究指導が不可能になっているにもかかわらず、それをどのように変えていけばよいのか教官自身が模索中という印象がある。
- (16) 大学院生が増えているのに教官の数は変わらないので、指導を受けにくくなっていると思います。教官も大変になってしまったし、先生方のほうでもやりたい研究があっても院生の指導が大変すぎて、なかなか出来ないのではないかと思います。

6) 学習・就学条件について

- (17) 自分で自分の研究水準を高めるために必要なハード面の研究環境（例えば、研究スペース）などが不足している感は否めない。
- (18) 研究室の移動があり、そのやり方に非民主的な側面を感じる。教授會決定が公式決定とされ、院生の研究室移動が決まってしまった。どのような手続きをとるにしろ現実には、院生は移動するという結論に落ちつくかもしれないが、意志決定に民主主義が確保されていないので、いくら痛み分けと言われても痛みの押しつけに感じられる。将来的な展望を持たずに事を進めるやり方は賛成しがたい。
- (19) 教育研究を大学院で続けていく上での大前提となる日常生活において、常に金銭的な不安を抱えているのがつらく、正直に言って講義や実習への要望どころではないのが現状である。とりわけ今まで免除、あるいは半額免除されてきた授業料が今年度から免除不許可になり、経済的な面での打撃が大きい。国側の取り決めだとは思いますが、なぜ金の無い大学院生からここに来て授業料を取り立てるのか、どうしても納得がいきません。研究科での教育研究よりも、どのように毎日の生活を送り、いかにして就職への道を切り拓くか、そちらの方が大切であると言わざるを得ないのが現状です。

7) 社会人大学院生について

- (20) 社会人であるため、家族もあり、経済的には厳しい状況です。就職している院生の場合、収入があるため、奨学生などの枠から、はずれることが多いですが、研究を続けていく上で、何らかの援助制度があればよいと思います。

- (21) 社会人にも門戸を広げた大学院教育であるため、週の中の1日に演習や講読、講義の時間を集中させるのは、しかたのないことなのだろうと思います。しかし、週の1日が午前10:00くらいから、夜の8:00くらいまで、びっちり埋まっていて、あとはガラガラというのは、その1日があまりにも大変なので、困ってしまう、というのが本音です。また、社会人として入ってきた人と、もともと学生である人が全て同じ演習、講義を受けることになってしまう状況も、実際に受講する側の人間にとっては“やりにくさ”といったものがあると思います。
- (22) 社会人のために遅いゼミを開いてくれて、感謝している。
- (23) 研究者やスペシャリストの養成のみを目的としなくなりつつある現在の大学院で、これまでと同じような教育・指導をしていては、院生（とくに社会人）の大きな負担を免れ得ないだろう。しかしその一方で、その道の最先端をめざす研究者志望者への教育がおろそかになってほしくない。
- (24) 教育学研究科で社会人を受入れているということで、様々な制度や環境が整っているのではないかと期待していた。残念ながらシラバスは不十分であるし、履習の説明も事務職員の理解と食い違うなど環境が整っているとは言い難い。車の利用を規制するのも理解できるが仕事を終え、かけつける必要性も理解してもらえればと思う。大学院の科目も担当教官の判断で単位の取得が可能で単位が助かる反面、これで世界的に認められる大学院教育なのか不安にも感ずる。異なる分野からの進学だったので入学前の基本図書の紹介ぐらいはあるかと思っていたが、それはなく意外であった。同じ土俵の上で研究をする必要はないのでしょうか。本人の勉強不足といえばそれまでですが。広い視野と見識を持つ教官に出会えたことは幸いでした。
- (25) 社会人入学なので、時間が取れないので、土曜日に多く設定していただければ助かります。(要望意見) 学習意欲だけは、あるつもりです。色々のご配慮をいただき恐縮に思っておりますが、今後ともよろしくご教示のほどお願いします。
- (26) 社会人入試からの入学組に限って言えばスタート時のガイダンスが少々不足している感があります。かなり、惑いましたが、質問も何をして良いかわからないでいました。9月に合格した者は、4月の入学まで半年の時間がありますから、その間に学部卒の一般入試組と水準をそろえるチャンスはあると思います。基礎的な専門書（導入書）の紹介などで3月中旬に準備をすれば、社会人組の指導を軽減し、早く大学院生活に慣れると思います。それから、もう少し土曜日の科目があった方が良いのではないかと思います。
- (27) 社会人院生受入れによって、多くの社会人院生が在学しているが、教官の指導体制、事務の社会人用対応窓口など、強化してほしい。教官は個別のケース対応でいいが特に事務が、平日9:00~17:00では、社会人と同じではないか。手続きは有休を取れということなのか。研究以外の悩みの方が多いと、他の社会人院生も言っている。

8) その他

- (28) Master期間1年目に論文の書き方、学会発表の仕方、研究調査の方法等を徹底して教えるべきだ。アメリカの大学院を見てそう感じる。そしてM論は、ある型の中で、論文を書く訓練をする。オリジナリティは、Doctorから発揮すればよい。また、留学生、社会人は固有の悩みを持っている。そういうグループを集めた指導、コーホート集団の集ま

りを作る必要がある。Doctorに関して言えば、学生というより、同僚研究員として共同研究等にどんどん誘っていくこと。そして共同で学会発表等をしていく機会を増やすこと。TA, RAを活用し、学部教育のスタッフとして働いてもらうこと。研究科内で、定期的に学会を開催し、トレーニングをすること。

法学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 刑法系列についての教官が不足していると思う。
- (2) 近年、政策等実践系の学問の比重が大きくなってきており、それはもちろん良いのだが、いわゆる「お金にならない学問」もこれまでのように力を入れられてしかるべきだと思われる。国立大学のアイデンティティとして、短期的視野を超越した長期的な観点から研究する道は確保しておいてほしい。
- (3) 講義については、外国語（英語、独語など）の法律分野の（政治以外）文献講読の特定（例えば医事法）分野の文献に特化していない、基本的・基礎的な講義があるとよいと思います。また、基礎的な法律科目（民法、民訴、憲法等）について、それを専門にしない限り、学部の授業をうけただけでは、知識等かなり不十分なので、基礎知識を補強していけるような講義も望みます。あとは資格向け（ex.弁理士、司法書士等）の対策が何かあるといいと思いますが。
- (4) 現在、法学政治学科高度法学に所属しているが、もっと司法試験対策の講義・実習を増やし、選択のはばを設けてほしい。
- (5) 専修コースとして職業教育を行うことを目的としているのだから、対象とする職業に合わせた実践的な講義や演習（とくに演習）を増やすべきである。
- (6) カリキュラムが、司法試験受験生にとっては有利に組まれている印象を受けます。他大学出身で、他の資格試験を目指している一部の学生には、自己の研究と受験勉強、単位取得との折り合いで厳しい状況にあります。努力によって進めてゆくしかないとは思いますが…。
- (7) 10単位以外の大学院講義をもっと増やしてほしい。
- (8) フィールドワークのような実習のある講義や演習があってもいいのではないかと思う。
- (9) 法学研究科であるが、経済学の講義が全くないのは良くないのではないかと考えている。これは、法学部の学部の講義にも言えることである。（経済学部の授業に出席すれば良いのだが、時間などで不便があり、内容も多少問題があるのではないかと考える。）
- (10) 海外の法律情報（とくに新しいもの）へのアクセスの方法などを教える（紹介する）講義があってもよい。
- (11) 今の1, 2年（大学院）のカリキュラムを見ると私たちの入学した頃より充実してきていると思う。

2) 院生指導について

- (12) ゼミや実質ゼミの講義で、通常の時間内に終わるにもかかわらず、1回に2件以上扱うような場合は、表面的なことをやって済ませることが多い。これではゼミの意味が無い

ので、そういうゼミ以外のゼミも選べる方が、学生にとって勉強になるので良いと思う。

- (13) 教官とのマンツーマン、もしくは、1 vs 3くらいの授業がない。
- (14) 一般に、教員の工夫が足らず授業がつまらない。授業も従来の講義一辺倒からもっと面白さや資料、AVなど教育機器などの導入などにも必要な時代になっている。学生・教職員で改善に向け議論も必要であろう。研究と教育の両立は困難であると考えているが、学生は不満を持ちつつも北大という“のれん”に満足し口をつぐんでいるのでは…。時代を考えた教授法を求める。
- (15) 指導教官が単独なのは、専門特化の面ではすぐれた研究を行うことが可能であるが、それは、単に“伝統工芸の伝授”的意味をもつのみである。学問の学際化を目指すならば研究の方法論や、論文作成上の形式論は単独の教官でもよからうが、複数の教官に種々の教育指導を受けるシステムが構築されなければならない。他大学でもこのような試みはなされていないので総合キャンパスを持つ北大でまずその物理的条件の有利性を積極的に運用し、学内の研究意見交換を活性化してほしい。

3) 論文指導について

なし

4) 研究・学習交流、学会参加について

- (16) 他の研究科や他大学との連携を強めて層を厚くすることを願っています。
- (17) 学内の他の学部との共同研究（講義）が非常に少ないように感じられる。学際的研究を推進することは、文系、理系の垣根をこえた、柔軟な発想をうむことにもなるので、双方にとって有益ではないか。
- (18) 修士課程の在学者と博士後期課程以上の者との交流をもつ機会が少ない。それゆえ、個人が現在の状況等に不満を抱いても、それを吸い上げるなり、集約していくチャンネルがほとんどない。このような状況では、改善等の要望を適切に把握するのは困難なのではなかろうか。
- (19) 積極的に、研究発表の機会を与え、留学をする上での助力を与え、金が出る話を、できるだけもたらしてほしい。

5) 大学院重点化について

なし

6) 学習・就学条件について

- (20) ボランティアが建前とされながら、慣行化している大学院生による無償のお茶汲み、雑用の撤廃を進めてほしい。
- (21) その他、図書館の書庫利用時間をできれば3F開架と同じくらいまでに、そして土日も書庫の本の貸出をうけるとかなり便利さが増します。法令判例室も、もう少しおそくまでやってけると便利です。法学部3F以上のトイレをできればきれいにしたいです。院生向けのコンピュータールームのコンピュータが少なすぎます！Windowsで個人用ディレクトリありが3台しかなく、急いでメールを見たいのに全てふさがっている

ときなど困ることも度々ありました。研究室に個人用パソコンをおくことを前提としているようですが、学校用にもパソコンを買える人たちばかりとは限りません。以前、工学部のある学科は一人に机2台、コンピュータ1台があたるときき、もちろん研究内容のちがいもあるでしょうが、あまりに不平等だと思いました。同じ学費を払っていて、法学は実験もなくお金がかかっていないのですからせめて設備や文献資料収集くらいもっと充実させてほしいです！

(22) 研究室に網戸があればいい。

(23) 24時間いつでも入退場できるようにして欲しい。

(24) 法学研究科の研究室（特にM1）は大変狭い。1部屋に学生をつめこみすぎである。場所がないのは仕方ないとしても、せめて換気のためエアコンをいれてほしい。（特に夏場）

(25) 院生研究室の院生1人当たりの広さを、もっと広くしてほしい（難しいとは思いますが）。

(26) 図書館をさらに充実させ、パソコンとプリンターの数をふやし、研究室の数と設備をさらに充実させ、就職の世話を熱心に行って頂いてだけでよい。研究能力は、個人の資質の問題である。

7) 社会人大学院生について

(27) 社会人がもっと大学院へ入学しやすいように夜間の開講義も視野に入れるべきだし、その関連利用施設、例えば、研究棟への夜間入室、図書館の利用などの時間的制限に関して、撤廃してほしい。“プロの学生”は、少子化の影響を受け減っていくのである。セミプロの社会人学生獲得にもっと力を入れるべきでしょうし、その方が机上の空理空論を重ねている“プロの大学教師”にも刺激となり研究の活性化につながる。業績も、新しい分野への道が拓かれるでしょう。

(28) 夜間及び休日（土・日）開講の講義を設置して欲しい。なぜ、できないのか。アンケート結果とともに理由を公表してもらいたい。

8) その他

(29) 授業で発言しない人、当てられても答えない人が意外と多い。これでいいの？入試の段階で切るべきでは？

(30) 留学生むけの講義で集中的に日本の法律（憲法・民法・刑法等）の基礎知識を身につけられるものがあれば望ましいと思う。学部講義を履習するのもよいが、時間をとられる。（例えば憲法だと1・2と前・後期にある等）概要だけでも教えてもらえれば詳しいことは自分で調べられるし、何よりも的確な専門用語の知識を得られると思う。漢字を使わない国から法律を学びに（日本の）来ると、辞典で調べてもどの単語が適切なのか分かりにくいし、同じ研究室にいる院生に迷惑をかけるわけにもいかない。

(31) 研究のテーマの関係で野外調査に行くことが多く、殆んど講義や実習をうけることができなかったのが残念。

経済学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) もっと教授の数を増やして、開講されない科目がないようにしてほしい。民間企業で活躍している方をまねいての講義がぜんぜん無いに等しい。生徒の数が多すぎて、院生の講義とは思えない。レクチャーになってしまっている。
- (2) 専攻コース内でカリキュラムの縛りがきついので、ほとんど必修科目のようになっている。もっと幅広く、科目を取れるようなカリキュラムにして欲しい。
- (3) Expent（経営学の各分野、特に重要科目の）がほしい。ex) 財務管理、マーケティング戦略、人事管理 etc…
- (4) 社会人、研究者養成コース、修士（専修コース）の各々のコースの教育をゴッチャ混ぜ（Mixing）にしてほしくない。区別してしっかり教えるべきである。
- (5) 経済学を研究する上で、現在ではマクロ・ミクロ計量経済学を学ぶことが必須と言えます。しかし、北大の院では履習のしぼりで、履習しても修了単位にならない場合の人が多くいます（自分もですが…）。この所は改善すべき一番の点だと思います。
- (6) 学部レベルと院レベルの差が大きいと言え、M1の前期での負担が大きくなりすぎるくらいがあると言えるでしょう。もう少し体系的に研究しやすい、履習にしてほしいと思います。
- (7) ロシア経済。ロシア語解説。複数の指導教官（他の学部研究科を含む）による合同ゼミ。
- (8) 同期の社会人から、講義中に経済活動の実施的な話が聞けて、とても満足している。
- (9) 講義の実行方法を変えて欲しいと思います。学部の授業等には学生は黙って聞くのは普通だと分かっていますが、大学院生になったら、もっと議論、つまり話し合うという形でした方が有利なのかなと思います。
- (10) 企業ファイナンス等の実務的な講義をもっと増やしてほしいと思います。
- (11) 実務と関係している講義をしてほしい。
- (12) 立見が出る大学院講義を盛況と考えるか、また無計画な院生募集是非、ご検討願いたい。
- (13) (希望する講義) M1限定で、リサーチペーパーの練習といったコンセプトの講義があったらおもしろいと思います。テーマも研究方法も発表方法も学生が自由に決め、半期いっぱい使って自主的にすすめる。講義はガイダンス・中間発表・本発表時のみ行う。いわゆる“講義”はほとんどないがそのかわり発表される研究成果に対する評価はとても厳しい。半期、四単位。どうでしょう。
- (14) 大学院の講義の大部分は、先生が圧倒的な知的情報をかなりのスピードで、聴講している院生に対し講義しています。これでは、院生は授業時間中先生が話すこと、黒板に書くことを聞き写す、1種の筆記屋で、そこから学問的情熱や、学問的興味をわくのは困難ではないのでしょうか。もう少し余裕のある、生きた講義に心がけて欲しいのです。生きた講義というのは、現実の経済現象を経済の原理、原則に結び付けることを意味します。しかし、どの先生も授業に熱心に努力されていることは認めます。
- (15) 一つのやり方として、講義は、院生に研材を提供して、それについて、お互いに、デ

ィスカッションをさせ、それが経済的原理や定義とどのように結びつくかの誘導者に、先生がなることを希望します。換言しますと、先生はノルマを消化するのではなく、院生の立場に立って、院生に問いかけ、学問のキャッチボールをするような講義をすることを望みます。本アンケートのように、これからも院生からの評価をたびたび行って、その声を先生が参考にすることを望みます。

- (16) 教官数が少ない。開講される講義の種類が少なく、自分の研究分野について網羅することができない。ゼミの種類も少ないので、必ずしも自分の関心に合致するゼミがあるとは限らない。
- (17) 民間からの客員教授、開講科目にマッチする教員の確保と配置、首都圏等の大学院のカリキュラム、運営方法等の研究をし、改善を望む。サービス業としての顧客満足を与えるために。
- (18) 教官の負担は増えてしまうと思いますが、専修課程の院生と研究課程の院生の授業を分けて、後者の授業に関してはレベルを上げるべきだと思います。
- (19) 実体経済に関する講義、及び議論がもっと多くあればと思います。

2) 院生指導について

- (20) 教官（大学の先生）たちは自分達が従事している仕事がサービス業であることをわすれてはいけない。学生との日常的な会話や信頼関係構築が重要である。自分の専門領域以外の仕事には、あまり手を延ばしてほしくない。
- (21) 研究する分野に関わる現場との交流があまりない。
- (22) たぶん、教官の方々も自覚していると思います。『自分たちは研究者であって教育者でない。』講義に際し明らかに何の準備もしておらず、バイトで塾講師をする学生にすら劣るひどい講義をする教官もいます。学部時代、学生の中の陰口で『講義＝ものしりおじさんのつぶやき』というものもありました。耳ざわりで何の役にも立たないおしゃべりな私語というなら、講義は教官が教卓でする私語、というものも現実に何度か耳にしたことがあります。すばらしい講義をする教授はたくさんいます、が、そうでない教授もたくさんいます(3:7?)。何を伝えるかではなく、どう伝えるかについてももう少し手間をかけてほしいと思うことが良くあります。

3) 論文指導について

なし

4) 研究・学習交流、学会参加について

なし

5) 大学院重点化について

なし

6) 学習・就学条件について

- (23) くつろげるスペースを作してほしい。院生は全員、車で通学させてほしい。コピーカ

ードの配給が遅すぎる。

- (24) 研究室等ハード面での拡張。
- (25) 研究室が少ないです。非常に不満を感じています。
- (26) 研究施設をもっと充実させてほしい。
- (27) 研究室の机が少ない。パソコンも少ない。勉強する環境としては最悪である。一人に机とパソコンを1台ずつ与えてほしい。また、研究室を24時間、使用できるようにしてほしい。高い授業料を払っているのに、それに相応する施設を提供していないと思う。勉強する意思があっても、環境が悪くて、集中できない。
- (28) 経済学・経営学に関しての書籍、論文等の蔵書数が少なく、又、相対的に古い。学門領域を考えれば、先進的な内容の文献が必要不可欠であり、その点を改善して欲しい。あと、研究室の環境を改善して欲しい。
- (29) 院生の使用している研究室、パソコンのある情報処理室の閉める時間が夜10時まで、というのは、短かすぎる。もっと遅くまで利用できるようにしてほしい。
- (30) 講義や演習の際に、昆虫学教室まで移動するのが少々面倒。
- (31) 経済学研究科の開いている時間は短かすぎると思います。24時間にした方が良いと思いますが、それではなく、12時とかまでも十分だと思います。
- (32) 研究設備が十分に充実していると言えない、例えば、情報処理室のパソコンの数が少くないとか。コピーカードの交付日がおそい。
- (33) 研究室において私語が目立つ。特に留学生が声が大きく、研究に支障をきたす。
- (34) これだけ多数の学部生、院生が在籍するのに対し、事務方が手薄と感じ、良好なサービスを受けた覚えは無い。教官皆様の熱のこもった講義を良好な教育環境の中で受講してみたいものだ。
- (35) 文系は最近、大学院重点化で設備は従来のままで院生の数だけ、増やしており、研究環境は悪化する一方である。これは、文系四学部院生の共通認識であり、早急な、対策が必要であると思われる。
- (36) 設備が悪い（黒板が粗末で小さい、教室が狭い、研究室が狭い、ロッカー及び本棚が少ない、ファイルがない、コピーカードの利用枚数が少ないetc…）。
- (37) 情報処理室の院生専用のパソコンの数を増やしてほしい。
- (38) 校舎が手狭である。修士院生は研究室に個別の机を与えられていないため、研究する場所がない。院生には1人に1つの机を与えて欲しい。また、談話するスペースもない。
- (39) 院生の研究室の劣悪さ（院生全員分の机が無い）また、講義に出席する人数が多すぎて正規の院生のみの参加でも机が無い等の問題にすべきこと以前の問題がありすぎる。

7) 社会人大学院生について

- (40) 職業人として講義や演習に参加していますが、夜間や土日の開催があると大変たすかります。先生もお忙しいことと思いますが、ぜひともご検討願います。
- (41) コマ数が少ないのでしっかりと知識修得がなされているか疑問。社会人用に夜、土曜日等の講義の開設を望みます。
- (42) 社会人で専修コース（公共政策コース）に属しているが、必修の講義科目の制限が厳しい。さらにある教官が海外出張で、開講取り消しになったり、非開講の科目がある

など、きわめて履修の選択の幅が限定され、興味のないものまで履修している。特に時間的にも制約のある社会人が、予習復習を前提とするような講義を理解するのはきわめて厳しい状況にある。もう少し柔軟に対応してほしい。入試前のガイダンスでは専用の机が割り当てられるような経験談がのっていたが、入学定員が増えて実際には、そのようなことがなくがっかりした。研究室も特に留学生の使い方が汚く、整理整頓とんされていない。またコピーカードの配布も遅すぎた。文献が本館図書館よりも農業経済学科（農学部）にある場合も多く、行くのに時間がかかる。

- (43) 土曜・日曜の講義をふやしてほしい。(含む夜間) 平成11年7月3日(土) 付北海道新聞朝刊「北大も社会人に学びやすくし、働きながら2年で修士の単位を取得できる」をみて、本年入学しましたが、土曜日は平日の講義を教官と学生とが話し合いをして決めているのが現状であります。今後、社会人の入学者がふえていくと考えられますが、時間割の中に、土曜日、日曜日、夜間の科目を多く入れていただきたいと思います。働きながら学びたい人のために、より、弾力的な時間割を希望します。
- (44) 先生方個人ではとても協力的ですが、土日の開講をもう少しはシステムとして確立してほしいです。実際合格しても勤務時間が最も多忙な時間帯に担当教官の講義で、入学断念した同じ職場の仲間もいます。先生方の個人的好意で私はどうにかなったのですが、もっともっと講義に出たかったです。先生個人の努力だけでなくシステムも連動させてほしいです。それから厳しい選考でOKなので、社会人の博士課程も受け入れてほしいです。ただし特別入試なんて不要です。万一札幌近郊にいないときでも研究の環境に身をおいていたいのです。どうかこの気持ちをわかっていたいただければと思います。甘い評価ということを全く望んでいません。講義の範囲を(分野を)ひろげて、集中講義を数コース設けて通常単位に組み入れるといった方法もマスターでは検討していただきたいです。東大、慶應などよりも教官の分野が少し狭いので少しずつひろげてほしいです。研究室階段の手すり整備感謝します。事務や図書館の夜対応感謝します。図書館の参考閲覧室夜も少しやっていただければうれしいです。
- (45) 高度専門職業人の育成を目的としての専修コース並びに社会人特別選考をし、受け入れるのであれば、それに見合ったカリキュラムと教員を調べるべきである。
- (46) 一昨年、社会人向けガイダンスを受講し、大学院に入学することを決意した。しかし、当初「社会人が出席しやすいように夜間や休日に授業を行う。」という説明だったのに、入学の段階で担当教官から「授業はあくまで平日の日中行う。」と強い調子で言われ非常に憤りを覚えた。北大は言っていることとやっていることが違うのではないか。道内を代表する知識の府であるのになんたることか。失望を感じた。大学の独立行政法人化の動きが加速している。しかし、北大の運営スタイルはまったくもってマーケットインの姿勢が見られない。我々社会人は高い授業料を払って、しかも大切な時間を割いて、さらに上司に陰口を言われながら、日中授業に通っている。授業システムに不案内なので事務官に尋ねると人によっては非常に不快な対応を何度かされた。我々社会人は納税者であり、その税によって国立大学職員は生活しているのではないか。辛口ばかりで申し訳ないが今後の大学院教育に対して、私の会社でも若い社員を中心に非常に期待している。その期待に答えて欲しい。大学の責任ある立場の方々と本件について、一度話し合いがしたいと思っています。

8) その他

- (47) 私立大学の大学院は、カルチャーセンター、国立大学の大学院は、学生の就職のモトリウム化しているように思う。研究意欲のある者で、基礎学力のある者だけを採用してもらいたい。研究分野でのディスカッションができる者が少ない。

理学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 大学院講義は、様々な大学や研究機関から来た人が様々なアプローチで進めている研究を聞けて良いと思います。これからもやってほしいです。
- (2) 授業がつまらない。まともな授業をもっときちんとすべきである。存在理由の感じられない教官が多い。自分の研究にしか興味を持たず学生にとってプラスにならない教官をやめさせる制度が必要である。
- (3) 講義・実習といった枠組はしっかりきまっておらず、学生の要望によっておこなわれている。そういう意味では自由度の大きい教育といえるかもしれない。しかし、逆に言えば、教育するという点においてぜんぜん計画というものが感じられない。研究科の講義、実習がそのような考えであるのはいいとして、学部教育は、何を3年間で伝えたいのかが、よくわからない。学生が動いてどういう内容について知識を得たいのか、ということを知っていることは重要だと思うが、それと同様にこの研究科・学部では、どのような可能性があるのかということをつたえきれていないと思う。私は研究科における教育は、「自分で動かないと何も得られない」という立場だと思っているので殆ど何も発していない教育については特に問題ないと思うが、学部生に対しても同様な立場であるとそううち、だれにも相手にされなくなるのではないかと思う。
- (4) まず、教え方の悪い先生は講義しないしてほしい。先生のアンケートでもって悪い先生にはもっとしっかり準備してほしいです。
- (5) 講義を受講したことがないので分からない。
- (6) もっと学外の人を講師とした集中講義を増やしてほしいです。年間に、各研究室が1人を招聘する現行の集中講義では、物足りないです。自分の専攻する分野からは、せめて年間に2人くらい来てほしいです。各研究室から2人ずつにしてみたいかがでしょうか。
- (7) 他大学の進学も希望し、色々な大学院を見学したが、当科は授業がいいかげんで意義うすいもののように感じた。東大の先端領域創成科等を見ていただきたい。
- (8) 学部の専門科目の授業内容と実際行っている研究内容の分野があまりにも違いすぎる。大学院試験の勉強で、研究内容と全く関係のないことを勉強するのはバカらしい。もっと研究内容に関連した授業内容にして欲しい。
- (9) 物理学や化学、工学などで、基礎的な部分の講義が聞けるといいと思う。
- (10) 意味のない講義はへらした方がよい。
- (11) 講義が受身になってしまう(自分にも責任があるが…)。共通講義では様々な分野の先生のお話が聞けるが、興味のないものも多い。おそらく講義をされる先生も感じているだろうが、出席だけ(名前を自分で書く)とって、すぐに退室する人も大勢いるし、寝

- ている人も多い。大学院生にもなって情けないと思う。興味のある分野のものにだけ出席する制度にすれば、失礼も減るのかと思う。
- (12) 一方的に押しつけるような、カリキュラムをこなすことを目的にした授業ではなく、できる限り学生達と対話をしながら進める授業にしてほしい。
- (13) 脳に興味があるので、他研究科の実習にもっと気軽に参加、見学できるようにしてほしいです。
- (14) 化学を学習する上で必要となる数学、物理、生物などの講義、演習をする機会が欲しい。特に数学では量子力学を学ぶ上で必要となる微分方程式、ベクトル解析、複素解析の知識を得たい。これからは専門にとらわれてばかりではいけないと常に考えている（これは大学院に限らず、学部の授業でもあてはまる）。
- (15) 週一回の小人数制のゼミをしてほしい。
- (16) 講義が、その先生の所属する学生向けの講義に片寄りすぎているのが多い気がする。
- (17) 機械工作の実習をもっとじっくりやりたかった。
- (18) 内容はともかくとして、順序を考えて講義をしてほしい。カリキュラムがおかしい感じがしていた。(学部生時代) 微分方程式をやらないで、いきなり運動方程式とか習わされてもちんぷんかんぷんであった。最初は。
- (19) もう少し専門系で自分等のやっている研究に近い分野の（例えば化学科なら化学系の全範囲）浅くてもいいので広い知識をつけるための講義をしてほしいと望む。
- (20) 講義の内容が不十分。つまらないものが多い。自分の専門の話だけではなく、generalで先端的な内容を求む。研究室が狭い。大学内に駐車場を増やす。←時間の都合上
- (21) 大学の講義の延長ではなく、大学院生への専門知識を増やす目的で、先端的な講義、および、実践に役立つ実習を行って欲しいと思う。
- (22) 将来的に、研究を行う上で必要となる事をもっと講義として取り行って欲しい。例えば、(I) 研究分野の歴史的背景と流れ、今後の見通し等、技術的な進歩と関連づけて、どういう考えのもとに研究が進んでいったか。(II) dataの取り扱い方、数値処理等を実際の現場に近い状態において、どうするか、という事についての指導。(III) 研究に必要となりそうな、数学的解析法、モデル構築の手法等を、具体的な例に基づいて講義して欲しい。せっかく学んだ数学の知識が、生かされないまま消失してしまうのが、非常にもったいない。大学院での授業のカリキュラムは、将来研究者となるべく人間を教育しているのだという意識のもと、しっかりと将来的に生きてくる様な内容のあるものにして欲しい。現行の内容では、講義の内容に殆んど意味がある様には感じられない。
- (23) 総合講義は、各週いろいろな先生が授業をしてくれて13回の中から8回以上選べば良いということで、その研究室が行っている研究内容などを学ぶことがとても良いと思いますが学生側の態度として出席さえとってもらえれば良いと思う人が多いらしく5-15分前(授業終了)に人数が倍増します。それを黙認している先生もどうかと思いますが、その点の改善はできないでしょうか。大学院生になって、その態度はおかしいと思います。大学の先生になる為の試験や面接などがあるべきだと思います。現在では研究成果がある程度認められれば誰でも教官になれるようですが、やはり指導者として向かないと思われる人はたくさんいると思います。公務員なのだからやはりある程度の基準をもうけるべきだと思います。(第3者の目による試験などは必要だと思います。)

- (24) 講義は受講生の皆に理解できる様にしてほしい。例えば一方的に難解なことを話しているだけの授業であったり、OHP、スライドが見にくかったり。基本的に教官の自己満足の授業が多いように思う。
- (25) もう少し、基本的に学部以上のレベルで専門の一般知識を講義してほしい。例えば『大学院有機化学』とか使って。自分では読む気がしないので。実験に関して、全てスタッフの思い通りにはいかず、学生にもリズム、気分があることを知ってほしい。
- (26) システマティックな授業、インターンシップの導入。
- (27) 自分の研究について話される先生がいらっしゃるんですが、もっと面白いということが伝わってくるような授業を望みます。せっかく、面白いことを研究されていても、プレゼンテーションがよくなないと、興味も半減してしまうと思います。実習に関しては、講義よりもより研究室で行われていることに近い雰囲気を感じるのも、もっと新しいことを（古い古典的な実験ではなく）やらせてもらえれば、学生にとってそれも講座を決めたり自分の興味を見つけたりするのためのよい指標となるのではないかと思います。
- (28) 概念的な内容の講義や実習ではなく、積み上げ型の内容に重点を置いたものにして欲しい。研究については、北大にしかないような内容のもので、学生にとって、魅力があり、その分野の先端の研究をして欲しい。
- (29) 大学院の授業を少なくしてください。
- (30) 発展性のある講義、意味のある講義をしなくては、つまらないだけ。学生に問題意識を植えつけるような授業をする先生が少なすぎる。あまりに社会性に欠けていてあきれ。研究者を育てようとする先生があまりに少ない。日本の大学教官の指導能力は無さすぎる。大学教員にも教員免許の取得を義務づけるべきではないか。
- (31) 学部の授業との差が大きすぎ、ついていけません。
- (32) 大学院の講義はあまり良いものは多くない。
- (33) 大学院での講義や実習の必要性には疑問を感じる。他大学からの講師をまねいての特講などをふやすことを望む。
- (34) 大学院の授業は、学部の頃とは違って、非常に学問の幅が狭いように感じます。授業はほとんど物理学専攻の人だけで、学部1年の頃のように、いろいろな人が集まるような授業は全くありません。強いて言えば、大学一年のときの教養の授業をとれるようにして、それを単位として認定すれば、忙しい研究の中でも、単位は取りやすいですし、いろいろな人とコミュニケーションがとれるのではないのでしょうか。
- (35) 講義として…実践英会話、ビジネス英語（プレゼンなど）などを、ネイティブの講師で行ってほしい。
- (36) それぞれの先生方の研究成果やそのプロセスを講義にとり入れてくれたら、分野は違っていても参考になると思う。
- (37) 講義に関しては、他講座の先生の講義（必修）は自分も興味がないため非常につまらない。もっと選択できるような制度にして欲しい。例えば、他大学（国内外を問わず）から招いた先生の「特別講義」にも単位を付けて頂ければ非常に助かる。
- (38) 学生が教官を評価できる機会をもっと増やしてほしい。“講義”をする以上は、教官の教える技術をもっと身に付けるべきだ。講義のいちばん初めに「教えるのが上手くないから」等の言い訳をしてから授業をし始めるのはどうかと思う。

- (39) 教官は、めんどうがらずに、ちゃんと講義をして欲しい。受講者が少ないからといって、勝手に他の講義（全学科目）にふりかえにしないで欲しい。教官が忙しいのは十分わかっているが、自分の研究だけでなく、せめて同じ講座の学生を教育するのは、教官の職務だと思う。単位のためだけに、形ばかりの講義をするのはやめてほしい。お互いに時間の無駄になっている。やるのであれば、もっと内容のあるものにして欲しい。
- (40) 大学院の講義は、その教官が現在行っていることを話すだけだったので、意味がなかった。その教官が行った研究にはどのような利点や有意義なことがあるのか、また今後、進めるとどれだけおもしろいことを発見できそうなのかを教えてもらいたかった。
- (41) 学部の授業だけでは不足するので、院の講義では専門的な授業をきちんとやってほしい。実験に支障が出るのはある程度しかたないことだと思う。どうしても院に入ると自分の専門に偏りがちなので、他の専門知識について身につけられる授業がよい。
- (42) もっと学生にとって、力のつくような講義形式にしてほしい。
- (43) 講義について、教官にもよるが、ただ「やればいい」的な印象を受ける講義がある。そのような講義だったら受ける意味がないと思われる。講義をやるのであれば、やはり受けて意味のあるもの、受けてよかったと思えるものにしてほしい。例えば、研究を行っていく上でどのような知識や経験が必要であるかといったような講義は聞く価値があると思う。しかし、内容如何よりも講義をする側の姿勢がまず重要なのではないかと思う（もちろん聞く側の姿勢も重要ではあるが）。
- (44) 物理実験（学部カリ）はいらないと思う。そこは講義にして、3年後期ぐらいから研究室配属にすれば良いと思う。その方が質の良い卒論が書けるし、その後の研究の質も上がると思う。
- (45) 教養性の高い講義を行ってほしい。
- (46) 各教官とも、自身の興味の対象について、大変熱のこもった語りをされるので、今の所気になることはない。ただし、自身の声が小さいならば、マイクを使う、字が汚いならばスライドを他用する等、他人に“伝える”ことを意識していただければ、さらに良くなると思う。
- (47) 他大学等外部の研究者による集中講義等を増やしてもらいたい。
- (48) 何年も同じ内容のような講義はやめて、新しい内容を取り入れて興味のでるようなものにしてほしい。
- (49) こまかい分野のテクニク的なことではなく、広い分野でベースとなる思想や概念についての講義が聞きたい。学部生向けの講義（特に学外の講師による集中講義）が修了のための単位になるとうれしい。内容的に難易度に差はないのに、片方は単位がついて、もう片方は単位がつかないのはおかしい、と教官も言っていた。
- (50) 大学院生の講義と実習は、今のままでいいのですが、その成績の管理などを最強化したほうがいいと思います。
- (51) 講義のあり方はよいが、日程的にきつかったりする（集中講義等で重ることがあって融通がきかない）。あと資料等を地環研までとりに行くのは面倒くさいので低温研まで学内便で送ってほしい。地環研と低温研の事務能力を同じにしてほしい（低温研からonlineで手続等をできるとうれしい）。

2) 院生指導について

- (52) 院生を中心として、演習や実習を増やしてほしい。TAの枠を増やしてほしい。院生の講義は論文講読が多いが、テーマに沿った、データ処理の仕方など、実際に自分が解析、研究するときに必要な技術や指導を増やしてほしい。
- (53) 院生が高校までで受けてきた教育の影響、昔、教官方が受けてきた教育との違い、等を考え、学生と教官との間にある溝をうめる方法を模索してほしい。
- (54) 学生実験などTAに任せきりでやっているが、見回るなどして現状を把握してほしい(TAのレベルや学生のレベルを知って欲しい)。先生の出入りが激しくて、しっかりとした指導を受けてはいるが、不安は感じる。
- (55) 指導教官は研究等で忙しいと思うが、それでも、もう少し親味になってくれてもよいと思う。あまり勧迎していないということをゼミの時に露骨に出さなくてもよいと思う。
- (56) 毎週のように課題を出し、その課題がとても一週間じゃ完成できないものを出す先生がいる。授業は何個かとっていてさらに研究は毎日やらなくてはならない課題をやる時間は限られるのにその辺のことを先生は理解してくれていない。もし大学院が研究をmainに考えているなら工夫をしてほしい。理解してほしい。
- (57) 化学専攻、触媒設計化学概論はとっても単位取得が困難。だがしかし、その他の講義はクリアであり。ほとんど内容は高レベルでありながら、形式上、単位の取得が小学生でもできる。この現状をなんとかした方がいいと思う。
- (58) 学生を指導するというより、自分の研究成果のために学生を働かせている指導教官が多い。大学院も本来教育機関であるのだからその点における不備は大いに問題があると思う。
- (59) 所属している研究室は、若い先生がいなくて、その点少し不安を感じています。
- (60) 研究室の教授が高圧的で、他の意見を認めない空気がある。
- (61) 研究の意義が感じられない。
- (62) もっと幅広い研究テーマを持っても良いのではないかな。
- (63) 研究科の授業だけでは就職後のイメージが全くわからない。研究生生活はつらく長いのに対し、何のために研究・勉強しているか分からないままにいる学生が多いように思う。その結果無気力・中だるみ、脱落・ひきこもり等を起こす人もいると思う。大学では知識を与えるだけでなく、その知識が社会とどのように結びついているか具体的に教えるような講義があれば学生が学業の指針を持てるようになると思う。
- (64) 指導教官からのテーマと自分のテーマを並行してやるのは大変だが、そのような状況が許されている研究環境はいい。
- (65) 指導方針を持ち、それをうまく学生に伝えることを大事にしてもらいたい。伝わらないような類の意思を与えないでほしい。
- (66) 学外から入学する生徒がいないので、とても閉鎖的な雰囲気がある、もっと他大学からの生徒の受け入れを増やした方が、刺激の少ない研究室に良い刺激を与えるのではないだろうか。
- (67) 「研究者であっても教育者ではない」というような教官が多く、学生は精神的にまいってしまふこともある。

- (68) 現状では講義実習は1つも開講されていないが、大学院において私は研究をメインに行いたいので現状のままで満足である。しかし、大学院生の扱いには、大いに不満である。研究機関としての大学において、実際に研究の最前線で活動しているのは学生である。学生の存在無しには大学の研究活動は成り立たない。それなのに学生は、授業料を払って、毎日12-15時間もの労働を強いられている。「教育」という名の奴隷制度であると私は思う。大学院生は、「教育を受ける者」ではなく、一人前の「研究者」として研究をすべきだと思うし、現状を見てもそれは正しい。そうであるなら、それ相応の手当てが欲しい。一日12-15時間働いて、研究の現場で大学に貢献しているのに、そのような者に対する金銭的補償が皆無なのは、疑問である。これでは優秀な研究者は育たない。このままでは生活ができない。バイトする時間もあるはずがない。指導教官と学生との関係にも問題がある。大学院においては、たった1人の教官に、学生は指導を受けている。人間関係がこじれたら立場を失うのは必ず学生である。(教官側に問題があったとしても)学生はもっと守られるべきである。授業料を払っている以上は教育を受ける権利がある。何でも教官の言いなりになる他に卒業する術はない今の制度は問題だ。教官と学生の、相互評価制度を導入するべきだ。
- (69) 理系の研究分野は職人的な縦のつながり(徒弟制度)が強く、最近の学部生や大学院(修士)学生には合っていないと思う。博士課程の院生に教官との仲介役がまわってきて、両方の言い分が理解できるため、心理的な負担を感じる。大学の教官も、もっと最近の若者の心理を理解するよう努めてほしい。
- (70) 学生委員の先生にはもっと積極的に動いてもらいたい。
- (71) 教官を変える制度がほしい。学生の悩みを積極的にサポートしてほしい。
- (72) 大学生や大学院生が研究の中心となっていて、教育されるどころではなく、研究ばかりやっているのが現状である。よって、ポスドク・技官・事務官を充実させ、大学院生が少しは勉強できる環境をつくってほしい。
- (73) 教育と研究はきっちり分けてほしい。大学では研究の自由が憲法で保障されているが、その上にあぐらをかき、全然論文を書かない研究室はさっさと消えて欲しい。その枠に、もっとやる気のある教官が来て、業績をどんどんあげて行って欲しい。
- (74) 学生を教育する気がない研究室は、学生をとらないでほしい。
- (75) 大学とは、教育の現場でもあり、研究のみのために存在しているわけではないと思う。人間として、人を指導するだけの器量がない人に限って、偉そうな態度で学生に応じ、人に不快な思いをさせる。人の悪口を平気で口にし、人のすべてを否定する。自分の都合の悪いものには、蓋をして、他人の迷惑に気付かない。こんな人が社会に存在するのか?と思うだけで驚き、おののく。機嫌次第で態度が決まり、よいしょされて、いい気分。自分が、周りに好かれているとでも思っているのか?相手の本心を知らず、いい気になっている彼を見ると哀れにさえ思える。人間として、最低、最悪な者が、人を育てるという事ができるのか疑問だ。このような教官を切るような人事を望む。
- (76) 講義、実習、その他の設備には恵まれていると思うので、学生(特に学部生)と教官との関係を密にし、研究分野の情報をもっと与えるべきだと思います。
- (77) 担当教授は、自分から研究するのではなく、学生に研究をやらせている。研究を自分でできない教授が、大学内にたくさんいるのかと思うと腹だたしい。ただ社会の厳しさ

を知ることができたことが、大学院にきたプラスだった。

3) 論文指導について

- (78) 同じ研究科に属する他の研究室とは性質が全く異なる分野を研究しているため、研究科の現行の学位基準が（他大学の同分野を専攻する研究科の基準と比較すると）かなり厳しく、通常の修業年数で学位を取得することに不安を感じることもある。また、院生が学会で単独発表する際にも、旅費の補助等が受けられるようにしてほしい。
- (79) 助教授も主査になれるようにしてほしい。
- (80) 講義や実習に関しては、特に希望はない。自分は博士後期課程に在学中であるが、各講座、各研究室によって、学位取得の条件が曖昧である。具体的に言うと、我専攻は学術論文で第一著者の論文が一報あることが最低要件であるが、学術雑誌のレベルに関する規定がなく、その修了基準が専攻レベルではなく、研究室レベルに準じている。これは各研究室でテーマが異なる上、投稿する雑誌も多種多様であるから仕方ないかもしれないが、もう少し統一してほしい。また、正規、就業年限超過者に対する経済的な援助（授業料免除、奨学金）の緩和を希望する。好きこのんで留年しているわけではないから。

4) 研究・学習交流、学会参加について

- (81) アンケート中に、外国の大学との関係についての質問、外国人講師に関する質問がありましたが、英語に慣れるためにも、外国人と接する機会をつくりやすくしてもらえるとうれしい。Guest lectureを行うとか、単位の互換可能性をもっと広げる等。
- (82) (I) 学外の研究者と、接触できる機会を増やして欲しいです。(II) 研究・勉強するには、とても良い環境だと思いますし、図書室（学科・本館等）、コンピュータ関連等、24時間サポートがいきとどいているナと思います。あとは、自分の努力のみと思っております。
- (83) 他の研究室がどのような研究をしているのかわかるような機会をもっと多く作ってほしい。
- (84) 分野の性格からいって、他研究科との交流が重要。特に文学との学生には見渡し切れない視野・視点の広さを紹介して欲しい。具体的には、複数研究科で共通の講義・演習の開催など。
- (85) もっと多くの研究者の発表を見聞きたいので、積極的に招いてほしい。
- (86) 閉鎖的だと思うのでもっと他大学や他学部などの交流があってもいいんじゃないかと思う。講義については実験する時間を削っているのだからそれなりに意味のあることをしてほしい。今までのところ、1人の先生が連続あるいは集中的にやる講義については学ぶことが多くあるが、毎回先生が違う授業は当たり外れが大きい。90分にまとめる能力が先生の方にならないように思う。
- (87) 研究室間での実験装置の貸し借り。
- (88) 公的な機関としての大学は、やはり社会的な視野がせまくなりがちである。ある程度の民との連携が今後は必要であると思います。広い視野で研究を進める上で、研究に対する国の評価基準の多角化が必要不可欠ではないかと思っています。博士課程の授業料は国で支えるべきです。確かに研究指導を受けていますが、研究による国への奉仕も十分に行っている学生も多くいることも考えてほしいです。

- (89) 自分の専門分野の知識を広く得るため、他研究科の同じ分野の先生の講義をうけてみたい。実習においても学内での同分野の交流がもっとあってもよいと思う。
- (90) 他機関（国内外を問わず）の研究者をより積極的に招いて特別講演等の機会を増して欲しい。北大は離れており、他大学との交流が本州の大学と比べて弱く感じているため。

5) 大学院重点化について

- (91) 大学院改革で、年寄の教官が増え、若手がへった。自分の研究を自己評価している。このようなラボに自分が居る必要はない。今後の進展も全く期待できない。
- (92) 大学の教官は教育者として俸給を受けていると思うが採用に際して、研究実績で評価されるので、研究者としては立派だが教育者としてはダメという方を少なからず見かけます。その辺のギャップをどうするかを真剣に考えていただきたい。少なくとも人間的に自分より明らかに劣っていると思う人からは、たとえすぐれた研究者であっても、指導されたくありません。(教官の評価法を色々と考えて、研究を主にする人、教育を主にする人など分けていかなければならないのでは?)
- (93) 教授・助教授の数に対して助手の数が少なすぎる。新しい研究棟などハード面の整備を充実しても、人的な整備をしなければ大学院としての教育水準を保てるはずがない。実習等については、後に受けていきたいが、今は自分の研究の論文から学び、それを自分なりに調べるといった姿勢で、のぞみたいのでそんなに強い希望はありません。ただ、分野が学部の時と多少異なるので、それをおぎなうために基本的な講義を行って欲しい。

6) 学習・就学条件について

- (94) 研究が本当に忙しくて、アルバイトをしている時間がありません。また奨学金も今年から厳しくなってなかなかもらえないのが現状です。今はMC1で、Doctorまで行きたいのに、奨学金がもらえなかったら難しいです。日本では研究者になれないのですか。
- (95) 博士課程在学中の身としては、研究テーマが細分化、専門的になるので、単位に縛られることなく「気軽」に講義を受講できるのは良いことだと思う。学生は与えられた環境が良ければ、後は学習・研究するだけなので、特に研究室の設備を充実してもらいたい(ここに書くのは筋違いと思われるかもしれないが)。
- (96) 研究に集中できる十分な空間を博士課程に在籍する1人1人の学生に保障して頂きたい。教官優先は、本末転倒。学生の利益（もちろん研究に関する諸々の条件に関して）を最優先させるというあたり前のことを教官連中が認識することを願う。
- (97) 数学科の修士1人1人に十分なスペース（机等）が与えられてない。パソコンも不十分。研究環境が工学部に比べ、はかりしれないほど悪すぎる（同じ学費を払っているのに!!）。数学図書も、本の数の絶対数が少ない。研究するのに不十分すぎる。
- (98) 数学事務の対応に優しさを感じない。冷酷すぎるので、絶対なんとかしてほしい。
- (99) 理学教育科数学専攻のドクターの人達が、とても丁寧に勉強を見て下さり感動しました。見習える人達がたくさんいるので、いい所だと思います。考究試験も、平等に評価されるし、頑張ったぶんきちんと評価されるので、いい制度だと思います。
- (100) 修士課程の学生全てに、一人一台の机を確保してほしい。図書室環境を整備してほしい（数学では3階に分かれているうえ、保存庫がひどく離れている）。図書室内に閲覧ス

ペースが多くほしい。(現在はほとんどない。)他大学(国内・国外)の研究者による集中講義を、現在の2-3倍に増やしてほしい。

- (101) 危険性の高い薬品、毒性の強い薬品の管理についてもっと外部から徹底できるような制度をつくるべきである。研究室それぞれが「よそに見せたくない」と感じる事が実際によその目に触れるようにすべきだと思う。
- (102) 奨学金がもらえず、自分で授業料を払うためにアルバイトに時間を費し、研究する時間がない。このような状況で、今後学校を続ける自信がなく、学校を辞めようかと真剣に考えている。学校側で何かしらの経済的な支援はないのだろうか。
- (103) 教官数と研究に必要なスペースを増やしてほしい。
- (104) 必要な実験器具を置くスペースが圧倒的に不足しているので、増やしてほしい。総合講義を増やしてほしい。また、他機関の講師による授業も増やしてほしい。
- (105) 夏は暑く(これは仕方のないこととしても)冬は部屋、廊下に雪が吹き込むような劣悪な環境の中で研究を続けるのは難しい。余計なことに気を回さなくてもよいような研究環境をととのえていただきたいと思う。
- (106) 部屋や建物間での引っ越しが今後もあると思われるが、そのときの院生にかかる負担を減らしていただきたい。
- (107) 遠隔地にいるため教員資格がとれないでいる。また学芸員の資格のための講義もうけることができないでいる。レポートなどで単位を取得できるように改善していただくことを強く望んでいる。
- (108) 不平等な予算配分をやめてほしい。理論だってお金かかるのです。

7) 社会人大学院生について

なし

8) その他

- (109) 位置づけが微妙
- (110) 現状の環境で満足のいく研究活動ができていますので、特に不具合は感じません。
- (111) 全ては自分にかかっていると思う。たとえば素晴らしい講義でも自分に受け入れるだけの予備知識がないともったいない。
- (112) 設問が細かすぎて個人が特定される気がする。教官の数が少なすぎる。授業の時間を守らない人が多い。
- (113) 「なし・特になし:12件」

医学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 授業が月と金に集中している気がする。
- (2) 大学院生の講義や実習は今のままでいいのですが、その後の成績管理をきちんとしてほしいのです。
- (3) 講義や実習をしないでほしい。減らしてほしい。

- (4) カリキュラム改訂直後というのはわかりますが、学生は各開講教授、教室に振り回され、必修・選択必修科目の単位取得に非常に不便を感じています。なんとかならないかなあと思って2年目。
- (5) ①無意味な必修科目が多い。ただ出席のためにやっていることが多く、自分達の研究活動のさまたげになっている。②カリキュラム自体が不完全で、事務サイドと教官サイドのくい違いが多い！これで単位がとれず留年したら誰が責任（生活の保障）をとるのか！年間学費もバカにならないのをもっと知って欲しい。
- (6) 講義や演習が卒業に必修であるが、学生の受入れ体制が不十分なまま講義等を設定した感がある。北海道という地の性質から新しい情報をあつめに行くのが困難なことが多いので広い分野から講師をまねいてセミナーをしてほしい。(他学部からもやってほしい) 医学部の建物のドアの件で、夜10時以降正面からしか入れないのはとても不便なので、学生証をIDカードとして24時間どこからでも入れるようにしてほしい。
- (7) 今、私の研究科の講義や実習が必ず必要ですか？
- (8) 21世紀は、生命科学の世紀です。研究方法の中に、分子生物学は主要の方法です。いま、大学院分子生物学実習時間は1週間です(医学研究科)。とても短いと思います。
- (9) 専門の講義をしてほしい。
- (10) 意味のない講義・実習がある。とにかく研究科とはほど遠いところである。北大医学研究科の総力をあげて改善してもらいたい。
- (11) 実験に必要な基本手技の講義をすべきです。
- (12) 医学研究科、第一選択、第二選択といったカリキュラムがあるが、もっとシンプルで、研究に支障のないものにしてほしい。
- (13) 研究科の場合、将来の研究者を育てる教育機関と考えます。講義はあくまで、自分の研究のヒントやみちしるべになるものであって、講義のような受動的なものに重点をおくのはあまり意味がないように思います(単位取得など)。また、学内にある研究室で、どのような機材を用いて、どのような研究をやっているのかももう少しオープンになってもよいかもしれません。また、自分の研究を行うとき同じようなことをどこでやっているかなど、アドバイスしてもらえるような、人or本orホームページがあれば助かると思います。
- (14) ①必修講義や実習は、年に一週間とか毎週(火)などと限定なく、受講できるようにしてほしい。②人数が多くて実習が難しいものは、必修からはずすか、年に4-5回にわけるかしてほしい。③必修科目をこれ以上ふやすのは、さけてほしい。むしろへらしてほしい。
- (15) 講義や実習があまりにも専門的すぎて、同じ研究科の大学院生が共通に受けて役に立つ科目がほとんどないと思う。また、他研究科の講義に出席できて、かつ単位の互換性があれば研究の視野も広がり総合大学の特徴を生かせると思う。ぜひ検討をお願いします。
- (16) 必修科目は必要ないと思う。授業料免除者と不許可だった人の境界があいまいで納得がいけない。明らかに親の収入も多く、仕送りをしてもらっている人が許可になって、親から全く援助を受けてなかったり受けられない人が不許可になっている。それに親からの仕送りを受けていない人にも、自分が受けないようにしている人と受けたくても受

いけない人とは、扱いを別にしてほしい。受けたくても親がいなくて受けない人は、いざという時例えば病気で入院したりした時に、全部自分でしなければいけないので、そういう時のために貯めておかなければならないから。

- (17) そもそも単位修得について昨年よりカリキュラムが変わり、周囲などに現行カリキュラムで大学院に行っている学生がいなかったため非常に複雑な単位に互換などの制度が全く理解不能であった。にもかかわらず、事務より単位修得などについてのガイダンスは全くなく大変であった。よりよい制度を求め、カリキュラムを変更していくことについては歓迎すべきだが、それについてのアナウンスが全くない状態では混乱するばかりである。
- (18) 研究内容に応じて、必要なもの、あるいは視野や視点を広げるものを、選択できるようにしてほしい。現在の状況は、全く無意味なものを“カリキュラムに含まれているから”という理由で出席させるのは、研究時間を浪費するようなものである。また、カリキュラム自体も十分に検討されておらず、しばしば変更があったり、事ム当局にききに行っても、十分な説明ができない状態は異常である。また、研究費に関しても、自分で調達しなければならず、また公費を使おうにも用途が限定されて使えない。このような研究の環境整備が今の研究室、研究科にはない。大学の研究は実験研究ばかりではないのであり、その研究に応じた用途につかえなければ意味がない。あらたな研究をおこなうときは、それがさらに顕著であり、独創的な研究など生まれようがない。いずれにせよ、教員のレベルを含めて、環境整備をもっと詳細に検討すべきである。そして、研究教育をしない（できない）教員を排除しない限り、北大の研究施設としての未来はないと思う。
- (19) 演習や実験などは、必須ではなく、希望者のみにしてもらいたい。英会話の授業や英語論文の書き方などの、授業をしてほしい。（製薬会社主催でよくやられているが、けっこうためになるので）他大学で一流の仕事をしている研究者を、講演に招いてほしい。
- (20) 時間的制約が大きいので、研究を充分に行うためには相当の努力を要すると思いました。Researchの基本を学ぶ講義があっても良いかと思います。
- (21) 現状の内容で満足しているが、より臨床に改した内容の、より実際、実践的な講義、実習が増えれば素晴らしいと思う。
- (22) 統計解析の方法を習得することは容易なことではない。医学論文に必要と考え取り組んでいるが統計情報学分野を系統だてて教授するための教官（助手非常勤）の充足を求める。
- (23) シラバス通りに授業や単位の取得がうまくいかないと思います。具体的には選択科目を履習しようと考えても、先方の教官によっては何をしようのかわからないと答が返ってくる場合もありました。
- (24) 必修単位をなくしてほしい。特に生化学特別実習は、要項をみると、大学院生全員が受講することが不可能であり振り替えを余義なくされている。このようなものが必修であることは大学院制度として誤りである。そのかわりに選択単位を増やすべきである。
- (25) 幅広選択ができるようになればよいと思います（時間も含めて）。
- (26) 博士課程1年目であるが、大学病院の病棟業務及び、救急部での業務を行っており、研究には全く関わっていない（忙しくてできない）。実際には、研究が行えるのは2年目以

降である。(研究の期間は実質3年ということである)このような現状が十分な研究を行えるかは疑問である。

- (27) 週何日か働きながら実験をしている者がほぼ全員であり、専門分野の実験、演習を所属機関、講座、研究室で行うことだけで時間的には精一杯です。必修科目(研究分野と関係しないもの)の履習は実際にはあまりメリットがないが、仕事を休業してうけることになり、負担が大きいので、なるべく選択制にして、必修を減らしていただきたいと思います。

2) 院生指導について

- (28) 指導できる教官が欲しい。→このような状況は日本でこの教室のみと思われる!!→指導教官(指導できる教官)がいない!!→決して感情的なものではない!!現実にはひどすぎる。
- (29) 短い期間に成果を上げ論文にして発表するのは難しいと思う。教育・指導のスタッフの人数が少なすぎる。
- (30) 教官の研究能力をあげないことには話にならない。指導できなくとも助手になっている者がいる。
- (31) 自分の所属する学部、学科の大学にて研究を進める為には、非常にたくさんの努力が必要である。研究の方向性については指導教官がある程度つけて下さるが、実際の日々の実験は全く1人で進めていかなくてはならないのだから。
- (32) 設備がととのうまで苦労したが、講座は設備の充実に協力してくれた。
- (33) 研究過程において、適切なアドバイスやガイドがあれば、方向性が見えてくることもある。専門的知識を持ちあわせた人材が研究員をうまく導くことで、よりすばらしい研究がうまれると考える。
- (34) 他の研究室にて専門知識のある人が、一定の範囲で一般の研究者の質問に応えられるようなSystemがあれば良いと思います。既にあるのかもしれませんが、例えば、どこの誰々がどういう研究を行っており、このような質問に対してAdviceできます、というようなものがあれば研究者の助けになるのではないのでしょうか。

3) 論文指導について

なし

4) 研究・学習交流、学会参加について

- (35) 自由に他研究科に移籍できるようにしてください。または、他研究科への委託研究生の制度を確立してほしいと思います。
- (36) 国内研究機関への留学制度もあり、(私自身がさせて頂いているが)効率良く研究ができと思う。
- (37) 私が免疫学に深くかかわる研究を希望し、その志をおくみとりいただき、機会を与えて下さいました。所属している講座内で研究ができることが最も望ましいと思いますが、やはり臨床家を目指す医師として、そのキャリアの中で、先端研究機関に身をおける機会がもてたことは、たいへん意義のあるものと考えております。今後も講座、学内外、国内外のわく組みにとらわれず、学問の発展、学生の向上にとって最もその時代に

ふさわしい制度づくりをすすめていただきたいと存じます。

- (38) せっかく大講座制になったのに、横のつながりが全くない。基礎医学と臨床医学の交流をもっとはかるべき。又、医学研究科はあまりに閉鎖的すぎる。他学部、他大学との交流を活性化しないと、諸外国の研究スピードについていけないと思う。そのためにネックとなるのは、共同研究をする際の資金をどうするか、共同研究に対して基金を出すというような制度がつかれないものか？その際、大学生、大学院生の交流もどんどんはかってほしい。

5) 大学院重点化について

なし

6) 学習・就学条件

- (39) 医系大学院では、卒後研修をほどこしてもらった恩礼として大学病院の手伝い（無給）と、研究室（医局）OBの病院への（有給）出張が課されている。ある程度の出張は生活費をかせぐためには有用だが、必要以上の出張を課されたとしても、それはたとえ大学院生としての授業や実験があっても拒否できない。このような環境では、じっくりと研究にとり組めるどころではない。
- (40) 大学病院の医師がパートをしなくても生活できるよう大学病院から給料を出して欲しい。大学院生が大学病院に勤務することは“教育”という扱いで無給だが、それは現在の時勢から考えるとおかしい話である。勤務内容は公立や民間の病院と比べても同等もしくはそれ以上であり、患者を担当するという責任もある。文部科学省や厚生労働省はこれらの問題に早急に着手すべきであり、こんなことをいつまでも続けていたら医療ミスだって減らないと思う。
- (41) 実習室に、共同で使える実験用具・機器類を整備してもらいたい。各研究室がこれらを用意するのは負担が大きいです。
- (42) 大学院に進学しても、臨床のDutyは全く変わらず、尚且つ、授業料の負担もあり、非常に困難です。現状を把握して頂き、改善して頂きたいと存じます。
- (43) 実験もしない、講義にも出ない。授業料を払ってただで病棟で働いている。
- (44) 学生一人あたり、研究に『いくらの研究費を使用してよいか』研究の計画にあたり悩んだ。未だ未解決である。指導者をお願いしながら手探りで研究しております。
- (45) 折角世界的に進んでいる研究を行われているのに経費が少なく、一人あたりに一つしかないから、留学生にとって四年間一つの実験は、ちょっと足りない。
- (46) 医学部臨床科の性格上、診療と実験を両立しなくてはならず、時間配分が問題である。
- (47) 外来業務が多い。生活のためには出張も多い。実験時間が限られる。
- (48) 雑用を減らして欲しい。
- (49) 医学系は臨床の手伝いが忙しすぎる。ひまな人もいるが一部の人は（私も含む）忙しく大学院生らしいことはできない。また教官も忙しく結局研究できない、すすまない。これでは授業料をはらっているのが納得できない。ほとんど“さぎ”ですよ。臨床をたくさんみている研究チームにもっと人、金をつぎこんで大学院生が臨床からはなれる時間をつくれるようにしてほしい。またその教官が指導にあてられる時間をもてるよう

にしてほしい。医学系は患者さんがいるのだから、患者をみない人が時間をつかって研究がすすむというような現状ではへん！患者さんをたくさんみている人にも研究の時間がつくれるようにして!!今は大学院希望がいますが、この状況が続くと我々の後輩達は大学院に来なくなってしまう。かれらは大学院大学の考えをもとにこの1-2年で増加した我々の大学院生をみて、自分達の進路をきめようとしています。将来を考えるなら我々をもっと大事にしないと…。

(50) 医学博士課程という特殊な状況であり止むを得ないのだが、学費を払いながら大学病院で無報酬で勤務しており、しかもそちらが中心で研究はその合間という状況は、一般常識から考えるとどうかと思う。少なくとも当研究科では、4年で学位取得することは物理的に不可能であり、それが当然とされ、大学院生は、無料で使える働き手以外のなにものでもない。

(51) 学生という身分でありながら、大学病院での勤務が多い。これは大学が、低い賃金でやっているとという様にも考えられる。意味のない講義は必要ない。必修の一週間の(医学博士)講義だってはっきりいって無意味。必修はなしにしてもらいたい。

7) 社会人大学院生について

(52) 仕事と大学院を両立させるのは、大変である。取得すべき単位数はへらしてもらいたい。そんなに簡単に仕事を休めない。

(53) 社会人大学院生の枠があるが、彼らの職と研究の時間の設定があいまいで、講義は受けづらい。

(54) 医学を学んだことのない者を入学させてくれたことに大変感謝している。しかも、毎日がおもしろく、本来の自分の研究が充実していくことを感じている。自分はラッキーだと思う。ただ、社会人入試は思ったよりも厳しく、本務を以前よりもこなす必要にせまられている。多くの方の助力や指導教官の理解があって、入学が実現したので、何年かかっても博士号にチャレンジすることになっている。しかし、本務校から許されている時間は、1週間に半日だけで、ゼミに出席するともう残されている時間は無い。とりたかった授業は全て日中であるため、結局は通うことがかなわなかった。もう少し、本当に「社会人＝フルタイムの仕事についている者」の入学を認めるのなら、授業時間を夜間や、土日へとバリア・フリーにしてほしい。

8) その他

(55) 外国人留学生といっても、その人格、宗教はさまざまである。一方、日本人大学院生と較べると、守らなければいけないルールが不明確であることが、大きな問題となっている。そこで大学及び研究室が円滑に研究活動を継続できるよう、外国人留学生が、大学の中で、一般的に守るべき規則(ルール)を作してほしい。日本人の税金でまかなわれている留学生に、自費で、授業料を払い、雑用までこなしている日本人大学院生が、迷惑をかけられ、しかも、泣き寝入りするのは、もうごめんだ。

(56) 経済的理由があるので、2年以内に卒業させてほしい。指導医からにも、カリキュラムや卒業までの、勉強の仕方や実験のスケジュールをたててもらえとうれしい。

(57) アンケートの内容が、医系大学院生の現実とかけはなれていて、無意味。この内容で

は評価材料になりえない。

- (58) いまのままでよい、現状に満足。(他同様5件)
- (59) 学位取得の規定が低すぎる。1報（どんなものでも）あればよいにもかかわらず3年で学位を取得するためにはImpact Factor 5以上が2報以上必要というのは厳しすぎる。臨床医と、医学部以外からの出身の院生で実験能力があまりにも違いすぎる。中途半端な臨床医の院生が多い。
- (60) 授業料免除の枠が狭められつつあり、不許可になるとアルバイトの時間を増やさざるを得ない。研究に割ける時間が減ってしまうため、結局は卒業・学位取得が遅くなるか、最悪中途退学せざるを得ない。せめて猶予（卒後に分割納入など）制度を導入して欲しい。大学院共通講義の試みはもっと拡充して頂きたい。
- (61) 指導教官、スタッフの任期制の導入を希望します。人が足りないと思います。みんなオーバーワークです。国立大学くらいもっとStaffをふやしてほしい。非常勤を積極的に採用してほしい。医学部の場合、「業務」におわれて肝心の授業に出られない等の問題もある。

歯学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 現在、実験法については星の数ほどあるのに、必修講義として聞かされる（関係ないものが多い）のに時間のムダを感じる。教官も事務も学生も単位制の中身について理解しておらず、年度末に何となく単位が取得されていることがある。
- (2) 大学院の講義の質の向上を希望する。
- (3) 講義日程や休講等の連絡をもう少し確実にしてほしい。出来れば、1日フルに出席できるカリキュラムにしていなければ、仕事を1日休むだけでよいので工夫してほしい。例えば、歯学セミナーは、15:00~16:30. 17:00~18:30の時間帯で行われ、しかし必要科目は18:00からあるのでどうしても遅刻して出席するしか手がありません。北海道という土地が札幌近郊の学生だけでなく郡部からの在籍者も多いと思います。特に社会人枠では、さらなる飛躍を求める方も今後増えると考えますが、現在の講義日程は、片道4時間をかけて来る私にとっては、少々無理があります。また、私は社会人枠を活用して今後勉強したいと熱意を持っていますが、週1、2日来て何が出来ると思われている方々がおられる事も事実です。しかし私達は、北大社会人枠という型で認知され入学してきたので、大学側で様々な問題点は、協議してほしいと希望致します。
- (4) 大学院授業の負担が大きく、研究に関係ない内容のものを半日聞いているのは、自分の研究にとっても影響が出る。またセミナーも、ためになるものと、そうでないものがある中で8回以上の履修は、意味がないと思う。それなら自分にとってためになる（研究のためになる）講義を1だけきいてレポートなどにした方が良いのでは？授業を増やすほど、研究時間が少なくなり（特に中断できない実験などができなくなる）、論文も出なくなるのでは？また学生の頃とかわらない講義を聞いても、自分から出てくる研究の発想は少なくなると思う。
- (5) 専門性の高い分野の研究の為（例えば、臨床医と基礎の相違のように）あまり共通性

のある話題で、講義は実施できないであろうと思われた。

(6) 講義の選択をさせてほしい。実習は所属部署で研究活動の一環として、やる方がモチベーションがあがると思う。

(7) 大学院講義や単位制はいりません!!

(8) 外来での臨床に携わる時間を減らしたくないので、講義、実習の開講を夕方以降にしてもらいたい。

2) 院生指導について

(9) 現時点では、指導教官が少なすぎて、自分の本当にしたい研究はとても無理である。現在の研究は、指導教官がしたい研究をしている為、とても楽しいとは言えず、学位を得るための研究になっている。もう少し教官も私達学生の意見を尊重してくれていたら、もっと研究に対して、真剣にとりこんでいたと思う。けっして、この数年間ムダな時間ではなかったが、学位をとれたら大学に残りたいという魅力は今はないから、今後はもう少し教官と学生とのコミュニケーションをとれる人数でやっていくべきだと考える。

(10) 大学院重点化は良いが受け入れ体制が充分ととのっていないのに大学院生をふやした為一部に指導のいきとどいていない大学院生がおり、問題であると思う。

3) 論文指導について

なし

4) 研究・学習交流, 学会参加について

なし

5) 大学院重点化について

なし

6) 学習・就学条件について

なし

7) 社会人大学院生について

(11) 私は社会人（自営）として在学しているが、実際のところ、夜間とか休日などの講義等があるわけではなく、仕事を休まねばならない。又、自分と無関係な、講義まで受けなければならず、不満を感じる。実際のところ歯学部は大学に医員、助手として残っている人が社会人ということでは在籍しているのが実際のところだと思う。これでは本当の意味の社会人大学院ではないと思う。

8) その他

(12) 大学院へ進学して、精神的に辛いことが多かった。研究自体は、そこそこ進んでいるのだが、研究室の環境で耐え難い辛い思いをたくさんした。

- (13) TAは、学年が上がるにつれて時間を少なくするべきだ。なぜなら、たぶんどこもそうだと思うのだが、最初の内は、学生に接して教えながら自分も勉強し、3-4年は、自分の実験が中心の生活スタイルだと思うため。
- (14) 講座のスタッフに関しては、人数的に足りているものの、実際に機能しているのは半分である。特に技官は昼寝か読書しかしないという信じられない職務内容であり、講座の士気を著しく乱している。このような方々の存在によって若手の研究者の雇用機会が奪われていることが非常に残念でならない。早期に改善を切望する。
- (15) 現在、医学・歯科系の大学院3年目ですが、我々が学生の時には卒後の進学先に研修医と大学院という2つの道がありました。しかし、「大学院重点化」のあおりをうけ、研修医に関する説明もなく、「皆、大学院へ行け」的な指導ばかりで、システムもよくわからないまま大学院へと進学してしまいました。大学院へ進学すれば、臨床系の研究をすればよいかと思ってましたが、大学院の修了論文となりうるような研究テーマは臨床系研究にはほとんどない、ということも大学院入学後にわかりました。現在は、大学院への進学を非常に後悔していますが、博士号を得るためだけに在学しております。学生時代に、大学院と研修医についてのリサーチをもっと行えばよかったのですが、自分の努力も足りず、どこに尋ねてよいものかもわからずじまいでした。特に医学・歯学系での研修医と大学院の違い、あるいは、大学院における研究の内容について知る機会が増えればと思います。
- (16) 教育の自由が本当に存在するのだろうか疑問に思う。大学院に入って逆に目的意識が低下したのは気のせいだろうか。
- (17) 研究室の雰囲気精神的なストレスを感じている者が多数おり、3名は教室に来なくなりました。毎年2-3名の大学院生が研究のため来ていたが、今年度は誰も希望者がいない。
- (18) 新しい分野の開発（例えば、遺伝子研究について、他の学部 비해非常におくれている…設備の面に関しても、技術的な面に関しても）
- (19) 人数を増やす事に重きを置いている為、学生の質がとても落ちている気がする。

薬学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) もっと後々に残るような講義をしてほしい。インパクトがない。この先、人生において思い出せるような中身の濃い授業をやってほしいです。
- (2) 講義は良いが学生に調べさせたことを発表させるだけの講義もあり、単に教官が楽をしているだけと感じる講義もある。また、レポートは大きな負担になるから極力避けてほしい。このような講義は無意味だと思う。
- (3) 専門的に最先端のことだけでなく、薬学としての独特の（特色を出した）講義をしてほしい。
- (4) 博士後期課程には、講義がないが、国内外問わず一流研究者の集中講義等をもっと積極的に増やして欲しい。博士前期課程までいた他大学に比較して、地理的な原因かも知れないが少なく感じる。あと、薬学部自体をもともと臨床系と研究系と分けるべきでは

ないだろうか。浅く広く学ぶことは重要である分野と重要でない分野があるため、現状ではどちらに行っても役立たず（ハンデ）になるような気がする。

- (5) 大学院講義は、論文紹介ばかりが殆どで自分の発表じゃない時は、寝ている人が多くみられます。毎晩遅くまで研究をしているから仕方ないとは思いますが、もう少し何か良い授業形態にならないかと思っていました。また、授業にあまり（殆ど）出なくても単位が取れているようですが、こんな感じが続くなら、はじめから授業がなくても良いと思います。朝早くちゃんと授業に来る人も殆ど出てない人も同じ評価が分かりませんが、出欠はもう少し大事にした方が良いのではないのでしょうか。社会に出たら出欠は非常に大切になってくると思います。大学の学部だけでなく大学院の講義でもちゃんとけじめをつけて欲しいです。もしくは、始めから講義なしとか…
- (6) 講義自体が無意味に多い気がするし、ひたすら論文紹介のみをやらせている現在の内容にも問題がある。学部の講義に近いスタイルにすることをもう少し検討すべきではなかろうか。
- (7) 大学院の講義では、論文を紹介する形式のものが多く、自分のやっている事と異なると内容が良く分からない場合がある。少なくとも実験手法や、用語についての理解が初めに必要で、それらは大学の授業では得られない場合が多い。

2) 院生指導について

- (8) もっとスタッフの研究能力を上げるべきだ。スタッフに聞いてもわからないのでは何のためにいるのかわからないし、研究自体行っていない。来るのが遅くて、帰るのが早いんじゃない、どうしようもない。
- (9) 自分が興味をもったことに専念できるように、自由に選択できる制度や時間的拘束をなくす制度をつくってほしい。
- (10) もう少し身近に実験のことなどを相談することができる助手の先生が欲しい。自分の能力にあった実験テーマか不安で、とりあえず言われたコトをやっているだけ、になってしまっている気がする。
- (11) 私は北大以外の大学から来ました。指導教官が有名であり、興味を持っていたので選択しましたが、内部事情はひどいもので、北大入学を心から後悔しております。まず他大学出身者はお客様扱いで、まともに話もしてくれません。進路、就職、研究のどれについても相談、話し合いをまともにしたことがありませんでした。D3の私は今年が課程最終年ですが、研究状況から見るととても修了は不可能です。もう少し指導していただければと常々思っておりました。経済的理由から学校を退学しようと考えております。このような状況下においても何らアドバイスがないので将来的には国家公務員を受験するつもりです。これなら自分の希望をかなえ、さらに学歴を必要としないのでベストの選択であると考えています。北大入学は私の人生の汚点であるので、後輩にはその点を良く伝えておきたいと思います。全く無駄な3年間でしたが、心に残る3年間でした。

3) 論文指導について

- (12) 大講座制が形式ばかりで全く機能していない。実質的に大講座制にするのか、それとも従来の形式にもどすのかははっきりすべき。

4) 研究・学習交流，学会参加について

- (13) 他学部や他大学の交流が少なく閉鎖的である。企業はどのような研究をしているかわからないので企業の人の話を聞きたい。

5) 大学院重点化について

なし

6) 学習・就学条件について

- (14) 研究内容や設備には満足しているが，人数に対して研究室の数や大きさが足りなく，少し狭い。
- (15) 内容とはかけ離れますが，空間的に狭いことが大きな問題。うちの学部は大学院へ進学する人も多いので，もう少し広くしてほしい。落ち着いて研究できない。機器類の影響で夏は異様に気温が高い。昨年も研究室にあったパソコンが何台か壊れました。クーラーを設置してほしい。実験に支障をきたすと思う。
- (16) 研究室をもっと広くしてほしい。院生をふやす方向で，大学が動いているのに部屋がそのままの広さでは，いずれ，まともに研究できなくなります。
- (17) 育英会の奨学金がもらえません。大学院生の枠だけ増やしても，学生はおおむね経済的に困難なのだから奨学金の枠を増やしてくれないと意味ないと思う。アルバイトしながらの研究生活は辛いです。休むひまが無く，研究への情熱も冷めてしまいます。なんとかして欲しいです。
- (18) 大学院生は金銭面で不自由している。アルバイトをする暇もないほど実験させたいのなら給与を払ってほしい。労働力に対して，相応の給与を払わない会社はすぐにつぶれるだろう。大学も同様だ。自分は大学に未来はないと思っている。

7) 社会人大学院生について

なし

8) その他

- (19)「なし・特になし:2件」

工学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 講義，ゼミの質を充実してほしい。(他同様17件)
- (2) 講義のため研究に支障がある（講義不必要も含めて）。(他同様16件)
- (3) 特別講義をもっとやるべきだ。(他同様10件)
- (4) 実習あるいは演習を多くしてほしい。(他同様8件)
- (5) 取得単位の数減らして選択の幅を広げてほしい。(他同様6件)
- (6) 先端技術の講義がほしい。(他同様5件)

- (7) 統計学，プログラミングの授業がほしい。(他同様4件)
- (8) 他学科，他研究科での単位も自由にカウントしてほしい。(他同様2件)
- (9) 企業および他大学との交流をもてる講義があればいい。
- (10) 社会に役立つ講義を増やしてほしい。(他同様3件)
- (11) 研究成果を基にした講義をやしてほしい。(他同様3件)
- (12) 英語の授業があればいい。(他同様3件)
- (13) 専門的知識だけではなく，幅広い分野の技術を紹介するべきだ。(他同様2件)
- (14) 研究内容に沿った講義，実習を行ってほしい。(他同様2件)
- (15) 講義は学生の発表を増やすべきだ，参加型にすべきだ。(他同様1件)
- (16) 授業に一部体系的でないものがある，体系的な講義にしてほしい。(他同様1件)
- (17) 対話型講義が必要である。(他同様1件)
- (18) 学生主体のニーズにあった授業をやしてほしい。(他同様1件)
- (19) 少人数のゼミ形式での講義をやしてほしい。(他同様1件)
- (21) 学部の授業もとれるようにしてほしい。
- (22) カリキュラムの学部，大学院のつながりが弱い。
- (23) 講義間の関連性がほしい。
- (24) 横断的なゼミをやしてほしい。
- (25) どのように役立っているかについて分かる講義にしてほしい。
- (26) 単位を早く出してほしい。
- (27) 授業がプリントを配って読むだけにとどまっている。
- (28) 入学直後の受講講義決定をやめてほしい。
- (29) 授業が難しすぎる。
- (30) 1つの授業を2-3年かけてゆっくりやしてほしい。

2) 院生指導について

- (31) 何年も前から授業が変わっていない，マンネリ化している，自己満足的。(他同様3件)
- (32) パソコン，OHPを使った講義をしてほしい。(他同様2件)
- (33) アカデミックハラスメント？はよくない。(他同様1件)
- (34) 演習などなく放任に問題がある。(他同様1件)
- (35) 教授は忙しいとして教えようとししない。(他同様1件)
- (36) もっと密に意見交換のできる教官が必要である。(他同様1件)
- (37) 教授，助教授の能力や考え方によって対応が違いすぎる。
- (38) 指導の方向性がわからない。
- (39) 工学とは何かを教えてくれない。
- (40) 研究中心のコースと専門知識取得のコースを別にしてほしい。
- (41) 研究内容の公開を行ってほしい。
- (42) 研究室スタッフの研究内容がバラバラで，指導に問題がある。
- (43) 教官が忙しすぎて問題だ。
- (44) 設計演習を増やすべきだ。

3) 論文指導について

- (45) 研究に前向きなのがよい、専門知識の取得に満足である。(他同様1件)
- (46) もう少し教育、実験へのサポートがほしい。
- (47) ゼミ等学生主体でやらせるべきだ。
- (48) ゼミ、勉強会を増やしてほしい。
- (49) 実験等を早くから進めるべきだ。
- (50) 専門的知識を与えてほしい。
- (51) 研究が思った以上に大変だ。
- (52) レポート、プレゼンが多すぎる。
- (53) 研究に対する熱意が感じられない。
- (54) 研究分野の視野が狭い。
- (55) 定期的な指導がほしい。
- (56) 研究内容がどのように応用されるかわからない。
- (57) テーマを自由に選ばせてほしい。
- (58) ゼミの発表回数が多すぎる。

4) 研究・学習交流，学会参加について

- (59) 企業・研究所等とのコンタクトを持つべきである，共同研究を行うべきである。
(他同様8件)
- (60) 企業研修等大学外の実習等を取り入れるべきである。(他同様3件)
- (61) 国内外大学との単位互換をやるべきだ。(他同様1件)
- (62) 国際学会参加を助成してほしい。
- (63) 工場見学は専門分野の講義後に行うべきだ。

5) 大学院重点化について

- (64) 副専修の必要性がわからない。(他同様1件)
- (65) 主専修，副専修の枠を越え自由に選ぶ方法がほしい。(他同様1件)
- (66) 必修科目制度をやめてほしい。
- (67) アメリカのような修士は勉学，研究は博士課程というシステムは日本では適用しない。
- (68) 副専修はおもしろい。
- (69) 授業内容，指導内容を外部の人間がチェックする制度が必要である。
- (70) 研究を行う教官と講義を行う教官を分けるべきだ。
- (71) 大講座が機能していない。

6) 学習・就学条件について

- (72) 講義履修条件，認定条件をきちんとしてほしい。(他同様2件)
- (73) 学生からも評価できるようなシステムにしてほしい。(他同様2件)
- (74) 学部のうちにもっと知識を習得すべきだ。(他同様1件)
- (75) 学位取得条件を事前に詳しく知らせるべきである。
- (76) 研究費をもっと増やしてほしい。

- (77) 性能のいいコンピュータがほしい。
- (78) 意味のないレポート課題はやめてほしい。
- (79) 教官が休講の時、TA等で授業を行うべきである。
- (80) 基礎から応用まで具体的な実習をやってほしい。
- (81) ドクターをとるまでが長すぎる。
- (82) 専攻内教官との接触を多くしてもらいたい。

7) 社会人大学院生について

- (83) 社会人学生にも奨学金がほしい

8) その他

- (84) 建物、実験室が古くなっている、施設面の問題がある。(他同様6件)
- (85) 研究室にある機器の取り扱い方で専門職員、技官等スタッフをおいてほしい。
(他同様6件)
- (86) 研究室が狭い。(他同様3件)
- (87) 卒論の取りかかりを早くしてほしい。(他同様2件)
- (88) 意欲のない学生は入れないでほしい。(他同様2件)
- (89) 忙しすぎる。(他同様1件)
- (90) 研究室と教官室との距離が遠い。
- (91) 工学研究科の建物等の規制が大きい。
- (92) 予算の使い方に問題がある。
- (93) 図書館を充実してほしい。
- (94) 突然指導教官が他大学へ転勤し困る。
- (95) 奨学金を増やしてほしい。
- (96) 教官の数が多い。
- (97) インターネットを通じた学習手段の提供を望んでいる。
- (98) 教官に意欲を感じられない。

農学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 自分のいる講座はフィールド（圃場）で実験を行っているので、講義は実験を行わないPM6：00以降とか、冬場にやって頂くと大変うれしい。もっと研究室に合わせた形で講義等をやってくれるといいと思います。
- (2) 無駄な講義が多い。講義は、自分の興味があるものを自由に選択できる様にならないか？専門とまったく違う事をする講義が必修になっている。
- (3) 研究室のわくを取りはらった横断的な講義が少ない。個別の勉強会とかがあるのだから、講義でもあってよいのでは。
- (4) もっと体系的に知識（どんな分野においても）を得られるような講義をしてほしい。今の講義だと部分的にしか知識を得られないような気がする。

- (5) なにか資格につながるような講義をしてほしい。勉強する時間が足りない。
- (6) 日々の実験で手いっぱいなので、講義や実習は極力減らして欲しい。
- (7) フィールド中心の講座にいるが、自分の研究テーマは遺伝子関連のもので、フィールド関連以外の講義数を増やして欲しい。
- (8) もう少し実験についてのアドバイスが欲しい。講義については、現在の最先端のTopicsを扱うものをもっと増やしてほしい。
- (9) 研究が忙しいので今と同様に講義は少ないほうがいいです。講義が増えたら研究ができなくなります。
- (10) 下手に時間割通りに行う講義がないので、実験の時間が確保できて良いです。ただ私は、他学部から来た人間なので、わからない事が多いです。勿論自分自身の努力も大切ですが、その様な人間が大学院重点化によって、今後増えていくと思います。今の講義は学部時代の講義をふまえてのものなので、その様な所を教官、研究科自体がどう対処していくかをもっと考えるべきではないでしょうか？
- (11) 講義が存在していない科目がほとんどで、あったとしても突然開講したりするので、実験の計画もおしゃかになってしまう。年度の初めにいつごろやるのか提示して欲しい。世間が農学に対する見方は厳しいものが多く、「農学をやっていました」と言えるような実習が必要だと思われる。例えば、畑を作れるか、トラクターを運転できるか等。選択でも良いので、作って欲しい。専攻が違くと、講義を取る上で制約が多い。(例えば、開講時期、単位取得上の手続等) 教官に活力がないのも問題。このままでは、北大の将来があぶない。教授や教官の選考をもっと広く行うべき。学内の人ではこれ以上の活性化は望めない。
- (12) 授業の要項に書かれている講義を履修届に書いても実際に開講しない場合が多く、単位の取得について多少困難を感じる。要項に書かれている講義は必ず開講してほしい。また、大学院の単位取得のシステムがわかりづらい。
- (13) 先輩の話では、時間割には名前が書いてあるのに、実際には行われない講義があるようである。計画的に単位を取得するためには、現在の状況ではかなり難しいように感じる。今の状況が改善されることを望みます。
- (14) 他研究科の単位は互換されないのでしょうか？互換できるとして他研究科の講義を履習しているのですが？講義や実習の履習のシステムのようなものを明確にしてほしい。今の状態ではわかりづらい。とても困る。
- (15) 地方にいても、同じ研究をしている者同士のつながりがもてる実習を行ってほしい。
- (16) 基礎学力の充実に役立つ講義がほとんどない。
- (17) 講義ではもっと研究につかえるような、話をしてほしい。研究している分野がまったく異なるのにその分野の細かい話をされても、あまり役にたたない。このアンケートはすこし答えづらかったです。修士と博士をまぜないで、きちんと分けたほうがいいのではないのでしょうか？自分が答えなしでいい質問が多かったので答えづらかったのだと思います。
- (18) 伝統に縛られて、必要も無い実習を延々と続けている気がする。多くの事を体験出来る教育システムになってはいると思うが、ただ体験するだけならカルチャースクールで事足りる。自分の学科は扱う事柄が多岐に渡るためまとまりに欠けている部分もある。

この辺のバランスをとってよりよい教育機関になってほしい。

- (19) 他大学の講義でも単位取得ができるようにしてほしい。
- (20) 大学院でも牧場実習を行って欲しい。外部からの進学者のために、別に授業を行って欲しい。
- (21) 大学院での講義は大変意義があると感じている。しかし、私は現在（博士後期課程）特別演習および特別実験を履習しているが、これらについては具体的な内容はなくこれらのために時間を割いているわけでもない。書類の上だけに存在するカリキュラムである。従って、具体的な内容を伴わせるか、なくした方がよいと思われる。
- (22) 講義は自分の能力がどの程度にあるかということが分かる指標が欲しい。それが足りていなければ自分で補い、演習で実践するということにして欲しい。あまりに院生のことを考えていない。大学院でもそういった基礎教育は必要と思う。
- (23) 農学部に在籍しているが、分野はバイオ系なので、いわゆる“農業”というものを知らない。一般的に農学部の間は、皆農業（作物を育てること）を学んでいると世間では思われているため、教養の1つとして、農業実習があれば、より深く自分のテーマとも向き合えるのではないか？
- (24) 広い範囲で専門性を学べる外部（外国、別の研究機関、他の学部研究科）の実力のある人による講演形式のものだけで良い。自分の分野については、それほど必要ない。
- (25) 専攻毎に開講するのではなく、研究科単位で、広く単位をとれるよう雰囲気（制度は整っていると思うので）を作り出していきたい。その方が自分の興味のある分野を積極的に学べると思う。
- (26) 年間を通して、計画的に履習できるようにしてほしい。現状のように、今年度やるのかやらないのかわからない。やるとしてもいつあるのかわからない、ということでは、興味のない授業でもあるとわかっているものからうけていくことになってしまい、学生のためにも教官のためにもならないと思う。せめて、年度はじめに開講するのかわからないのかぐらいのことを教えてくれるように、担当教官に通達してほしい。学生が聞きに行っても決めてない、とかこれから考えるとかわれてしまうので、上層の方から言ってほしいです。
- (27) 目的が明確にわかるような実習をしてほしい。
- (28) とにかく基礎的な科目の講義が必要であり、その充実が重要だと思います。院生各自でやる現状では、あまりに非効率です。しかしながら、現状で教官にそれを希望するのも、不可能に思われます。なぜなら、院生の急増で論文の指導等を考えれば、講義をやる余裕はないように思われる。すなわち、院生の数に対して教官があまりに少なく思います。また、TAの制度も、もっと院生の経済面が充実するようにしてほしい（月10万円程度以上）。

2) 院生指導について

- (29) 現在の研究には高価な機器類が必要不可欠である。しかし、それを個々の研究室で持つことは不可能であることが多い（研究予算の都合）。それらを研究科で購入し、専属の技官において、オープンに使用できるようにしてほしい（個々の研究室で持つと、メンテナンスなどがいきとどかないなどのため）。セクハラについてはかなり周知されてい

るようであるが、自分の興味のないテーマについて研究している者に対して教官がする差別やいじめなどのアカハラ（アカデミックハラスメント）についても相談機関を設けて欲しい。大学院大学を標榜している以上、学部と同様に講義や実験・実習についてのシラバスを作り、それに沿った内容であるかきちんと評価すべきである。また、満足に指導もできない教官を採用している大学には授業料を返して欲しいぐらいである。

- (30) もっと活発な研究室に行きたかった（レベルが高く、予算もあって、若い優秀な先生の指導を受けたかったです）。
- (31) 先生方が過去に発表した研究を紹介してほしい。研究内容だけでなく、例えばその研究が学生時代のものであれば、自分の生活、意識、研究室の雰囲気なども含めて。
- (32) 講義はもっと興味もてるものやってほしい。研究方針は、研究室でまとめたテーマがあったほうがいいと思う。今はみながばらばらのテーマで、相談する人がいない。
- (33) 北大で自由に実験させてほしい。
- (34) 博士課程の学生としては、何かを教えてもらうというより研究をバリバリやって論文をがっつり書いて、当然学会にも積極的に参加する教官の姿が一番勉強になるので、何か口で語るよりもその姿を見せてほしい。その点については自分の指導教官については満足していて、講座や研究科全体にその雰囲気が広がってほしいと常々思う。また、学部学生への講義の中に博士課程の学生が苦労話を交えて自分の研究をリアルに紹介する場面が公式にあってもよいのではないかと考えている。今、何を考え、何を目的にしながら研究に取り組んでいるかというのは学部学生が進路を決める際、大いに参考になると思う。体系的にきれいにまとめられた学理の講義も当然重要だが、それがまとめられるまでにどれほどの苦労があるのかを知ることができると、「教科書」の話が努力の結晶であると意識できるのではないかと思う。是非検討していただきたい。
- (35) 実際、自分のペースでやっていきたいので、あまり口出しして欲しくない。
- (36) 教官達に熱意が感じられない人が多い。自身の研究はもちろん、指導者としては、個人的魅力のある人は多いが、力不足だと思う。研究以外で交流を多くもつのは、よいことだと思うが、それ以上に研究指導で交流を深めてほしい。学生に興味をもたせることも、指導力だと思う。
- (37) 人を育てるということをもっと真剣に考えて欲しい。教育機関である以上、研究の進展以上に教育が重要だと思う。大学院での教育は実際にはそれぞれの教官が個人事業主のような形で行われ、それぞれが行っているように思える。教官の気分次第で学生は干されたりする。そんな「教育」があって良いはずはない。もっと教官が責任感を持ち指導するような体勢を作って欲しい。特にずっと大学で生きてきたような教官はワガママ度が高い傾向にあり困りものである。ずっと北大にいるような人ならなおさら、身内を優先するような人事はやめて、そとの血を積極的にとり入れて欲しい。私の研究室はこれで若干持ち直したと思う。
- (38) 以前は閉鎖的なイメージをもっていたが、教授が代わり外の研究機関との共同研究をはじめなど、改善されてきたように思う。
- (39) ある教官は、自分の指示通りに動く学生を求めている。もっと柔軟性をもってもらいたい。
- (40) 大学院生個人への指導は、その学生が所属する研究室の教官に負うところが大きく、

指導体制の質はその教官の能力に左右されているのが現状である。各研究室の教官の指導体制をチェックするシステムが必要である。

- (41) 教育研究という点では学生に対する教育の方に教官への指導用カリキュラム等も必要と考える。私の所属する研究科の教官達は「研究者」であり、「教育者」ではない。従って学生への指導能力が充分だとは考えがたい。
- (42) 助手、教官の数を増やして研究指導、支援（主に実験に関して）を充実させるべきである。各研究室に1人とかいう制度はなくすべきだ。現状では、一部の学生にかかる負担が大きく研究の支障となっている。
- (43) 先輩や先生方とディスカッションする機会などが多くあり、今の研究システムに関しては、非常に満足している。

3) 論文指導について

- (44) 自分の研究をまとめるにあたり、指導教官及び専攻の教官ならびに院生等のゼミによるディスカッションは非常に有益だった。研究内容とともに論文作成や発表手法についても貴重なトレーニングを受けることができた。又、自分には学位論文提出のための要件として、レフリー制のある学術誌へ最低3編投稿しなければならなかったが、この事も指導教官の指導を受けるより多くの機会となり、学位論文をすすめる上でも非常に役立った。その他、他の研究者のゼミに参加できたこともよい経験であった。しかし、せっかく授業料を払ったのだから色々な講義に出席できたらよかったのであるが、残念ながらこの機会をつくることはできなかった。
- (45) 卒論の時、論文の書き方はさっぱりわからなかった。僕の常識と論文の常識の違いに苦労した。論文の形式的なことは、A3の1枚のマニュアルをもらったが、実際に書いてみてはじめて理解できた。もう少し詳しいマニュアルがあると助かる。例えばページに張る図の形式とか、表の線の入れ方とか、見やすければ何でもよさそうだが、先生の好みや学会、研究室の好みがあり、それに合わせるのが手間がかかった。はじめに言ってくれば、最初からそういう形式でつくったのだが…。

4) 研究・学習交流、学会参加について

- (46) 外部の研究者や就業者の話など、現場の話を聞いたり、見たりしたい。
- (47) 公設研究機関、民間企業の研究者の講義を受けたい。社会人、博士課程入学の際カリキュラム、事務に関するオリエンテーションを行ってほしい。特に10月入学の場合、全く情報がなかった。TA、RAの情報を全く聞いた事がない。研究室が狭く（私が社会人ということもあるが）、机すらない。同じ授業料を支払っているのに、社会人コースはメリットが少ない。もし、この待遇なら授業料を安くすべきである。
- (48) 現在は各講座ごとに研究を進めているが、可能ならば他講座と共同研究を行う機会があるとよい。共同研究は難しいとしても、教官レベルでの講座間の付合いをより積極的に行えば、学生どうしの交流も進み、より深い研究をすることができるだろう。
- (49) 研究室間の交流が深まるような共同研究が発展すればいいと思う。そのためのシンポジウムなどがあれば面白そうだ。
- (50) 他大学の教授や研究機関の研究者の講義を定期的で開催し、第一線の考えや認識を得

る機会が欲しい。

5) 大学院重点化について

- (51) 大学院重点化は歓迎であるが、実際には学生の数が増えただけで、それ以外は旧態依然である。施設は古く、狭い。教官の数も少なく、十分な指導体制ではないと思う。授業のカリキュラムも昔のままである。自分の関連分野の最先端のことをもっと学べるようにしてほしい。図書館の蔵書も古いものが多く新しいものは少ない。修論を書くための研究以外は修士の2年間は他にすることがない。
- (52) 大学院重点化という名のもとでの院生の定員の拡大は間違いであると思う。学部生の安易な進学が横行し、大学院の質は高まるどころか低下の一途をたどっていると思う。院生が多すぎるために教官の目が全員に十分に行きとどいていない。意欲のある学生がいても、他の多数の意欲のない学生のために、意欲を保つのは困難である。定員をもっと削減し、質の向上を目指さなければ北大の存続自体をゆるがす事態になると思う。講義や実習の内容云々を言う前に、以上の点について現実を把握してほしい。このアンケートも選択形式なので、大学院の現実を十分に反映しきれないと思う。学生が自由に大学院について問題点を指摘できるアンケート（例えば何でも書けるように白紙でもいいから）も用意してほしい。
- (53) 今自分がいる環境についてのみ考えると大学院大学化はとても無駄だと感じる。アマタレタ学生を社会に出る困難から庇護しているにすぎず、私の周囲には（自分も含め）熱心な研究者であり得るような人間は見当たらない。大学院進学を甘く考えていた自分が恥ずかしく、退学又は休学をして他の道を探そうかとも思う。他大学もこんな状況だとは思えない。北大はどこか間違ってしまったんだろうと思う。

6) 学習・就学条件について

- (54) 教育研究に関する環境は最高だと思います。それを活かすも殺すも自分次第だと思います。先生方も熱心だし、これ以上、何も言うことがありません。
- (55) 英会話の実習をしてほしい。プログラミングの実習をしてほしい。
- (56) 研究に前向きな姿勢をどの教官も持っていてよいと思う。院生も個性的でやる気のある人が多く、学ぶ環境としては恵まれている。一方で、学生数、教官数の男女比が気になる（学生も教官も男＞女）。こういう環境は女性で研究を志す人にはよくないと思う。男の学生に重要なテーマをふりたがる。研究の話題であっても女子学生との会話を避ける傾向がある。セクハラと思われるのをおそれているのかもしれないが、それだったらセクハラされても会話があるほうがまだよい。女の優れた教官が増えてほしい。その他に、実験で車を使っているの、(週に3回程度)構内通行証を頻繁にとる必要がある。もう少し簡単な通行証の申請方法（E-mailでの申請等）があればよいと思う。
- (57) 講義等の履習や単位取得などの事務の取扱いが大雑把すぎる。各講座の図書室など、少なくとも平日は常に使用できる状態にしておいて欲しい。研究室が附属施設にある。学生にも、事務連絡などが確実に届くようにしてほしい。研究科全体に修士課程の学生であろうと、論文を投稿して、当然であるという雰囲気がほしい。
- (58) 教室の蔵書が非常に豊富で手に入れやすい。教室になくても学部内、学内でほとんど

手に入る。国立地方大学にいた頃は大変だったので非常に助かっている。

- (59) 札幌キャンパス以外（私の場合は地方研究林）に常駐して研究をしている学生の教育・研究環境についての要望を書かせていただきます。図書館の電子ジャーナルサービスの大部分が、札幌（または函館）キャンパスのみでしか利用できません。これを、地方研究林など研究施設からでも利用できるようにしていただきたいです。保健管理センター発行の証明書も、教務関係の証明書同様、取り寄せが出来るようにしていただきたいです。また、健康診断についても、限られた期間内に、必ず札幌に行かなければならないというのは、時間的にも経済的にも負担になります。地元の医療機関で受診できるようなシステムというのは不可能でしょうか。

7) 社会人大学院生について

なし

8) その他

- (60) ただ論文を読むだけであったり、自身の研究成果を話すのではなく、その講義名の学問についての講義をしていただきたい。
- (61) 卒業したらサンプル等を始末してほしい。
- (62) 授業料免除はだれがどうやってきめているのか、情報公開すべきだ。
- (63) 外部の教官、院生をもっと受け入れた方がいい。(日本人、外国人とわず) 全体的に古い。活気がない。
- (64) 附属施設が大学全体の中で軽視されている気がする。大学は産学共同の場でなく、学門をする場のはず。学問的環境の貢献に施設と人は不可欠である。技官・事務官も少ない。学問は人で支えるものである。もっと植物園や博物館が注目されて良いし、学生がその運営にもっと関われるようにしたい。
- (65) 教官陣を外部からもっと受け入れるべきだと思います。ファーストネームの論文をほとんど出してないのに助教授になれたりするのは、おかしいし、学生に対して不誠実だと思う。
- (66) まだ自分がよく見えていない。
- (67) 予算やお金に関することがわからない。
- (68) このアンケートの機密性はどうなのでしょう？多分、自分がマイノリティーに入ると思うので、やはりその辺が気になりますが、提出先、提出方法をもう少し工夫してもらえるといいと思います。
- (69) 教育システムというものが、なっていないと思う。なっていないというより、改善する必要性を感じていないことが、一番の問題だと思う。先生が少なく、教育にかける時間がたりないのが、実状と思われる。
- (70) 若い教官が少ないため、最先端の技術を身に付けるには独自の努力が必要なことが多い。もっと新しい知識と技術をもっと若い教官・研究員を積極的に学外からも採用することを望む。
- (71) 予算的に実現が難しいこととは思うが、クーラーの導入を検討してほしい。夏期にはかなり室温が上昇し、研究が困難な時がある。

- (72) ゼミが多すぎ！
- (73) 暑い。夏は研究室が40℃を超えることもあり、実験を行うことが困難である。ある程度最低限の環境を提供してほしい。
- (74) 設問48にあるような業績主義であるならば、各個人が研究に専念できる環境を提供すべきである。個人的には、大学院は自分のテーマ以外のことも吸収して視野を広げる場であると考えているが、科内でも考え方に温度差があり、極端に言えば同程度の能力を有していても、教官の考え方一つで3年で修了したり10年近く大学院にとどまることもありえると思う。考え方を平準化する必要はないが、10年いたらその分得るものがあるような環境を提供してほしい。また、一部分として他大学などからの入学者と内部進学者の扱いに格差を感じる。これは入学金（設問38に書きましたが）だけでなく様々な面でみられることなので、是正してほしい！
- (75) 一部の留学生や外国人研究員については能力試験など、一定の基準を設ける必要があると思います。国の事情で来られない人が多くいるので、この点を修正していかななくてはならないと考えます。留学生とのドクター取得の基準が大きく違えば、日本人学生のモチベーションの低下をまねく可能性もあります。外国人留学生をまねくと、ともすれば二国間の問題に発展するかも知れませんが、教官にそのような圧力がかからないように、文部科学省がもっと積極的にサポートすべきだと思います。日本人は外国人に甘すぎる。外国から著名な先生に来てもらい、何日間か滞在してもらって交流することができる機会があったら良かったなあ、と思います。講義や講演だけではなく、滞在型の交流機会があると学生にはありがたいです。
- (76) 設備、建物の老朽化等に伴う停電や断水など設備補修の際の事前連絡及び、実際の対応についてこれまで以上にしっかりしてほしい。設備の拡充、(現在の温室では、冬期間の温度管理が不十分、これでは温室としての設備の役目を果たしていない。(各スペースへ暖房がいきわたらない)) これらは直接教育研究にかかわるものではないが、間接的にせよ、教育研究に影響を及ぼすものである。システムを考える前に、まず身のまわりのことについて見直すべきではないだろうか？こうした現場の声をもっと反映できるような組織、窓口を設けるべきである。
- (77) 保健管理センターの学生保険組合制度改善についての提言、まず具体的な話をした方が分かりやすいと思うので、保健管理センターの職員と、学生保険組合制度について、議論した内容について簡単に書きます。わたしは今、博士課程の一年ですが、来年の春から2年間、研究の一環として、青年海外協力隊に参加し、2年後に復学して、残りの2年間で博士論文を書き上げようと思っています。今回、修士分の組合員資格が今年の春で切れたこともあり、博士課程の3年間の組合員資格をとるべく保健管理センターに行きました。博士課程の保険料は6000円で、基本的に保険料は、(年額費2000円×3年)と、年額の保険料(2000円)に在学年数を掛けて計算した額と設定されています(注:この6000円は入会金ではありません。)今回、私のようなケースだと、素直に今年から3年間で掛けますと、来年の春から2年間は間違いなく、大学からいなくなるので、その2年分は掛け損になってしまいます。そこでわたしは、「今年と、2年後(復学後)からの2年間の、合計3年間についての保険資格を得たい」と言って、保健管理センターの係の者に、申請しました。そして、この程度のことなら臨機応変に対応してくれるだろう、と軽い気持ちで

待っていました。ところが、係の者は、係長らしき人と相談したあと、なんと「ダメだ」と言ってきたのです。正直、驚きました。彼らはこう言います。「学生保険組規約には、学生証に記載されている卒業年度を保険の期限として見る、と記載されている。だから君にどんな事情があろうとも、保険の期限を変更することは出来ない」つまり係の者は、わたしに、「今、保険組合費として6000円払い、さらにその期限が切れた3年後の4月にもう6000円払え、つまり合計で1万2千円払え！」と言ってきたのです。つまり、わたしが大学にいない2年間分の掛け金を、規則だからという理由で、ドブに捨てろ、ということです。学生保険組合というのが学生の組合費で成り立っている、あまり度を越えた例外を認めてしまうと管理する側が大変、ここまでは分かります。確かに、管理する側も煩雑な作業がたくさんあって大変なことでしょう。しかし、それを踏まえたとしても、間違いなく2年間大学にいない人間に、その期間分の保険料を払え、というのはどう見てもおかしいことではないでしょうか。そのような理不尽なお金の取り方は、保険制度として、明らかに欠陥ではないでしょうか。民間の保険会社だったら、信じられないような、融通の利かない規約です。年額費は2000円です、と謳っているのですから（それに基づいて、学部学生、修士課程、博士課程と料金設定されているのですから）、わたしのような場合も、利用できる年数（期間）の保険料を払えばすむ制度に変えていくべきではないでしょうか。また大学の休学制度みたいに保険の休止措置を。

- (78) あまり変わらない分野の講座が複数あることに疑問を感じる。
- (79) 講座ごとのしきいが高く、フレキシブルな教育がなされていない。例えばゼミ等も複数講座で行えるような環境づくりが必要。ボーダーレス化しつつある現状にマッチしない。基本的な教育研究に関しては満足はしている。しかし研究室運営に関しては幾つか問題があると思う。大学院生の一部に無気力な学生がおり、そういった人達が研究室全体の奮闘気を大変悪くしている。大学院入試において「面接」を行っているにもかかわらず、「やる気」の無い学生を合格させているのはおかしい。「教育機関」でもあるが、「研究機関」でもあるべき大学院のレベルがこのままでは低下していつてしまう。「能力」「やる気」「責任」を持った学生を研究科はきちんと吟味して入学させるべきである。そして教官は研究指導に重点を置くのは一番であるが、学生の「研究姿勢」というものに、目をくぼることがこれからは大切だと考える。研究室は「規模」ではなく、「質」であると思っている。
- (80) 教授が忙しく、論文指導等に十分な時間をかけていられないようだ。ムダな会議等と再検討し、減らしてほしい。
- (81) アンケートを所属講座の事務官に出す形では、たてまえしかかけませんよ。たてまえの結果で良いのなら。それでもよいのでしょうか。
- (82) 教授の先生方をどうにかしてほしい。はっきり言って研究者でもないし教育者でもない。
- (83) 現在、大学院改革が進んでいるが、先生方だけで進めるだけでなく、ある程度の方針が決まったら、学生との意見を交わす場を設けてほしい。
- (84) 研究の良い悪いは、授業のうまいへたと異なると思う。一部大学で、はじまっているようであるが、研究と教育をわけるなどして、もっと充実させてほしいと思う。
- (85) エアコンをつけてほしい。

獣医学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) ①海外のラボで活躍されている方を、お呼びして、どうやってそのラボを選んだのか？
海外に行く前にやっておきたいことなど、研究内容と直接関係しないような話をしていただく講座。②パソコンを使った実践的な統計学講座。③開業医、他大学臨床系の先生も含め、今、獣医領域で問題になっている疾病に関する講義。④英会話（先生は留学生でもいい）⑤単位認定型の病理、診療実習。
- (2) 講義、実習の選択肢があまりに少なすぎる。実際的には選択肢がほぼ無いに等しく、不満を感じている。全学共通講義等をふやすことで対処できるのではないか。（同じ研究科の）研究室間で、もっと交流があってもよいと思う。自分の研究の中で、分からない技術、知識等があった場合には、他の研究室に出向き、専門としている先生に意見をあおぐことは有効だろう。実際には、研究費用等の問題が気にかかり、他の研究室で設備を使用するのはやや気おくれする。他大学とのやりとり（学生、サンプル）は積極的になされるべきだと思う。

2) 院生指導について

- (3) 教室内で学部学生（獣医免許を有さない）の教育と大学院生（獣医免許を有する）の教育を分けるべきだ。不満が多すぎて書きようがない。
- (4) マスプロ教育は学部時代で終わったはずであり、大学院で講義などの単位を必要とするならば、少人数で、時間をじっくりかけて、ディスカッションしていく形にするべきである。単に聞くだけのものならば、単位とは無関係な講演という形にし、指導教官が面白いと思う講演について、聴くことを薦める程度であるべきだと思う。

3) 論文指導について

なし

4) 研究・学習交流、学会参加について

- (5) 他大学から講師の方を招いて行う学術交流セミナーは、とてもおもしろいので多く開いて欲しい。
- (6) I would like to suggest that for International Students sake foreign researchers will be invited to present recent update in science(in English).This would encourage exchange of ideas and facilitate international cooperation. Thank you.
- (7) 外部から進学した私にはたとえば、隣の教室が何をやっているのかあまり知らない。研究科全体とまでいかなくてもせめて大講座全体で月に1回合同セミナーを行う等の交流があっても良いと思う。

5) 大学院重点化について

なし

6) 学習・就学条件について

なし

7) 社会人大学院生について

なし

8) その他

- (8) 設備、予算が不足しており、自己負担が大きい。進学前にはこのような状況を予想していなかった。大学の教官は今、研究室でどのような研究が出来るのか理解した上で、入学者を選抜すべきだと思う。

水産科学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 授業の開始日や終了日がはっきりしておらず、学生の混乱をまねいている。また、シラバスにのっている内容を変更して授業を行う教官がいたため、求めていた内容の授業をうけれなかった。授業の形態について、もうすこし明確に学生に提示し、予定どおり行ってほしい。
- (2) 講義の回数を減してほしい。また講義の時間帯を午前中だけとかに分散させるのではなく、1日に集中してほしい。その方が研究もすすめやすく授業にも出席しやすくなります。
- (3) 講義で班にわかれて発表するというのが多いが、講義の時間だけではなく、かなりの時間がさかれて実験計画をたてにくいので、講義は講義の時間だけですむようにしてほしい。講義をうけていても、学部の授業とかわらないものもあれば専門的すぎてわからないものもあり、どういう方向で講義をうけていいのか示してほしい。
- (4) 講義については、もっと分かりやすく、取りやすい仕組みにしてほしい。連絡事項についても明確に伝わるのが遅い等、問題がある。実習は、もっと開かれた実習をしてほしい。色々とあるが、シラバスが分かりにくく、単位のとり方がわかりにくい。
- (5) 学部・大学院共に、体系立った講義が行われていない。そのため、学問の深遠を追求する上で必要なはずの根幹となる考え方や、先人の知的財産を学生に示さず、教官個人の経験に基づいた講義となっているように思う。その理由として特に水産学部では、講義に教科書を用いない教官が非常に多いこと、また教官個人の過去の研究を列挙するような講義が多いことが挙げられる。このため、学生は体系立った知識や、最新の知見を得ることができないだけでなく、講義による時間的制約も同時に被っているように、感じています。
- (6) どの講義も、自分たちで調べて発表するという形式をとっているため、実験する時間が少なくなる。それぞれ個性をもった講義にして欲しい。
- (7) 夏や冬の期間に集中講義として特論を行うのであれば、シラバス配布の時点で“開講時期未定”としないほしい。昨年から開講すると言っておきながら、いまだ開講時期未定というのはおかしい。

- (8) 講義数を減らす方がよいと思います。現在の単位数では、実験研究を十分に行うことが難しい気がします。
- (9) 大学院に進み、学習、研究するということは所属する研究室の研究に興味があるためである。つまり学習意欲のある人の集まりであるのだから、基本的に現行のような“履修”しなければならない“講義”はあまり意味がないと思っています。自発的に学習している人に対する補助的な授業を望む。つまり、選択する授業の幅があまりに狭いことに不満を感じていた。先にも書いたことであるが、他学部、他大学の授業も選択できる形にしなければ、研究テーマの実験の足かせにしかならないと思う。私の発言をまとめると、「現行の講義では興味がわからない」、「とらなければならない講義ではなく、とりたいたいと思う講義を増やす」であるので現制度を変更する必要があると感じる。
- (10) 授業を受けていて思うこと。①先生にやる気が感じられない。②そのため受ける学生にもやる気が感じられない。③その結果、授業の内容が役に立つ場合がほとんどない。④結局時間の無駄になり、本来の研究に支障がでる。「形式」「義務感」で授業をやるならば必要ないと思う。専門的な知識を深めるならば、自主ゼミをやればよいと思う。大学院に入学してまで「卒業のための単位」を得ることに無駄な時間を使いたくない。大学院教育について見直してほしい。
- (11) 授業を全て集中講義のようにまとめて欲しい。毎週コンスタントに時間をけずられそれが時期によって変わるので実験計画をたてにくい。あと、学部の授業と大差のない授業は時間の無駄としか思えない。より専門的な授業や外の大学の講師の違う分野の講義もうけてみたい。
- (12) 学部生とちがい、単位のとり方等がわからなかったのでわかりやすくしてほしい、また講義を希望しているのにまだ実施されない科目もある。なんとかしてほしい。
- (13) 私は、水産科学研究科応用生命学科専攻で、実験室で日々研究しています。研究内容はとても興味深く取り込んでいるのですが、フィールドワークが全くありません。海そのものについての知識もなく、学部生の頃でもいいので希望者は船に乗れる実習を経験してみたかったです。(海洋生物資源学科には乗船実習が一度もありませんでした。)院生になってからは更にそのような機会がなく、サンプルも近くの市場で購入してきたものです。なんか味気なしの感じで残念です。
- (14) 講義は、担当の先生の研究発表が多いと感じます。ですから必ずしも、自分が受講したい内容とは合っていません。もっと受講する生徒に合わせてもらいたいと思います。
- (15) ただの知識のつめこみのような講義や実習は意味がないと思います。
- (16) 講義での体験が物凄く少ないと思う。実験やフィールド調査、コンピュータの扱い、統計処理などを行える能力が実際の研究で必要となるのに、今の知識の詰め込みと一方通行のみの講義では、「知識習得」はできるが「経験習得」は難しい。また、一方通行の講義では、研究者に必要な他人との議論する能力を養えない。もっと講義内のディスカッションの機会を増やすべきだと思うし、講義を担当されている先生も、そういう方針で講義をして欲しい。外国語を学ぶ機会も少ない。特に会話英語に関して最大限の工夫がなされた講義を組むべきだと思う。それこそ英会話スクール並みのカリキュラムとレベル分けを行うくらい徹底していて十分良いと思うし、私を含め皆それを望んでいるはず。
- (17) 学生の希望する知識を得られるような講義や実習。具体的には、講義には大きな枠組

- みを設けて、その中で学生の希望する内容をアンケートして、教官がその内容について説明するといった形式をとってほしい。学生が聞き手になるだけでは勉強にならない。
- (18) 現行のままで特に不満はありませんが、より社会に出て柔軟に対応していけるような幅広く、的を得た講義や実習をしてほしいです。
- (19) 大学院は、ある程度専門性のある研究をしている所だと思います。授業で他の講座のやっている事を学べてけっこう楽しく授業を受けましたが、私や、他の講座の人もそうなのですが、採集などの為に授業に出れないことがあり、そこらへんのことを、出席には無関係だからとかとおおめに見てくれない先生がたまにいます。また、テストとかで単位をあたえるのも、大学院では意味のないことだと思います。大学院の授業は、あくまでも、自分の専門以外の研究について講義し、新しい方向性を教えてくれるものだと思うので、テストで単位をだすとかいう考えは少し違うと思います。出席重視というのも考えものだと思います。
- (20) コンピュータに関する基礎を教える講義をやってもらいたい。研究に必要なソフトは使えるが、コンピュータが動かなくなったときの対応やメールやインターネットを接続するときの決まり、コンピューターウィルスに関する事などはあまり知らない。メモリとCPUの関係やコンピュータの内部構造とか、これからは（も）英会話とコンピュータですよ。
- (21) 大学院で実習を行う場合、しっかりとした実習計画に基づき充実した内容にしてもらいたい。大学院生に時間を割く価値があったと思わせるぐらい。
- (22) 本学、北海道大学大学院水産科学研究科が大学院大学になった年には大学院の1年生でした。それまでは、ほとんど食品化学コースの中での講義を受けてきたので、まったく違う研究について学べてとてもためになりました。特に2年目に受けた講義がとてもおもしろくて、水産科学研究科の先生でいろいろな講義を聞いて良い勉強になりました。言葉の問題や専門の違いについて行けないところもありましたが、聞いているうちに分かるようになることが多くなってくるととてもためになります。他の先生とふれ合うチャンスは大切だと思います。水産の中で行われている研究を知ることになり、また何か「将来で」研究のことでその先生と相談したいことがあれば、話やすいと思います。時々、実習で上手に行わないこともありましたが、講義「大学院の」はいい刺激になっています。できれば研究室以外のところで実験の技法を習得してみたいと思っています。
- (23) 普段は札幌の北方生物圏フィールド科学センターにおいて、研究は洞爺湖の湖沼生態系調査を行っております。調査およびサンプル処理などのためほとんど札幌と洞爺湖から離れることができず、講義の受講期間になっても函館へ行って出席することが出来なく非常に困っております。講義は大学院生には研究活動の妨げとなるとしか現時点では感じておりません。大学院教育の制度で講義をきちんと受講すること（現在の制度のような）とするのであれば、札幌でも水産科学研究科の講義を受講出来るようにするべきだと思っております。今のままでは、講義を受講出来ないで、早急に対処していただきたいと思っております。
- (24) 昨年大学院大学へむけて改変が行われたが、入試後の3月くらいに突然授業があるのを知らされた。先輩などの姿を見て、大学院を北大にするのを決めたのに、まったく、違う状況に裏切られた気持ちがした。もうすこし、余裕をもって事をおこしてほしい。そ

してそのための説明も入学式でやるのではなく、もっとその前に改変の経緯や状況を報告してほしかったです。

(25) 時間がとれないので、大学院における講義は中止すべきだと思う。

(26) 一方的な講義はやめてほしい。大学で学ぶ知識は高度であるのはわかるが、興味をひく講義能力（プレゼンテーション力）を先生自身も上げてもらいたい。

2) 院生指導について

(27) 発表，ディスカッションを多く。

(28) 政治活動に重点をおいている教授が多いのではないか？研究・教育機関である大学院では研究活動に重点をおくべきだ。研究活動をおろそかにしている限り，講義や実習などの教育活動が向上することはないだろう。これは学生の質の低下や研究科全体の質の低下を引き起こす可能性があるのでは？

(29) 私の研究手法のスペシャリストがいない。設備が安っぽい。または無いので，なんとかしてほしい。修士を取得するための授業単位数がとても少ないのでみんな最小限の単位しかとろうとしていない。自分は広く知識をつけたいので，いろいろな授業をとっているが，ただ自分の分野の授業だけでは学部の時より変わりがない気がする。私のまわりだけかもしれないが，ただ修士号がほしいという人が多く，自分から学ぼうとする姿勢の学生が少なすぎる。自分は水産科学だが，4分の3以上の学生は魚一般についての知識がまるでないので，ガクゼンとした。

3) 論文指導について

なし

4) 研究・学習交流，学会参加について

(30) 学外の先生方を講演に呼ぶ場合の資金を援助していただきたい。

(31) 同じ分野を研究している他学部との触れ合いが少ない。材料が違うだけなら，もっと情報交換の場が必要かもしれない。それを補うためには，セミナーの充実や研究科（学部）自体の大型化，本学とのさらなる交流が必要かもしれない。（かもしれないわけ：小さいからできることもある→しかし，もう少し大きくてもいいと思う）早く既存の大学制度では，やっていけないことに気づいてほしい。20年後，30年後の日本，日本人，学生像，社会人像を見据えた変革をすべきと思う。そのためには，普段何も考えていない学生のアンケートより，運営側のブレインの充実が未来をつくるような気がする。

(32) 講義等に対しては特にないが，同じ研究科だけでなく，企業，他大学院の研究室がどのような感じで研究を進めているのか，またどのような雰囲気なのか経験できる機会（インターンシップetc）がほしい。

5) 大学院重点化について

なし

6) 学習・就学条件について

- (33) 奨学金について、もっと制度を確立して欲しい。又、その選択について、どの様な査定を行い決定しているのか公開して欲しい。
- (34) 講義実習に関してではないのですが、教務・学務について意見する機会がないので、ここに書かせてもらいます。大学に入学して何年にもなりますが、その間思い続けているのが教務・学務の窓口にいる人の対応の悪さです。毎日多くの学生の対応をするのだから大変だというのはわかるのですが、あまりに冷たく理不尽な対応をする人もいます。たとえ不明な点は教務までと書かれていても冷たくあしらわれるかと思うと聞きに行く気をなくします(それでも自分にかかわる事ならば聞きに行かざるをえませんが)。最近では良心的な対応をしてくれる窓口の人も増えましたが依然として高圧的な態度の人もいます。学生としては異常に丁寧なサービスを望むわけではなく、一般的に普通と思われるような態度の窓口対応を望んでいます。
- (35) 水産科学研究科の図書館は蔵書が少なく、論文を取り寄せるにはお金も時間もかかるので、対策を講じて欲しい。一般書を増やして欲しい。それから生協も小さいと感じています。大学院の講義として、外国人講師による、speakingの講義を開講して欲しい。生きた英語に触れる機会が欲しい。
- (36) 大学院大学に移行して第一期の学生だったためか、私たち以上に事務のほうが混乱していたと思います。講義日程の指示が、あいまいだったり、何度も訂正されたり、と困ることが多かったです。(特に全学開講のものは) うちの講座には講義にしてもまじめに開講してくれる先生が多かったのですが、他の専攻では1回だけ講義をして、それで単位認定する先生もいると聞きました。これでは、あまり「大学院大学」の意味がないのではないのでしょうか。他の専攻で開講している講義も、もうすこし他専攻の学生が参加しやすいものにしてほしいと思います。

7) 社会人大学院生について

- (37) 社会人大学院生はあまり頻繁に大学の施設を利用できないので、できれば学費を安くしてもらいたい。また図書館への文献複写依頼等をインターネット経由で個人的にできるとありがたいと思います。

8) その他

- (38) 修士課程の可否判定について、もう少し個人の適正を考慮した方がいいと思う。やる気のない学生は講義にとって有害である。
- (39) 研究費が足らなすぎ。
- (40) 進学してみてさらに分かることですが、函館キャンパスは非常に不都合が多いです。例えば、他学部での共同研究ができないこと、国内外へのアクセスが悪いこと、外国人研究者と触れ合う機会が少なくなる(講演に参加できないなど)ことは大きな問題です。
- (41) 学部3年くらいから講座に配属できるようにしてほしい。学部4年からの配属であると、研究がどのようなものか分からないうちに、進学か、就職を決めなくてはならなかったのだ。
- (42) とにかく施設の老朽化がはげしくて、まともな実験ができない。

- (43) 教育的でもないし、研究の環境も不十分で、人材はいると思うが、三流の大学と感じている。
- (44) 施設が老朽化しており、早期の建て直しを希望致します。
- (45) 現行のままで何も問題はないと思います。
- (46) 研究には水槽を利用した実験が必要で使用期間が割り当てられると失敗しても再実験ができないことがある。使用者がいない時は自由に使用できれば実験計画も立てやすく研究も進むと思う。
- (47) 大学院の教育活動は、実際、大学院生どうしによる部分が多い。博士課程の学生が修士、学部生を指導している現状を正に評価するべきである。

環境科学研究科

1) カリキュラムについて

- (1) Hokkaido University is one of the best university in Asia. Many foreign students come to study here, especially in Graduate School of Environmental Earth Science. In future, I hope 25-50% of lectures can be hold in English. It's helpful for foreign students to accept and understand the lecture. I think between lecturer and students can discuss intensively in English.
- (2) もっとたくさんのテーマの講義から選択して受講したい。
- (3) 大学研究施設を巡回する実習を企画してほしい。
- (4) 専攻している分野のさらに専門的な（高度な）講義を望む。
- (5) 履習手続きは、学期始めより、学期末とするか、いつでも手続きできるようにして欲しい。講義をする教室は正確にケイジ板等で知らせて欲しい。何かの都合で講義にできない時があるので、休講案内やレポート課題などをケイジ板で知らせて欲しい。遠くに移動することがあるので、講義は時間内に終わらせて欲しい。
- (6) 一般的な授業（教養的な授業）および実験のツールとなる授業（演習）を用意してほしい。例えば後者でいえば、実際の実験データを授業で取り扱い、それをどのような手法で解析するかを生でみせることも大切なことだと考えている。
- (7) 単位互換のところでも書いたが、地球環境の大気海洋専攻と理学研究科の地球物理とがもっと共同でカリキュラムを作った方が効率的なのでは？
- (8) 出席し実りあった講義はごくわずかであった。もっとカリキュラムを整備してほしい。資格に直結する講義・実習を、例えば、測量士補が取れる etc.
- (9) 生物学的な講義が少ないので増やして欲しいと思う。また、他大学、研究科の先生の講演を積極的に行ってもらいたいと感じる。共通の実験施設（動物舎や暗室、R1）があれば、研究がしやすくなり、また、他講座の学生との交流も持てると思う。
- (10) 現在の自分の研究テーマが地球環境科学とはほとんど関係がないためであるとは思いますが、講義内容に魅力を感じない。また、講義をされている先生方の“教えたこと”もよく分からず、時間と労力をお互いに無駄にしている気がする。最新の研究などトピックス的なことなら、そのような内容を中心に話してもらえるのもとても興味深いですが、大学院に在るということはより専門的に得たい知識というものもしっかりしてきていると思うので、そのようなニーズにも答えてくれるような知識があると非常に助かる（基礎的な

内容で)。そのように考えると、大学院での講義の必要修得単位数を定める必要はないのでは、と思っている。

- (11) 毎週少しずつ進む講義よりも、集中講義を増やし、短時間に効率良く学習したい。教員1人が指導可能な学生数には限りがあるので、学生を増やすならば教官も増やし、密度の高い指導をしてほしい。
- (12) 生徒と教師の間の対話の多い講義、生徒中心の講義等があればおもしろいと思う
- (13) 教授の講義は受講者に何を教えたいのか全く分からない。教授の指導の方向性が理解できず、何故結果もでてないのに研究テーマが変わるのか疑問である。助手に教授から伝えるように言われたことを伝えたら、意味が分からないと怒られた。意味が分からないのは私のせいではなく教授のせいだと思うのだが？または助手がインジケータを在室にしたままどこかに行っているのが悪いのでは？また、助手が研究室があるのとは違う階を歩き回っているという話をよく聞く。仕事をしないでそんなことをしていて良いのだろうか？エレベーターが1台しかないのによく点検中でとても困る。先輩に聞いたところアンケートの内容はほとんど反映されてないとのことであった。反映しないのであればアンケートをとる意味がないと思う。
- (14) 低温研 $\leftrightarrow$ 地環研の講義による移動は、冬になると大変そうなので、その移動時間等も考慮した時間割を組んでほしい。
- (15) 地球環境科に所属はしているが環境とはあまり関係の無い研究室なので、授業も環境のことだけではなく、研究テーマに近い様な講義もしてほしい。
- (16) 実際に屋外での実習をなくすべきである。頭で考えるだけでなく、体を動かして、体で覚える必要もある。あわせて、太陽の光をあびるべき。蛍光灯ばかりにあたってはいけない。
- (17) 現在所属している専攻には、初学者が多く入学してくることを考えると、少し初学者向けの講義を増やすべきだと思う。
- (18) 博士後期課程の学生を対象とした、他の研究機関の研究者による集中講義をより多く開講して欲しい。内容によっては受講者数名ということもあるだろうが、開講するに足りる十分な意義はある。
- (19) 自分は大学院からこの分野に足をふみ入れたが、M1のころはいろいろな講義や演習があり、大変良いと思っています。ただ、プレゼンスのやり方や、論文の書き方の基礎が分かる講義も必要だと思います。
- (20) 環境という名がついているのに、環境に関する知識を持っている人が少ないように思う。そのため、講義として基礎的な環境学を教える機会を増やしてほしいと思う。
- (21) 自分の研究は野外調査が不可欠なので定期的な授業は出たくても欠席してしまう事が多くなってしまいます。そのため集中講義での短期間の授業が大変役立っております。
- (22) 大学院では講義は必要ないと思う。語学の講義などの方が重要かと思う。
- (23) 講義の種類を増やして選択できる幅を広げてほしいと思います。また、他学部の講義も受講しやすいように全学授業の一覧を入学時に配布してもらいたい。
- (24) 環境についての講義は今受講している5コマのうち1コマのみ。他は各教官の講座の研究について、もう少し系統立てた方が良いと思う。
- (25) 前期の講義を受けていて感じたが、各講義とも内容が中途半端で、結論が何をいった

いかがわからない。あと、一つの講義を2人の先生が担当する講義では、一人の先生の講義時間が少なくなるため、より深い説明を受けることができなかったのも、一つの講義の担当は一人にして欲しい。

- (26) もう少し、アドバンストな授業を開講してほしい！また、基礎的な授業も開講してほしい。中途半端な授業が多すぎる。
- (27) 毎回、講義をする教授がちがう講義で、前の教授とほとんど同じことを話すことがありました。自分の話したいことだけをだだら話すのではなく、互いに打ち合わせをして、1つの講義としてまとまりのある内容にしてほしい。
- (28) Formal orientation class for the newcomers is necessary.
- (29) 私自身講義に出席したものの、何も得るものがありませんでした。興味のない講義に参加してしまった私が、悪いのだと思いますが、先生方も教科書のワクを出て、もっと実生活にかかわる魅力ある講義をしてほしいと思います。
- (30) 専門知識を詰め込むだけではなく、研究のすすめ方や、論文の書き方、発表方法など、研究生活において最も重要だと思われることを、学ぶ機会が少なすぎる気がしてならない。また、健全な研究生活を送るために、研究内容などに興味を持っている地域住民との触れ合いが保てるよう、もっと開放的になるべきだと思う。
- (31) 異分野の人も授業を受けるので、できる限りベーシックな所から、教えて欲しい。幅広い知識を得たい。
- (32) 実習をもっと増やせばよいのでは？
- (33) 他分野からの入学者に対する配慮が感じられるような講義も行なって欲しい。大学院とはいえ、基礎的（概説的）な講義が少しでも設けられていると、受講しやすく、また以降の研究の助けとなるのではないかと思う。
- (34) I would like to establish more technique in eco-physiology of related field.
- (35) 様々な分野の知識が得られるような講義が多く開講されている点がよい。実習等に関しては、他研究室の学生でも気がるに出席できるものが設けられていればよいと思う。
- (36) 大学院共通授業科目を増やして欲しい。図書室を充実させて欲しい（書庫の設立等）。研究科の研究内容が多岐にわたっており、自分の専門分野に関する講義の数が少ないので、他研究科の講義も気軽に受けられるようにして欲しい。
- (37) 専門分野の体系を効率よく身につけさせるような講義があればよいと思う。ただ、大学院はあくまで研究中心であるので、多くの時間を講義だけでつぶしてしまうのは良くない。学問体系の概要を講義し、詳細については学生の独学にまかせるべきだろうか？今我々が属する研究科の講義は、教官が自分の研究テーマを紹介するだけのものであり、学生が進めるのに必要な専門知識の体系を取得するものではない。
- (38) 調査のために講義に出席できないことが多いので、もっと集中講義をふやしてほしい。
- (39) 自分の研究科に関連することやそうでないことでも、様々なことに関連する講義を作してほしい。研究科の教官だけでたりないのであれば、他研究科や民間の方々など、多岐に渡る人たちを呼んできて、様々な講義をしてほしい。
- (40) 地球環境科なので幅広い分野の知識を得たい。そのために各分野の初歩的な講義を増やしてほしい。教官によっては指導方針がまったくちがうので、ある程度統一してほしい。就職に関する情報や指導をもっとやってほしい。

- (41) 最初に、最低必要な知識は与られるように、エスコートした方が良いと思う（研究科が単科なので）。技術面についても、同様に感じる。
- (42) 授業等が教官の研究のことしか話さない。地球環境は特に学部をもっていないのだから、誰でも知っている位の知識から教えるべきである。自分で学べばよい所もあるが、何をどう学べばよいかの道を示すべきである。
- (43) 地球環境科学と銘打ちながら、実際には研究室ごとに個々別々の専門に依るところが多く、学生も何ら知見、認識を持っていないように思われる。本年度、入学直後に行われた特別講義においても、その意図はともかく、学生にとって得るところが多かったようには思わない。それはありきたりなCO₂問題や温暖化予測についての話が連続（しかも同様のレベルで。）していたためである。我々学生自身が知識を求める際により効率の良いステップが用意されていると有難いが、そのためには教授、講師陣間での打ち合わせなどがあって然るべきと考えるものである。
- (44) せっかくの独立大学院なのだから、もっと独自性を持った研究や講義をした方が良いと思う。
- (45) 自分が修士課程の学生として入ったころは、全研究科共通の授業がなかったように思います。最近は共通講義が出てきたので、見識を広げるのによいのではと思っています。
- (46) 企業の人を招いて、その業界での実態などを講義してほしい。
- (47) 講義よりも実習を増やした方がためになるし、身につく。特にフィールド系の実習がもう少し増えると良い。
- (48) 同じ講義を複数の教官が同じ日程で（もちろん別の建物で）実施することはやめてほしい。研究科にとらわれず、同一分野の研究者・教官達がやる共通講義を増やしてほしい。講義は前期に集中してやってほしい（後期は雪が積もって、外に出たくならないから）。教官に学問の教授法をトレーニングする場所、機会を与えるべき（優秀な研究者だからといって、優秀な教育者だとは限らない）。
- (49) 生物化学の基礎を教える講義
- (50) In vitroで実験、研究を行っている人もたくさんいるのにその様な講義が全くない。
- (51) 内容に対して興味が持てるような講義をしてほしい。

2) 院生指導について

- (52) スタッフの充実（量ではなく「質」）を何より望む。スタッフ以外の研究環境には満足している。
- (53) うすうす分かってはいましたが物質環境科学専攻だと自分から求めない限り「環境」のセンスを身につけることは難しいです。つつい実験の方にだけ目を向けがち。修了すると「地球環境科学修士」の学位を受けるのだから、ふさわしい知識と考え方をよりつけたいと思っています。
- (54) 講義内容については不満はないが地球環境なら、少しぐらい課外というか屋外でというふうな実習があってもいいのではないかと思った。「今期は開講しない」という講義がいくつかあるが、やるのなら隔年ではなく毎年やるべきであると思う。
- (55) 境界領域と呼ばれる分野であるためか、当研究室の教授の専門知識には大変問題がある。つまり、特定の専門知識について、他の研究室、教官との比較がしにくいために、

不的確な人物が教官になったり、程度の低い指導を長年にわたって行なうことを発見したり防止したりするのが困難である傾向を持っているのが、地球科学の現在の問題点ではないかと考えられる。以上のような点において、当研究科（特に化学系）には特有の問題が存在しており、教官の採用、昇格については、特別の注意を払う必要があるものとする。改善策としては、(1) 教官のリコールを可能にする。(2) 教官を任期制にする。(3) 論文数を評価の対象にしない。(3) については、境界領域においては、分野によって学問としての成熟度が著しく異なるため、簡単にいくらかでも一流誌に発表できるといったことが起こるために、数では、研究の内容評価を正確にできないことが多いためである。

- (56) 私の指導教官はすぐハンコ（修了の印）を盾に生徒と話をするので、それが不満です。卒業を盾に脅されれば生徒は従わざるを得ないので、先生と話し合いすらできません。また、M1のデータはM2に、M2のデータはドクターに吸収されてしまうので、結局、卒業近くまでは、自分のデータは出ません。これでは他大学や他学部の博士課程には進む事ができません。生徒には月～土まで1日12時間の実験を命じておきながら、自分は部屋で寝ていたり、どこかに出かけるのは納得できません。事故が起きたらどうするのでしょうか？それに生徒の机を勝手に開けるのは納得できません。生徒にプライバシーは無いのでしょうか？とにかく、そのように生徒の権利を無視した意味の無い封建体制を無くして欲しいです。
- (57) 真の研究目的をきちんと説明してほしい。でないとモチベーションがあがらない。興味や、好奇心だけで研究するには限界があるような気がする。やはり、社会とまではいかずとも、どのような役に立っているかが見えないと、頑張れない。
- (58) 自分から積極的に聞きに行けば済む話なのですが、もう少し院生を指導するというシステムがしっかりしていればと思います。特に他大学から来た学生にとって、研究室の流儀が違うことで、実は間違っていたことをずっとやり続けていたということがあります。
- (59) 基本的には研究活動、施設など充実しており、満足はしている。ただし、様々な出身の学生が入ってくる独立研究科である（そのこと自体は非常に評価している）にもかかわらず、少なくとも私の所属する講座周辺では、スタッフの側にそれに対応して指導教育方法を変化させていく必要があるということに意識が向いていないように思う。しかも最近では若手のスタッフやDCの学生が海外調査プロジェクトに長く参加するケースも多く、身近なフィールドで研究手法を学び、経験をつむ機会が少ないので、おそらくMCの学生にとっては困難な状況ではないかと思う。今後の大学院のあり方を考えると、同系統の学部出身者を前提にしている現在の状況は変化を求められているはずだ。
- (60) 研究室のセミナー目的があいまいなので、コンセプトを明確にした方がいいと思う。大学院共通講義は非常に良い。現在も生化特別講義を受けているし、環境特別講義を受けようと思っている。あればいい講義はプレゼンテーションとか科学哲学について。さらに研究者として身につけるべきことを説明したり、研究テーマの立て方などの訓練があってもいいと思う。全体的に言えることは、研究科として組織的なカリキュラムを組み、具体的に身につけることを学生に理解させてから教育をすべきだと思う。各講義が各担当教官のやり方にまかされすぎている気がする。もちろん学生がしっかりとした考

え方を持っていれば今のままでも問題はないと思う。

- (61) 大気海洋専攻物理系に関していえば、観測的手法による研究がやや手薄なので、その充実を求める。スタッフ、機材を含めて。講義は充分とはいえないまでも、必要なものはそろっていると思う。
- (62) 活発に研究活動を行っている研究室とそうでない研究室とがあるように感じる。「研究なんか一生懸命やってもしょうがない」という雰囲気の研究室もある。そういう人達が身の周りにいるのは大変迷惑だ。少なくともここは大学院だし、高い授業料を払っているのだから。研究室の研究活動をきちんと評価してほしい。また、制裁のない評価は無意味だと思う。
- (63) 研究室によって、その内容等もかなり異なってくるので、学生が研究室をしっかりと選ぶことができるように、もっとオープンな研究室選びをできる制度のようなものを作ってほしい。先生方にもっと自分の意見を言えるような制度を作ってほしい。先生方も学生に評価されるような制度を作って、その結果を基に悪いところは改めるようにしていただきたい。
- (64) 自分が所属している地球環境科学研究科大気海洋圏環境科学専攻物理系は、入学して半年間は、研究室に所属せずに、講義中心のカリキュラムで、それは良いのですが、できれば、仮配属としても具体的に研究室に所属してより専門性のある内容の講義ゼミに参加できるようになりたいと希望しております。
- (65) 大学のスタッフは教育者ではない。出世欲を丸出しにした研究者だ。この先、本当に指導教官についていけるか不安だし、あの方についても人は育たない。
- (66) もうどうでもいい。私はすぐに卒業するし。大学の制度自体がもう限界にきていると思う。民営化までは無理だろうが、生徒自体客なんだから、教育というサービスのあり方をちゃんと見定めるべき。生徒も大学に対しあきらめがあるのではないだろうか。
- (67) 学際的なところは良い所でもあるが、悪い所でもある。(地環研) 良い所→様々な分野にふれられる。悪い所→企業受けがわるく、就職活動が困難。
- (68) TAの選考の仕方に問題があると思う。外部からTAの監査が必要だと思う。つまり役に立たない奴がいるということ。
- (69) 研究科設立当時の意義はどこへ行ったのだろうか。相互に連携して、学際的な研究が行われているとは、言い難い気がする。もっと、内容を重視した教育活動を行うべきだ。設備はととのっているが、使いこなせる人間がいない。次々新しい装置を入れないで、もっと学生一人ずつに投資した方が教育ということに関しては意味があると思う。
- (70) 異分野の統合を目指した研究科であるはずの地球環境研はすでに理学系、水産系などコピーになりつつあると思う。教官や、大学関係者はこのことを認識しているのだろうか？各専攻内での交流（研究交流）を活発化し、専門外のことを取り入れ、認めていかなければ新たな研究分野、発見は抑制されてしまう。学生の立場から言えば、教官（内部&外部）のグローバルな夢の発表の場のような講義を増やしてほしい。（それを伝える場）伝えるべきものは知識だけでなく、夢、熱意、発想、探求心、そしてそれにとともに喜びであろう。学生のうちからプロジェクトに関わるしがらみ、政治的研究ばかり（これも重要ではあるが…）強調されては夢がつぶれる。
- (71) 進路指導やTAなどの情報伝達が、不十分。他の点についてはそれなりに満足できる。

あと、このアンケートについて、適合する選択肢が無く困ったのがいくつもあった。

(72) いろんなところに連れて行ってほしい。

(73) 野外データをどのように解析して結果を導き出すのかについて、様々な手法を学ぶことができれば良いと思います。

(74) 研究が大事なのはわかるが、講義をたくさん受講したいという学生の気持ちを尊重して欲しい。学費を払っている以上、どの講義をいくつとろうか、それは学生の自由ではないだろうか。また、学生に対する強制等はやめて欲しい。大学院に在籍する人のすべてが研究目的で入学したわけではなく、あらゆる目的を持っているわけだから、指導教官の思い通りには必ずしもなるとは思えない。学生の自由、希望などを奪わないで欲しい。

(75) 確かに研究というものは、自分で調べてやってみないと意味がないと思う。しかし、研究室の構成員もわかっている通り、自分の研究室は日本の学部にはほとんどない。実験に関して初めのイロハも教えてもらえず、結局自分で本を見て調べてやるのでは、院にきた意味がない。まだ、研究が始まっていないので、それが始まったら、適切なアドバイスをしてほしいと思う。

3) 論文指導について

なし

4) 研究・学習交流、学会参加について

(76) 同じ専攻内であっても研究分野は多種多様であるため、修士2年のうちに様々な分野を見聞きすることは困難である。このため各研究室及び講座毎に何をしているのか、今注目している事柄が何であるかを積極的に公開する場が欲しい（研究室毎に行われるゼミとは別に）。また、自然科学系の大学院である以上、もっとフィールドワークを必要とすると思う（行ったこともないような場所の研究は基本的に不可能だと僕は考える）。

(77) 専攻内外で、互いを理解できるような、講義や演習を！

(78) とにかく、どんな人でも（初心者）でも無理なく研究できる体制を整えて欲しい。今のままでは、初心者に対する指導が不十分であり、結果大きな負担がかかってしまう。そのため研究が非常に大変だ、という意識のみ残ってしまい、研究を面白くないと感じてしまう。初心者ではなかった私でさえ、そう感じてしまった。うちの研究室に限って言えば、とにかく指導体制が、不十分である。

(79) 本人の問題なのだが、大学院に入ってどのように学ぶべきか、あるいはどれだけしっかり研究すべきなのかを話してもいいのではないかと思う。同期の仲間が、研究したいと思って来ているか、就職までに学べることを身につけたいと思っているかで、個人のやる気も左右されてしまうから。また、親に迷惑をかけないように、というので、アルバイトに時間を割かなければならない人は、よほど本人の意志が強くないと勉強しないで終わってしまう。やる気がない人を放っておくのは、いいことの場合もあるが、もう少し、入学を許可したからには厳しい面を見せるのも重要だと思う。たいした意見でなくてすみません。ただ、あまり勉強をしてこなかった者として、なるべく早い時期にやる気を起こす事が重要だと感じているので。

- (80) 各研究科の特色があればと思う。地球環境研と理学研と同じ様な内容であれば、地環研でなくともいい。すなわち、地環研と言う名前に負けない研究内容であり、社会貢献度の高い研究、実用性の高い研究、もっと一般企業のニーズに答えられる様な研究科であって欲しい。
- (81) 横のつながりが希薄である。教官、学生、研究活動すべてにおいてそうである。このため、理学部などと提携してやっていく必要がある。
- (82) 自分達の研究に没頭し、突きつめるのは良いことだと思うが、もっと学生や先生同志の交流や意見交換の場があってもよいのでは。他の人の研究を知ること、あるいは自分の研究を分かりやすく伝えることは相方のプラスになると思うし、また研究以外の交流は何か困った時に相談できる相手を見つける役目を果たすと思うのだが…。私は他専攻の講義にもいくつか参加したが、やはり他専攻の学生にはとっつきにくく、先生もどうしたらよいかわからないようだった。専門の講義であるから手を抜く必要はないし、初歩がわからない学生は自分で勉強しなければならないと思うが、それに加えて専門分野以外の学生も当然のように受け入れる姿勢がもう少しあってほしいと感じた。
- (83) 外部との交流を活発にした方が良いと思う。
- (84) 専攻間で、講義のみではなく研究に関しても交流の場を広げたい。
- (85) 外からもっとはいつてこられるように、魅力のあるところを外にアピールしてほしい。

5) 大学院重点化について

なし

6) 学習・就学条件について

- (86) 研究費、設備が不足していると思う。できれば、研究科、専攻で共同で使用可能な装置の増設、また雑誌等の文献の充実を図ってほしい。
- (87) 金が欲しい。観測船が買える位の。
- (88) 物品や調査用具の貸出し等、各研究室ではなく研究科で扱ってほしい。また、地球環境科学研究科だというのにプラスチックゴミの分別が行われていないのがおかしいと思います。
- (89) 構内をもっときれいにしてほしい(トイレがきたない。また、数が少なすぎる)。フィールドに行くので、車で学校に今より来やすくしてほしい(通行許可証を事前にとるのは、その日の状況によって、フィールドに出ることを変更したりするので、不便である)。事務の人の態度があまりよくない。
- (90) 北大の施設、設備や図書システムは素晴らしいと思う。しかし、大学院への進学にあたって、入学する学生にとってそれらの施設をうまく利用すべきなのに、それをサポートする人材や情報に欠けていると思う。もっと人手をふやして大学院教育に力を入れるべきだと思う。
- (91) 新しくできた学科だからか、研究設備の面で不便を感じる。
- (92) 研究費が少なく、器具などが買えない。職員の対応が悪い。(保健管理センター職員)
- (93) 他の研究科で行なわれている全学科共通講義について、はっきりと連絡してほしい。2階の掲示板に告知するだけでは不十分だと思う。

- (94) 研究費が足りない。合成の授業を受けたい。図書館に雑誌が少ない。
- (95) 触媒センターのヒーターとクーラーを24時間使えるようにして欲しい。同じ学費を払っているのに、地環研の本部だけクーラーが入っているのには全く納得がいかない。あとはアンペアが足りない。すぐにブレーカーがおちます。

7) 社会人大学院生について

- (96) ドクター課程から進学する人は、社会人であるべきだ。あるいは、社会人でドクターを目指す人のための研究コースをつくるべきだ。
- (97) 社会人という特殊な状況で時間に追われて研究をしているので、研究科全体の様子は詳しくわからない点もありますが、大学院大学（研究科）として多数の学生を受け入れている割には、一人一人の学生への教官のケアが不足していると感じられます。これは、スタッフの不足もあるのですが、例えば修論やD論の予備審などで、指導教官が研究内容等について基本的な質問をしているのを多々目にするにつけ、北大の院生は、手をかけられていないなあ、と感じてしまいます。放任主義は、良くも悪くも北大の伝統？ですが、もう少し一人一人の学生の研究の進路に親身の指導ができないものか？と感じています。

8) その他

- (98) I am so sorry my nihongo is too bad. Therefore, I need to get further information in English.
- (99) Please provide survey in English if possible next time.
- (100) もう少し期日と余裕をみてアンケートを配ってほしい。
- (101) 事務の対応が正直不愉快（何であんなに偉そうにするのか分からない）。教員免許状を専修に変えるための講義の選択の幅が狭すぎる（つまらない講義を受けることほど苦痛なものはない）。どうして自分の学部内しか認められないのか。
- (103)「なし・特になし：24件」

国際広報メディア研究科

1) カリキュラムについて

- (1) 中東、アフリカ地域に関連する講義。
- (2) “国際”と名がついているわりには、研究分野が欧州にかたよっている気がします。アジアも中国系しかありません。南北アメリカやアフリカ、東南、南アジア、中東、オセアニア等について学ぶ授業がほとんどないのは、問題だと思います。MAとかMBとか区別はおかしいと思います。研究に関係ないものまで受講させるのは、大学院的ではないと思います。
- (3) この研究科はインターンシップを単位にしているところが魅力だと思う。もう少し事前にも指導してもらって、単位数を増やしてほしい。
- (4) この研究科のもう1つのウリであるビジネススピーカーによる授業は他学部にも開放してはどうか。あまり人数が多いと大変だろうが、異質の研究をしている人たちとの交流も大いに刺激になる。

- (5) 国際地域文化論にもう少し力を入れてほしいと思います。
- (6) 昼休みや空きコマは学生の貴重な時間です。その時間を利用して、授業の準備、自分の研究はもちろん、自主ゼミなど積極的な活動を行おうとしています。それなのに90分の枠を超えて講義される先生方がいらっしゃいます。熱意はわかるのですが、学生としてはやりたいことができなかつたりと計画を狂わされてしまいます。90分の範囲でしっかりと終われる授業計画を立てていただきたい。それができないのは教官としての指導能力に問題があると言えるのではないのでしょうか。
- (7) 第二外国語（特に仏語）の上級者用クラス（準1級以上ぐらい）を設置していただきたいと思います。出来ればネイティブの先生による講義が望ましいです。
- (8) 「高度専門職業人養成」を掲げているがまだまだ看板と実体の距離が縮まっていない。実業界出身の教授がもう少しほしい。
- (9) メディア論、コミュニケーション論や、それらを含む社会学系の講義、演習が少ないように感じられる。

2) 院生指導について

- (10) クラスでのディスカッションがないような講義は出席の必要を感じない。期日と課題を決めてインターネットなどで十分できるようなものもある。
- (11) 感じていることを自由に書くということは決して簡単なことではありませんが、想像していたよりも授業のための読み物の量が多く（私の能力の無さの現われかもしれませんが）自分の研究のための読み物をする時間がなかなか見つけれられません。このままでは不安で100%自分の研究にあったテーマを確定できるのか心配です。
- (12) 余分なリーディングが多すぎて、自分の研究課題を設定するためのリーディングが全々出来ません。
- (13) 指導教官の選定は後期の授業が始まった後がいいと思います。前期に交流のあった先生しか顔も名前も、研究内容も分かりません。ある程度、その後期の授業を受けたあとに、教官の人柄なども考慮して、指導教官を決めたほうがいいのではないのでしょうか。

3) 論文指導について

なし

4) 研究・学習交流、学会参加について

- (14) 自分は他学部、研究科の授業を多く履修させてもらっているのに、総合大のメリットは十分享受させてもらっている。もう少し他学部履修を単位にしてほしい気はしている。
- (15) 講座（？）の概念が不明瞭。院生がそれぞれどのような研究をしているかがわかりづらく、自分の専門に近い研究をしている人がみつかりづらい。

5) 大学院重点化について

なし

6) 学習・就学条件について

- (16) 国際広報メディア研究科のための図書が少ないと思います。ジャーナリズム研究の本がアメリカにかたよっているようにも思います。
- (17) 開発援助に関連する講義，研究室の環境については，アンケートで，問われる機会はありませんか。私たちは，現在の大人数の研究室に不満をもっています。また事務のある人に対しても大へん困っています。
- (18) 物理的環境については，良好だと思う。一層の充実を希望する。博士課程設立の際は，修士，博士の相互交流が容易となるような環境構築をおねがい致します。
- (19) 私立大学出身なので，国立大学の事務手続や，特に健康管理センターの対応など，非常に融通がきかないとイライラさせられるように感じることは少なくない。

7) 社会人大学院生について

- (20) 社会人として入学したが，現実には社会人が2年で修業するには不可能に近い実態である。講義のあり方，単位の取得・課題等，抜本的に社会人用に改めなければ，今後社会人入学は減るのではないか。社会人が勉強したいというニーズは社会的に大きくなってきているのだから，それに応えるためにも，新たな改革が必要ではないか。
- (21) 社会人入学しましたが，社会人への対応が少し不足しているように感じます。単位の取り方の工夫，また，先生方の横のつながりの中での学生への負担への配慮などを，お願いしたいと思います。自分の専門との関連授業での負担は，当然のことですが，専門外の授業も取らなくてはならず，そこでの負担は相当大きいものとなります。

8) その他

なし

第2章 大学院教育に係るヒアリング及び補充調査のまとめ

点検評価委員会大学院教育専門委員会においては、平成11年度から13年度にかけて、重点化による大学院改革が当初計画したように実効を挙げているかについて、各研究科のヒアリング及び補充調査を実施した。各研究科の重点化完了の年度はまちまちであり、理学研究科は平成5年度に開始、平成7年度に重点化を完了し、工学研究科は平成6年度から4年をかけて平成9年度に移行を完了している。農学研究科と医学研究科はそれぞれ、平成9年度と10年度に重点化を開始し、3年をかけて平成11年度と12年度に完了している。他の研究科は単年度で重点化し、獣医学研究科は平成7年度、薬学研究科は平成10年度に移行している。文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、歯学研究科、水産科学研究科は平成12年度に移行し、大学院重点化後まだ日が浅い。また、独立研究科として地球環境科学研究科が平成5年度に、国際広報メディア研究科が平成12年度に設置された。従って、このヒアリング・補充調査の内容は重点化後の新しい制度で既に修士課程、博士課程の卒業生を出している研究科、つまり、理学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科、獣医学研究科及び地球環境科学研究科とその他の各研究科では重点化が教育・研究の推進に実効を挙げているか否かの教官側の判断や受け取り方に違いがでることは当然予想されるところである。本報告書はそれらのファクターも考慮に入れ、補充調査を参考に各研究科の大学院重点化に関するヒアリングの結果をまとめたものである。

1. 大学院重点化に伴う以下の改革は、教育・研究の推進に実効をあげているか

(1) 大講座制の採用

理 学 研 究 科 一、二の専攻を除き、概ね大講座制が実効をあげている。

講座の縛りが無くなったことにより、研究・教育の推進に実効をあげている（数学専攻）。教授人事等で必ずしも継続性に重きを置かない、新しい方向の研究グループの選択肢が広がった（物理学専攻）。基本的に独立に運営されていた2学科が統合され、さらに旧体制をまったく引きずらない形で大講座化したため、2学科の融合が極めて効率良く実現された。研究においても旧学科の垣根が無くなったことで協力体制を築くことが容易になり、実のある共同研究が実現されている。また、人事についてもより柔軟な対応ができるようになった（化学専攻）。教育においては、講義、演習、実習を講座ごとの責任において実施するという体制をとっており、連帯責任を培うという点では従来より良くなっている。研究においても改善されている（生物科学専攻・生物学）。教育・研究の推進に顕著な実効を挙げている（生物科学専攻・高分子機能学）。人事選考やゼミ運営における柔軟性は増えた。また、若手教官が自由な発想で研究する雰囲気ができた。しかし一方で、教官が個人ごとにバラバラになる傾向があり、プロジェクト研究に向けたグループ制は組みにくくなった（地球惑星科学専攻・地球惑星物質科学）。これから発展が期待される分野をサポートできる（同専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 中講座制をとっているが、講座全体が一体化し機能している講座と、従前の小講座の枠内にとどまっている、あるいは中講座としてのまとまりに欠けている講座も存在する。現在、講座の再編を含めた研究科改組を検討中である。

獣医学研究科 研究科内横断的な研究が増加し、少しずつ実効をあげている。

工学研究科 小講座間にあった境界が取り払われ、新しい分野を生み、より自由な組織となり、教育においても、理念でもある大学院教育に重点を置いた双峰型教育の導入が図られ、学生のより自由な選択が可能となった。

薬学研究科 分野の壁を超えた研究交流が進んだ。また、その効果として共同研究が数件始まった。人事を行いやすくなった。

農学研究科 永年の小講座制の下で構築されていた「講座の壁」は確実に低くなっており、教育研究面での視野の拡大などメリットの方が多いと判断される。しかし、教授の代替りにより人事面での若干の混乱がみられるなど課題も残している。

医学研究科、歯学研究科 大講座制を導入してまだ1～2年しか経過しておらず、その効果を判断するまでには至っていない。

水産科学研究科 大型プロジェクトを立ち上げるために、隣接分野間での話し合いなどが、従来より多く行われるなど徐々に効果があがりつつある。しかし、目に見える効果は、もう少し時間が必要である。教育面では、国際的視点を持った人材を育成するという目標のための協力体制が出来上がりつつあり、韓国との拠点大学交流が動き出している。

文学研究科 平成7年から学部大講座化しており、効果をあげている。

教育学研究科 学際的な研究が増大している。

法学研究科 重点化以前より大講座となっているので、直接のメリットはない。

経済学研究科 大講座を単位として、教官複数人が大講座に所属する院生に対して特別研究を行っている。院生にはこの特別研究という授業を必修にしており、ここで修士、博士論文執筆のための指導を行っており、効果をあげている。

多くの研究科では、大講座制の採用は1) 講座の壁を超えた研究交流・共同研究 2) 人事の弾力性 3) 複数教官による院生指導等、実効を挙げているか、挙げつつあると言える。一方、従来の小講座制を打破できず、名ばかりの大講座も少なからず残っており、教官の意識改革や大講座一体となった教育・研究システム作りが必要である。

(2) 新分野・境界分野の設置

理学研究科 大講座制により、形の上で新分野の設置をしなくとも、新分野・境界分野の研究・教育は自由に行える環境が整っている。また、応用系分野、境界分野の研究者をスタッフとして積極的に採用している（数学専攻）。物理と生物の境界領域に相当する分野をより物理学に近い観点から研究する分野を設定した。天体のグループが11mの電波望遠鏡を国立天文台から本学に移設することに成功し、新たに天体観測グループをグループ内に設置した。本専攻に存在しない高エネルギー実験・原子核実験設置及び天体観測の強化のため、連携大学院構想を6年以上かけて提起し、実現に向けて鋭意検討中である（物理学専攻）。大講座自体、これまでと全く異なる視点（異種共存）で組織されており、重点化前に比べ、化学の多方面にわたる境界領域への対応が可能となっている（化学専攻）。

教官人事の際には常に検討する事項であり、重点化とは直接関連するものではない（生物科学専攻・生物学）。研究の多様性が進んだ反面、基礎的な内容の教育・研究が軽視されがちである（生物科学専攻・高分子機能学）。「太陽系物理学」，「地球化学」の新しい研究分野を作ったことで、学生のより広い知的関心を吸収できるようになった（地球惑星科学専攻・地球惑星物質科学）。「大気物理学」や「流体力学」といった新しい研究グループができた一方、従来まとまりがなかった研究グループがセミナー等で協力してやる動きもある（地球惑星科学専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 研究科発足時に旧来の研究分野にはない地球環境科学に適した新しい分野、境界分野の講座を設置したが、いずれも研究・教育の進展が著しい。

獣医学研究科 設置していない。

工 学 研 究 科 大学院重点化以前から比べて13の新分野・境界分野が設置された。これは新領域への展開が特段に必要とされている分野、あるいは社会的な要請が特に強い分野を選択したもので、大学院専担分野と位置づけている。

薬 学 研 究 科 計算有機化学分野の新設により有機化学，合成化学及び薬化学などの分野の境界領域の研究・教育が強化された。神経科学分野の新設で21世紀の生命科学の中心となる神経科学の研究・教育が強化された。臨床薬剤学分野の新設で医療薬学講座の中核となる臨床薬剤学，臨床薬理学が強化された。

医 学 研 究 科 新しく5分野を設置したが、教授を選任してからまだ1～2年しか経過しておらず、その効果を判断するまでには至っていない。

歯 学 研 究 科 高齢者への歯学としての対応が求められていることから、高齢者歯科学の研究分野を設置した。新しい研究分野であり、今後期待できる。

水産科学研究科 幅広い視野から新分野でのプロジェクトを積極的に考えるグループが一部に出てきており、効果をあげつつある。

文 学 研 究 科 新分野については今後の課題。

教育学研究科 教育社会環境論，発達神経心理学，臨床教育学，教育福祉学，公教育編成論，住民自己教育論，地域教育計画論，地域生涯学習 実践計画，生涯職業生活教育等を設置した。

法 学 研 究 科 新分野や学際的な分野は、旧教養教官ポスト，臨増ポストを活用して行っており、重点化との関連はない。また、新分野・先端的な分野の研究は、重点化と同時に再編された「高等法制教育研究センター」で実施している。

経済学研究科 設置していない。

各研究科において、時代に即した、更には未来を先取りした多彩な新分野，境界分野が設置されており、既に大きな業績を挙げている分野もあるが、設置後の経過期間が短く、未だ確かな効果の见えていない新分野も多い。

（3）教官組織の強化

理 学 研 究 科 教育面では、シラバス作成や時間割の分担などで大講座制とは異なる分野別の組織として、専攻内部で代数，幾何，解析，数理科学の4グループに教官を大別し、各分野に世話役を配することで学部，修士課程の教育を担っている。博士課程については、

更に専門分野に細分化された複数名からなる教官団を置いて、研究者を育てるためのより専門的な教育を行っている。この教官団は教官の希望により、学生に混乱を与えない配慮のもとに新設・廃止を行える（数学専攻）。教授・助教授層の充実が実を結び、研究及び教育に大きな成果をあげている（物理学専攻）。教授の定員増と重点化前と同じ規模の助手定員の確保により、研究・教育の推進には実効を上げた（化学専攻）。明瞭に教官の力量は上がっている（生物科学専攻・生物学）。教官組織の強化は見られない（生物科学専攻・高分子機能学）。小講座制の枠はゆるんだが、大講座制としてのまとまりができたとは言いがたい。むしろ個人個人がバラバラになる弊害も見られる（地球惑星科学専攻・地球惑星物質科学）。いつでも自由に研究グループを編成し直せる利点がある（地球惑星科学専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 基幹講座の教官組織は、基本的に教授2，助教授2，助手1の5名で構成されており、大学院専担講座の教育研究面は強化された。しかし、実験・実習を伴う全学教育を担当する講座では、当該講座の教授，助教授にかかる負担は大きい。

獣医学研究科 強化していない。

工学研究科 大講座制の利点の一つとして、定員の効率的運用が図られ、教官人事の自由度が増すとされているが、このメリットを生かすために完全な公募制（助手は除く）を導入した。これにより各界から、とりわけ民間から多くの人材を得ることができた。しかし、内部的には旧小講座体制に相当する「分野」体制を維持することとしているため、必ずしも効率的とは言いきれない面もある。

薬学研究科 重点化前の助手定員3名および教務職員定員7名全員（計10名）を振替え、教授定員2名，助教授定員8名（計10名）が増員した。これにより研究科・学部教育研究活動が強化された。昇任した教官はこのことにより教育・研究に励むきっかけとなった。

医学研究科 教授，助教授の数が増え、教育・研究に幅が出てきた。

歯学研究科 旧講座での教官配置，特に助手配置の流動化の検討ならびに、任期制導入の検討を開始している。

水産科学研究科 旧小講座単位の考え方が解消し、いろいろな視点から捉えることができる教官組織となりつつあることから、教官同士の協力体制が以前より弾力的になってきた。

文学研究科 強化は今後の課題。

教育学研究科 重点化に際して、定員に関して同数同格の原則が適用され、定員増，定員振替が認められず、基本的には教員組織の強化はない。しかし、大講座になったことにより、教官人事の弾力性が多少増大している。

法学研究科 特に従前と変わらない。

経済学研究科 従来の経済，経営の二専攻を経営と経済を融合した現代経済経営専攻とした結果、教官組織としては一定程度強化されている。

教官組織の強化は、1) 教官自身のモチベーションの増強 2) 教育・研究活動の強化といった実効を挙げている反面、3) 助手の減少に伴う実験・実習の負担増 4) 教育・研究への支障が挙げられている。3)，4)への対応として、学術振興会特別研究員の積極的な獲得や、大学院生のTA，RAとしての活用などが考えられる。

(4) 大学院専担分野の設置

理 学 研 究 科 全教官が、学部教育を兼担しており、専担分野の制度は実質的に機能していない。今後、教育・研究の改革の中で機能させることも考えられる（数学専攻）。当該分野の大学院の教育・研究の推進については、博士取得者平均1.6名／年とはるかに多く、効果をあげている（物理学専攻）。全教官が学部教育を兼担しており、専担分野の制度は実質的に機能していない（化学専攻）。全教官が、全学教育の責務を果たすことを要求されていること、また、理学部教育担当教官についても人材が十分でないことから大学院教育・研究のみに専念できない状況にある。これらの事情から、明瞭な効果が挙げられているとはいえない（生物科学専攻・生物学）。大学院の授業は専門的でレベルが高いので、学部の教育とのつながりが大切である。学部の授業科目の内容は様々で、それを満たすために専担教官も学部の教育に参加している。このことから専担分野の設置が特に効果を上げたようには見られない（生物科学専攻・高分子機能学）。全教官が学部を兼担しており、専担分野の制度は実質的に機能していない（地球惑星科学専攻・地球惑星物質科学）。若干の学部教育の負担があつたとしても学部学生を教育することが大学院教育にはるかに有効であることから、全教官が、学部を兼担している。このことから、専担分野の制度は実質的に機能していない（地球惑星科学専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 大学院専担講座では、教育面においては大学院生の教育に集中できるため、研究面においても相乗的な実効があがっている。

獣医学研究科 設置していない。

工 学 研 究 科 13の新分野を13の関連する大講座に置いている。設置時は、先端分野の研究と関連する教育に専念するため、学部教育には携わらないこととしていたが、学部・大学院一貫教育を充実するためには学部段階からの教育が重要と判断したことと、学部学生が、大学院に進学し、研究分野を選択する場合の情報量を多くすることも考え、学部教育も担当している。このため「専担」の制度が実質的に実行されていない。

薬 学 研 究 科 設置していない。

農 学 研 究 科 それぞれの専攻にとっての新分野の開拓、人事の流動化などメリットが多い。

医 学 研 究 科 設置していない。

歯 学 研 究 科 拡大講座に専担分野をひとつずつ設置しているが、教官が従来の研究をまだ継続しているので、十分な効果が見えていない。

水産科学研究科 専担教官を配置した目的は、新たな先端的、学際的分野を含め大学院中心の教育研究を展開することで、組織としての教育研究体制が今まで以上に充実されることである。現在、まだ移行経過期間であることから、従来から担当していた科目を一部担当しているが、今後、この負担が軽減されて大学院中心の体制が整うことで、本格的に専担分野を設置した目的に大きく近づくことが期待される。

文 学 研 究 科 これまで特に効果はない。

教育学研究科 発達神経心理学分野、障害児臨床心理学分野及び高等教育論分野を設置した。

法 学 研 究 科 初期の計画どおりインターンシップ制度、スクーリングによる教育、社会人のリカレント教育の充実に徐々に効果が現れている。

経済学研究科 講義の面で多少の効果をあげている。

大学院専担分野の設置の目的は新たな先端的、学際的分野で大学院中心の教育・研究を展開し、属する専攻の牽引車として機能させることであるが、ほとんどの研究科の専担分野教官が学部教育・全学教育に大きく関わっている現状では、機能していないと言える。専担分野設置の本来の目的に立ち帰って、学部教育義務の免除を考えるべきである。

(5) その他

先端的な特異的な内容の研究は増えたが、普遍的な現象に関する基礎的な研究は減った（理学研究科生物科学専攻・高分子機能学）。重点化され3年半が経過した。その実質的効果を自己点検し、さらに発展させたいと考えている（薬学研究科）。旧体制においてはカリキュラムの整備が不十分であったので、重点化を機会に抜本的に見直しを計った。共通講義を充実し、研究能力の幅を広げることを行っている。社会人はすべて開業医あるいは勤務医であるため、社会人学生に対しては、全く同じカリキュラムを夜間に開講している（歯学研究科）。この1年半、教官の意識改革を目指してきたので、一定の効果があると確信する。今後の統合再編などにむけて準備はできつつある（文学研究科）。

2. 大学院重点化に伴うデメリットはなにか、またデメリットを解消するための検討、例えば大学院の再改組等の検討について

理 学 研 究 科 大学院生の定員が大幅に増えたにもかかわらず、教官・事務スタッフの定員は増えなかった。このため、教育に係わる時間・事務量が著しく増加した。また、面積も増えなかったため、一時的にプレハブを建てて修士課程の研究室としている。この2点では、研究・教育環境は著しく悪化した。この現状は重点化後全く改善されていない。また、理系の実験室に当たる図書室の利用が増えたが、スペースの余裕がなくなり、近年中にパンクする可能性が高い。以上、改善が急務と考えている（数学専攻）。学生定員及び教官構成の変化に関連して問題点があると考えられる。現段階で大学院の再改組は考えていない（物理学専攻）。ユニットが大きくなった（研究室及び学生定員増）が、ハード面がまったく整備されていないため、実験等での安全確保が極めて困難になっている。また、デメリット解消という訳ではないが、より柔軟な教育・研究体制を築くために大学院の再改組も検討する価値があると考えている（化学専攻）。時代の要請に沿った再編の必要性は感じている。専攻内で議論はしている（生物科学専攻・生物学）。大学院生の意識が変化した。勉学・研究を楽しんで主体的にする学生に較べて、与えられた研究テーマを与えられた方法で無難にする学生が増える傾向がある。再改組等は検討されていない（生物科学専攻・高分子機能学）。重点化に伴い院生の数が増えたにもかかわらず研究教育のための空間が増えず、教官数は漸減していること。優れた研究を行うための研究組織を議論することなく組織を作ってしまったこと。組織の改組や統合に対応するための新たなルール作りが忙しく、研究・教育に費やす時間が減少したこと。研究・教育のための空間を増やすことについては、新棟が建つことである程度改善される見通しである。再改組については、専攻内のワーキンググループで検討しつつある（地球惑星科学専攻・地球惑星物

質科学)。助手等がないため、学生を日常的に気持ちの面でもサポートしながら研究を進めてくれる相手として、教授では難しい。また、ややもすると学生一人の交流する教官が一人だけということも見られ、学生の視野が狭くなってしまう。複数の教官と交流すべきではあるが、現状の教官構成では難しい(地球惑星科学専攻・地球物理学)。

地球環境科学研究科 大学院重点化に伴うデメリットを解消するためとは異なるが、組織の再編を含めた改組を検討中である。検討の内容は、ますます深刻化する地球環境問題の緊急課題に対応する研究の進展と人材の養成を図ることを目標としている。

獣医学研究科 デメリットは特にない。人獣共通新興・再興感染症の予防と制圧、動物生態系保全生物学分野の強化を図るため、専攻の新設を計画している。

工学研究科 制度上のデメリットはない。しかし、現状をさらに発展させるためには、次の点について、改革をさらに進める必要があると考える。

- ・高等学校の指導要領改訂による必須単位減少に伴う理科教科のレベル低下の懸念
- ・学部教育における工学教育のコース評価・認定制度であるJABEEやABETに対する対応の必要性
- ・大学院教育における主専修と副専修の明確な実施と学部一貫教育の確立

また、重点化が完了した専攻群(系)から外部評価を実施し、以下のような指摘を受けた。

- ・異なる分野間の研究協力の推進
- ・実質的双峰型大学院教育の推進
- ・活力維持のための組織改革への不断努力
- ・責任ある教育・研究体制の確立
- ・プロジェクト性の高い組織的研究や実用化に近い展開研究のための集中的な施設設備の設置

これらの指摘事項等を考慮しながら、先進的工学系教育研究の理念と目的を実現するための新しい組織のあり方は、以下のように要約される。

- ・科学技術の展開に対応できるダイナミックな教育・研究組織であること
- ・国際的・社会的に開かれた大学であること
- ・自立する教官・学生を基本とし、そのモビリティを最大限に発揮できること
- ・教官の教育・研究評価が透明で、学生の学習到達度評価が客観的であること

これらの理念等を積極的かつダイナミックに対応するため、教育と研究の相対的分立を基本構造とした新たな設置形態、すなわち研究組織として「研究院」と大学院レベルの教育組織として「学院」の設置を構想している。

薬学研究科 講義室、研究室が狭隘化し対策に苦慮している。しかし、現時点では、大きな再改組は考えていない。

農学研究科 本研究科の改革は、学部の学科組織と大学院の専攻・講座組織が直接対応せず、新たな組み替えが行われているところに特徴がある。そのことによって学問の発展に伴う教育・研究のより機能的なグループ化が可能となり、意識改革に貢献するところ大であった。しかしながら、管理運営面では新たな困難が生じている。すなわち、従来の組織は専攻がほぼ学科の積み上げであり、学科長会議と専攻主任会議の構成員は連携がスムーズにとれたが、改組後の専攻主任会議と学科長会議は、学部の学科組織と大学院の専

攻・講座組織が直接対応していないことから、情報伝達、合意形成において、疎密が生じる場合があった。この「ねじれ現象」を解消するために、現在、教授会の構成変更を含む管理運営規程の改正に取り組んでいるところである。「バイオサイエンス研究科構想」など、大学院の再改組も検討されているが、これは上述の問題とは別個の問題である。

医学研究科

- 1) 学部卒業生が全員国家試験（医師国家試験）を受験するので、学部教育をおろそかに出来ない。大学院生数増加に伴う教育負担の増加。
 - 2) 大学院教育形態の変更（man to man方式からセミプロ方式）。
 - 3) 学生数の増加に伴う研究室の狭隘化。
- なお、大学院の再改組は検討していない。

歯学研究科

- 1) 教育、診療等への対応の点から、組織が単に複雑になっただけという印象もある。
- 2) 講座、分野の名称が学部の裁量範囲になったので、より実行のある分野構成を検討する必要を感じている。
- 3) このために、教官の重点配置と配置の流動化実施を検討中である。
- 4) 入学定員42名は、やや負担である。数年先に臨床研修の必修化等、志望者の減少する要素が増加しつつある。ただし定員削減は検討に入っていない。

水産科学研究科 重点化後、約1年半が経過しているが、従来の小講座単位の研究体制が長く続いてきたので、その長所をカバーできない点がデメリットとして考えられる。例えば、研究費の予算執行単位をどのように考えるか、また、従来のように後継者を自前で育てることが難しくなっていることである。

再改組については、まだ、それを考える期間が経過していないので、現時点では検討していない。

文学研究科 文学研究科という学問の性質上、一般に大学院進学が前提となる文化的背景がないため、学生定員の大幅増には対処しづらい面があることは否定できない。今後、研究院・学院構想の中であらためて考えるべきであると思う。

教育学研究科

- 1) デメリットについて

大学院生の著しい定員増に伴う施設・設備（研究室、実験室、実習室、演習室等）の不足と教官の教育指導面での負担加重。
- 2) デメリットを解消するための検討状況

大学院教務委員会と研究計画委員会の合同委員会で教育指導面について検討、環境整備委員会で施設設備の不足について検討。

法学研究科 学生の増加により、研究テーマに応じた教員の指導教官制がとれなくなり（修士課程の学生について、特定の教員に学生の指導希望が偏るのを避けるために、指導教官制を廃止し、担当教官制とした）、教員と学生との関係が薄れた。研究科の再編は、法科大学院の設置にあわせて検討中。

経済学研究科 重点化に伴い、大学院生を従来以上に入学させている結果、全体的に学力低下は否めない。院生がクリアすべき諸課題、諸段階を明確にした指導を強化している。

大学院重点化に伴うデメリットについては、特に無いという意見もあるが、1) 学生定員の増加による教育・研究施設（研究室、実験室、実習室、演習室など）の狭隘化 2) 学生の能力低下 3) 教官の教育・研究指導の負担増が挙げられている。

重点化後大学院の再改組については、2, 3の研究科で検討されており、所謂、研究院・学院構想を中心に、学際的大学院の新設、新たな専攻の設置、法科大学院などが検討されている。

3. 重点化に伴う学生定員の増加は適切か、定員割れの場合、学生定員確保のための努力について（大学院重点化に伴う入学定員の変化と充足率は別表参照）

理 学 研 究 科 修士課程の定員はほぼ満たしているが、博士課程の定員を満たすのは困難な状況が続いている。博士課程については、受験者は定員に満たないが、試験の結果により不合格とすることもある。入試の方法は、修士課程では、数学についてのレポートを事前に提出の上、試験当日10分程度その内容について発表・説明させ、その質疑応答と内申書に基づいて結果を判定する。博士課程については、修士課程でオリジナルな結果を得たものについてはその内容を30分程度で発表させ、質疑応答の結果により合否を判定する。内部の修士課程の学生については、資格試験を課し、優秀な成績を修めたものについては、入学試験において博士進学後の研究計画、修士課程における研究の経過について質疑応答をして合否を判定している。

博士課程の定員割れの解消は難しい問題である。博士進学後の就職状況の厳しさから、優秀な学生に安易に進学を勧められない現状がある。一方で、研究者としての将来性に疑問を感じつつも、一定の能力が認められれば本人の意志・希望を尊重して進学させているのが現状である（数学専攻）。

修士の大学院生数は、学部学生の数进行数名上回る程度であり、他大学からの受験者が存在する状況からすれば、おおむね適切であると思われる。ただし、東大・京大・阪大等が大学院重点化に伴い院生数を大幅に増加したため、本専攻に来る学生がそれ等の大学に流れ、修士院生数の定員割れが最後の段階で生じる傾向がある。定員割れが生じた場合は、2次試験を実施して、定員を充足するように努めている。入学定員は、重点化前後で修士課程2.6倍、博士後期課程2.4倍に増加した。そのため、充足率は重点化後に減少しているが、学生の受入人数は平均して、修士課程約1.7倍、博士後期課程約1.5倍に増加している。受入学生数は大幅に増加していると言える。入試は、筆記試験、面接試験を行っている。博士後期課程の定員は、慢性的に満たされていない。その内訳は、理論系の素粒子・原子核・宇宙の研究室では常に充足されているが、物性系の理論及び実験の研究室は充足されていない。博士後期課程は、常に2次募集を実施している（物理学専攻）。

修士課程の充足率については、重点化前は140%前後で、重点化後は100~130%である。定員増により実情に近付いたと言える。博士課程のそれは重点化前は70%前後、重点化後は60~120%で、年度によりかなり差がある。入試倍率は重点化前の修士課程で~2.1倍、重点化後で1.4~1.8倍である。博士課程の倍率は重点化前で~0.8倍、重点化後で0.6~1.3倍である。入試の方法は、修士課程、博士課程ともに重点化前・後で特に変えていない。修士課程については定員数が実情に近付き、重点化は好ましい結果となっているが、博士課

程については定員増分が志望学生増分とはマッチしていない年がある。博士課程の充足率が低くなった年度での原因としては、教官の退官、移籍、社会のニーズ等いろいろな要素が絡んでいる。専攻としては学生募集のポスター等の広報活動を重点化後に始めている（化学専攻）。

修士課程の充足率、入試倍率、入試方法等は従来と基本的には変わっていない。博士課程の充足率は、重点化前と同様に低いままである。また年度によって大きく変動することもあり、これは学生の大学院研究に対する意識の違いを反映したものである。これとは別に、博士課程修了後の就職先の不足という国レベルの問題があり、充足率の改善を専攻レベルで図るということは不可能であろう。定員割れを少しでも避けるために、2次試験を実施している（生物科学専攻・生物学）。

重点化前の学生定員の充足率は修士課程で約140%、博士課程で約80%、重点化後のそれは修士課程で約130%、博士課程で約60%である。修士課程の入試倍率は重点化前で約1.2倍、重点化後では約1.1倍である。博士課程の入学希望者は重点化前後に係わらず、ほぼ全員が入学している。重点化前後で入試の方法は変わっていない。修士課程では専門科目と外国語の筆記試験と面接試験が課されている。博士課程では外国語の筆記試験、面接による学力試験、面接による研究発表が行なわれている。定員割れに対して、特別な努力はされていない（生物科学専攻・高分子機能学）。

入試は、重点化前は地質学鉱物学と地球物理学とで別々に行っていたが、重点化後は合同で行い、志望先もどちらへもいける制度にした。定員の増加は適切と思うが、それに見合う対策がなされていない。合格レベルを下げてまで定員を充足させる必要はないとの意見もある。定員割れについては、宣伝を更に強めることと、2次募集を積極的に行うことで対処している（地球惑星科学専攻・地球惑星物質科学）。

修士については入学者が重点化後に増加し、充足率も高いが、博士については厳しい。地球科学の場合は間口が広いとは言え、他大学も含めた学部学生の総人口がそれほど多くない。更に、他大学（東大など）の大学院重点化による学生定員の増加によって吸収され、入学希望者が減少している。博士課程については、学生が「研究者」を魅力的な職業として考えていないのが最大の問題と思う。入試については、外部からの受験がスムーズに行くように、特殊な内容の問題を出題しないことが重要と考える（地球惑星科学専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 学生定員については適切と思う。入試の方法は、学力試験（外国語、専門科目、口述試験）である。なお、地圏環境科学専攻「自然ガイド・環境保全指導者コース」受験者で、TOEIC500点、TOEFL470点以上の者は外国語（英語）の試験免除の制度がある。定員確保のための努力としては、平成13年度から、主として学部学生を対象とするオープンユニバシティを実施している。また、本研究科ホームページに、和文、英文の募集要項を掲載したり、各大学等の講座単位に募集要項の配布（約1000カ所）も行っている。

獣医学研究科 重点化に伴う学生定員の増加は適切と考える。充足率は60～120%で、重点化前後で大きな変化はない。入試倍率は0.6～1.7倍。入試は、1日目に専門2科目及び語学の筆記試験を、2日目に口頭試問方法を行い、両試験の成績を総合して合否を判定している。平成8年度から、10月入学者（留学生および社会人）を募集している。更に、充足率向

上のため、各講座がホームページで研究室（教室）を紹介している。

工 学 研 究 科 重点化に伴い、修士、博士後期課程ともに入学定員が増加したため、修士課程では、充足率に変化はないが、入学者数は増加している。博士後期課程については、充足率は重点化以前より高くなったものの100%には至っていない。入試方法は修士課程、博士後期課程とも、重点化前は外国語の「第1外国語（英語）」、「第2外国語（独語、仏語、露語のうち1科目選択）」の2科目を課していたが、重点化後は「外国語（英語）」のみとした。定員充足について、努力はしているものの未だ完全に充足していない。

薬 学 研 究 科 重点化前・後で、大きな変化は見られない。ただし、入学者は平成13年度増加の傾向が見られる。入試方法は、基本的に、修士課程では英語と専門科目（5科目）に関する筆記試験を行い、博士（後期）課程では修士論文についての発表と質疑を行っている。

農 学 研 究 科 修士課程の競争率が低減傾向にあり、また、博士後期課程の充足率が100%前後を揺れているが、特別の対策が必要かどうか、平成13年度の結果を見て考えることになる。

医 学 研 究 科 入学定員は適切だと思う。定員は、これまでは、ほぼ充足しており、学生の確保については、各教授等が積極的に研修医等にPRを行っている。入試の方法は、試験科目として「外国語（英語）」（2時間）は受験者全員に統一問題を課し、「専門科目」は志望専攻分野において口述（又は筆記）試験を実施し、2科目に合格した者について教授会で可否の判定を行う。

歯 学 研 究 科 42名の入学定員は、やや多すぎると思う。入試の前、後期化、社会人枠の採用等、充足に努力しているが、定員割れに関しては特に対処していない。

水産科学研究科 重点化後、修士課程および博士課程の学生定員はそれぞれ152%および148%増加した。修士課程では重点化後も受験生が増加傾向にあって充足率は高いが（約130%）、博士課程では定員確保のための努力の成果として、充足率が約100%という現状である。従って、博士課程は、他研究科、他大学はもとより、特に社会人特別選抜制度の導入および10月入学を可能とし、会社、公立の研究機関からの潜在的ニーズを掘り起こすことに努力している。

入試の方法は修士課程については、専門科目（2科目）、外国語、面接を課している。博士課程については英語、修士論文講演、口述試験を課している。社会人に対しては、社会人特別選抜を実施している（研究計画書を中心にした口述試験）。

文 学 研 究 科 学生定員増加は適切とは言えないであろう。北海道という地域的问题も大きい。しかし、ここ数年にかけて応募者が徐々に増加してきている。

教育学研究科 修士課程は現在のところ定員割れはないが、定員割れがあった場合は2次募集試験を行う。博士課程は定員割れをしているが、博士課程のレベルを落とさないように選考に当たっているために2次募集は行わない。

入試の方法は一般選抜として、学力試験と口述試験により総合的に判定している。社会人選抜は、口述試験により判定している。外国人留学生特別選抜は学力試験、日本語試験及び口述試験により総合的に判定している。

法 学 研 究 科 定員は、教官数との見合いで定まるため、ほぼ適当と考えている。修士課程については、定員割れはない。博士課程については、修士課程から進学する者について

は、一定の質を維持するためむやみに数を増やすことが出来ないのも、社会人や留学生の積極的受入れで対応している。

経済学研究科 重点化による定員の増加は多すぎると思われる。定員割れには2次募集を考えている。

国際広報メディア研究科 新設後2年度の定員充足率等は、平成12年度の充足率が126%、競争倍率が2.6倍となり、平成13年度の充足率は111%、競争倍率が3.9倍である。（修士課程学生のみ、博士課程は平成14年度開設）

入試方法は、筆答試験（外国語、日本語論述）及び面接（口述）試験による。

修士課程の定員充足率は、ほぼ全ての研究科が重点化後の定員増に対応して100%を超えている。一方、博士課程についてみると、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、工学研究科、獣医学研究科、及び理学研究科のうち数学専攻、物理専攻などは充足率の低さが目立ち問題である。優秀な学生を国内外に積極的に求めるべきであるが、更に、重点化による大幅な定員の増加に無理がある可能性もあり、博士課程の定員の是正を考慮する必要があるかも知れない。文学研究科、医学研究科、歯学研究科、薬学研究科、農学研究科、水産科学研究科、地球環境科学研究科、及び理学研究科のうち生物科学専攻、地球惑星科学専攻、化学専攻はほぼ定員に見合った博士課程充足率である。

4. 重点化前・後における教官構成の変化等、及び助手減少に伴う大学院生の役割と問題点について

重点化後の教官構成について、教授、助教授の数については、文系研究科（文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科）は、重点化前とほとんど変わりはない。また理・医系研究科（理学研究科、医学研究科、歯学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科、獣医学研究科、水産科学研究科）においては、助手定員の振替で5～10%程度増加している。このことから、助手の数は、文系研究科では重点化前後で変化はほとんどないが、理・医系研究科では、歯学研究科が3名の増加があったほかは、減少している。特に薬学研究科（12%減）、工学研究科（13%減）、医学研究科（18%減）、農学研究科（23%減）、獣医学研究科（28%減）、水産科学研究科（21%減）では、かなり減少している。これも、助手定員を上位ポストに振替えたためである。

これに対して、学術振興会特別研究員は、増加した研究科は医学研究科、獣医学研究科で、他の研究科では微増あるいは変化なしが大半を占めている。この特別研究員については、助手の業務を代行できる身分ではない（理学研究科生物科学専攻）、助手の減を補うという位置付けはしていない（農学研究科）、といった意見と、特別研究員が自由に行き先を選ぶのではなく、大学側が特別研究員を審査し受け入れるように改善すべき（理学研究科物理学専攻）といった意見も出されている。基本的には受入れ数が少なく、その数も変動が激しいことから、教育面で助手減を補完することは困難と考えられる。

また、助手減少に対する大学院生の役割としては、ほとんどの研究科で助手減に対応するため、大学院生のティーチングアシスタント（TA）、リサーチアシスタント（RA）としての活用が進められている反面、院生自身にとっては研究への負担となっていることを危

惧している研究科（法学研究科）もあれば、大学院生間にも競争があり、技術や知識の伝達に限度があることを指摘する研究科（医学研究科）もある。

助手減に対応するには、まず特別研究員の積極的な獲得が肝要であり、TA、RAに対して、安定した余裕のある予算措置が継続されることが望まれる。

5. 学位論文提出に至るまでの手続き、学位審査の方法、公開発表の有無、主査と副査の数と資格、学位取得者数等について

学位論文提出及び審査の手続については、基本的には学位論文提出者は指導教官（主査予定者）あて、学位論文、履歴・研究歴、論文目録、研究業績、学位論文内容の要旨等を提出、専攻で選出された主査及び副査予定者で論文提出者の資格審査を行う。資格ありと認められると、専攻長から研究科長あて、提出資格審査結果、審査委員（主査及び副査）推薦及び学位論文授与審議委員会の設置申請を行い、前述した学位論文他の資料等とともに教授会に諮り、受理を決定する。受理された論文は、規定の期間の審査を経て、課程博士の場合は、主査、副査により論文の試問、公開説明会、学位論文授与審議委員会等の審議を経て、教授会の投票にて学位授与の可否を決定する。論文博士の場合には、主査、副査による論文に関する試問の他に関連する学科目及び外国語の試験を課す。多くの研究科で受理及び審査委員の決定と学位授与の可否は教授会の決定事項となっている。

学位論文提出までの手続は、文学研究科では、博士一年次に「研究報告書Ⅰならびに研究論文Ⅰ」を、二年次に「研究報告書Ⅱならびに研究論文Ⅱ」を提出させ、論文指導委員会（指導教官中心）において、学位論文提出の可否を決めているし、法学研究科では博士一年次に研究計画書を提出させるとともに、関連研究会に出席させ、研究計画の概形を定めていく指導を行い、二年目において、関連研究会へ出席させ、そこで論文構想報告をさせ、当該研究課題が学会全体に持つ意味、論文執筆の準備水準、完成の可能性を評価し、可と判定された時論文執筆作業に進む。また、農学研究科では院生個人ごとに「研究指導委員会」を設け、多角的な指導を行うことにより論文作成能力の向上につなげている。公開発表については、全ての研究科で義務づけている。

また、主査・副査の数については、全研究科で本学学位規程に基づき、主査1名、副査2名以上となっており、副査2名は教授としている研究科が多いが、内1名は担当分野の助教授を可としている研究科もある。主査の資格は、本学規程では教授となっているが、理学研究科数学専攻からは、助教授、講師も加えてほしい旨の要望が出されている。他大学でも十分な教育・研究の実績がある助教授は主査になれる例があることから、本学でも将来検討する必要があると思われる。

次に、修士・博士の学位を取得する学生数の変化であるが、修士については、文学研究科、理学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科、水産科学研究科で増加しているが、教育学研究科ではわずかながら減少し、経済学研究科で減少傾向がみられるが、他は大きな変化はみられない。博士については文学研究科、経済学研究科、理学研究科（生物科学専攻）、医学研究科、工学研究科、農学研究科、獣医学研究科等は増加あるいは増加傾向で、教育学研究科、薬学研究科は減少傾向であり、他は大きな変化がなかった。

6. 自己点検評価及び外部評価の成果と改善策について

重点化された時期が、各研究科や同一研究科でも専攻によって異なっているため、完全にまとめることはできない。

理学研究科 全ての専攻で自己点検及び外部評価を実施している。数学専攻では、事務及び図書業務の改善をはかったが、必ずしもよい結果とはなっていない。物理学専攻では、実験系が不足との評価を受け、現在、連携大学院構想を提案し、概算要求で努力中である。また、教官選考において目に見えない形ではあるが良い効果がでている。また、化学専攻では、施設面が充分でないとの指摘を受け、改善の努力中である。地球惑星科学専攻では、専攻の一体化が不十分との指摘を受け、大学院入試の一本化や修士・博士論文発表と審査の一体化とカリキュラムについて一定の改善を行ったが、それ以上の一体化については今後の議論を待つ状態となっている。

地球環境科学研究科 地球環境科学に広く深く見識を持つ学生を多く送り出していないという指摘、反省に基づき、地球環境科学全般の教育を研究科全学生対象に実施することにした。また、地球環境科学は、本来学際的分野であることから、専攻を横断するプロジェクトを計画する組織（プロジェクトオフィス）を研究科内に設けた。

獣医学研究科 大学院教育と研究面では高い評価が得られたが、学部の臨床教育の充実・改善の必要性が指摘され、臨床教授制度、学外研修を実施すると共に、他大学との教育連携を検討している。また、大学院教育についても院生による授業評価の実施を検討中。

工学研究科 双峰型教育について評価委員から多くの意見が出されたが、教育効果の判断にはさらに継続して観察、検討することとなった。また、より柔軟な組織にすべきとの評価については、研究科内で昨年一年かけて検討を行い、研究院・学院構想をまとめ、現在改組に向けて努力中である。

薬学研究科 研究科横断的講義が履修できるようにし、院生が広く自由な履修・単位取得を可能にした。研究科のカリキュラムを改訂し、院生サイドに立った特論が行われ、演習もより高密度とした。

医学研究科 外部評価が教官の意識改革に大きな影響を与えた。また、指摘事項であった学術振興会特別研究員の増加については、申請数を増やした。

歯学研究科 外部評価の指摘により、組織改革と座学を見直し、カリキュラムの大改訂を行った。さらに、附属病院における実習を選択科目として設定し、臨床系の充実を計った。

水産科学研究科 平成11年度に外部点検評価を実施し、これを大学院重点化に向けての改革案検討に組み込んだ。その主な改善点は以下の10項目である。

- 1) 4専攻から2専攻への改組、大講座制への移行
- 2) フィールドセンターの設置
- 3) 国際交流の活性化
- 4) 博士前期課程へのコース制の導入（先端教育コース、広領域教育コース）
- 5) セメスター制の導入
- 6) 博士後期課程での社会人特別選抜および10月入学の実施
- 7) 大学院学生に対する修学指導体制の充実

8) カリキュラム充実のためのシラバスの充実

9) 教育・研究機能の充実のための学部単位のリファクタリング・ディベロップメント (FD) の実施

10) 社会人大学院生に対する14条特例の適用

文学研究科 大学評価・学位授与機構の評価に対応すべく、評価問題検討委員会を立ち上げ準備を進めている。

教育学研究科 外部点検評価として3年に一度の割合で有識者懇談会を実施し、その報告書をまとめて学内外に配布している。また自己点検評価は「教育と研究の報告」として3年に一度作成している。

法学研究科 法曹養成に向けた努力を従前より指摘されており、法科大学院の設置と教育内容の改善の検討を進めている。

経済学研究科 COEを地域経済活性化に貢献させるべきと指摘され、それが高度専門職業人の養成のための専門大学院構想へと繋がっている。

重点化されてまだ日も浅い研究科が多くあることから、外部評価を受けていない研究科もあり、具体的な改善がなされていない研究科もある。しかし、外部評価を受けた研究科では改善に向けての努力を着実に実行していると判断される。

7. 大学院重点化に伴うハード面の整備について

ハード面が整備され、改善されている研究科は、薬学、獣医学、水産科学、国際広報メディア研究科、及び工学研究科と理学研究科の一部である。

文系研究科（文学、教育学、法学、経済学）、農学研究科、及び工学研究科の一部では改善の計画がある。しかし、文系研究科は文系合同教育研究棟の新築により改善される見込みであるが、この場合でも大学院生が急増しているため、部分的改善しか見込まれないものとなっている。

また、医学・歯学の合同教育研究施設と地球環境科学研究科の新棟は、要求しているところである。理学研究科の一部専攻は、まだまだ問題があり、改善がされていないと考えられている。

以上の結果から、① 院生用の施設が整備され、改善がなされているもの ② 新築によって多少改善される見込みのあるもの ③ 概算要求によって改善を実現しようとしているもの ④ 改善されていないとするもの 以上の4分類となっている。

全体として改善されているとはいえ、大学院生数の増加に比して十分であるとは言えない。改善見込みがある場合も、その度合いは不確かであり、各研究科における整備状況、改善の度合いは不均等である。大学院生数との相対的關係から施設の整備面が考慮されなければならないであろう。

8. 留学生について

(1) 留学生受入れに関する努力の有無

留学生の受入れに関しては、全研究科が一様に努力しているが、特別選抜を実施しているのは教育学、法学、経済学、医学、歯学、薬学、工学、水産科学、国際広報メディア研究科である。受入れに際して、国際交流振興基金の設置による奨学金等の資金援助（法学研究科）、英語による特別コースの設置（工学研究科、農学研究科・農芸化学）という特別な取組も見られる。また、英文の募集要項のホームページへの掲載（工学、農学、地球環境科学研究科）などの留学生への配慮も見られる。しかし、特別コースを設置している研究科は、その他の研究科とその取組に大きな開きのあることは否めない。

（２）私費、国費留学生の割合

私費留学生と国費留学生の受入れの比率をみると、私費対国費、1対2が理学、農学、水産科学研究科、1対1が獣医学、地球環境科学研究科、2対1が文学、歯学研究科、3対1が経済学、薬学、工学研究科、4対1が医学研究科、6対1以上が教育学、法学、国際広報メディア研究科となっている。

一般的に理系では国費留学生が大きな比重を占め、文系では私費留学生が大きな比重を占めていると言える。理系では私費留学生、文系では国費留学生の受入れが遅れているということになる。

（３）留学生の指導の状況、特別授業などの配慮の有無

指導教官の努力に基本的に委ねている研究科が多い。理学、医学、工学、農学、獣医学、水産科学研究科では、留学生担当教官が配置されており、工学、農学、獣医学、水産科学研究科では留学生相談室が設置され、研究科として配慮している。法学研究科では特に外国人助教授1、外国人講師1、外国人助手1というような特別な配慮がなされている。

留学生との交流を深める努力として交流会（法学、農学、地球環境科学研究科）がもたれたり、一泊研修（農学研究科）がもたれたりしている。

特別授業としては工学研究科の特別補講「工業基礎日本語」が見られる。以上の努力とは別に基本的には教官個人の努力に委ねられているというのが圧倒的な現実である。

9. 社会人学生について

（１）社会人学生受入れの努力

社会人特別選抜を実施している研究科は、修士課程では、文学、教育学、法学、経済学、地球環境科学、国際広報メディア研究科であり、博士後期課程では、文学、法学、理学、医学、歯学、工学、農学、獣医学、水産科学、地球環境科学研究科である。薬学研究科においては、修士課程・博士後期課程とも実施されていない。また、法学研究科においては、札幌市や北海道町村会と提携し、市町村職員を修士課程へ入学させる特殊な試みもある。

（２）社会人学生の指導の状況、特別の配慮

社会人への配慮として大学院設置基準第14条の特例を適用し、夜間、休日を利用して授業をしている研究科は、修士課程では、文学、教育学、経済学、農学、国際広報メディア

研究科であり、博士後期課程では、文学、教育学、経済学、医学、歯学、農学、水産科学研究科である。他に、計画中であるのが地球環境科学研究科である。法学、理学、薬学、工学、獣医学研究科では、そのような配慮は行われておらず、社会人教育に対する不均等性が見られる。

10. その他

(1) 教育組織の充実と課題（外部の研究機関との連携など）

理 学 研 究 科 科学研究費を用いた共同研究のほとんどが、外部研究機関との共同研究である。また、webを利用した新しい試みとして先端研究のための数学センター（Mathematical Center for Advanced Study）（世話人：儀我教授）を立ち上げている（数学専攻）。教育研究を充実するために、本専攻にない高エネルギー実験・原子核実験、宇宙観測に関連して、高エネルギー加速器研究機構、宇宙線研究所、国立天文台との連携大学院構想を6年前から提案している。他の旧帝大の物理専攻と比較してその規模が小さいために研究グループの分野に偏りがあり、学生の研究分野の要望に十分応えられていない。また、大学全体のサイズに対して、物理専攻のサイズが小さいため、全学教育及び学部教育上の義務が相対的に多くなっており、大学院教育との関連でも、とりわけ人員の確保が必要である（物理学専攻）。教育面での外部研究機関との連携について重点化前後で特別な変化は無い（化学専攻）。外部の研究機関との連携による教育組織の充実を試みていない。他部局所属の教官を指導教官に採用すること等を考えているが、本学では複数大学院担当を許可していないのは問題である。学生に多くの分野で教育の機会を与えるためにも、是非許可する方向で検討すべきである（生物科学専攻・生物学）。共同観測など外部と交流して研究する機会が多い。大学院生の学会参加は教育面で重要である（地球惑星科学専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 外部の研究機関との連携などについて検討を進めている。

獣医学研究科 特にない。

工 学 研 究 科 大学院修了後、企業及び大学等の研究・教育機関等に就職し、学生の能力評価が外部で行われることになる。それが卒業生、修了生の次の就職にも強く影響する。その点からみると、現在の教育組織で大きな問題は生じていない。しかしながら、教養教育、学部教育それに大学院教育があるため（社会工学系では、英語コースの教育）、教官の教育に対する負担が大きくなっている。大学院重点化を「より高度な研究の推進」と考えると教育の負担が大きすぎる。

薬 学 研 究 科 学生の研究課題の必要に応じて、学内外の他研究科、他研究室に指導委託を行い、また他研究科、他研究室から数名を受け入れている。今後もさらに発展させたい。

農 学 研 究 科 平成14年度から応用生命科学専攻分子生命科学講座に連携研究機関から客員教官を迎え、新たな分野を設置する予定である。

医 学 研 究 科 道内の他の（医科）大学教官との交流を図る。

歯 学 研 究 科 旧課程時代からの他部局との連携を継続している。他大学との連携も増加しつつある。

水産科学研究科 水産科学分野の高度教育研究はますます重要性を増すが、それらに対応

するためには大学の教育研究機関だけで全てを解決できるものではない。従って、大学以外の研究機関との連携は常に考える必要がある。特に、本研究科で不足している分野に関して大学院レベルの教育ができる人材の活用や特殊な装置機器類の活用といった面からも今後の検討課題である。

文学研究科 博物館・美術館との連携による教育が行われている。

教育学研究科 検討中。

法学研究科 これまで、厚生省、大蔵省、環境庁、自治省、日本銀行などから教員（任期2－3年）を迎えており、外部機関との連携には積極的に取り組んできた。また、裁判所と連携し、現職の裁判官を客員教授として迎えている。現在、法科大学院設置にむけ、札幌弁護士会等との連携を具体的に検討している。

経済学研究科 外部研究機関との連携講座を考えている。

国際広報メディア研究科 野村総合研究所と連携講座を設けている。また、読売新聞社、電通と提携して実務経験者スタッフによる特別講義を開講している。

各研究科とも、大学院教育について外部関連機関との連携を実践しているが、更なる拡大、充実が望まれる。

（2）論文博士の必要性

理学研究科 旧課程で博士課程を中退した人が残っているので、論文博士の必要性はあると考える（数学専攻）。論文博士は数年に1件程のペースで要望があり、これからも必要であるとする（物理学専攻）。論文博士は重点化後も申請されている。大学院に籍を置かなくても学位が取れる制度について、議論がないわけではないが、一概に決め付けられないのが現状と考える（化学専攻）。正規の大学院で博士取得の機会を失った研究者に、学位取得の機会を与えることは必要であるとする。これは大学の使命とも言える（生物学専攻・生物学）。優れた研究をし、社会的に活躍している研究者には必要である（生物学専攻・高分子機能学）。現状では1, 2年に1件程の申請がある（地球惑星科学専攻・地球惑星物質科学）。なかなか長期間の休職等ができない日本の社会制度では廃止はしない方がよい（地球惑星科学専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 必要である。

獣医学研究科 必要性を認める。

工学研究科 社会人特別選抜等による博士後期課程への入学も可能となったため、将来的には論文博士の必要性はなくなることと思うが、現在は工学研究科においても毎年30件以上の論文提出があるため、当面は論文博士の必要性はある。

薬学研究科 社会人入学を制度として来年度スタートさせる予定である。今後この制度が機能すれば論文博士の必要性は次第に薄れると考えられる。

農学研究科 当面は必要であるが、将来的には社会人入学の制度に吸収していくことが望ましい。

医学研究科 数は少なくなるが、廃止はしない。

歯学研究科 研究生、臨床研究生あるいはその他の資格で研究室に在籍している若手研究者に学位を授与する制度として必要である。

水産科学研究科 社会人入学による課程に入ることが望ましいが、全ての人がそのようなことが可能とはいえず、論文博士の途を閉ざすことはできない。

文学研究科 伝統的に文学研究科の領域では論文博士が中心になっており、今後も需要は大きい。

教育学研究科 教育学という学問の性格上、研究分野によっては博士後期課程3年以内で学位を取得することが困難な場合があり、論文博士は必要である。また、大学院修士修了生（他大学大学院修了生を含む）の学問研究への動機付けを高めるためにも論文博士の制度が必要である。

法学研究科 博士課程の途中で就職が定まり、就職後に論文を完成させる場合が多いため、論文博士については、強い需要がある。

経済学研究科 博士後期課程3年での執筆は困難なためまだまだ必要である。

国際広報メディア研究科 必要である。

社会人入学制度が定着すれば、論文博士の数は減少すると思われる。しかし、現在、研究科によっては、論文博士が主の研究科もあり、論文博士の制度は残すべきであろう。

（3）学部教育と大学院教育の継続性について、特に学部学生が大学院の講義を受講し、大学院入学後、それを既修得単位として認める措置、また、学部の講義を何単位まで大学院の単位として認めるか

理学研究科 学部生が大学院の単位をとる制度はない。今後の教育体制の改革の中では検討に値する（数学専攻）。学部学生、特に4年生が大学院講義（特に特別講義）を受講し、大学院学生が学部の講義（特に特別講義）を受講し単位として認められるように想定されている。ただ現実問題としては、ケースバイケースでの対応となっており、互換単位は数単位に留まる（物理学専攻）。現在は大学院講義と学部講義について、お互いに振替が可能な単位は与えられていない。それぞれのカリキュラムで完全に独立した形になっているが、将来飛び級等を考えた場合、両方を兼ねる講義を開講する可能性もある（化学専攻）。学部単位と大学院単位を相互に認める措置はとっていない（生物学専攻・生物学）。既修単位の認定措置はない。学部の講義の単位を大学院の単位として認めていない（生物学専攻・高分子機能）。カリキュラムを新しくし、学部の講義でもできるだけ単位として認定できるようにした。制限も特に設けず、指導教官の判断に任せることとした（地球惑星科学専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 現在はないが、今後の検討事項である。

獣医学研究科 教務委員会で検討している。

工学研究科 学部学生が大学院の講義を受講し、大学院入学後、既修得単位として認める措置はとっていない。

薬学研究科 現時点では、学部学生の大学院講義の履修、単位認定は行っていない。また学部講義を大学院講義として認めることはしていない。しかし、今後検討する余地がある。

農学研究科 なし

医学研究科 現在検討中

歯学研究科 博士課程における講義と、学部における講義は内容が全く異なる。従って、単位の互換性の必要は認められない。

水産科学研究科 現在のところ設問のようなシステムをまだ導入していない。

文学研究科 指導として、両方向の参加はこれまでも行われている。学部学生の大学院授業受講の単位認定はないが、大学院生の学部授業単位認定は8単位まで認められている。

教育学研究科 現在検討中

法学研究科 学部4年目学生について、大学院との合併科目（指定されたもの）に限り大学院入学後、既修得単位として認めている。また、学部の授業科目を原則として4単位まで大学院の単位として認めている。

経済学研究科 既修得単位として認める措置はない。学部講義は8単位まで可能である。

国際広報メディア研究科 既習得単位認定制度を設け、他の研究科で修得した単位を認めている（本学大学院で修得した単位以外のものについては、修士課程・博士課程を通して10単位まで）。また、学部の講義についても修士課程の単位とすることができるが、上限に関しては規定していない。

学部教育と大学院教育の相互乗り入れは、本学では未だ充分には定着しておらず、文学研究科、法学研究科、経済学研究科、国際広報メディア研究科で部分的に実施されている。この制度は、今後、各研究科で充分検討すべきであり、更には、研究科間での教育の互換性を柔軟に進めるべきであろう。

（４）カウンセリング体制（フィジカルとメンタル）について

理学研究科 指導教官、教室主任、学生委員などが随時学生の相談に乗っている。教室事務においても必要な相談には応じている（数学専攻）。大学院生のフィジカル、メンタルのカウンセリングは、本専攻としては特別に置いていない（物理学専攻）。理科系学部（研究科）では毎日実験等で研究室に所属するため、指導教官とは常に接しており、主なカウンセリングは教官となっている（化学専攻）。体制は整備されていない（生物学専攻・生物学）。ありません（生物学専攻・高分子機能学）。体制としてはなく、指導教官が個別に話し合っている（地球惑星科学専攻・地球惑星物質科学）。「やる気がなくなる」大学院生は増えてきており、ひとつには目的意識がなく大学院に進学する学生が多いという要素があると思う。しかし、「定員の充足率」を要求される現状ではそのような学生も合格させる必要に迫られ、各教官とも悩みが多く、個々に努力している。しかし、やはりカウンセリングなどは専門家に委ねた方が効果のあることもあり、大学全体でサポート、そして学生が積極的に利用できる体制を作ってほしい（地球惑星科学専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 研究科長を窓口とする学生相談室を設置

獣医学研究科 体制はない。各指導教官と留学生担当教官が目配りに努めている。

工学研究科 指導教官がその任に当たっているため、特にそのための体制はとっていない。

薬学研究科 学生・留学生相談室を設け、その中で大学院生の相談を受け付ける計画をしている。現時点では大学院生の所属する研究室の指導教官がカウンセリングにあたって

いる。

農学研究科 研究科としての特別な体制はない。

医学研究科 教務主任が担当している。

歯学研究科 体制はないが、指導教官が必要に応じて個々に対応している。

水産科学研究科 特に大学院生のために体制を整えていないが、学部学生と同様の体制で対応している。通常の疾病には厚生会館に医務室があり、看護婦1名が常駐している。医師は週2回（火・木）来学し、診察・健康相談に応じている。メンタルな相談は学生委員会委員、指導教官があたっている。留学生については留学生専門教官が対応している。

文学研究科 今年度から、全教官のオフィス・アワーを正式に設け、学生に対するカウンセリングとして有効に機能している。

教育学研究科 大学院教務委員会及び学生委員会により対応

法学研究科 専門職員は置いていないが、とくに女子学生の増加に対応して、女性教員による相談体制を重視している。また、学生相談室を事務室の前に設置し、個別相談のスペースとして利用している。

経済学研究科 研究科内の学生委員会が担当している。

国際広報メディア研究科 学生それぞれに、指導教官以外にアドバイザーをつけて対応している。

各研究科とも、特別なメンタル・フィジカルカウンセリングの体制は取っていないが、各々指導教官、教務主任教官、女子学生のための女性教官による相談体制、全教官のオフィス・アワーの設定など、かなり木目細かく対応している。

（５）就職指導について

理学研究科 指導教官・就職担当副主任が就職に関する指導を行っている（数学専攻）。就職指導教官を置き企業からの対応等について一括して指導を行っている。その結果本年も学部学生3人を含む修士・博士合わせて33人のほぼ全員の就職が決定している（物理学専攻）。毎日接する指導教官が相談役になっている。この形は極めてスムーズに機能している（化学専攻）。修士課程修了者までは学生本人に任せている。博士課程修了者に対しては、教官から積極的に就職情報を流す努力が認められる（生物学専攻・生物学）。学生の自主性に任せている（生物学専攻・高分子機能学）。博士については、指導教官が個別に指導。修士については、特に指導はしていない（地球惑星科学専攻・地球惑星物質科学）。研究職については、個々に努力している。一般企業への就職については、個人的な関係に頼らざるを得ない面が大きい（地球惑星科学専攻・地球物理学）。

地球環境科学研究科 専攻長及び指導教官が対応

獣医学研究科 指導教官と就職担当委員が対応

工学研究科 各専攻に就職担当教官（10専攻に14名）を置き、企業等の窓口となり、学生の就職相談及び指導を行っている。学生は、就職担当教官からの企業等の紹介、就職情報資料室の利用、各専攻等からのインターネット、掲示板による資料収集等で希望する企業等を選択し、就職担当教官に相談後入社試験を受ける。

薬学研究科 研究科・学部主催で毎年4月中旬に就職ガイダンスを1時間程度行ってい

る。講師3名が説明するこのガイダンスに就職希望の大学院生も参加している。また指導教官もマンツーマンの指導を行っている。

農学研究科 今のところ、各講座、教員の努力に任されているが、何らかの指導体制が必要になってくるであろう。

医学研究科 指導教官が個々のケースで行っている。

歯学研究科 特に必要としないので実施していない。

水産科学研究科 就職支援連絡会議を設置して、就職に関する技術的指導（外来講師等による就職ガイダンス等）を通じ、就職活動に関する指導・助言を行っている。

文学研究科 就職指導は個別に行われている。また、進路希望に対して、指導教官が効果的なアドバイスを与えている。

教育学研究科 個別的には指導しているが、組織的な指導はない。

法学研究科 公務員志望、法曹志望の者については、官庁、法曹界との連絡をとり、情報提供、訪問先の紹介などを実施している。また、平成10年度から研究科独自のインターンシップ制度を設け、今年度は大学院学生を6名派遣し、民間企業との連携をとっている。

経済学研究科 教官個人の努力に依存している。

国際広報メディア研究科 指導教官に任せているが、今後、就職委員会を設けることを検討している。なお、学生の自主的活動として、社会人学生による就職ガイダンスのほか、就職研究会が組織され、活発な活動を行っている。

就職指導については、各研究科により状況は異なるが、就職担当教官の設置、就職ガイダンスの開催、就職支援連絡会議の設置、指導教官による個人的努力などで対応している。

(別表)

大学院重点化に伴う入学定員の変化と充足率 1

研究科	年 度	定 員	受験者数	入学者数	倍率(受験者数/定員)	充足率(%)
文 学	(修士)					
	11	50	170	46	3.40	92.0
	12	118	173	111	1.47	94.1
	13	118	178	103	1.51	87.3
	(博士)					
	11	25	37	22	1.48	88.0
	12	59	59	50	1.00	84.7
	13	59	65	47	1.10	79.7
教育学	(修士)					
	11	25	57	20	2.28	80.0
	12	45	75	47	1.67	104.4
	13	45	88	48	1.96	106.7
	(博士)					
	11	11	24	19	2.18	172.7
	12	21	18	16	0.86	76.2
	13	21	22	16	1.05	76.2
法 学	(修士)					
	11	38	89	37	2.34	97.4
	12	58	178	60	3.07	103.4
	13	58	197	60	3.40	103.4
	(博士)					
	11	18	16	8	0.89	44.4
	12	29	13	9	0.45	31.0
	13	29	25	17	0.86	58.6
経済学	(修士)					
	11	32	76	29	2.38	90.6
	12	52	142	71	2.73	136.5
	13	52	113	66	2.17	126.9
	(博士)					
	11	17	19	14	1.12	82.4
	12	26	13	7	0.50	26.9
	13	26	16	12	0.62	46.2

大学院重点化に伴う入学定員の変化と充足率 2

研究科	年 度	定 員	受験者数	入学者数	倍率(受験者数/定員)	充足率(%)
理学 数学専攻	(修士)					
	4	16	20	11	1.25	68.8
	5	16	29	14	1.81	87.5
	6	16	30	26	1.88	162.5
	7	46	71	45	1.54	97.8
	8	46	63	43	1.37	93.5
	9	46	79	42	1.72	91.3
	10	46	67	44	1.46	95.7
	11	46	65	39	1.41	84.8
	12	46	65	43	1.41	93.5
	13	46	55	46	1.20	100.0
	(博士)					
	4	8	6	5	0.75	62.5
	5	8	6	6	0.75	75.0
	6	8	8	8	1.00	100.0
	7	22	16	15	0.73	68.2
	8	22	8	7	0.36	31.8
	9	22	14	10	0.64	45.5
	10	22	10	6	0.45	27.3
	11	22	15	13	0.68	59.1
	12	22	16	12	0.73	54.5
	13	22	7	6	0.32	27.3
理学 物理学専攻	(修士)					
	4	15	67	27	4.47	180.0
	5	15	58	25	3.87	166.7
	6	39	58	43	1.49	110.3
	7	39	65	42	1.67	107.7
	8	39	62	33	1.59	84.6
	9	39	67	41	1.72	105.1
	10	39	66	34	1.69	87.2
	11	39	54	37	1.38	94.9
	12	39	54	38	1.38	97.4
	13	39	57	37	1.46	94.9
	(博士)					
	4	8	13	13	1.63	162.5
	5	8	11	10	1.38	125.0
	6	19	10	10	0.53	52.6
	7	19	18	16	0.95	84.2
	8	19	22	21	1.16	110.5
	9	19	16	15	0.84	78.9
	10	19	7	7	0.37	36.8
	11	19	15	15	0.79	78.9
	12	19	16	15	0.84	78.9
	13	19	12	11	0.63	57.9

大学院重点化に伴う入学定員の変化と充足率 3

研究科	年 度	定 員	受験者数	入学者数	倍率(受験者数／定員)	充足率(%)
理学 化学専攻	(修士)					
	4	40	91	53	2.28	132.5
	5	35	74	57	2.11	162.9
	6	35	73	50	2.09	142.9
	7	48	87	55	1.81	114.6
	8	48	88	62	1.83	129.2
	9	48	68	48	1.42	100.0
	10	48	82	61	1.71	127.1
	11	48	78	57	1.63	118.8
	12	48	70	51	1.46	106.3
	13	48	69	54	1.44	112.5
	(博士)					
	4	25	19	18	0.76	72.0
	5	20	16	16	0.80	80.0
	6	20	12	12	0.60	60.0
	7	23	23	21	1.00	91.3
	8	23	25	24	1.09	104.3
	9	23	24	22	1.04	95.7
	10	23	31	29	1.35	126.1
	11	23	19	19	0.83	82.6
	12	23	25	22	1.09	95.7
	13	23	14	13	0.61	56.5
理学 生物科学専攻	(修士)					
	4	22	60	40	2.73	181.8
	5	44	63	51	1.43	115.9
	6	44	67	52	1.52	118.2
	7	44	90	50	2.05	113.6
	8	44	86	50	1.95	113.6
	9	44	99	62	2.25	140.9
	10	44	79	46	1.80	104.5
	11	44	90	56	2.05	127.3
	12	44	86	52	1.95	118.2
	13	44	80	54	1.82	122.7
	(博士)					
	4	11	20	19	1.82	172.7
	5	21	15	15	0.71	71.4
	6	21	20	18	0.95	85.7
	7	21	30	26	1.43	123.8
	8	21	30	27	1.43	128.6
	9	21	29	27	1.38	128.6
	10	21	26	23	1.24	109.5
	11	21	33	30	1.57	142.9
	12	21	21	19	1.00	90.5
	13	21	27	27	1.29	128.6

大学院重点化に伴う入学定員の変化と充足率 4

研究科	年 度	定 員	受験者数	入学者数	倍率(受験者数/定員)	充足率(%)
理学 地球惑星科学専攻	(修士)					
	4	24	47	28	1.96	116.7
	5	24	58	42	2.42	175.0
	6	38	43	29	1.13	76.3
	7	38	49	32	1.29	84.2
	8	38	64	42	1.68	110.5
	9	38	49	33	1.29	86.8
	10	38	60	37	1.58	97.4
	11	38	55	37	1.45	97.4
	12	38	58	35	1.53	92.1
	13	38	68	28	1.79	73.7
	(博士)					
	4	14	15	13	1.07	92.9
	5	14	16	14	1.14	100.0
	6	18	21	19	1.17	105.6
	7	18	25	22	1.39	122.2
	8	18	18	13	1.00	72.2
	9	18	17	16	0.94	88.9
	10	18	18	15	1.00	83.3
	11	18	9	9	0.50	50.0
	12	18	18	15	1.00	83.3
	13	18	21	13	1.17	72.2
医 学	9	62	91	89	1.47	143.5
	10	73	78	78	1.07	106.8
	11	93	117	106	1.26	114.0
	12	110	111	103	1.01	93.6
	13	110	137	137	1.25	124.5
歯 学	9	32	27	26	0.84	81.3
	10	32	35	33	1.09	103.1
	11	32	39	38	1.22	118.8
	12	42	45	40	1.07	95.2
	13	42	44	40	1.05	95.2
薬 学	(修士)					
	7	26	86	51	3.31	196.2
	8	26	95	52	3.65	200.0
	9	26	93	55	3.58	211.5
	10	43	98	53	2.28	123.3
	11	43	97	59	2.26	137.2
	12	43	93	55	2.16	127.9
	13	43	114	77	2.65	179.1
	(博士)					
	7	13	15	15	1.15	115.4
	8	13	20	18	1.54	138.5
	9	13	18	16	1.38	123.1
	10	20	15	15	0.75	75.0
	11	20	23	22	1.15	110.0
	12	20	26	25	1.30	125.0
	13	20	34	32	1.70	160.0

大学院重点化に伴う入学定員の変化と充足率 5

研究科	年 度	定 員	受験者数	入学者数	倍率(受験者数／定員)	充足率(%)
工学 材 料・化 学 系	(修士)					
	5	44	97	66	2.20	150.0
	6	64	110	89	1.72	139.1
	7	64	112	83	1.75	129.7
	8	64	136	102	2.13	159.4
	9	64	137	98	2.14	153.1
	10	64	125	102	1.95	159.4
	11	64	143	111	2.23	173.4
	12	64	139	100	2.17	156.3
	13	64	136	107	2.13	167.2
	(博士)					
	5	18	6	6	0.33	33.3
	6	30	17	17	0.57	56.7
	7	30	13	13	0.43	43.3
	8	30	20	19	0.67	63.3
	9	30	18	18	0.60	60.0
	10	30	20	19	0.67	63.3
	11	30	13	13	0.43	43.3
	12	30	20	20	0.67	66.7
	13	30	15	14	0.50	46.7
工学 情報エレクトロニクス 系	(修士)					
	5	87	206	156	2.37	179.3
	6	87	209	166	2.40	190.8
	7	106	230	186	2.17	175.5
	8	106	230	197	2.17	185.8
	9	106	224	176	2.11	166.0
	10	106	214	177	2.02	167.0
	11	106	218	173	2.06	163.2
	12	106	233	185	2.20	174.5
	13	106	222	179	2.09	168.9
	(博士)					
	5	39	17	17	0.44	43.6
	6	39	42	39	1.08	100.0
	7	50	31	30	0.62	60.0
	8	50	46	44	0.92	88.0
	9	50	25	25	0.50	50.0
	10	50	41	40	0.82	80.0
	11	50	30	29	0.60	58.0
	12	50	41	40	0.82	80.0
	13	50	38	35	0.76	70.0

大学院重点化に伴う入学定員の変化と充足率 6

研究科	年 度	定 員	受験者数	入学者数	倍率(受験者数/定員)	充足率(%)
工学 物理工学系	(修士)					
	5	64	114	97	1.78	151.6
	6	64	153	123	2.39	192.2
	7	64	160	122	2.50	190.6
	8	83	181	127	2.18	153.0
	9	83	179	137	2.16	165.1
	10	83	144	113	1.73	136.1
	11	83	174	124	2.10	149.4
	12	83	178	116	2.14	139.8
	13	83	186	124	2.24	149.4
	(博士)					
	5	24	12	12	0.50	50.0
	6	24	20	20	0.83	83.3
	7	24	20	20	0.83	83.3
	8	40	16	16	0.40	40.0
	9	40	18	18	0.45	45.0
	10	40	9	9	0.23	22.5
	11	40	16	15	0.40	37.5
	12	40	17	17	0.43	42.5
	13	40	19	19	0.48	47.5
工学 社会工学系	(修士)					
	5	62	121	100	1.95	161.3
	6	62	155	123	2.50	198.4
	7	62	154	129	2.48	208.1
	8	62	167	134	2.69	216.1
	9	87	153	131	1.76	150.6
	10	87	179	147	2.06	169.0
	11	87	169	147	1.94	169.0
	12	87	180	151	2.07	173.6
	13	87	214	155	2.46	178.2
	(博士)					
	5	28	8	8	0.29	28.6
	6	28	17	17	0.61	60.7
	7	28	11	11	0.39	39.3
	8	28	26	26	0.93	92.9
	9	42	15	15	0.36	35.7
	10	42	26	26	0.62	61.9
	11	42	27	27	0.64	64.3
	12	42	18	18	0.43	42.9
	13	42	17	16	0.40	38.1

大学院重点化に伴う入学定員の変化と充足率 7

研究科	年 度	定 員	受験者数	入学者数	倍率(受験者数／定員)	充足率(%)
農学	(修士)					
	6	81	151	113	1.86	139.5
	7	81	180	128	2.22	158.0
	8	81	189	139	2.33	171.6
	9	106	195	148	1.84	139.6
	10	128	216	176	1.69	137.5
	11	143	203	166	1.42	116.1
	12	143	207	157	1.45	109.8
	13	143	235	171	1.64	119.6
	(博士)					
	6	41	39	38	0.95	92.7
	7	41	49	41	1.20	100.0
	8	41	45	42	1.10	102.4
	9	52	54	51	1.04	98.1
	10	62	69	66	1.11	106.5
	11	68	64	57	0.94	83.8
	12	68	75	73	1.10	107.4
	13	68	45	44	0.66	64.7
獣医学	3	13	8	7	0.62	53.8
	4	13	14	13	1.08	100.0
	5	13	14	11	1.08	84.6
	6	13	19	19	1.46	146.2
	7	19	17	17	0.89	89.4
	8	19	12	12	0.63	63.2
	9	19	14	12	0.74	63.2
	10	19	25	23	1.32	121.1
	11	19	11	11	0.58	57.9
	12	19	13	11	1.68	57.9
	13	19	14	11	0.74	57.9
水産科学	(修士)					
	10	54	104	77	1.93	142.6
	11	54	125	85	2.31	157.4
	12	82	156	109	1.90	132.9
	13	82	141	108	1.72	131.7
	(博士)					
	10	27	27	27	1.00	100.0
	11	27	27	25	1.00	92.6
	12	40	46	40	1.15	100.0
	13	40	37	37	0.93	92.5

大学院重点化に伴う入学定員の変化と充足率 8

研究科	年 度	定 員	受験者数	入学者数	倍率(受験者数/定員)	充足率(%)
地球環境科学	(修士)					
	5	95	101	84	1.06	88.4
	6	126	262	132	2.08	104.8
	7	126	347	148	2.75	117.5
	8	126	333	155	2.64	123.0
	9	126	279	146	2.21	115.9
	10	126	279	140	2.21	111.1
	11	126	215	123	1.71	97.6
	12	126	238	144	1.89	114.3
	13	126	214	120	1.70	95.2
	(博士)					
	5	43	45	43	1.05	100.0
	6	43	50	45	1.16	104.7
	7	43	75	64	1.74	148.8
	8	56	63	57	1.13	101.8
	9	56	60	56	1.07	100.0
	10	56	81	67	1.45	119.6
	11	56	47	40	0.84	71.4
	12	56	57	50	1.02	89.3
	13	56	41	33	0.73	58.9
国際広報メディア	(修士)					
	12	27	70	34	2.59	125.9
	13	27	105	30	3.89	111.1